

審査意見への対応を記載した書類（3月）

審査意見への対応を記載した書類（3月）

（目次）

リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1、作業療法学科 是正事項1】・・・・・・・・・・1

(1) 養成する人材像が不明確なため、3つのポリシーの妥当性を判断することは困難となるが、ディプロマ・ポリシーの内容が抽象的かつ不明確な内容になっているため、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの一貫性を確認することもできない。特に、カリキュラム・ポリシーは専門職大学制度に関する説明に留まっており、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針になっているとは認められない。3つのポリシーの修正に当たっては、大学がどのような個性・特色、魅力を持ち、どのような有為な人材を育成できるのかを対外的に示すなどのポリシーを定める意義を踏まえ、適切に改めた上で、3つのポリシーの一貫性について明確に説明すること。また、3つのポリシーは養成する人材像に応じてそれぞれの専攻分野の特性に応じた内容になると考えるが、本学から示された両学科の3つのポリシーはほぼ同じ内容になっているため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（1）、作業療法学科 是正事項1（1）】・・・・・・・・・・1

(2) 養成する人材像や3つのポリシーが不明確なため、教育課程の妥当性を判断することは困難だが、申請のあった教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係などの説明がなく、教育課程が体系的に編成されているのか疑義がある。特に、3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置して、科目区分に応じて配当年次を二分化しているが、修得する知識の接続性・順序性を踏まえたものとなっているのか不明確である。教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係を明らかにした上で、体系的な教育課程が編成されていることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（2）、作業療法学科 是正事項1（2）】・・・・・・・・・・23

(3) 入学者選抜に関する具体的な方法（試験科目、募集定員の割合など）に関する説明がなく、アドミッション・ポリシーに沿った適切な入試が実施されるのか判断ができないため、入学者選抜に関する具体的な方法とともに、アドミッション・ポリシーとの整合性を明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1 (3)、作業療法学科 是正事項1 (3)】・・ 35

2. <3つのコース・領域の目的等が不明確>

理学療法学科は「地域支援コース」、「ヘルスプロモーションコース」及び「障害スポーツ支援コース」の3つのコース、作業療法学科は「児童領域」、「成人領域」及び「老年期領域」の3つの領域を設けて履修指導を行うとのことだが、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明がないほか、3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明もなく、3つのコース・領域を設ける意義が不明確になっている。このため、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性を明らかにするとともに、育成される人材の社会的需要を明確に説明すること。その際、3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されているかどうか併せて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2、作業療法学科 是正事項2】・・ 40

3. <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

大学、短期大学及び専門学校との違いが具体的に説明されておらず、不明確である。開設する授業科目の到達目標や教育水準、教員組織などが専門職大学としてどのように充実され、大学教育としての学修の質が担保されるのかを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】・・ 51

4. <大学名称の妥当性が不明確>

大学名称で使用している「藍野」は、本法人に係る名称として通用していて、国内外で同一の名称がないことを理由に設定したと説明しているが、専門職大学設置基準第54条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称になっているとは認められないため、専攻に係る教育研究上の目的を踏まえた適切な大学名称に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】・・ 62

5. <英語名称の国際的通用性が不明確>

学位の英語名称を「Bachelor Physical/Occupational Therapy」としているが、英語名称の国際的通用性を踏まえれば、「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」が適切な英語名称だと考えられるため、適切に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項5、作業療法学科 是正事項5】・・ 63

6. <学生確保の見通しが不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、入学定員を超える進学希望者がいたとの説明だが、進学希望者を集計するために調査した内容は「本大学に興味をもったか」、「受験してみ

たいか」、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という単純な設問に留まり、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく専門職大学を選ぶ学生がどのくらいいるのか不明確であるため、学生を確保できる見通しについて、客観的な根拠とともに、改めて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6、作業療法学科 是正事項6】・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

【教育課程等】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

(1) 精神統一をする手段を習得する「日本の伝統文化」、中学・高校時代の文法の復習など英語の基礎学力を修得する「英語Ⅰ」は、大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められないため、修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7(1)、作業療法学科 是正事項7(1)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

(2) 基礎科目に「コミュニケーション論」、「人間学」、「心理学」、「社会福祉学」及び「英語Ⅱ」が配置されているが、授業科目の概要で内容を確認する限り、授業計画に専攻に係る職業についての学修内容が含まれており、職業専門科目に該当する疑義があるため、これらの科目のシラバスを提出した上で、適切な区分であることを明確に説明するか、科目区分を適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7(2)、作業療法学科 是正事項7(2)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

8. <展開科目の体系的が不明確>

展開科目を通じて、どのような能力を育成しようとしているのか、展開科目で修得する能力は育成する専門職業人にとって有意義な内容であるのかについて説明がないため、明確に説明すること。なお、展開科目に配置されたほぼ全ての科目が「地域共生・地域包括ケアシステムを学修する科目群」として4年次に配当されているが、養成する人材像を育成するために必要な科目が体系的に配置されているのか不明確なため、配当年次の妥当性についても併せて明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項8、作業療法学科 是正事項9】・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項10】・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

(1) 「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内容は、総合科目の目的である「修得した知識及び技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる」ことが実現できる授業計画とは認められないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9(1)、作業療法学科 是正事項10(1)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

- (2)「シンメディカル論」では、チームアプローチの実際について学修すること目的に、理学療法学科と作業療法学科の学生全員（120名）が同時に受講することを計画しているが、シラバスを確認しても講義や演習に係る具体的な活動内容が十分に明示されておらず、教育効果を上げるために、どのような授業が展開されるのか不明確であるため、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 9（2）、作業療法学科 是正事項 10（2）】・・95

10. <単位設定の考え方が不明確>

大学から示された主要授業科目をはじめ、教育課程上、1単位の科目が散見されるが、各科目の単位設定の考え方が説明されておらず、到達目標に照らして、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているのか不明確なため、各科目の単位設定の考え方を明らかにした上で、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されていることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 10、作業療法学科 是正事項 11】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97

11. <コース・領域の運用計画が不明確>

3つのコース・領域を設けて、それぞれの方向性や領域において、地域社会に貢献できる理学療法士・作業療法士を育成すると説明しているが、コース・領域に関する学生への履修指導の方法についての説明がないほか、養成する人材像ごとの履修モデルの提出もなく、学生に対して、いつ・どのように3つのコース・領域の履修指導を実施するのか不明確である。養成する人材像ごとの履修モデルを明らかにした上で、学生に対する3つのコース・領域の履修指導をいつ・どのように実施するのか明確に説明すること。この際、特定のコース・領域に学生が集中した場合の対応方針についても併せて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 11、作業療法学科 是正事項 12】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100

12. <授業形態の設定が不明確>

実験、実習又は実技による授業科目一覧（別記様式第2号（その2の4））で掲げられた各科目について、シラバスや教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））を確認したところ、シラバス等では講義又は演習の内容となっているにもかかわらず、実験、実習又は実技による授業科目一覧（別記様式第2号（その2の4））では「実技」としており、不整合が生じているため、各科目の授業内容を再度確認するとともに、適切な授業形態に修正すること。なお、修正に当たってはどのような考え方で授業形態を設定したかが確認できるよう、該当する科目のシラバスとともに、授業形態の設定の考え方を明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 12、作業療法学科 是正事項 13】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103

13. <シラバスの内容が不十分>

提出されたシラバスを確認したところ、1単位 45 時間の学修時間数に含まれる「授業時間以外の学習」欄が未記載になっているもの、学生が担当教員に質問等を行うことができる機会を担保するオフィスアワーが未記載になっているもの、授業計画の内容が「活動①」、「活動②」のように各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものなど、専門職大学設置基準第 19 条で規定する授業方法等の明示を満たしていない科目が多いため、全てのシラバスを点検し、不十分な

シラバスは是正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 3、作業療法学科 是正事項 1 4】・・ 108

1 4. <遠隔地の実習施設の対応方法が不明確>

実習先について、学生負担や適切な実習指導体制の観点から、学科ごとに実習先の地域分布を示した上で、遠方の実習先においては過度な学生負担となっていないか、教員の巡回指導等が適切に行われる体制となっているかを明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 4、作業療法学科 是正事項 1 5】・・ 135

1 5. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5、作業療法学科 是正事項 1 6】・・ 139

(1) 臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、例えば「OSCE（客観的臨床能力試験）」などにより、実習前における能力の到達度の確認や、実習後における公平な成績評価の実施が重要であるが、本学科の教育課程上、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画を明確に説明すること。特に実習後の客観的臨床能力試験については実施すると説明はあるが、十分な説明がなく、具体的な実施計画が不明なため、時期や方法を含めた詳細の実施計画を明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5（1）、作業療法学科 是正事項 1 6（1）】・・ 139

(2) 提出された巡回指導計画表に、担当教員の氏名が記載されておらず、巡回指導のシフトが適切に組み込まれているのか不明なため、巡回指導計画表を修正した上で、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることを説明すること。その際、完成年度時において、担当教員が講義と実習を同時期に担当する場合には、教員ごとの科目担当時間割等を資料として添付した上で、教員の負担等の観点から無理のない計画であることを併せて説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5（2）、作業療法学科 是正事項 1 6（2）】・・ 154

1 6. <取得可能な資格に関する指導方法が不十分>

取得可能な資格として挙げられた各資格を取得することがどのような意義をもつのかについて、学生にどのように指導していくのか不明なため、資格取得のための学生の費用負担に関する考え方とともに、明確に説明すること。その際、3つのコース・領域の学修における対応関係についても留意すること。【2 学科共通 理学療法学科 改善事項 1 6、作業療法学科 改善事項 1 7】・・ 157

1 7. <国家試験受験資格の位置付けが不適切>

共生型社会に向けたリハビリテーションの専門家育成を掲げているにもかかわらず、国家試験を受験しなかった者又は受験できなかった者も卒業要件を満たせば卒業できることを設置計画書

上で明示しているが、専門職大学制度における専門職業人の育成目的を踏まえれば、国家試験の受験資格に関する考え方が不適切なため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項17、作業療法学科 是正事項18】・・・・・・・・・・158

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18、作業療法学科 是正事項19】・・・・・・・・・・159

(1) 教育課程連携協議会に関する専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者として十分なのか不明確であるため、妥当性を明確に説明するか、構成員を追加する等構成を見直すこと。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18(1)、作業療法学科 是正事項19(1)】・・・・・・・・159

(2) 教育課程の不断の見直しを実現するために重要な事項を審議し、学長に意見を述べる役割を担う教育課程連携協議会の位置付けを踏まえれば、学則上で教育課程連携協議会の設置を規定することが適切だと考えられるが、本大学の学則では規定がないため、適切に規定すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18(2)、作業療法学科 是正事項19(2)】・・・・・・・・162

【教員組織等】

19. <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>

両学科において、専攻分野に係る理論系の専任教員が少なく、専門職大学設置基準第31条第1項が規定する当該専攻分野に係る教員組織体制として不十分であるため、適切な教員組織体制に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項19、作業療法学科 是正事項20】・・・・・・・・・・164

20. <担当単位数が不適切>

週当たりの平均勤務日数が5日の専任教員がおらず、全ての専任教員が3日又は4日となる中、担当単位数が30単位を超える者もあり、科目数の過度な負担により十分な研究時間を確保することができないおそれや、授業及び学生指導などの教育の質の低下を招くおそれがあり、教育研究の実現可能性に疑義がある。担当する科目数を見直した上で、教育と研究を両立することができる教員組織を整えること。なお、見直した教員組織を説明する際には、各教員の1週間の勤務スケジュール（授業、学生指導、研究をいつ実施するのか示すもの。なお、既設の大学や専門学校を兼務する専任教員については既設の大学や専門学校での勤務に関する情報を含めたもの。）が分かる資料を提出すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項20、作業療法学科 是正事項21】・・・・・・・・・・172

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項21、作業療法学科 是正事項22】・・・・・・・・・・175

2.2. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項2.2、作業療法学科 改善事項2.3】・・・・・・・・・・177

2.3. <給与の考え方が不明確>

教員の氏名等（別記様式第3号）において、月額基本給が0と記載された教員が散見されるが、授業科目を担当するにもかかわらず、月額基本給が0になる理由が不明なため、合理的な理由を説明するか、改めること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項2.3、作業療法学科 改善事項2.4】・・・・・・・・・・178

【名称、その他】

2.4. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4、作業療法学科 是正事項2.5】・・・・・・・・・・180

(1) 基本計画書では研究室は21室となっている一方で、設置の趣旨等を記載した書類では20室と説明しており、不整合であるため、正確な研究室数を明らかにした上で、専任教員27名に対する研究室の割り振りの考え方について明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4(1)、作業療法学科 是正事項2.5(1)】・・・・・・・・・・180

(2) 各研究室の具体的な仕様が示されていないため、各専任教員が取り組む研究領域を踏まえ、どのような研究手法をとり、それに必要な環境（研究用実験室や研究用機器、機密情報の管理などを含む）が整備されているかどうかを明確にし、必要に応じて整備計画を充実させること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4(2)、作業療法学科 是正事項2.5(2)】・・・・・・・・・・182

2.5. <適切な学生控室を確保しているのか不明確>

主として学生控室は食堂と兼用の学生ホール（207.42 m²）を利用するとのことだが、全学年で480名の学生が在籍する完成年度以降、食堂と兼用の中で余裕をもって休息、交流その他の活動で利用できる十分な環境になっているのか不明確なため、大学の規模に応じた適切な学生控室が配置されることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.5、作業療法学科 是正事項2.6】・・・・・・・・・・188

2.6. <外国書の学術雑誌等の選定方針が不明確>

図書等の整備について、外国書の学術雑誌0冊、電子ジャーナル1冊の計画となっており、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義がある。外国書の学術雑誌及び電子ジャーナルの選定理由を明らかにした上で、教育・研究に必要な図書等が十分に整備されていることを明確に説明するか、必要に応じて充実すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.6、作

業療法学科 是正事項 2 7】	189
-----------------	-----

2 7. <図書館スペースが十分か不明確>

収容可能冊数が 12, 960 冊の図書館に対して、完成年度は 12, 434 冊を整備する計画となっており、追加で購入可能な図書等は 500 冊程度に限られるため、今後、教育研究活動に必要な図書等が生じた場合、適切に整備できるのか疑義がある。このため、今後の図書等の整備に関する対応方針を明確に説明するか、必要に応じて図書等のスペースを充実させること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 2 7、作業療法学科 是正事項 2 8】

191

2 8. <体育館の代替施設の利用方法が不明確>

体育館等のスポーツ施設を設けないため、市営の運動公園を利用し、バス送迎を行うとのことだが、法令上規定されている学生の利用に際しての経済的負担の軽減が図られた運用になっているのか、学生の授業時間割等に配慮がなされたバスの運行計画となっているのか、学生のクラブ活動など授業以外でも利用できる使用契約となっているのかなど、市営の運動公園の具体的な利用計画が不明なため、明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 2 8、作業療法学科 是正事項 2 9】

192

2 9. <学則が不適切>

学則第 35 条第 1 項に、入学検定料、入学金、授業料などは学校法人藍野大学学費取扱規程に定めると記載されているが、法令上、授業料、入学料その他の費用徴収に関することは学則に記載しなければならないとされていることから、適切に改めること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 2 9、作業療法学科 是正事項 3 0】

195

3 0. <書類不備>

認可申請書類に不備が散見されるため、適切に修正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 3 0、作業療法学科 是正事項 3 1】

197

リハビリテーション学部 作業療法学科

【教育課程等】

3 1. <授業の到達目標と授業計画が不一致>

職業専門科目で配置された「地域生活作業療法学演習 I」は、掲げられた授業の到達目標を達成するための授業計画としては不適切なため、修正すること。【作業療法学科 是正事項 8】

200

その他の事項

学長予定者の変更について	201
--------------	-----

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

- (1) 養成する人材像が不明確なため、3つのポリシーの妥当性を判断することは困難となるが、ディプロマ・ポリシーの内容が抽象的かつ不明確な内容になっているため、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの一貫性を確認することもできない。特に、カリキュラム・ポリシーは専門職大学制度に関する説明に留まっており、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針になっているとは認められない。3つのポリシーの修正に当たっては、大学がどのような個性・特色、魅力を持ち、どのような有為な人材を育成できるのかを対外的に示すなどのポリシーを定める意義を踏まえ、適切に改めた上で、3つのポリシーの一貫性について明確に説明すること。また、3つのポリシーは養成する人材像に応じてそれぞれの専攻分野の特性に応じた内容になると考えるが、本学から示された両学科の3つのポリシーはほぼ同じ内容になっているため、適切に改めること。

(対応)

ご指摘のとおり、既設の大学（藍野大学）の養成する人材像との違いを明確に論じ分けることができなかつたため、第一に、藍野大学と本学（びわこリハビリテーション専門職大学）との養成する人材像の違いを説明する。第二に、第一を受け本学の目的を整理し直したため、その説明を行う。第三に、学部の目的（養成する人材像）と3つのポリシーを整理し直したため、その説明と、一貫性の説明を行う。第四、第五に、両学科の目的（養成する人材像）と3つのポリシーを改めて整理し直したため、その説明と、一貫性の説明を行う。

1) 既設の大学との養成する人材像の違い

学校法人として定めている教育理念「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」に基づき、「病気を医学的に治療すると同時に患者様の心に慰めを与えることが医療人の理想である」という考えを、本学と藍野大学は共有している。

藍野大学においては、学校教育法第83条第1項に規定する「大学は学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的

とする。」を踏まえつつ、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成を根幹に置いている。藍野大学医療保健学部の教育目標③「保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。」がこれを表現している。藍野大学医療保健学部には、理学療法学科、作業療法学科のほかに看護学科と臨床工学科を置き、4学科の学生が共同で、チーム医療について学ぶための科目を配置している。

一方、本学においては、社会の要請等として、厚生労働省が提唱する「地域共生社会（申請書類においては、「共生型社会」という用語を使用した。）の実現に必要なリハビリテーション人材の養成」に応ずることを、その主眼に置いている。今後も、急速な高齢化による疾病構造の多様化は、病院やクリニック等の医療分野において、リハビリテーション人材は求められる。

しかし、今後は、医療の在り方が、病院完結型から地域完結型への移行に従い、病気や障害を抱えながらも地域で生活する住民を支援できるリハビリテーション専門家が重要となることは間違いない。そのような社会を実現するうえで、リハビリテーション専門家に求められる能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を申請書類において掲げた。

以上のように、藍野大学と本学では、人材養成の目的（社会の要請等）に違いがあるにも関わらず、申請時点では、養成する人材像及び3つのポリシーにおいて、論じ分けることができていなかったと認識している。藍野大学医療保健学部とびわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部の養成する人材像の違いは次の表のとおりである。

藍野大学とびわこリハビリテーション専門職大学の養成する人材像の違い

	藍野大学 医療保健学部	びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部
教育理念（法人）	「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」	
人材養成の目的（社会の要請等）	医療の高度化・専門化に対応した医療専門職の養成	地域共生社会の実現に必要なリハビリテーション専門家の養成
目的（養成する人材像）	<ul style="list-style-type: none"> ①人を愛する心を持ち、豊かな教養を身につけた人材を育成する。 ②心の通う保健・医療サービスを提供できる人材を育成する。 ③<u>保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。</u> ④国際的な視野を持つ人材を育成する。 ⑤生涯学び続け、課題発掘・解決能力を練磨できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。 ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

※目的には、人材養成の違いが分かるように、藍野大学医療保健学部では教育目標を掲載し、本学リハビリテーション学部では、リハビリテーション学部の目的を掲載した。

2) 本学の目的

藍野大学と本学との違いを改めて明確にしたことにより、大学の目的も改めることとした。

申請書類においては、「医療専門職としての社会的使命・社会的責任を果たし」や「医療専門職の養成」を唱っていたことにより、地域の保健・福祉・スポーツ・就労等といった分野で、必要なリハビリテーションを実践できる人材を養成したいという本学の設置の趣旨が曖昧なものとなってしまうため、それらの文言を外し、「地域共生社会の実現に貢献すること」という文言に改めた。

また、当初の大学の目的においては、人材養成という視点からのみ目的を定めており、社会的使命・大学が果たすべき役割の記載が抜けていたため、人材養成を通じて、持続可能な地域共生社会を実現するために、その意義を見直し、びわこリハビリテーション専門職大学の目的を改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 8ページ 大学の目的

新	旧
<p>教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、<u>リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。</u></p>	<p>教育基本法および学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、生命の尊重と個人の尊厳を根幹とする医療専門職としての社会的使命・社会的責任を果たし、社会に広く貢献できる人材を育成する。また、専門分野及び関係する他の分野の知識や技術を活用・応用し、より社会の人材ニーズに即応した課題解決方法の発見や職業の新たな展開の創造に向けて思索・実践できる医療専門職の養成を行うことを目的とする。</p>

3) リハビリテーション学部の目的と3つのポリシーの一貫性

(1) リハビリテーション学部の目的

現在、在院日数の短縮が推進され、また、障がい者は、施設生活から在宅生活への移行が促進される中、病気や障害を抱えながら地域で生活する住民が増加している。しかし、地域生活を営む地域住民の支援策の整備は充実したものとは言えない。この地域支援に携わるリハビリテーション専門職が求められている。このような社会変化に対応するため、子どもから高齢者までの地域住民に対して、理学療法、作業療法を提供できる人材を養成することをリハビリテーション学部の目的とした。また、今後の高齢化率の上昇や人口減少等の社会情勢の変化に伴い、地域において、理学療法士・作業療法士に求められる役割は変化していくことが予測される。特に、理学療法や作業療法の専門性を考慮すると、地域の保健、スポーツ、福祉、就労等の分野で地域住民を支援できる可能性は高く、地域共生社会の実現に貢献できることに繋がると考え、リハビリテーション学部の目的とした。なお、その理由については、是正事項2において詳しく論じた。

よって、ご指摘にあった「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」は、人材養成のために必要な能力であることは相違ないが、あくまで能力となるため、養成する人材像を的確に表現することにはなっていなかったと理解し、前述のとおり、改めて養成する人材像について整理し、次のとおり2つに文言を改めた。

新	旧
<p>① <u>高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。</u></p> <p>② <u>地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。</u></p>	<p>(2) 教育目標</p> <p>① 生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性、幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる人材を育成する。</p> <p>② チーム医療の一員として、他の職種を理解し、協調性・連携意識をもって行動することができる人材を育成する。</p> <p>③ 医療専門職として高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる人材を育成する。</p> <p>④ 自ら医療・保健・福祉の課題発掘に努め、科学的・専門的知識と技術を背景に創造的な解決方法を導くことができる人材を育成する。</p> <p>⑤ 専門分野に関連する他の分野に関心を持ち、応用能力を高めるとともに、専門分野の新たな展開を創造することができる人材を育成する。</p> <p>⑥ 生涯にわたり、広い視野をもって幅広い知識や技術を獲得し続けることができる。</p> <p>(3) リハビリテーション学部の目的</p> <p>リハビリテーション学部では、教育理念および大学の目的を踏まえ、豊かな人間性や幅広い教養、医療専門職としてふさわしい専門的知識と技術、職業倫理、他の職種との協調性・連携意識を身に付けるとともに、専攻分野に関連する他の分野に関することを学び、応用能力を高め、課題解決や専攻分野の新たな展開の創造に向けて、主体的に考え実践し、医療・保健・福祉に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>

(2) 学部のディプロマ・ポリシー

養成する人材像にある「高い倫理観と豊かな人間性」を持った人材とは、生命の尊厳と職業倫理を備えた上で、人間性を高め幅広い教養を有し、地域住民に関わる理学療法や作業療法の専門職として自覚を持ち、その責任を果たし、生涯にわたり自己研鑽を継続できる人材である。それを DP1 で表現した。

また、理学療法士・作業療法士が地域においてリハビリテーションを通じた地域住民の支援を実践するためには、多職種と連携し、協力することが必要である。多職種と連携し協力することができる人材に必要な能力は、対象者や多職種と円滑なコミュニケーションをとり、自ら信頼関係を築くことができ

る能力である。それを DP2 で表現した。また、理論に裏付けられた知識や技術をもとに、理学療法や作業療法を実践できる能力を備えることにより、子どもから高齢者まですべての対象者に適切なリハビリテーションを提供できる人材の養成が必要なため、DP3 で表現した。加えて、地域社会において各々の専門的立場や分野から地域課題を発見し解決策を考案できる能力を DP4 で表現した。そして、理学療法や作業療法の特性を適切に応用し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携し、実践できることを DP5 で表現した。

これらの能力について、DP⑥として生涯に渡る自己研鑽を設定していたが、DP1 に結合し、次のとおり 5 項目のディプロマ・ポリシーに改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 7～8 ページ リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシー

新	旧
<p><u>本学において所定の期間在学し、学科ごとに定める単位を取得し、次のとおりの能力を身に付けた者に学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</u></p> <p><u>DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。</u></p> <p><u>DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。</u></p> <p><u>DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。</u></p>	<p>リハビリテーション学部では、豊かな人間性や幅広い教養、医療専門職としてふさわしい専門的知識と技術、職業倫理、他の職種との協調性・連携意識を身に付けるとともに、専門分野に関連する他の分野に関することを学び、応用能力を高め、課題解決や専攻分野の新たな展開の創造に向けて、主体的に考え実践し、医療・保健・福祉に貢献できる人材の育成を目指している。以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>①生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性、幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>②チーム医療の一員として、他の職種を理解し、協調性・連携意識をもって行動することができる。</p> <p>③医療専門職として高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④自ら医療・保健・福祉の課題発掘に努め、科学的・専門的知識と技術を背景に創造的な解決方法を導くことができる。</p> <p>⑤専攻分野に関連する他の分野に関心を持ち、応用能力を高めるとともに、専攻分野の新たな展開を創造することができる。</p> <p>⑥生涯にわたり、広い視野をもって幅広い知識や技術を獲得し続けることができる。</p>

(3) 学部のカリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーを達成し、学位授与に求められる能力を修得するために、次のとおりの方針でカリキュラム・ポリシーを策定した。

DP1にある職業倫理を備え専門職としての自覚と責任を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目を基盤とし、職業専門科目の理学療法・作業療法理論科目群の「リハビリテーション概論」や職業実践科目群でそれぞれの専門性に必要な倫理観を学び、専門職としての自覚と責任を学修するための科目を配置する。

DP2にある円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目及び語学教養科目を基礎とし、職業専門科目の職業実践科目群で専門職として人間関係を築く必要性や方法について学び、臨地実務実習において体験を通して学修できるよう科目を配置している。さらに、展開科目や総合科目において、多職種とのコミュニケーション能力をより深めることができる科目を配置している。

DP3にある適切なリハビリテーションの実践を達成するための科目は職業専門科目が中心となり、理学療法・作業療法理論科目群で専門職に必要な基盤を学修し、職業実践科目群に学修した内容を反映させるように構成している。臨地実務実習で、机上で学んだ内容が専門職として実践できるよう、学修段階を踏まえて臨地実務実習を構成し、理学療法学科は7科目、作業療法学科は6科目を配置している。職業専門科目で学修した内容を、展開科目と総合科目で専門職として応用実践できるように配置している。

DP4にある地域の課題を発見し、解決策を考案できる能力を達成するための科目は、職業専門科目の理学療法・作業療法理論科目群にある「地域包括ケア論」で学んだことを基盤に、職業実践科目群で理学療法士及び作業療法士の地域医療に携わる現状を学ぶ。これらで学修した内容を活かし、展開科目及び総合科目で専門職として地域共生社会の実現に向けて、どのように貢献できるかを見据え、地域の抱える課題を発見し解決できる方法について、思考し想像できる能力を学修できるよう配置している。

DP5にある多職種との連携により、専門職としての新たな展開を創造できる能力を達成するための科目は、基礎科目を基盤とし、職業専門科目と展開科目を交えて、両者を融合し学修できる科目として総合科目を配置している。

また、申請時においては、学修成果の評価に関する方針について記載を行っていなかったため、カリキュラム・ポリシーにおいて、それを定める。まず、授業形態ごとの成績評価であるが、講義については、主として筆記試験により評価を行い、実習科目においては、技術試験を主としつつ、筆記試験、レポート及びプレゼンテーションなどにより評価を行う。また、臨地実務実習においては、OSCE（客観的臨床能力試験）、実習評価表及びルーブリックに基づき、評価を行う。以上のとおり、それぞれの授業形態に即した試験等を学生に課すことによって、科目ごとの目標到達度を適切に評価できる体制とする。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについて評価をするとともに、すべての科目をGPAによって点数化する。これらによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進する。併せて、各学期のGPAと累積のGPAにより、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用する。

新	旧
<p><u>リハビリテーション学部の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p> <p><u>CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようにするための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u><成績評価></u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p>	<p>学位授与に求められる能力を修得するために、リハビリテーション学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <p>①基礎科目では、社会的・職業的自立を図るために必要な能力に加え、生涯にわたり自らの資質を向上させるために必要な能力を育成することを目的として、倫理観、コミュニケーション能力、接遇、国際的感覚、キャリア形成などを育むための科目を配置する。加えて、日本の伝統文化や地域の特性などを学ぶ科目などを配置し、心豊かな人格を育成する。</p> <p>②職業専門科目では、医療専門職として必要な専門的知識・技術を修得するために、基盤となる医学に関する科目を配置し、その上に他の職種との協調・連携、職業倫理についての学びを含め、専攻分野科目を系統的に配置する。また、実践的スキルを養うために学内での演習・実習に加え、学外での臨床実習を効果的に配置する。さらに、選択科目により、専門性の幅を広げるための科目を配置する。</p> <p>③展開科目では、専攻分野における応用能力・創造性を高めることを目的として、専攻分野に関連する他の分野について学ぶ科目を配置する。</p> <p>④総合科目では、修得した専門知識・技術等を総合し、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めることを目的として、多職種連携を踏まえた総合演習科目を配置する。</p>

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。	
---	--

(4) 学部のアドミッション・ポリシー

リハビリテーション学部が求める人材は、本学の目的及びリハビリテーション学部の目的を理解し、理学療法・作業療法の専門職を希望する者を広く受け入れることとした。そこで、高大接続答申(2014)で示された「学力の3要素」を踏まえた上で、学部の求める要素に「知識・技能」、「主体性・多様性・協調性」及び「思考力・判断力・表現力」の3つを主な資質とした。さらに、ディプロマ・ポリシーを達成する能力としてアドミッション・ポリシーを改正したので、次にその関係性について説明する。

「知識・技能」を示す資質として、AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」をあげた。これは、理学療法、作業療法の専門的知識を修得し、適切なリハビリテーションを実践するDP3「理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる」を達成するための基盤となる能力である。専門的で幅広い知識を学び、技術を修得するための基礎になる学力を示している。

理学療法士・作業療法士を職業とするために必要な資質として「主体性・多様性・協調性」をあげ、AP2とAP3に定めた。

AP2「人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ」は、職業倫理を備え専門職としての自覚と責任を持って自己研鑽ができるDP1「生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる」を達成するための能力となる。これは理学療法士・作業療法士がリハビリテーション・チームアプローチの一員として職務を遂行するために必要な資質であり、人を尊重しリハビリテーションの専門職として社会に貢献する意欲を持っていることを資質としてあげた。

AP3「良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる」は、地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションで良好な信頼関係を築くことができるDP2「地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる」を達成するための能力となる。理学療法士・作業療法士は、地域住民の生活を支援するため対象者や多職種との信頼関係が重要であり、良好なコミュニケーション能力を有し他者と協働して物事を進めることができる能力としてあげた。

最後に理学療法や作業療法を応用し、活用できる能力として「思考力・判断力・表現力」をあげ、AP4とAP5に定めた。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる」は、地域住民の課題を発見し、解決のための論理的思考ができるDP4「地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる」を達成するための能力となる。理学療法や作業療法の専門的知識により自ら課題を見つけ解決策を考えるために、状況を客観的に把握し課題を見つけ、自主的に解決に向けて行動できる能力として定めた。

AP5「多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる」は、理学療法士・作業療法士として修得した知識や技術を、多職種と連携し新たに創造できるDP5「専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる」を達成するための能力となる。特に地域共生社会の実現に向けて専門職として地域住民を支

援するため、自らその能力を応用し、創造することにつながる能力であり、多角的に物事を捉え、新たな展開への探求と論理的思考ができる能力として定めた。

以上の通り「知識・技能」、「主体性・多様性・協調性」及び「思考力・判断力・表現力」を3本柱とし、ディプロマ・ポリシーとその能力を達成するために対応して改正したカリキュラム・ポリシーに係づくよう、一貫性のあるアドミッション・ポリシーとして、次の5項目に改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 8～9 ページ リハビリテーション学部のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p> <p><u>(知識・技能)</u> <u>AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。</u></p> <p><u>(主体性・多様性・協調性)</u> <u>AP2：人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。</u></p> <p><u>AP3：良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。</u></p> <p><u>(思考力・判断力・表現力)</u> <u>AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。</u></p> <p><u>AP5：多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。</u></p>	<p>中央教育審議会答申(2016)で示された「高等学校までに培った学力・資質・能力の柱」第一に知識・技能、第二に思考力・判断力・表現力等、第三に学びに向かう力・人間性と合わせて、高大接続答申(2014)で示された「学力の3要素」第一に主体性・多様性・協働性、第二に知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、第三に知識・技能を踏まえた上で、本学の教育目的及びリハビリテーション学部の目的を理解し、医療専門職を希望する次の者を広く受け入れる。</p> <p>①高等学校までに学ぶべき基礎的な知識と技能を有している人</p> <p>②人々の病気や障がい、健康に関心を持ち、医療専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人</p> <p>③他者の多様な考えを尊重し、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人</p> <p>④客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、主体的に取り組むことができる</p> <p>⑤専門分野以外にも関心を持ち、既存の発想にとらわれず、広い視野で新しい展開への探求ができる人</p>

4) 理学療法学科の目的と3つのポリシーの一貫性

(1) 理学療法学科の目的

理学療法の対象は、子どもから高齢者までのすべての年齢層の人々を含み、障がいを持つ人、持たない人、在院・入所している人、在宅生活をしている人、それら全ての人々である。しかし、現在の理学療法士の就労状況を見ると、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、医療・介護分野が約78.7%と最多であり、健康分野はわずかに0.07%しか存在しない。

今後の高齢化率の上昇と人口減少の予測を見据えると、地域包括ケアシステムのみならず、広く高齢期に差し掛かる前に、健康で自立した生活を維持するための取り組みが重要となる。

滋賀県の2015年の平均寿命は男性が81.78歳、女性が87.57歳である。2016年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の平均は男性が72.30歳、女性が74.07歳であった。健康寿命と平均寿命の差は日常生活に制限を持ちながら生活する期間の存在を示し、その期間は男性で9年間、女性で13年間と長期にわたる。この日常生活に不自由な期間を短縮することは、高いQOLを維持し、その人が望む人生を送るために重要である。また、この期間は介護を必要とすることが想定され、社会資源の浪費を伴うことも大きな問題である。

これらの問題を受け、「健康日本21（第二次）」が2013年に全部改正された。その中では、住民自身の自助による健康維持が求められている。さらに、共助として支援する専門職が必要であり、疾病や傷害を予防しリスク管理のもと運動処方のできる理学療法士は適任である。理学療法の身体活動の知識・技術を活用することにより、健康寿命延伸が可能であろう。しかし、前述の調査から理学療法士は約78.7%が医療・介護分野に集中し、健康分野は0.07%と非常に僅かである。この現状を踏まえ、健康分野での理学療法士の必要性を理解し、その現状と対策を学修し、理学療法士として健康分野へ職域を展開できる人材を養成することが本学科の特色である。

健康を促進するために、スポーツを生活の中に取り入れることが推奨されている。また、スポーツを通して地域を活性化することも可能とされている。スポーツは健康に直結するが、その方法を誤るとケガによる不健康を招く。この逆効果を防止するために、スポーツによるケガを予防できる指導者が必要となる。また、疾患や障害を持つ人に対してもスポーツを推奨する必要がある。疾患や障害を持ちながらもスポーツができるように提案・支援できるのは、医療専門職である理学療法士である。そこで、本学科では障がいの有無に関わらず、全ての人にスポーツの継続を通して健康を維持し、質の高い生活を送ることを支援できる人材を養成することも特色である。

また、このような身体活動を維持できれば、生活に重要な経済活動をできるだけ長く継続できる。しかし、前掲の国民生活基礎調査（2016）によると、50代の有訴率は30%を超え、「腰痛」、「肩こり」、「手足の関節が痛む」の運動器障害が上位を占めている。これらの症状を持ちながら就労を継続するためには、就労環境や方法の検討が有用であり、運動器障害に対する知識のある理学療法士が支援できる分野である。さらに、障害を持ちながら就労する人への支援も、理学療法士の専門性が活用できる分野である。

障がい児・者への身体活動に関する支援としては、就労だけでなく住み慣れた地域で日常生活を自分らしく送るためにも理学療法技術の応用が有益である。このような地域や福祉の分野を支援できる人材を養成することも本学科の特色である。

いずれにせよ、本学の理学療法士教育は、医療保険や介護保険の枠から一步踏み出し、自ら需要を見つけて理学療法士の職域を拡大していく人材養成である。様々な地域社会や医療・介護以外の業界で専門職として活動するために、多くの職種、地域の人々との連携が必要不可欠となる。多職種との連携は、

医療の中ではチーム医療としてその概念の定着を見るが、その必要性は地域社会でははるかに上回ると考えられる。このため、本学科では多職種との連携や協働した活動にも重点を置いていることも特色の一つである。

以上のような理学療法技術を活用した健康寿命の延伸と生活の支援は、地域共生社会の実現に向けた改革の一助となる。よって、本学科では将来のキャリア形成の中で、地域共生社会における健康、スポーツ、福祉の分野で活躍できる理学療法士を輩出するため養成する人材像を次の2点とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 23 ページ 理学療法学科の目的

新	旧
<p><u>①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。</u></p> <p><u>②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。</u></p>	<p>理学療法学科では、リハビリテーション学部の目的に則り、人の尊厳と権利、職業倫理観、協調・連携を理解し、身体的諸機能の維持・回復や疾病・障がい予防、健康増進等を図ることのできる実践力のある理学療法士を養成することが目的である。</p> <p>その一方で、現在の需給状況を見ると、理学療法士の約9割が医療・介護・福祉の保険制度下で仕事をしており、その現場で、活躍できる人材の確保することが、これまでの社会のニーズであったが、今後は、そのニーズも変化し、医療・介護分野での需要が減少に転じる時期が、遠くない将来に到来する。そのような時代の変遷に対応し、理学療法士の強みを活かし、新たな分野を開拓できる応用力をもった人材を養成することも目的に掲げている。</p>

(2) 理学療法学科のディプロマ・ポリシー

理学療法学科の養成する人材像について上記のように定め、その人材を養成するための資質や能力を明確にした。

まず、理学療法士の基本的な資質となる基礎を、人を尊重し倫理観を持ち、理学療法士の自覚と責任を持って生涯にわたり自己研鑽できることとし DP1 で表現した。理学療法の実際の場面では、地域住民とその対象者を取り巻く多職種と協働するために、円滑なコミュニケーション能力をもって信頼関係を築き実践できる能力を DP2 で表現した。その上で、理学療法の専門的な知識や技術を修得し、対象者の課題について論理的思考をもち、理学療法プログラムを計画し実践することが、理学療法士として第一に必要な能力となり DP3 で表現した。加えて、本学科の目的である健康・スポーツ・福祉の分野における地域住民の支援にあたり理学療法の専門性を活かし、自ら地域住民の課題を発見し解決できる能力を DP4 で表現した。多職種と連携を取り理学療法技術を自らのキャリア形成の中で応用実践できる能力を養成することを DP5 で表現した。このような能力の養成を目指し、ディプロマ・ポリシーは次の5項目とした。

新	旧
<p><u>理学療法学科では、所定の規則に基づき 129 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</u></p> <p><u>DP2：地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP3：理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</u></p> <p><u>DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</u></p>	<p>理学療法学科では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>① 生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>② 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③ 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④ リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>⑤ 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>

(3) 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー

DP1にある倫理観と理学療法士としての自覚と責任を持ち自己研鑽できる能力を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目、自然科学系科目及び語学教育科目が基礎となるよう構成している。これらを基盤に、職業専門科目を学修することで理学療法士としての資質を理解し、どのように行動すべきかを学び、臨地実務実習で実践が可能となるよう組み込んでいる。理学療法技術を地域住民に応用するため、専門職としての自覚と責任が形成されるよう展開科目にも科目を配置している。

DP2にある理学療法実践に必要なコミュニケーションと信頼関係を形成する能力を涵養するために、基礎科目の初年次教育科目である「コミュニケーション論」を基盤とし、語学教育科目で必要な能力を学修し、理学療法士に必要な信頼関係形成を学修する科目として職業実践科目群、展開科目及び総合科目を配置している。なかでも、職業実践科目群の臨地実務実習では、机上の学修を実践することにより身につく科目として配置している。また、総合科目の「協働連携論総合実習」では、当事者の方や作業療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との実際の関りから体験として学べるように配置している。

DP3にある理学療法を実践する能力を涵養するために、職業専門科目の理学療法理論科目群及び職業実践科目群を中心に、理学療法士に必要な知識と技術を学修する科目を配置している。そして、学修した知識と技術を活かし応用実践能力を養成する過程として、総合科目を配置している。

DP4にある地域住民の支援に、理学療法の特性を活かし課題の発見と解決方法を導く能力を涵養するために、職業専門科目で地域での理学療法の現状を学び、地域で理学療法を活用できる分野と現状について学修する。地域住民の支援につながる課題発見や、解決策の理学療法応用を導くために展開科目と総合科目を配置している。

DP5にある理学療法の知識と技術を、多職種と協働して地域住民の支援に応用する能力を涵養するために、基礎科目を基盤とし、職業専門科目で培った理学療法士としての専門性を活用し応用できるように、展開科目と総合科目を主要な科目として配置している。

以上のように内容を改め、カリキュラム・ポリシーを次の5項目とした。なお、学修成果の評価に関する方針については学部に準ずる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 29～30 ページ 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー

新	旧
<p><u>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p>	<p>①理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則が指定する内容である「基礎科目」「職業専門科目」「総合科目」を配置し、理学療法士に求められる資質と知識と技術を系統的に学ぶことができるようにしている。また、「職業専門科目」の中の「展開科目」では、理学療法士の専門性を活かし、応用的、創造的に広げることができる科目を配置している。</p>
<p><u>CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</u></p>	<p>②初年度に行う「基礎科目」では、豊かな人間性、倫理観、広い視野、国際的感覚を養うための教養科目と、コミュニケーション能力向上やキャリア形成に役立つ科目を配置し、社会人・職業人としての育成に加え、新たな開拓に向け思考・探求の基盤となる科目を配置する。</p>
<p><u>CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</u></p>	<p>③「職業専門科目」では、社会の多様化したニーズに対応できる理学療法士を育てるため、科学的かつ論理的思考をもって評価から治療の立案、実施、検証ができるようになることを目標としている。そこで、「理学療法理論科目群」では、人体の構造と機能、疾病の成り立ちや回復過程、臨床医学、予防医学など、医療職に共通して必要な知識を学ぶ科目を配置する。また、「職業実践科目群」では、理学療法士の役割や職務の理解を深め、科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を習得するための科目</p>
<p><u>CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p>	
<p><u>CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p>	
<p><u>CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や</u></p>	

<p><u>技術を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u><成績評価></u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p> <p><u>さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。</u></p>	<p>を配置する。</p> <p>④「総合科目」では学んだ知識・技術を基盤とし、当事者の個人の生活から地域まで見渡すことができる広い視野をもち、連携した行動できることを目標とし、他職種の専門性を理解と多職種の中で理学療法士としての専門性を発揮することを学ぶ講義・演習を配置している。</p> <p>⑤「展開科目」では、3つのコース（地域支援コース・ヘルスプロモーションコース・生涯スポーツ支援コース）を設け、個人が選択したコースで専門性を伸ばすことができるようにしている。教員指導の下、学生が企画・運営などのフィールドワークやインターンシップなどを行うなど、ここでの学びは、理学療法の専門性を活かし、将来、応用的、創造的に理学療法士の職域を拓げていく基礎となる。</p>
---	---

(4) 理学療法学科のアドミッション・ポリシー

AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」は、理学療法を学修するために必要な基礎学力を示しており、DP3「理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる」を達成するための能力となる。医学的知識や理学療法に関連する分野を広く学ぶ必要があるためその基礎となる。

AP2「人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ」は、理学療法士としての自覚や責任をもつための資質で、DP1「人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる」を達成するための能力となる。人を対象とする理学療法士にとって、人を尊び理学療法士としての自覚を持ち、人のために理学療法士になり実践することに意欲を持って学修に臨める資質を示している。

AP3「協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる」は、対象者や多職種と信頼関係を築く事ができる資質を示しており、DP2「地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる」を達成するための能力となる。理学療法士には、関わる全ての人とコミュニケーションをとって信頼関係を築くことが必要であるため、他者と協調性をもって行動できる能力を示している。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる」は、理学療法士の特性を活かし、地域住民の課題を発見し解決方法を考える事ができる DP4「地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる」を達成するための能力となる。自身が状況に合わせて何ができるのかを客観的に把握し、解決に向け取り組みを考えられる能力を示している。

AP5「論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している」は、専門的知識を持ち多職種と連携し、理学療法を地域住民に应用できる DP5「理学療法に関連する他

分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる」を達成するための能力となる。自身の考えを論理的に構成し、他者にその考えを的確に伝えることができる能力を示している。

以上のような考えに基づき、5項目のアドミッション・ポリシーを次のように構成した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 93～94 ページ 理学療法学科のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>理学療法学科では、「①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて地域住民の支援ができる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p> <p><u>(知識・技能)</u> <u>AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。</u></p> <p><u>(主体性・多様性・協調性)</u> <u>AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人</u></p> <p><u>AP3：協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人。</u></p> <p><u>(思考力・判断力・表現力)</u> <u>AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる人</u></p> <p><u>AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有</u></p>	<p>—</p>

5) 作業療法学科の目的と 3つのポリシーの一貫性

(1) 作業療法学科の目的

日本作業療法士協会は「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療・保健・福祉・教育・職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と定義している。また、その具体的な対象者は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団である。彼らの生活に対して、作業を用い、環境に手を入れ、外部からの干渉をコントロールすることにより生活の困難を軽減させる。そのために、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して、環境面にも働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材が必要となる。そのような作業療法士は地域共生社会の必需となると考えられる。

近年、我が国は国民の約 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる超高齢化社会を迎え、滋賀県においても高齢化率は 2045 年には 34.3%に上昇するとされている。老年期では、高齢化による機能低下や、様々な疾患や障害の影響により、生活の活動や社会への参加の難しさを持つ地域住民が多くなることが予想される。その中で、年齢を重ねても可能な限りこれまでと同じような生活を送ることができるような支援が求められている。また、児童期では特別支援学校や特別支援学級に通う児童数が 1.8 倍に増加しており、その支援も求められている。さらに、成人期においては、能力に応じた障害者雇用のむつかしさ、また就労者の離職率の高さといった課題があげられている。このようにすべての年齢層の地域住民が、その能力を生活や就労に活かすための支援は少ない。そのため、地域共生社会の実現を目指した支援体制の構築が求められており、作業療法士もその一翼を担う必要がある。

上記に述べたような社会状況と作業療法士の需要ではあるが、滋賀県の作業療法士数は 463 名 (2019 年 3 月滋賀県作業療法士会の調査)、人口 10 万人あたりにすると 24.6 人である。これは全国平均の 34.6 人に比べて大きく低い値である。また、その少ない作業療法士の所属先のほとんどは医療機関に集中している。つまり、滋賀県の現状は、医療機関に所属する作業療法士すら少ないという状況にある (「滋賀県保健医療計画」、平成 28 年のリハ職の従事状況の調査より)。この少ない人数から、医療機関以外の地域社会で活躍する余裕はない。

そのため、滋賀県の養成校に求められるのは、1つは、医療現場の作業療法士を増やすこと、もう一つは、地域共生社会の創造の一助となる作業療法士を新たに輩出することの二点となる。

また、作業療法で言う「作業」とは、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など人が営む生活をしていく上で必要な生活活動そのものと、それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。生活をしていく上での活動は、その人ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値が含まれるものである。そのため、生活活動に焦点をあてた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての生活活動の利用と、その生活活動自体を練習し、「できるようにしていく」という目的としての生活活動の利用及びこれらを達成するための、障害を持った人と物的・人的環境とを調整することが含まれるのである。対象者のもてる能力を活かすために、環境を調整することが重要であり、これは地域の生活環境の中で活かすことのできる作業療法士の専門性である。しかし、現在の作業療法士の就労先は病院中心であり、病院から地域支援へと移行が求められているが、その絶対数の不足からほとんど応じられていないのが現状である。よって、地域生活者の暮らす生活環境の中で、対象者の能力を活かして生活を営めるように、環

境の調整を含めた支援ができる専門職として作業療法士を養成することは意義があると考える。

地域の住民は幅広い年齢層であり、また、疾患や障害を抱える場合も多い。彼らは自身の能力では目の前にある環境への適応が難しく、生活に困難が生じている。また、その困難さはライフステージにおいて、流動的に変化する。児童期、成人期、老年期といったライフステージと、その生活の経過や個人の抱える身体的又は精神的な障害によって、生活における課題は様々存在する。このような多様な課題の解決に向けて、その年齢層と障害や生活環境を構成する要素から、生活の状態を把握し、作業や物的環境を調整するだけでなく、人的環境因子である地域住民や多職種を理解し、協働して支援内容や、役割の調整ができる作業療法士を養成することは、今後の地域での生活支援にむけて意義がある。そして、その先には地域共生社会の実現が見えてくる。

よって、本学科では地域住民のために作業療法士の専門性を活かした支援ができるとともに、地域の児童期、成人期、老年期分野において、地域住民や多職種と連携して生活支援を実践できる作業療法士を輩出することを目的として、人材養成像を次の2点とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 25 ページ 作業療法学科の目的

新	旧
<p>①<u>子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。</u></p> <p>②<u>地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。</u></p>	<p>①リハビリテーション学部の目的に則り、人の尊厳と権利、職業倫理観、協調・連携を理解し、生活全般の動作や社会適応能力の回復や疾病・障害の予防、健康増進等を図ることのできる作業療法士を養成する。</p> <p>②広い視野をもって変化していく地域社会のニーズを捉え、他者と協働しながら、その課題解決に向けて作業療法関連分野の専門知識を自ら修得し、作業療法の応用・活用や職業展開に新しい発想を生み出し実践できる人材を養成する。</p>

(2) 作業療法学科のディプロマ・ポリシー

まず、作業療法士の基本的な資質として豊かな人間性と倫理観、幅広い教養が重要となる。これは、作業療法が対象者の障害の側面よりも健康的側面を重視すること、地域には様々な年齢層の、様々な障がいや課題を抱えた方が生活をしており、幅広い対象者に対して作業療法士として関わるためである。そのため、生涯を通して作業療法士として自覚と責任を持ち、その知識と技術を向上する意識が必要となるため DP1 で表現した。そして、地域の中で様々な課題を抱えながら生活している対象者と関わるには、作業療法士一人の力では十分な支援とはなりえない。そこには、関連する多職種との円滑なコミュニケーション、協調性が必要となるため DP2 で表現した。その上で、障がい者を対象とした場合に必要な医学的な知識と技術だけでなく、作業療法士の独自の視点、対象者が大切にしている作業を通して人を理解する知識と技能でもある。このような作業療法士が学ぶ知識や技術は、対象者の生活のしづらさを構造的にみる視点を必要とする。生活の困難さは、疾患や障害に起因するものか、対象者の環境の影響によるものか、といった構造を明らかにする能力を DP3 で表現した。このような作業療法士の

専門性を活かし、地域における様々な課題を構造的に捉え、見極めることで、新たな課題解決ができる能力を DP4 で表現した。以上の能力を修得することにより、地域住民の課題を捉え、多職種と連携し、生活課題の新たな支援を展開できる能力を DP5 で表現した。このような能力の養成を目指し、ディプロマ・ポリシーを次の 5 項目とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 73 ページ 作業療法学科のディプロマ・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科では、所定の規則に基づき 130 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法士（専門職）の学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</u></p> <p><u>DP2：多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</u></p> <p><u>DP3：作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</u></p> <p><u>DP5：作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</u></p>	<p>作業療法学科では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>①生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>②様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>⑤作業療法に関連する他の分野の専門学力の修得に努め、自己の能力を開発し、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>

(3) 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー

DP1にある豊かな人間性と倫理観、幅広い教養と生涯学習する意欲を養うために、基礎科目の人間と社会系科目、自然科学系科目及び語学教育系科目が基礎となるように構成している。その中で、哲学、社会学、日本の文化や歴史に関する選択科目を構成し、対象者の人となりを知るための作業療法の視点を学ぶ科目を配置した。これらを基盤に、職業専門科目を学修することで作業療法士としての資質を理解し、どのように行動すべきかを学び、臨地実務実習での学びに繋がるように配置した。

DP2にある多職種と協調・連携するためのコミュニケーション能力、信頼関係を構築する能力を涵養するために、初年次教育科目である「コミュニケーション論」、語学教育系科目にて必要な能力を学修する。また、多職種と連携することの多い医療関係の専門職とのコミュニケーションを円滑に行うため、

職業専門科目の作業療法理論科目群において、基礎的な人体構造の知識や疾患の知識を学修する。

DP3にある作業療法を実践する能力を達成するために、職業専門科目の作業療法理論科目群及び職業実践科目群を中心に、作業療法士に必要な知識と技術を学修する科目を配置している。作業療法理論科目群は、医学的な知識や技術の学修、職業実践科目群は、対象者にとっての大切な作業を評価、治療に用いる知識や技術、対象者の障害がどのような構造によって生じているかを学修する。そして、学修した知識と技術を活かし、臨地実務実習において具体的な実践例を学ぶ。また、応用実践力を養成する過程として、総合科目を配置している。

DP4にある地域課題を発見する能力を涵養するために、展開科目を配置した。学生が耳にすることが多いボランティアや災害、子育てに関して学ぶ科目から、人が生涯にわたって取り組む就労やスポーツについて学ぶ科目を配置した。地域生活における様々な現状や課題を学修することと、それまでの作業療法士としての専門的な視点、構造的にとらえる視点から、地域の課題を発見できるように配置した。

DP5にある作業療法の専門的知識と技術を活かし、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用する能力を涵養するために、展開科目の3つのモデルと実習を配置した。各領域の専門家から現状と課題を学び、実習を行う中で、これまでの学修で培った作業療法士としての専門性を活用しながら、課題を構造的にとらえていく。そして、学修のまとめとして総合科目を配置した。

以上のように内容を改め、カリキュラム・ポリシーを次の5項目とした。なお、学修成果の評価に関する方針については学部準ずる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 32 ページ 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p> <p><u>CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を</u></p>	<p>①理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則が指定する内容に加え、本学の特徴である「展開科目」と「基礎科目」「職業専門科目」「総合科目」に区分し、作業療法士に求められる資質と知識・技術を系統的に学ぶことができるように配置する。また、展開科目では関連分野において応用的、創造的に作業療法の専門性を活かすための内容を取り入れている。</p> <p>②「基礎科目」では、豊かな人間性、倫理観、接遇、国際的感覚を養うための教養科目と、社会人・職業人としての基礎能力となるコミュニケーション能力向上やキャリア形成に役立つ科目を配置し、社会人・職業人としての基盤を形成する科目を配置する。</p> <p>③「職業専門科目」では、多様化する社会のニーズに対応できる作業療法士を育てるために、科学的かつ論理的思考をもって評価から治療の立案、実施、検証ができるようになることを目標としている。そこで、「作業療法理論科目群」では、人体の構造と機能、疾病の成り立ちや回</p>

<p><u>養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u><成績評価></u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p> <p><u>さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。</u></p>	<p>復過程、臨床医学、予防医学など、医療職に共通して必要な知識を学ぶ科目を配置する。また、「職業実践科目群」では、作業療法の基盤となる生活と作業や人々の健康促進にむけた作業療法士の役割と職務の理解を深め、評価から、治療計画の立案・実行・検証に至るまでの一連のプロセスを正しく理解し、科学的かつ専門的根拠を背景とした作業療法を実践できる能力を修得するための科目を配置する。</p> <p>④「総合科目」では作業療法の基盤を固めるために学んだ知識を関連させながら総合的に作業療法の理解を深める。また人々が置かれている生活環境を含めてその構造を理解し、他職種と協調した行動ができることを目標とする。基礎科目や専門科目で学んだ知識を統合し、他職種の専門性の理解と、多職種の中で作業療法士としての専門性を発揮する多職種連携の知識を基盤に、その実際について学ぶ講義・演習を配置している。</p> <p>⑤「展開科目」では、作業療法士の専門性を多様化する地域社会のニーズに合わせて応用活用するために、作業療法の関連領域である分野について理解を深め、課題の発見と解決や新しい発想を生み出す土壌の育成を図ることを目的とする。科目としては、第一は児童領域、第二は成人領域、第三は老年期領域を設け、社会での作業療法の応用的、創造的な役割を拓いていくための科目を配置する。</p>
--	---

(4) 作業療法学科のアドミッション・ポリシー

AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」は、本学科にて学業を修めるために必要な高等学校までに学ぶべき基礎的な知識をさしており、DP3「作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる」を達成するための能力となる。地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる作業療法士の養成のためには、障がい者に関する医学的な知識だけでなく、多職種との連携、地域住民との関わりのため幅広い知識を学ぶ必要があり、基礎的な高等学校の学力が必要である。

AP2「人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ」は、地域共生社会に向けた作業療法士になるためには、様々な方との対人交流が必要であり、DP1「作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有

し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる」を達成するための能力となる。そのためには、作業療法士として人に関心を持ち、主体的に交流し、様々な課題に取り組む意欲と責任感を持っていることが必要である。

AP3「協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる」は、地域共生社会に向けた作業療法士には、他者と柔軟なコミュニケーションをはかることが必要になる。そのため DP2「多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる」を達成するための能力となる。他者と協力しあうこと、他者と衝突することがあっても柔軟に対応する能力を兼ね備える必要があり、その基礎的な資質となる。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人」は、地域共生社会に向けた作業療法士として、物事を判断し、解決に向けて努力する、DP4「変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる」を達成するための能力となる。そのためには、判断力や客観的に物事を捉える力、解決に向かうための意欲と真摯さを兼ね備えていることが必要である。

AP5「論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人」は、地域共生社会に向けた課題を解決するにあたり、論理性や柔軟な発想、そして他者に自身の考えを説明できる能力を兼ね備えた人物をさし、DP5「作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる」を達成させるための能力となる。思いや意欲だけでは、専門家は成立しない。自身の実践を他者に説明できる力を兼ね備える必要がある。

以上のような考えに基づき、5項目のアドミッション・ポリシーを次のように構成した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 94 ページ 作業療法学科のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科では、「①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p>	<p>—</p>

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人

AP3：協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人

AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

(2) 養成する人材像や3つのポリシーが不明確なため、教育課程の妥当性を判断することは困難だが、申請のあった教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係などの説明がなく、教育課程が体系的に編成されているのか疑義がある。特に、3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置して、科目区分に応じて配当年次を二分化しているが、修得する知識の接続性・順序性を踏まえたものとなっているのか不明確である。教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係を明らかにした上で、体系的な教育課程が編成されていることを明確に説明すること。

(対応)

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、理学療法士・作業療法士としての知識と技術を身に付けたうえで、展開科目を履修することで、応用力を涵養することができると考えていたためである。しかし、結果として、国家試験の対策に多くの時間を割くこととなる4年次に、多くの科目を履修しなければならない配置となってしまっていた。また、それを優先した結果、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。ご指摘を受け、改めて配当年次の見直しを行った。以下では、学科ごとに、配当年次の見直し、配当年次の考え方、科目構成及び科目間の対応関係について順に説明を行うことで、教育課程の体系性の説明とする。併せて、その説明を図示したカリキュラムマップ(資料1-1、資料1-2)を添付する。

資料1-1:カリキュラムマップ(理学療法学科)

資料1-2:カリキュラムマップ(作業療法学科)

1) 理学療法学科

(1) 配当年次の見直し

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、基礎科目及び職業専門科目において、理学療法士としての知識と技術を身に付けた後、展開科目を履修することで、応用力を涵養することができると考えていたためである。しかし、ご指摘のとおり、そうしたことによって、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。配当年次は学年進行に合わせて学修内容が積み上げられるよう、基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の関係

性を考慮し、配当し直した。

考慮した主な観点は、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の配当方法である。申請時には、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」をともに3年次後期に配置していた。そして、3年次後期を3区分し、学生はそのうちの2つの期間で実習を行い、実習を行っていない1期間は、学内で「リハビリテーション総合演習」を進めることとしていた。しかし、全学生を同時期に履修させることで、学びの平等性を保証するべきだと考えたため、実習期間を2つに集約し、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」を3年次後期に、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」を4年次前期に配置し直した。また、展開科目の配当年次については、学びの進行状況に連動するよう1年次から順次専門性を深めて学修できるように改め、展開科目での学修内容が総合科目に反映できる配当年次とした。基礎科目については、申請時には、1年次で履修を終える構成としていたが、順序性を意識し、1・2年次に分散して配置し直した。配当年次を見直した科目は次の新旧対照表のとおりである。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) リハビリテーション学部 理学療法学科

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
キャリア発達論	2後	キャリア発達論	1後
経営学入門	2前	経営学入門	1前
統計学	2後	統計学	1後
韓国語	2後	韓国語	1後
中国語	2後	中国語	1後
救急援助論	2後	救急援助論	1後
社会福祉学	2後	社会福祉学	1前
内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	2後
内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	2後
神経筋骨格障害応用論実習	4後	神経筋骨格障害応用論実習	4通
内部障害応用論実習	4後	内部障害応用論実習	4通
スポーツ障害応用論実習	4後	スポーツ障害応用論実習	4通
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	総合臨床実習Ⅱ	3後
マーケティング論	3後	マーケティング論	4前
施設起業運営論	3後	施設起業運営論	4前
子育て支援論	2前	子育て支援論	4前
災害支援論	2前	災害支援論	4後
教育支援論	2前	教育支援論	4前
メンタルヘルスマネジメント論	3後	メンタルヘルスマネジメント論	4前
地域共生論	3前	地域共生論	4前
障がい者スポーツ論	3後	障がい者スポーツ論	4通
障がい者スポーツ論実習	4前	障がい者スポーツ論演習	4通
スポーツリズムトレーニング論	3後	スポーツリズムトレーニング論	4前

体力測定論	3 後	体力測定論	4 通
健康増進実践演習	3 後	健康増進実践演習 I	4 通
健康増進実践実習	3 後	健康増進実践演習 II	4 通
パフォーマンス向上論	3 後	パフォーマンス向上論	4 通
フィットネス論	3 後	フィットネス論	4 通
ランニングトレーニング論	3 後	ランニングトレーニング論	4 通
ゴルフトレーニング論	3 後	ゴルフトレーニング論	4 通
ビジョントレーニング論	3 後	ビジョントレーニング論	4 通
遊びとレクリエーション	3 後	遊びとレクリエーション	4 通
生きがい創造	3 後	生きがい創造	4 通
伝承遊び	3 後	伝承遊び	4 通
シューフィッティング論	3 後	シューフィッティング論	4 通
福祉工学地域活用論	3 後	福祉工学地域活用論	4 通
ロボット工学地域活用論基礎	3 後	ロボット工学地域活用論基礎	4 通
ロボット工学地域活用論応用	3 後	ロボット工学地域活用論応用	4 通
協働連携論総合実習	4 後	シンメディカル論	4 前
リハビリテーション総合演習	3 後	リハビリテーション総合演習	3 通

(2) 配当年次の考え方

① 1年次の配当

1年次には、本学で学修を行うにあたって必要となる基礎知識を身に付けるため初年次教育科目として「学びの基盤」及び「コミュニケーション論」を配置し、幅広い教養を身につける科目として「教育学」及び「人間発達学」などの人間と社会系科目、「生物学」及び「物理学」などの自然科学系科目及び「英語Ⅰ・Ⅱ」などの語学教育科目を配置する。

職業専門科目としては、理学療法を学ぶための基盤となる「リハビリテーション概論」、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」などの理学療法理論科目群を多く配置し、2年次以降の疾患学及び理学療法の専門科目につながる配置としている。また、理学療法の基本概念を学ぶ科目として「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法評価学」を配置し、理学療法士としての職業意識を高め、職務内容の理解を深めるために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

展開科目では地域社会の理解を進めるため、1年次でも理解しやすい「ボランティア論」、「生涯スポーツ論」及び「労働衛生論」を配置している。

② 2年次の配当

2年次には1年次の教育内容を受け、専門領域の科目を中心に理学療法理論科目群の「内科学Ⅰ・Ⅱ」及び、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」などの疾患学に加え、職業実践科目群の「運動療法学」、「日常生活活動学」及び「義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」などを配置した。特に2年次からは講義だけでなく、「老年期理学療法学演習」及び「小児期理学療法学演習」などの演習科目を、「理学療法評価学実習」、「運動療法学実習」及び「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」などの実習科目を配置し、講義で身に付けた知識の定着を図るととも

に3年次開講の「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ」へ向けた実践的な技術の習得を行う。

③3年次の配当

3年次には臨地実務実習に加えて、理学療法士としての視野を広げるために、関連他分野の科目群すなわち展開科目において、「地域共生論」を履修した上で、ヘルスプロモーション支援、生涯スポーツ支援及び地域支援の履修モデルを、学生各々の関心に基づき履修をすることができるように配置した。ヘルスプロモーション支援モデルでは「体力測定論」、「健康増進実践演習」及び「健康増進実践実習」などを、生涯スポーツ支援モデルでは「フィットネス論」、「スポーツリズムトレーニング論」及び「パフォーマンス向上論」などを、地域支援モデルでは「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「組織運営論」などの科目を配置する。また、研究を通して理学療法の知識の拡大を図り、4年次に繋げる科目として「リハビリテーション総合演習」を配置する。

④4年次の配当

4年次には「理学療法総合臨床実習Ⅱ」及び「理学療法地域実習」に加えて、「理学療法管理学」などの管理に関する講義や、3年次までの展開科目で習得した知識・技能と理学療法を繋ぎ活用するために「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「理学療法総合演習」を配置する。その上で「協働連携論総合実習」において、理学療法士として地域共生社会の実現に向けた役割と職業観の確立を目指す。

(3) 科目構成

基礎科目について、理学療法の専門職として職業的自立を図る上で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は選択科目とした。職業専門科目は、理学療法士の国家資格を取得するために必要な科目と位置づけているため、その多くを必修科目とし、一部を選択科目とした。選択科目として配置した科目は、展開科目の3つの履修モデルと連動する実習科目のため、履修モデルと合わせ3科目（「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「神経筋骨格障害応用論実習」）を設定した。展開科目は、すべての学生が隣接分野について学ぶべき内容は必修科目とし、3つの履修モデルごとの科目は選択科目とした。総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となるため、全て必修科目とした。なお、理学療法学科では、自由科目は設定していない。

(4) 科目間の対応関係

理学療法学科の科目構成は、基礎科目を大学で学修するすべての基盤として位置づけている。そして職業専門科目を中心に、理学療法士の資格を取得するために必要な科目を配置し、階層的に関連付けて学びが進むよう設定している。さらに、地域共生社会の実現に貢献できる理学療法士を輩出するために、展開科目で健康、スポーツ、福祉の関連分野を学び、職業専門科目と展開科目で学修した知識と技術を統合し、理学療法学科の人材養成の目的を達成する集大成の科目群として総合科目を位置づけている。

①基礎科目

基礎科目として、社会で幅広く豊かな人間関係を形成していくための教養を培い、理学療法の専門職として地域住民を支援するために必要な資質を身に付け、理学療法士としてキャリア形成を進める基盤

となるような科目を配置した。

初年次教養科目は、1年次前期に必修科目として配置し、大学での学修の意義と方法について学ぶ科目として「学びの基盤」を、対人援助職である理学療法士の基礎となるコミュニケーション能力の養成に繋がる科目として「コミュニケーション論」を配置した。

人間と社会系科目では、必修科目で「教育学」、「哲学入門」及び「心理学」を1年次に配置し、理学療法士に必要な専門職としての人間形成につながる基礎科目とする。また、2年次に「キャリア発達論」を配置することで、理学療法士としてキャリアを形成する上で、生涯学び続けることが重要であることを理解するとともに、理学療法士としての自覚と責任を涵養するための科目と位置付けている。選択科目には1年次では教養を広げる科目として「音楽」、「哲学入門」及び「社会学」などを配置しており、2年次には、将来のキャリア形成として起業を視野に入れた学修につながる科目として「経営学入門」を配置している。

自然科学系科目は、理学療法を学ぶ上で基礎となる「生物学」及び「物理学Ⅰ」を1年次に必修科目として配置し、2年次には「統計学」を必修科目として配置した。また、「物理学Ⅱ」及び「数学」を選択科目とし、より深く学べる配置としている。

語学教育科目は、「英語Ⅰ」を必修科目とし、理学療法に必要な基本的な語学を学ぶとともに、選択科目に「英語Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」を配置することで教養を深めるとともに、グローバル社会に応じたコミュニケーション能力を高める科目となるよう1年次と2年次に配置している。

②職業専門科目

職業専門科目は、理学療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習において、チームアプローチの中で理学療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。理学療法理論科目群を基盤とし、職業実践科目群を学ぶことで、理学療法の意義と実践方法を理解し、適切な理学療法を科学的な根拠に基づき理論的に実施できるよう科目を配置している。

理学療法理論科目群のなかで、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」は理学療法の医学的な基礎となり、人体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、学ぶ範囲が広い解剖学と生理学については単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達について知識を深める科目として、1年次に「人間発達学」及び「運動学Ⅱ」を配置し、「運動学実習」及び「運動生理学実習」を2年次に配置している。

理学療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進について、人体の構造と機能を学修したことを基盤とし、学ぶことができるよう2年次を中心に配置した。科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「老年医学」などである。

理学療法の意義及び理学療法士のチームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」、3年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、理学療法学科の人材養成の基盤となる科目として位置付けている。

職業実践科目群では、理学療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。法的制度下の理学療法士の位置付けや職域及び研究など、理学療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として1年次に「基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ」、3年次に「臨床技能論実習」及び「基礎理学療

法研究法」を配置している。また、理学療法の基本となる身体動作について実習により学ぶ科目として「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」を1年次に配置している。

理学療法の評価について学ぶ科目は、理学療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次に配置し、評価技術の修得に「理学療法評価学実習」を2年次に配置し、学修範囲が広いこと、2単位に設定している。そして、評価の知識と技術を活かし、疾患に対応した評価が可能となるよう2年次に「画像評価学」を、3年次に「理学療法評価学演習」を配置し、理解を深めることができるよう設定している。

理学療法治療を学ぶ科目についても階層性を重視して配置しており、治療技術の基礎として「運動療法学」、「日常生活活動学」、「義肢装具学Ⅰ」及び「物理療法学」を2年次前期に、2年次後期から3年次にかけて、理学療法治療技術の基礎と理論科目群の疾患学とを関連づけ、理学療法治療技術を学修する科目を配置している。対応させている科目は、「神経障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「義肢装具学Ⅱ」、「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「小児理学療法学演習」、「老年期理学療法学演習」及び「スポーツ障害系理学療法学実習」である。これらに加え、地域における理学療法について、基礎を学ぶ科目として「地域理学療法学」を2年次に配置し、その実践方法を学ぶ科目として「地域理学療法学実習」を3年次に配置している。また、本学科の特色として理学療法治療技術の一つである「徒手理学療法学」と、その手技を学ぶ「徒手理学療法学実習」を3年次に配置し、実践的な技術の学びができるよう配置している。

臨地実務実習については、リハビリテーションと理学療法の概念と、理学療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次前期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅰ」を配置している。理学療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され、学修の目的が明確になるように設定している。また、1年次後期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅱ」を配置することで、理学療法士の自覚とキャリア形成を促し、2年次の職業専門科目を学修する動機付けにつながることを意図している。2年次前期の最終時期に配置している「理学療法見学実習Ⅲ」は、「理学療法見学実習Ⅰ」と同じ施設で実習を行う。そうすることで、同じ施設で実習中に関わる様々な人とのコミュニケーションを深め、関係作りを形成しやすい環境を設定し、理学療法士に必要な資質形成を促す。理学療法理論科目群と理学療法評価について学修した後、3年次前期に「理学療法評価実習」を配置し、臨床場面で理学療法評価を体験し、理学療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。その後、評価実習で学修したことを反映し、「理学療法総合臨床実習Ⅰ（3年次後期）・Ⅱ（4年次前期）」で治療についての実習を実施する。この2つの実習は実習内容の到達目標を変え、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」から「理学療法総合臨床実習Ⅱ」へと目標を上げ、理学療法の治療体験を積み上げていけるよう設定している。これらの実習が終了した後「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修する。

以上の職業専門科目は、理学療法士資格を取得するために重要であり全て必修科目としている。これらの科目以外に、選択科目を職業実践科目群で3科目設定し、1科目を選択するよう4年次後期に配置している。この3科目は展開科目の履修分野と関連し、展開科目のヘルスプロモーション支援を履修した場合は、「内部障害応用論実習」を、生涯スポーツ支援を履修した場合は「スポーツ障害応用論実習」を、地域支援を履修した場合は「神経筋骨格障害応用論実習」を選択し、それぞれの分野の理学療法について学修する科目となる。

③展開科目

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、理学療法領域に隣接する分野での地域の理解と課題を知る科目に、「地域共生論」、「生涯スポーツ論」、「労働衛生論」、「災害支援論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」を配置している。これらの科目を学び、地域共生社会の実現に向け支援できる方策として「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「障がい者スポーツ論」及び「障がい者スポーツ論実習」を配置している。これらは全て必修科目とし全学生が学ぶことで、選択する履修モデルの基礎となる科目である。そして、選択した分野に応じた科目を各々が履修する。ヘルスプロモーション支援には、「体力測定論」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「遊びとレクリエーション」、「伝承遊び」及び「生きがい創造」を配置する。生涯スポーツ支援には、「パフォーマンス向上論」、「フィットネス論」、「スポーツリズムトレーニング論」、「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「ビジョントレーニング論」及び「シューフィッティング論」を配置する。地域支援には、「福祉工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論応用」、「組織運営論」及び「身体障がい者就労環境論」を配置する。なお、詳細は是正事項2において詳述する。

④総合科目

総合科目は全て必修科目とし、基礎科目を基盤に職業専門科目と展開科目を融合させ統合していく科目として位置付けている。「リハビリテーション総合演習」を3年次後期に配置し、研究を通して知識を広げる。また、理学療法士として従来の医療・介護の分野のみならず、地域共生社会の実現に向けて地域住民の生活を支援できる人材を養成するための集大成の科目として「理学療法総合演習」と「協働連携論総合実習」を4年次後期に配置する。

2) 作業療法学科

(1) 配当年次の見直し

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、作業療法士としての知識と技術を身に付けた後、展開科目を履修することで、応用力を涵養する構成で考えていたためである。しかし、そうしたことによって、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。作業療法学科のディプロマ・ポリシーを達成するための科目の構成を設定し直すとともに、配当年次は学年進行に合わせて学修内容を積み上げられるよう基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の関係性を考慮して配当し直した。

考慮した主な観点は、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の配当方法である。この2つの総合臨床実習は、3年次後期を前期・中期・後期の3期間に分け、学生は前期と後期の2期間でⅠとⅡの実習を履修することとしていた。中の期間は、次の実習に向けての準備期間として捉えており、学生への過度なストレスがかからないよう科目の配置はしていなかった。しかし、より段階的に学修できるよう3年次後期と4年次前期に振り分けるとともに、それに伴い配当年次の整理を行った。また、展開科目の配当年次については、学びの進行状況に付随するよう1年次から順次専門性を深めて学修できるように改め、総合科目に展開科目の内容が反映できる配当年次とした。基礎科目については、2年次で修了するよう設定し、1・2年次に分散して配置し直した。以上の見直しを受け、配当年次が変更となった科目は次の新旧対照表のとおりである。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) リハビリテーション学部 作業療法学科

新		旧	
科目名称	配当年次	科目名称	配当年次
キャリア発達論	<u>2</u> 後	キャリア発達論	1 後
経営学入門	<u>2</u> 前	経営学入門	1 前
統計学	<u>2</u> 後	統計学	1 後
韓国語	<u>2</u> 後	韓国語	1 後
中国語	<u>2</u> 後	中国語	1 後
救急援助論	<u>2</u> 後	救急援助論	1 後
精神医学	<u>2</u> 前	精神医学	2 通
社会福祉学	<u>2</u> 後	社会福祉学	1 前
基礎作業学実習Ⅰ	<u>1</u> 前	基礎作業学演習Ⅱ	1 後
基礎作業学実習Ⅱ	<u>1</u> 後	基礎作業学演習Ⅰ	1 前
作業療法研究法	<u>3</u> 前	作業療法研究法	4 前
家族援助論	<u>3</u> 前	家族援助論	2 後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	<u>4</u> 前	作業療法臨床総合実習Ⅱ	3 後
マーケティング論	<u>2</u> 後	マーケティング論	4 前
施設起業運営論	<u>3</u> 前	施設起業運営論	4 前
ボランティア論	<u>1</u> 前	ボランティア論	4 後
子育て支援論	<u>2</u> 前	子育て支援論	4 前
災害支援論	<u>1</u> 後	災害支援論	4 前
教育支援論	<u>2</u> 後	教育支援論	4 後
メンタルヘルスマネジメント論	<u>2</u> 前	メンタルヘルスマネジメント論	4 前
障がい者スポーツ論	<u>3</u> 後	障がい者スポーツ論	4 通
障がい者スポーツ論実習	<u>4</u> 前	障がい者スポーツ論演習	4 通
地域社会共生論	<u>1</u> 前	地域社会共生論	4 前
地域社会共生論実習	<u>1</u> 後	地域社会共生論実習	4 前
精神障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	心理精神企業適応論	4 前
老年期地域生活適応論	<u>3</u> 後	老年期地域生活適応論	4 前
成人期地域生活適応論	<u>3</u> 後	成人期施設生活適応論	4 前
児童期地域生活適応論	<u>3</u> 後	児童地域生活適応論	4 前
協働連携論総合実習	<u>4</u> 後	シンメディカル論	4 前

(2) 配当年次の考え方

本学科は、基礎科目から職業専門科目、そして展開科目、総合科目を順に積み上げていくことで体系的を担保することを想定していた。ご指摘を頂き、再検討をした結果、展開として位置づけた科目の中でも学生が比較的、耳にする機会の多い内容を含む科目を1年次に配置し、地域共生社会の課題を身近なものとして考える機会を設けた方が、本学が考える養成する人材像を早期から養成することに繋がる

と考えた。つまり、従来の作業療法士の養成校で示されたような基礎、応用、展開の流れではなく、学生が分かりやすい展開科目を1年次から配置することで、地域共生社会への志向性を学生に学修させていく構成とする。また、同時進行的に従来の作業療法士養成校と同じような科目を並列的に配置することで、医療分野で働くことを想定した作業療法士像と地域共生社会で求められる作業療法士像とのギャップを学生に感じさせるように配置した。この意図は、学生に心理的葛藤を生じさせるためであり、この契機によって、自身が進むべき作業療法士のあり方を深めさせるためである。そして、4年次の展開科目において3つの履修モデルの科目と実習、総合科目を配置し、新たな領域にも挑戦する作業療法士を養成する。

ディプロマ・ポリシーを達成するための具体的な科目構成は次のとおりである。

①1年次の配当

1年次には本学で学修を行うにあたって必要となる基礎知識を身に付けるため初年次教育科目として「学びの基盤」及び「コミュニケーション論」を、幅広い教養を身につける科目として「教育学」及び「心理学」などの人間と社会系科目を、「生物学」及び「物理学」などの自然科学系科目及び「英語Ⅰ」などの語学教育科目を配置する。

職業専門科目は、作業療法を学ぶための基盤となる「リハビリテーション概論」、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」などの理論系科目と、作業療法を学ぶにあたって基礎となる職業実践科目「作業療法学総論」、「作業療法管理・制度論」及び「作業療法と倫理」などを配置し、1年次後期から2年次以降の医学系の科目の基礎及び作業療法の専門科目へとつながる内容としている。また、作業療法士としての意識と自覚を高めるために、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ」を1年後期に配置する。

展開科目は、「ボランティア論」、「災害支援論」、「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」を配置する。

②2年次の配当

2年次には1年次の教育内容を受け、職業専門科目の作業療法理論科目群の「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」及び「老年医学」などに加え、職業実践科目群の「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「精神障害作業療法評価学実習」など実習を多く配置した編成とし、講義での知識の定着と3年次からの「作業療法評価実習」、「作業療法臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」及び「地域作業療法実習」へ向けた実践的な技術の修得を行う。

展開科目は、「子育て支援論」、「メンタルヘルスマネジメント論」及び「教育支援論」を配置する。1年次に続き、学生には比較的なじみのある科目を配置し、地域共生社会への志向性をもたせる。また、後期に「マーケティング論」を配置し、3年次の「施設起業運営論」に向けた基本的な知識を学ぶ。

③3年次の配当

3年次には2年次の講義等を踏まえ、さらに学内の講義や演習によって知識と技術の習得を行う。その上で前期に「作業療法評価実習」、後期には「作業療法総合臨床実習Ⅰ」を配置し、作業療法士としての実践力を養う。

展開科目は、「施設起業運営論」や人にとって一生涯を通して関わることが多い就労やスポーツについて学ぶための科目として「障がい者スポーツ論」、「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境」を配置する。そして、展開科目の3つの履修モデルの「児童期地域生活適応論」、「成人期地域

生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。これらは、それまでの展開科目のまとめ的な意味合いと、4年次の各モデルの実習につながる科目である。

④4年次の配当

4年次には、3年次までの職業専門科目の集大成としての「作業療法総合臨床実習Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を配置する。

展開科目は、3年次後期で学んだ3つの履修モデルの実習、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置した。そして、4年次後期に「協働連携論総合実習」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」において、これまで学修した内容に基づき、作業療法士として地域共生社会で果たすべき役割と職業観の確立を目指す。

(3) 科目構成

基礎科目は、作業療法の専門職として必要で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は選択科目とした。職業専門科目は、従来の作業療法士教育に求められる科目と本学科が考える人材像を養成するための科目との両方を学生に学んでもらうため、全ての科目を必修科目とした。展開科目は、3つの履修モデルに関連する科目は必修科目とし、3つの履修モデルごとの科目は選択科目とした。総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となるため必修科目とした。なお、作業療法学科では、自由科目は設定していない。

(4) 科目間の対応関係

作業療法学科の科目構成は、基礎科目を大学で学修する全ての基盤として位置付けている。そして、職業専門科目を中心に、作業療法士の資格を取得するために必要な科目を配置し、階層的に関連付けて学びが進むよう設定している。さらに、地域共生社会の実現に貢献できる作業療法士を輩出するために、展開科目で児童期、成人期及び老年期の各分野に共通する概念と実践を学び、職業専門科目と展開科目で学修した知識と技術を統合し、作業療法学科の人材養成の目的を達成する集大成の科目群として総合科目を位置付けている。

①基礎科目

基礎科目は、社会で幅広く豊かな人間関係を形成していくための教養を培い、作業療法の専門職として人を支援するために必要な資質を身に着け、作業療法士としてキャリア形成を進める基盤となるよう科目を配置した。

初年次教養科目は、1年次前期に必修科目として配置し、大学での学修の意義と方法について学ぶ科目として「学びの基礎」を、対人援助職である作業療法士の基礎となるコミュニケーション能力の養成につながる科目として「コミュニケーション論」を配置した。

人間と社会系科目は、必修科目で「教育学」、「哲学入門」及び「心理学」を1年次に配置し、作業療法士に必要な専門職としての人間形成につながる基礎科目とする。また、2年次に「キャリア発達論」を配置することで、作業療法士としてキャリアを形成する上で、生涯学び続けることが重要であることを理解するとともに、作業療法士としての自覚と責任を涵養する。選択科目には1年次では教養を広げる科目として「音楽」、「哲学入門」及び「社会学」などを配置しており、2年次に、将来のキャリア形成として起業を視野に入れた学修につながる科目として「経営学入門」を配置している。

自然科学系科目は、科学的な思考の基礎となる「生物学」及び「物理学Ⅰ」を1年次で、2年次に「統計学」を必修科目とし、「物理学Ⅱ」及び「数学」を選択科目に配置し、より深く学べるようにした。

語学教育科目は、「英語Ⅰ」を必修科目とし、作業療法に必要な基本的な語学を学ぶとともに、選択科目に「英語Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」を配置することで教養を深めるとともに、グローバル社会に応じたコミュニケーション能力を高める科目となるよう1年次と2年次に配置している。

②職業専門科目

職業専門科目は、作業療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習においてチームアプローチの中で作業療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。作業療法理論科目群が基盤となった上に職業実践科目群を学ぶことで、作業療法の意義と実践方法を理解し、適切な作業療法を根拠に基づき、理論的に実施できるよう科目を配置している。

作業療法理論科目群は、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ・Ⅱ」で作業療法の医学的な基礎となる人体の構造と機能を学ぶ科目になるため、1年次前期から順次配置し、学ぶ範囲が広い「解剖学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」は単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達についての知識を深める科目として「人間発達学」及び「解剖学Ⅲ」を1年次後期に、「運動学実習」を2年次前期に配置している。

また、作業療法の対象者の疾病と障害の成り立ち及びその回復過程を学ぶため、2年次に配置した。具体的な科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などである。

次に、作業療法の意義及び作業療法士のチームアプローチでの役割を知る基本的なリハビリテーションの概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」及び「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、作業療法学科の養成する人材像の基盤となる科目として位置づけている。

職業実践科目群は、作業療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。

作業療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として、1年次より作業療法の基本的理念や歴史的経緯、作業について学ぶ「作業療法学総論」、「基礎作業学」及び「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。また、作業療法の管理に関する科目として、1年次後期に法的制度下の作業療法士の位置づけや職域、管理や倫理を学ぶ「作業療法管理・制度論」及び「作業療法と倫理」を配置している。

作業療法評価学は、作業療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次後期に「作業療法評価学総論」を配置した。これは、2年次の本格的な各領域での作業療法評価の基礎的知識を学ぶ科目として位置づけている。2年次前期に各領域での作業療法評価（たとえば、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」など）を配置し、作業療法の評価技術の知識と技能を学修する。

作業療法治療学では、2年次前期に各領域の対象者に共通する日常生活と社会生活行為について学ぶ「日常生活活動論実習」及び「社会生活行為論実習」を配置した。これらを基に、2年次後期から3年次前期にかけて各領域の治療学の科目と実習を順次配置している。

地域における作業療法については、2年次よりその基礎となる「地域生活作業療法学総論」を配置し、

2年次後期から3年次前期にかけて各領域での対象者の地域生活支援を学ぶ「地域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置した。

臨地実務実習においては、リハビリテーションと作業療法の概念、作業療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次後期に「作業療法見学実習Ⅰ」を配置している。作業療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され学修の目的が明確になるように設定している。2年次前期の「作業療法見学実習Ⅱ」は、作業療法評価学で学んだ評価技術の一部を実際に体験することを目的の一つにしている。3年次前期には「作業療法評価実習」を配置し、臨床場面で作業療法評価を体験し、作業療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。3年次後期には評価実習で学修したことを踏まえ、「作業療法総合臨床実習Ⅰ」で作業療法の治療的介入についての実習を配置する。「作業療法総合臨床実習Ⅱ」は4年次前期に配置する。この2つの実習は、異なる領域の対象者への作業療法介入を学修するように設定している。また、4年次には「作業療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問作業療法について学修する。

以上の職業専門科目は、作業療法士資格を取得するために重要であり、全て必修科目としている。

③展開科目

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、作業療法士が参入していない領域の対象者への支援の現状と課題を学修する。「他分野を学ぶための共通科目」と3つの履修モデル「児童期」、「成人期」及び「老年期」より構成される。

他分野を学ぶための科目は、学生が聞いたことがありイメージしやすい科目を1年次より順次配置する。たとえば、「ボランティア論」、「災害支援論」及び「子育て支援論」などである。また、人が生涯においてかわることの多いスポーツと就労の科目「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「就労環境論実習」を必修科目として配置した。これら他分野を学ぶための科目を基に人のライフステージに分けた3つの履修モデルとして「児童期」、「成人期」及び「老年期」における科目「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。そして、これらの科目に対応する実習を4年次前期に配置する。

④総合科目

総合科目は、「協働連携論総合実習」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」を4年次後期に配置した。これらは、すべて必修科目であり、「基礎科目」を基盤に「職業専門科目」と「展開科目」を融合させ統合していく科目として位置づけている。本学科での学びの集大成として、地域共生社会で求められる作業療法士として活躍できる人材を養成する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

(3) 入学者選抜に関する具体的な方法(試験科目、募集定員の割合など)に関する説明がなく、アドミッション・ポリシーに沿った適切な入試が実施されるのか判断ができないため、入学者選抜に関する具体的な方法とともに、アドミッション・ポリシーとの整合性を明確に説明すること。

(対応)

ご指摘のとおり、申請書類において入学者選抜に関する具体的な方法(試験科目、募集定員の割合など)の記載を行っておらず、不適切であった。第一に、入学者選抜に関する具体的な方法の記載を行った後に、アドミッション・ポリシーとの整合性について説明を行う。

1) 入学者選抜(両学科共通)

(1) 出願資格

出願資格を有する者は、次の①～⑧のいずれかの要件を満たしている者とする。

【基礎資格】

- ①高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)を卒業した者及び2020年3月卒業見込の者
- ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2020年3月修了見込の者
- ③外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④外国において、中等教育の課程の修了まで12年を要しない国については、文部科学大臣が指定した大学に入学するための準備教育を行う課程を修了し、かつ、2020年4月1日までに満18歳に達する者
- ⑤文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者
- ⑥文部科学大臣の指定した者(専修学校の高等課程の修業年限3年以上の課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者など)、韓国高等学校または朝鮮高級学校を修了した者及び2020年3月修了見込の者
- ⑦文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定に合格した者を含む)及び2020年3月末日までに合格見込の者で2020年4月1日までに満18歳に達する者

- ⑧本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2020年4月1日までに満18歳に達する者

【入試区分別出願資格】（両学科共通）

入試区分別出願資格	
AO入試	上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 合格した場合、必ず入学する者
公募制 推薦入試	<p>【学校推薦入試】</p> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康で、出身学校長が責任を持って推薦できる者 II. 高等学校を2020年3月に卒業見込の者、または2019年3月に卒業した者 III. 合格した場合、必ず入学する者
	<p>【社会人入試】</p> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件をすべて満たしている者 I. 入学時において社会人としての実務経験を1年以上有する者 （パートタイム・アルバイト等も実務経験に含む） II. 合格した場合、必ず入学する者 ※ 受験時に1年以上の実務経験が無い場合でも受験可
一般選抜 入試	上記の【基礎資格】を有する者

(2) 理学療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法

理学療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法は次の表のとおりとする。

リハビリテーション学部 理学療法学科

入試区分	AO入試	公募制推薦入試		一般入試
募集人数	8名	32名		40名
専願/併願	専願			併願可
	—	学校推薦	社会人推薦	—
選抜の方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①調査書 ②志望理由書 ③グループディスカッション	①志望理由書 ②面接 ③小論文	①志望理由書 ②国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択。 ③数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択
出願期間	2019年8月初旬 ～ 2019年9月中旬	2019年10月下旬 ～ 2019年11月上旬		2020年1月初旬 ～ 2020年1月下旬
試験日	2019年8月中旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月中旬		2020年2月上旬 ～ 2020年2月中旬
合格発表日	2019年8月下旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月下旬		2020年2月中旬 ～ 2020年2月下旬
入学手続締切日	2019年12月下旬	2019年12月下旬		2020年3月上旬

(3) 作業療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法

作業療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法は次の表のとおりとする。

リハビリテーション学部 作業療法学科

入試区分	AO入試	公募制推薦入試		一般入試
募集人数	4名	16名		20名
専願/併願	専願			併願可
	—	学校推薦	社会人推薦	—
選抜の方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①調査書 ②志望理由書 ③グループディスカッション	①志望理由書 ②面接 ③小論文	①志望理由書 ②国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択。 ③数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択
出願期間	2019年8月初旬 ～ 2019年9月中旬	2019年10月下旬 ～ 2019年11月上旬		2020年1月初旬 ～ 2020年1月下旬
試験日	2019年8月中旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月中旬		2020年2月上旬 ～ 2020年2月中旬
合格発表日	2019年8月下旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月下旬		2020年2月中旬 ～ 2020年2月下旬
入学手続締切日	2019年12月下旬	2019年12月下旬		2020年3月上旬

2) 入試制度とアドミッション・ポリシーとの整合性

(1) 理学療法学科

AO入試においては、高等学校の基礎学力は、調査書の各科目の評定を用いてAP1に掲げた基礎学力の有無を確認する。AP2からAP5に関しては、調査書の課外活動の状況や、エントリーシートを用いて入学希望者が理学療法士を目指す理由、社会に貢献する意思、グループディスカッションを通じて他の受験生との協調性、自主性、思考力及び論理的な思考を評価する。

公募制推薦入試は多様な学生を受け入れるために、2つの区分を設定した。主に新卒者を対象とした学校推薦では、AP1を基礎学力の有無を調査書で評価し、AP2からAP5については、志望理由書で理

学療法士となる意思を確認し、グループディスカッションで他の受験生との協調性、積極性、思考力、表現力等を評価する。

公募推薦入試のうち、社会人経験者を対象とした社会人推薦では、多様な経歴を評価するために、志望理由書及び面接において AP2、AP3、AP4 に掲げる主体性、協調性等を判断し、小論文において AP1 及び AP5 に掲げる基礎学力及び思考力、表現力等を評価する。

一般入試では、AP1 に掲げた高等学校までの基礎学力を評価するために学力試験を課す。試験科目は理学療法士として必要となる国語総合、コミュニケーション英語 I 及び II から 1 科目選択、数学 I、物理基礎及び生物基礎から 1 科目選択させる。AP2 から AP5 については、志望理由書の記載内容から評価する。

以上の入試制度により、理学療法学科のアドミッション・ポリシーで求める能力、資質を判断し、総合的に評価することとしており、アドミッション・ポリシーと入試制度は整合する。

(2) 作業療法学科

AO 入試においては、高等学校の基礎学力は、調査書の各科目の評定を用いて AP1 に掲げた基礎学力の有無を確認する。AP2 から AP5 に関しては、調査書の課外活動の状況や、エントリーシートを用いて入学希望者が作業療法士を目指す理由、社会に貢献する意思、グループディスカッションを通じて他の受験生との協調性、自主性、思考力及び論理的な思考を評価する。

公募制推薦入試は多様な学生を受け入れるために、2 つの区分を設定した。主に新卒者を対象とした学校推薦では、AP1 を基礎学力の有無を調査書で評価し、AP2 から AP5 については、志望理由書で作業療法士となる意思を確認し、グループディスカッションで他の受験生との協調性、積極性、思考力、表現力等を評価する。

公募推薦入試のうち、社会人経験者を対象とした社会人推薦では、多様な経歴を評価するために、志望理由書及び面接において AP2、AP3 及び AP4 に掲げる主体性、協調性等を判断し、小論文において AP1 及び AP5 に掲げる基礎学力及び思考力、表現力等を評価する。

一般入試では、AP1 に掲げた高等学校までの基礎学力を評価するために学力試験を課す。試験科目は作業療法士として必要となる国語総合、コミュニケーション英語 I 及び II から 1 科目選択、数学 I、物理基礎及び生物基礎から 1 科目選択させる。AP2 から AP5 については、志望理由書の記載内容から評価する。

以上の入試制度により、作業療法学科のアドミッション・ポリシーで求める能力、資質を判断し、総合的に評価することとしており、アドミッション・ポリシーと入試制度は整合する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

2. <3つのコース・領域の目的等が不明確>

理学療法学科は「地域支援コース」、「ヘルスプロモーションコース」及び「障害スポーツ支援コース」の3つのコース、作業療法学科は「児童領域」、「成人領域」及び「老年期領域」の3つの領域を設けて履修指導を行うとのことだが、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明がないほか、3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明もなく、3つのコース・領域を設ける意義が不明確になっている。このため、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性を明らかにするとともに、育成される人材の社会的需要を明確に説明すること。その際、3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されているのかも併せて説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、「3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明」及び「3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明」を行っていなかったため、説明するとともに、「3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されている」ことを改めて説明を行う。その際、3つのコース・領域としたことで、「専攻」と解される表現としてしまったが、養成する人材像は、理学療法学科、作業療法学科でそれぞれ1つと考えているため、3つのコース・領域をそれぞれ履修モデルと定義し直し、説明を行う。

1) 各学科3つの履修モデルを設ける趣旨・必要性

内閣府によると、現在日本の人口は、長期の減少過程に入っており、2029年に1億2,000万人を下回った後も減少を続け、2053年には1億人を割り、2065年には8,808万人になると推計されている。その過程で、高齢者人口は増加し、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人、2042年には3,935万人とピークを迎え、その後は減少に転ずると推計されている。総人口に占める高齢化率は2065年には38.4%に達し、国民の2.6人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上の高齢者となる。反面、15～64歳の現役世代の割合は低下し、2065年には1人の高齢者を1.3人の現役世代で支える状況となる。本学が位置する滋賀県（県民生活部統計課人口経済統計係）においても、2015年には141万人であった総人口は、2025年には139万人、2045年には126万人に減少する一方、65歳以上の高齢者は2015年の34万人から増加をつづけ2045年には43万人になると予測され、高齢化率は、2025年には27.5%、2045年には34.3%に上昇するとされている。また、年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）共に、直近3年は連続で減少している。

このような高齢社会の進展は、医療の在り方にも大きな影響を与えている。平成25年8月に社会保障制度改革国民会議がまとめた「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」では、青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものであるが、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」のものに変わらざるを得ないという認識が示された。このような医療のあり方の変化に加えて、生産年齢人口減少による社会保障機能（公助と共助）の低下という問題もあり、厚生労働省が、2005年頃から主として高齢者を

地域で支える体制として地域包括ケアシステム構築の必要性を提唱し、さまざまな取り組みが行政主導のもとで行われてきた。さらに、2016年6月に「ニッポン1億総活躍プラン」が閣議決定され、高齢者に対象を限定しない地域共生社会（地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会）の実現が提唱されるに至った。

ここで、厚生労働省は、地域共生社会の実現に向けた改革の骨子として、「地域課題の解決力の強化」、「地域丸ごとのつながりの強化」、「地域を基盤とする包括的支援の強化」及び「専門人材の機能強化・最大活用」の4つを掲げており、特に、「地域課題の解決力」及び「地域を基盤とする包括的支援」を強化するために、リハビリテーションの専門家である理学療法士・作業療法士が出来ることは多い。しかし、理学療法士・作業療法士の多くは、病院やクリニック等の医療現場で勤務しているのが現状であり、本法人が設置する藍野大学及び滋賀医療技術専門学校においても、病院やクリニック等に人材の輩出を行ってきた。本学は、このような現状を踏まえた上で、専門職大学の特色である「展開科目」を活用し、地域共生社会の実現のために理学療法士に出来ることとして、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」という3つの履修モデルを用意し、作業療法士に出来ることとして「児童期」、「成人期」及び「老年期」の3つの履修モデルを用意する。

資料 2-1：「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）

2) 理学療法学科の3つの履修モデル

理学療法士は、身体活動の評価と運動処方をする専門家である。さらに、疾病・傷害予防や二次障害予防を見据えたリスク管理を行うことができる。これらの身体活動に関わる知識や技術を、健康寿命延伸や高いQOL維持を目的とした地域共生社会の実現に応用できると考えた。その結果、「展開科目」において、地域住民の課題を知ると共に、解決につながる知識や技術を学修することを目的とした。また、学生自身の将来のキャリア形成につながるように、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」、及び「地域支援」の3つの履修モデルを用意し、より具体的な支援について学修する機会となるようにした。

滋賀県の高齢化率（2018）は25.7%、本学の所在する東近江市は26.5%と高く、今後の高齢化率の上昇と人口減少の予測を見据えると、高齢期に差し掛かるまでの人々が、健康で自立した生活を長く維持できる、つまり健康寿命を伸ばす取り組みが重要である。滋賀県の2015年の平均寿命は男性が81.78歳で女性が87.57歳であり、2016年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の平均は男性が72.30歳で女性が74.07歳であった。日常生活に制限を持ちながら生活する期間が、およそ男性では9年間、女性では13年間であり、10年前後の日常生活に不自由な期間を短縮することは、高いQOLを維持し、その人が望む人生を送るために重要である。「健康日本21（第二次）」が策定され、住民自身の自助による健康維持が求められているが、共助として支援する専門職も必要で、疾病や傷害予防などのリスク管理のもと運動処方のできる理学療法士は適任である。理学療法の身体活動の知識と技術を活用し、健康寿命延伸のために運動機能の維持・向上及び、一次予防の知識や技術をヘルスプロモーションに応用し実践する意義は高い。しかし、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、理学療法士は約78.7%が医療・介護分野に集中し、健康分野は0.07%と非常に僅かであり、滋賀県の就労状況も同様である。そこで将来、健康分野へ職域を展開できる人材を養成することを目的として、展開科目のなかで履修モデルとして「ヘルスプロモーション支援」を設定した。

ヘルスプロモーションとして身体活動の推進のために、スポーツを生活の中に取り入れ、継続することが推奨されている。しかし、スポーツにより負傷してしまう危険性もあるため、スポーツを安全に継続でき、ケガを予防する知識が必要となる。スポーツを継続するために、ケガの予防を考慮した指導や、疾病や障害を持つ人に対し適切な管理のもとに、スポーツ実施を支援できるのは、理学療法士である。身体活動を利用する他の職種よりも疾病や障害について詳しく理解しているため、より安全な方法で中高年者の生活習慣病の予防、子どもの体力向上のためのスポーツ方法を開発し指導することが可能で、中学生・高校生・大学生及び社会人のアスリートのパフォーマンス向上にも応用も可能である。そこで、本学科では障がいの有無にかかわらず、生涯に渡りスポーツを通して質の高い生活を送ることを支援できる人材を養成することを目的としているため、展開科目の履修モデルとして「生涯スポーツ支援」を設定した。

身体活動を維持することは、生活に重要な経済活動をできるだけ長く維持できることにつながる。しかし、国民生活基礎調査(2016)によると、50代の有訴率は30%を超え、「腰痛」、「肩こり」及び「手足の関節が痛む」の運動器障害系の症状が上位を占めている。これらの症状を持ちながら就労を継続するためには、また、労働時の傷害を予防するためには、就労環境や方法の検討が必要であり、運動器障害に対する知識のある理学療法士が支援できる分野である。さらに、障がいを持ちながら就労する人口の増加も課題となっており、障がい者の就労環境が整備されていないことが、就労人口の増加を妨げている大きな要因でもある。それぞれの身体障害に応じた二次障害を予防できる労働環境の整備は、理学療法士の専門性が活用できる分野である。しかし、企業の中でそのような役割を担っている理学療法士は皆無に等しい。今後、理学療法士が傷害予防の視点から関わることで、障害を予防できる可能性が高い。よって、労働による障害予防、障がい者の就労促進の分野で支援できる人材を養成することを目的として、展開科目の履修モデルとして「地域支援」を設定した。

以下では、3つの履修モデルについて詳述する。

(1) 「ヘルスプロモーション支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

ヘルスプロモーションとは、1986年にWHOにより提唱された人々の健康の維持・増進のための活動・戦略で、「自分の健康は自分でつくる」という個人への働きかけに加えて、「住民の健康づくりを支援する環境をつくる＝健康な地域づくり」という社会システムづくりを推進させることである。

我が国は、健康状態を示す包括的指標である「平均寿命」は、世界一の健康水準を示している。一方、がんや高血圧などに起因する循環器病などの「生活習慣病」が増加し、医療・介護など老後の不安が顕著な社会問題となっている。そのため世論調査(2018)でも、健康・老後に関連したことが国民の大きな関心事となっている。

滋賀におけるヘルスプロモーションの実践を解析、普及、推進させることは、日本全国におけるヘルスプロモーションの推進に大きく貢献することが期待される。しかしながら、行政のマンパワー不足、地域の健康推進員の減少(2014、滋賀県南部健康福祉事務所)などヘルスプロモーションをけん引する人材も不足が懸念されている。

このような社会情勢の中にあり、理学療法士の予防的活動への責務の拡大について社会的にも期待されている。厚生労働省医政局(2013)は「理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のないものに対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行うときであっても、「理学療法士」という名称を使用することはなんら問題がないこと。また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときは、医師の指示は不要で

ある」とヘルスプロモーション事業への理学療法士の参画に国も期待し、支援している。それと同時に理学療法士は、10万人を超える会員を抱える専門職集団であり、健康づくりといった新たな社会的課題に対して果たすべき責任がある。

理学療法士は様々な疾病・障害に対して「自立した生活」及び「生活の質の向上」を目的に運動処方を行う医療・介護の専門職である。また生活習慣病予防やそれらに関連する疾患に対する知識だけでなく、運動処方による障害予防への貢献が期待されている。しかしながら、これまでヘルスプロモーションに特化した専門教育・実習はなされておらず、養成校から直接ヘルスプロモーション分野に輩出されることはなかった。

ヘルスプロモーション人材の需要としては、これまでは行政、保険医療機関、介護施設、学校教育機関などに限られてきた。しかしながら、健康に関する関心が高まっていることを背景に、食品・健康増進関連企業などはそのイメージを良くする目的で多くの需要が見込まれる。これら健康関連企業には約64万の事業所、医薬品・医療機器に関連する約1万の企業、さらには検査受託企業などの医療に関連する約7,000の企業、健康増進に関連する約2,000社の企業など種々の事業所が存在している。これらのことから健康づくりにおける専門職種の要望は大変高いものと考えられる。

本領域では、これからの上記で示した健康づくりにおける現状とそれに伴う社会的需要を鑑み、地域共生社会の健康づくりを支援するため、次の科目配置を行った。

生きがいに関連する活動として「遊びとレクリエーション」では、子どもから高齢者までを対象としたレクリエーション、余暇活動の意義と目的、現状などを学ぶ。次に「伝承遊び」により各年代の文化と遊びから、高い生活の質を提供し、生きがいの元となる余暇や趣味にいての意義や手法について学ぶ。「生きがい創造」においてポジティブ心理学の立場から人生の生きがいづくりを支援する手法を学ぶ。また「メンタルヘルスマネジメント論」で心の健康管理への取り組みの重要性、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を学ぶ。

ヘルスプロモーションの実践に必要な、医療専門職としての知識や技術の他に、健康増進に関する知識については、「健康増進実践演習」で学び、小児期から高齢者までの各ライフステージに則した体力や身体指標に関する測定方法とその意義について「体力測定論」にてその知識と技術を習得する。また最後に実践を通じて健康づくりに必要な企画、立案、実施を「健康増進実践実習」で経験する。

以上のことから、ヘルスプロモーション支援では、より人が健やかに生き生きと働ける社会・地域を作るための支援について学ぶ。そして最後に本履修モデルでは生活習慣病、がんなどヘルスプロモーションに関する分野への実習を行うことで、地域社会において活躍し、日本の健康寿命延伸を支援する専門的な理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、地方自治体の健康教室、健康増進施設及び健康関連企業などが挙げられる。

(2) 「生涯スポーツ支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

我が国において、2015年にスポーツ立国の実現を使命としてスポーツ行政を一元的に行う「スポーツ庁」が設置されて以降、2016年に「日本再興戦略 2016の成長戦略」によりスポーツの成長産業化、2017年には、スポーツで「人生」が変わる、「社会」を変える、「世界」とつながる、「未来」を創るという4つの観点で「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが基本方針として打ち出された。その中で、スポーツの持つ多様な価値を活かし、スポーツを通じて健康増進、地域や経済の活性化、国際競技力の向上、国際貢献することが掲げられている。

滋賀県においても、2015年12月に「滋賀県スポーツ推進条例」を制定し、スポーツに親しみ、楽し

むこと等により、心身の健康の保持増進や体力の向上を通じて健康寿命の延伸を図る地域社会の実現に努めている。しかし、2016年度に実施した「滋賀県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査」では、成人の1週間のスポーツ実施率が36.0%と全国平均の42.5%に比べて低く、20～50歳代の実施率が低い状況にあり、運動を行わなかった理由としては、「仕事が忙しくて時間がないから」の割合が高い。したがって、この働く世代のスポーツ実施率を高めるためには、場所を選ばず、身近な場所で自分の都合に合わせて運動することができるトレーニング方法の提供が重要となってくる。

また、滋賀県の子どもの体力の状況は「2016年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、体力合計点は全国平均より低く、1週間の運動実施時間の合計も全国平均よりも低い傾向にある。その要因の一つとして、スポーツクラブへの加入率が全国に比べて低い状況であることが挙げられている。したがって、小学生における運動実施時間を増やすためには、楽しんで実施することができるトレーニング方法を提供することにより、スポーツクラブの加入率が高くなるような試みが重要となってくる。

また、滋賀県は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果に基づく検証改善サイクルの確立や、運動プログラム等の開発・実践に関する取組などについて、大学とスポーツ団体とが連携し、子どもの体力向上を図るとしている。さらに、大学、スポーツ団体、企業と連携し、大学の持つノウハウを活かした選手強化システムの充実に努めるとともに、医科学サポート運営会議等を中心に、スポーツ医・科学に基づく効果的なトレーニング法や怪我の予防対策等の情報提供及び指導を行うとしている。

ただ、スポーツは良い面ばかりではなく、負傷などにより不健康となり、QOLを低下させる危険性もあることを忘れてはならない。負傷の危険性に関して、スポーツメディスンオーストラリアは、負傷防止ガイドラインに従うことにより、危険性を最小限に抑えることができるとしている。したがって、子ども、成人、高齢者、障がい者の別を問わず、全ての人に対してスポーツを推進していくには、安全に継続でき、負傷が生じないように予防する知識が必要となる。これらのことを踏まえて滋賀県は、すべての人に対して安全にスポーツを指導、提供できる、共助として支援する専門性を身につけた専門職を求めている。

理学療法士は運動学に基づいて身体活動を観察・分析し、疾病や障害の治療、重篤化予防を行うことで、社会復帰を支援する専門職である。また、近年では疾病や障害の早期発見、早期治療にも関与してきている。しかし、理学療法士は疾病や障害の発生を未然に防ぐ健康づくり対策にはほとんど関わっていない。健康分野の中で、スポーツを生活の中に取り入れ継続することが推奨され、スポーツを通して健康寿命延伸を目指すことが期待されている。

つまり、健康寿命延伸を目的とした生涯スポーツ支援を行う必要がある。そして、さまざまな年代、障害の程度などすべての人に対して、安全にスポーツが継続できるように指導、提供し、負傷が生じないように予防することができる人材が求められる。そこで本領域では、滋賀県におけるスポーツ分野の人材需要に答える上で必要な能力を養うために、次の科目配置を行った。

すべての人が安全にスポーツを実施でき、健康と体力の維持・増進に効果的なトレーニング方法を学ぶことで、健康寿命の延伸を図る能力を養うために「フィットネス論」を配置した。そして、楽しんで実施することができるトレーニング方法について学ぶことで、スポーツを行うことの楽しさを伝え、スポーツ実施率の向上を図る能力を養うために「スポーツリズムトレーニング論」を配置した。また、場所を選ばず、身近な場所で自分の都合に合わせて運動することができるトレーニング方法について学ぶことで、働き盛りの世代のスポーツ実施率を高めるとともに、スポーツへの関心の向上を図る能力を養うために「ビジョントレーニング論」を配置した。さらに、怪我をしないだけでなく、パフォーマンスを向上させるためのフォーム、シューズ選び・補正方法、トレーニング方法を学ぶことで、怪我の受傷

リスクを軽減し、パフォーマンスを向上させることができ、その結果、スポーツ実施率を高めるとともに、スポーツを実施することの満足度の向上を図る能力を養うために「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「シューフィッティング論」及び「パフォーマンス向上論」を配置した。

よって、本履修モデルでは、生涯スポーツ支援に関する知識や技術を学ぶことで、すべての人に対して安全にスポーツを指導できるようになり、スポーツを通して健康寿命延伸を図り、ひいては地域共生社会の実現に向けて応用できる、そのような専門的な理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、教育機関の部活指導、スポーツクラブ、フィットネスクラブ及びスポーツ関連企業などが挙げられる。

(3) 「地域支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

前期高齢者とされる 65 歳以上 75 歳未満の人は、元気で労働者として活躍できるといわれている。1992 年の 64 歳の歩行スピードは 2002 年の 75 歳と同程度といわれており、前期高齢者が仕事から引退し、公的年金に頼る生活を営む社会の是非が問われている。また、2016 年の内閣府の「高齢者の経済・生活環境に対する調査」では高齢世帯の所得は、その他の世帯と比較して 50%以下であり、経済的な暮らし向きに心配がある世帯も 34%に上る。つまり、経済的側面からみても、高齢者の就労を促進する必要性は高い。滋賀県においても例にもれず高齢化は進んでいる。2017 年の滋賀県の 65 歳以上の比率は 25.3%となっている。これに対して 15 歳～64 歳の人口比率は 60.5%であり減少傾向にあり、生産人口を増加させることは急務である。

そこで、前期高齢者の就労を継続することで労働人口を確保する必要がある。では、高齢者はなぜ働かないのか。定年退職という企業制度や公的年金制度などの影響も見逃せないが、身体的な愁訴を抱えることが理由の一つである。2016 年の国民生活基礎調査によると、加齢とともに病気やけがに起因する有訴率は高くなり、前期高齢者では 50%に近くなる。その中でも上位を占めるものは、腰痛や関節痛である。

本履修モデルでは、労働による疾病予防として、腰痛や関節痛が起こらない労働環境を整備できる理学療法士、また、65 歳を超えて腰痛や関節痛があっても、それとうまく付き合いながら就業することを支援できる理学療法士を養成したいと考えている。そのために、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「ロボット工学地域活用論応用」を学ぶことで、種々の機器や技術の使用を支援に組み込み、応用できることを目指す。

もう一つの労働人口増加の枠組みとして、障がい者の就労を促進する必要がある。2016 年の障害者白書による我が国の障がい者総数は 761 万人、滋賀県における 2016 年度の統計では約 8 万 6 千人である。障がい者の就労促進にあたり低賃金という問題が指摘されている。労働環境と障がい者の身体機能をすり合わせることは、業務効率を向上させ、ひいては賃金の増加につながると考えられる。障がい者の身体機能は一人ひとり異なり、二次障害予防の観点や、机や椅子の高さ、作業スペースの取り方、使う道具とどれをとってもその人専用のものが提供されるか否かが、大きく作業効率を変える。

本履修モデルでは、各企業に雇用される障がい者の身体機能とその業務と環境に、疾患と障害の基礎知識を基盤に、業務内容の検討、環境の変更、ロボットの導入などを視野に入れ介入できる知識や技術を学ぶため、「身体障がい者就労環境論」及び「福祉工学地域活用論」を配置した。

さらに、労働人口増加以外にも医療・介護保険の適応以外で、理学療法技術を必要とする障がい者や高齢者を支援していく必要がある。2016 年の厚生労働省発表の「地域の実情に合った総合的な福祉サービスの提供に向けたガイドライン」において、高齢者・障がい者（児）・児童・生活困窮者に提供さ

れる福祉サービスを提供する施設の中で、理学療法士の人員配置は皆無に等しい。しかし、多くの福祉施設において常勤の理学療法士を雇用する経済的余裕はない。この問題を解決するために、非常勤の理学療法士を派遣できる組織や、施設経営する理学療法士が増える必要がある。そのためは、複数の理学療法士を雇用し、組織を運営する能力が必要となり、将来自ら起業し、埋もれた障がい者や高齢者に手を差し伸べられる人材が望まれる。本履修モデルでは、将来のキャリア形成の中で起業も視野に入れることができる基盤に繋がる科目として「組織運営論」を配置している。

よって本履修モデルでは、地域共生社会の実現に向けて将来のキャリア形成の中で、労働状況の改善、ひいては労働人口の増加に貢献できる理学療法士と、医療・介護保険以外で理学療法技術を必要としている人に支援を提供できる理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、通所介護施設であるデイサービス、放課後等デイサービス、就労支援施設及び福祉機器メーカーなどが挙げられる。

3) 作業療法学科の3つの履修モデル

作業療法は、人が営む生活行為に焦点をあてる。その中で、児童期の営みは成人期の形成に繋がり、また成人期の過程が老年期を形成するといった視点に立つ必要がある。これらは障害の有無を問わず地域住民が対象となるため、本学科においては、18歳未満の「児童期」、18歳以上の「成人期」、65歳以上の「老年期」として3つの履修モデルを設けることとする。

地域住民全体を捉えた場合、多様であるがゆえに具体的介入が困難となる可能性がある。それは年代（以下ライフステージとする）によって、抱える課題が大きく変化するためである。R.J.Havighurstが提唱する「学び」では老年期の課題として、引退と収入の減少への適応や、同年代の人と明るい親密な関係を結ぶこととある。一方で、児童の「学び」としては遊びを通じて必要な身体技能を学修することや、独立した個人となること、健全な態度の形成などが挙げられる。つまり、ライフステージによって、対象となる地域住民との関り方は変化が求められる。

3つの履修モデルを分化させる目的は、各ライフステージの人々を深く理解し、支援するためには該当のライフステージにおける生活行為の特殊性に精通している必要がある。そのような作業療法士を養成するために3つの履修モデルを設定した。

加えて、実際に滋賀県の「滋賀県保健医療計画」においても高齢者における認知症対策や健康づくり、小児期の医療や教育、そして障害をもつ成人とライフステージによって大別される傾向にある。よって、地域共生社会に貢献する作業療法士として、地域全体として学ぶだけではなく、ライフステージごとにより深く理解し、地域医療とも連携できる状況が望まれる。3つの履修モデルにおける分化した学修によって、具体的な地域課題の抽出と問題解決方法がより深く、洗練されたものとなることが期待できる。

先述のとおり、作業療法士は作業を評価し、個人にとって意味のなす作業を通して人を健康にするという点で、全ての人々に対して共通した視点を基盤としている。それは医学的な視点を持ちながらも、人（価値・役割・心身機能構造）と環境（人的・物的・制度）と課題を分析する専門的知識により成立する。この専門性を基盤に各ライフステージの特徴を踏まえて、地域共生社会の創造を支援できる作業療法士を養成したいと考えている。

履修科目は、次のように配置した。1年次の「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」では地域共生社会の基本的概念を深め、特に滋賀県の地域特性や状況、そして課題を学ぶように配置した。また、どのライフステージにも関係する「ボランティア論」及び「災害支援論」を学ぶように配置した。2年次は、地域の教育支援の理解として「子育て支援論」及び「教育支援論」と組織運営マネジメント

理解として「メンタルヘルスマネジメント論」及び「マーケティング論」を学ぶように配置した。3年次は、「施設起業運営論」と地域での就労と余暇の理解として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者労働環境論」及び「障がい者スポーツ論」を学ぶ。また、すべてのライフステージにおいて共通する課題について学ぶ「就労環境論実習」及び「障がい者スポーツ論実習」を4年次に配置した。これら地域共生社会に関する知識を深めた後に、3年次後期から4年次前期にかけて「児童期地域生活適応論」とその実習、「成人期地域生活適応論」とその実習、「老年期地域生活適応論」とその実習を学ぶ。

以下では、3つの履修モデルについて詳述する。

(1) 「児童期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会実現に向けて、「児童期」をより深く理解した作業療法士を養成する。滋賀県教育委員会が発行した滋賀の特別支援教育平成30年度版のリーフレットによると、平成20年(1998年)と平成29年(2017年)とを比較した際、滋賀県の特別支援学校に通う児童は1.4倍に増加している。また、市町村の普通学校の特別支援学級に通う児童も1.8倍の増加している。その中でも知的障害の児童は1.6倍、自閉症・情緒障害の児童は2.3倍の増加とされる。さらに、公立小中学校の通常学級に通っているが、特別な支援を必要とする児童も約10年で小、中、高等学校全てにおいて増加している。

滋賀県立リハビリテーションセンターの職員へのヒアリングからは、定期的な支援が必要な方がリハビリテーション支援を受けられる地域が少ない状況であり、児童に対して身近で継続的な支援が不足している。2019年現在、滋賀県作業療法士会会員463名のうち発達領域で勤務しているのは17名と4%に満たず、身体領域の247名、老年期領域の76名と精神領域の36名と比べ最も少ない。ここから障がい児への作業療法士の関わり不足が伺える。さらに、このような児童期の状況は、将来的に成人期・老年期の二次障害や就労の困難さにつながる可能性が高い。このような現状に対して、個人の能力を最大限に生かす環境を整えることのできる作業療法士が、児童期の身近な“通いの場”でアセスメントや働きかけができるように、児童期に対応できる作業療法士を養成することが必要である。

また、児童の家族のニーズは滋賀県リハビリテーション提供体制再構築基礎調査事業報告書(2017)によると、「保護者が自らサービスを調べて受診していくのではなく、障害が分かった時点で、トータルコーディネートして作業療法やその他のサービスを組んでいく体制」を望む意見が多い。また、「本当は受けたかった・必要だと思うリハビリテーションの内容」には、身体機能、姿勢・基本動作の他、遊びの支援、職場や学校に出向いての支援及び学修に対する支援も挙げられている。

上記を踏まえ、本学では、児童の身近な通いの場(保育園、小学校、特別支援学校、学童保育、放課後等デイサービス等)で児童の発達に合わせた関わりができ、児童の能力を生かした生活へ向かうための働きかけができる作業療法士の養成を目指す。

「児童期地域生活適応論」では、放課後等デイサービスや保育園、学童保育等の現状の課題を学修し、「児童期地域生活適応論実習」において、滋賀県内の放課後等デイサービスや保育園や学童保育等、児童の通いの場で実際に児童と関わることにより、生活状況や地域課題への理解を深める。また、児童に関わる人々の想いや支援の考え方を知り、円滑な連携へ向けての学びを深める。

神奈川県では、2008年度より理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士の資格をもつ専門職を「自立活動教諭(専門職)」として、県立特別支援学校に配置している。滋賀県でも児童期への関わりを意識した作業療法士を多く養成し、行政と連携することで作業療法士が児童の通いの場で働くことを実現できる可能性があると考えられる。

(2) 「成人期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会の実現に向けて、「成人期」をより深く理解した作業療法士を養成する。地域の障がい者の就労促進の支援と、施設内での生活を余儀なくされている方々の生活の質の改善を目的とした支援ができるようになることを目指す。

滋賀県リハビリテーション推進計画(2015)では、地域リハビリテーションにおける成人領域の状況として、3,359名の県民を対象とした調査(滋賀県保健医療計画2018)を実施している。その結果、今後充実してほしい対策の上位に、在宅医療29.4%が挙げられている。同時に、医師をはじめとしてリハビリテーション専門職の福祉領域や教育、就労、地域づくりへの参入不足が懸念されるとしている。また、2015年度に策定された滋賀県地域医療構想では2013年に9,278人/日であった在宅医療などの医療需要が、2025年には13,995人/日と1.5倍に増加すると推計できるとされ、さらに介護保険の第1号被保険者の要介護・要支援認定者数は、2016年度に約60,000人、2020年には67,000人、2025年には78,000人になると推計されている。つまり、前述したリハビリテーション専門職の不足に反して、滋賀県民からの需要はさらに上昇することが分かる。

滋賀県内の精神疾患の患者数は、2008年には25,000人であったものが、2014年には37,000人に増加している。また精神障害者保健福祉手帳の交付者数も年々増加しており、2011年には6,023人であったものが、2016年には9,024人と3,000人の増加を示している。精神病床における1年以上の長期入院患者数は1,265人となっている。5年以上の長期入院患者が全入院患者の4割近くを占めており、この中には受け入れ条件が整えば退院可能な入院患者も含まれていると考えられている。この点においても上記と同じく地域で受け入れるための人的・物的環境と体制づくりが必要とされている。

就労支援という点では、ハローワークにおける職業紹介状況(就職件数)は平成19年度に全国で45,565件(身体障害者24,535件、知的障害者12,186件、精神障害者8,479件、その他365件)であったのに対し、平成29年度では97,814件(身体障害者26,756件、知的障害者20,987件、精神障害者45,064件)に上っている。滋賀県でも同様に就職件数が平成21年度に561件であったのに対して1,196件に上っており、同じくして求職件数も増加している。現在、地域における就労支援を実践する作業療法士の統計は存在しないものの、日本作業療法士協会のデータからは地域で生活活動の支援を行う作業療法士は少ないものと推察される。

上記より、成人期の障がい者を取り巻く地域課題は施設生活や在宅生活、就労まで多岐にわたる。作業療法士は障害の有無に関わりなく、その人の特性を評価し、その人の能力を最大限発揮できる環境を整えることができる。これを基盤として、課題解決へと率先して取り組むことのできる作業療法士の養成が求められる。

就労については成人期のみならず児童期における就学から就労への課題、老年期では定年後の役割を担いながら社会へと貢献するための就労課題など、すべての履修モデルに当てはまる。そのため「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「就労環境論実習」では、必須科目として県内における就労支援と業務の実際を学んでいく。しかし、現在の成人期の地域課題を捉えられた場合、医療処置を終えた方々に対する在宅生活や長期の施設生活を余儀なくされている福祉領域の課題も含まれており、「成人期」履修モデルでは、さらに広い視点から成人期の地域生活の学修が必要となる。よって、「成人期地域生活適応論」では、地域で生活する成人期障がい者の現状、福祉施設の歴史と現在、成人期を迎えた家族の思い、福祉支援職の役割、現状の生活と困難、支援者の抱える課題について学びを深めていく。更に、「成人期地域生活適応論実習」では、障がい者支援施設、生活訓練施設、グループホ

ーム、通所支援施設への実習を通して、作業療法士としての成人期の生活支援の在り様を模索し、地域における課題解決を図る素地を養う。

(3) 「老年期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会の実現に向けて、「老年期」をより深く理解した作業療法士を養成する。高齢化率が高まるなかで、疾患や障害を抱えた状態でも、可能な限りこれまでと同じような在宅生活を地域の中で送ることが求められるようになった。社会的・身体的・精神的にも多くの課題を抱え、老年期を生きる対象者は厳しい時間を過ごさなければならない。また、高騰する医療費の抑制・効果的で効率的なリハビリテーションの推進・地域リハビリテーションの充実など、社会もまた多くの課題を抱えている。

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、滋賀県における 2025 年の 65 歳以上の高齢者人口は、38.5 万人となり高齢化率は 27.5%に達する見込みである。2016 年の厚生労働省「病院報告」では滋賀県の病院に従事する作業療法士は 346 人となっており、同年の厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」では介護保険サービス施設・事業所に従事する作業療法士は 114 人と報告している。その中でも、介護報酬の中で作業療法士の配置が基準とされていないデイサービスや特別養護老人施設、グループホームではさらに少なく、作業療法技術を必要とする人たちに提供できていない現実がある。

また、滋賀県の「リハビリテーション推進計画」(2015)では、在宅生活への移行後、運動や体操等の身体機能訓練のみが継続されて行われていることが多く、当事者の生活行為の向上を目的としたリハビリテーションサービスが不足している。当事者の生活行為に焦点を当てたりリハビリテーションにより、高齢者が、家庭や地域社会で、役割を持ち、そこに住む人たちとともに生活し、社会活動に参画できるようにしていくことが重要課題である。例えば、一旦、介護保険サービスを利用するとそのサービスの中でのコミュニティで完結してしまい、1 歩外へ出た介護保険以外での社会参加が難しい。この対策として、リハビリテーションにおいて身体機能や日常生活活動能力の改善のみではなく、学校教育との関わりや地域活動への参加等、新たな社会参加、地域参加の展開へ向けた支援の必要がある。

さらに、「役割」という点においては就労の視点も視野に入ってくる。現在、介護認定を受けていても環境への働きかけや個人の能力の開発により、働くことが可能となる高齢者もいると考える。高齢者の 42%は働けるうちは働きたいと希望している (内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」,2014)。

このように、高齢者が家庭や住み慣れた地域で自立して生活できる社会を実現するため、対象者の生活行為にまつわる課題を発見し、対象者を中心とした多職種や産業界と連携しながら支援体制の構築できる能力を身に付け、かつ老年期リハビリテーション支援の中核を担う人材が求められている。その役割が担えるのは、その人の能力を総合的にアセスメントし、環境を整えていく事を学んでいる作業療法士であると考える。作業療法士としての知識や技術のみでなく、地域共生社会へ向けた地域課題の発見や解決策を思考することで、このような高齢者に対して、社会参加の機会もしくはその手段を提供できる作業療法士を養成したいと考えている。

現在でも少ないが、グループホームのスタッフが、登下校時の子どもへの声掛けや、特別養護施設の高齢者が児童と関わるなど、社会参加への取り組みをしているところもある。環境と人と作業のマッチングを理論的に分析し、その活動の効果を科学的に表すことができる作業療法士が参画することにより、その活動の重要性を対象者本人や多職種へ示すことが可能となる。その結果、当該活動の効果を見える化することにより、対象者、多職種のモチベーションの向上へとつながる。また、対象者の能力と作業活動の要素を評価できる作業療法士が、デイサービスやグループホームなど現在、介入の少ない領域へ

参入することで、就労へつなぐことができる高齢者の発掘へ寄与できると考える。これらの課題に対応する作業療法士を養成する目的で、「老年期地域生活適応論」では、デイサービスやグループホーム、特別老人養護施設の現状と問題点について学び、「老年期地域生活適応論実習」ではデイサービスやグループホーム、特別老人養護施設への実習を行い、実際の課題を発見し、その解決策を思考する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

3. <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

大学、短期大学及び専門学校との違いが具体的に説明されておらず、不明確である。開設する授業科目の到達目標や教育水準、教員組織などが専門職大学としてどのように充実され、大学教育としての学修の質が担保されるのかを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご意見を踏まえ、大学、短期大学及び専門学校との違いを制度の違いから論じ直したうえで、藍野大学と滋賀医療技術専門学校との違いを「養成する人材像」、「卒業後の進路」、「教育課程及び授業科目の到達目標」、「実習」、「成績評価」及び「教員組織」についてそれぞれ追記する。

1) 学校制度の違い

現在、日本における理学療法士・作業療法士の養成は、大学、短期大学、及び専門学校等において実施されており、2016年4月現在、理学療法士養成校は289校、作業療法士養成校は200校に上り、その多くは、大学と専門学校である。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が定める内容を学生に教授するという点においては、大学、専門学校に違いはないが、大学においては、教養教育と専門教育、併せて理学療法学、作業療法学等に関する研究を行うため、学問的色彩の強い教育研究活動が行われている。他方、専門学校は、大学と比較した際に、制度的な縛りが柔軟で、その自由度を活かし、社会や産業界等の人材ニーズに即応し、卒業後、現場において即戦力となる人材の養成を行っている。大学と専門学校は、これまでそれぞれの特色・強みを活かした人材養成を行ってきたし、これからもその役割を果たしていくであろうことが予想される。

しかし、それぞれの機関に弱点がないわけではない。大学においては、前述のとおり学問的色彩が強く、理学療法学、作業療法学に関する専門性を極める方向性が強い。専門性は必ずしも実践性と相反するわけではないが、領域の細分化、専門分化は常に専門分野外の実践性を損なう危険性を伴う。他方、専門学校においては、教員組織や施設・設備に関する基準が柔軟であるため、教育の質が制度上担保しきれておらず、大学への進学率が上昇を続ける現代において、社会的評価を得にくい状況に変わりつつある。2020年4月1日より施行規則が改正され、地域包括ケアシステム構築に対応するため、例えば、「自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の理解」が必修となり、「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位以上行うこと」が義務化されるが、既存の学校制度の中で、どこまでそのような社会の要請等に応じた教育を提供することができるかが問われている。

一方、新たな高等教育機関として制度化された専門職大学は、長期の企業内実習や関連他分野に関する教育等を通じ、高度な実践力と豊かな創造力を培う教育研究に重点を置き創設された大学制度であり、「理論にも裏付けられた高度な実践力を強みとして、専門業務を牽引できる人材」かつ「変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出すことができる人材」の養成を制度の根幹としている。理学療法士・作業療法士を養成する既存の大学と比較した際に、際立った特徴は、3つある。1つ目は、実務家教員の積極的な登用である。一般の大学においても、理学療法士作業療法士養成施設指定規則に則り、「理学療法士又は作業療法士の各免許を受けた後、5年以上理学療法又は作業療法に関する業務に従事した者」

を専任教員として揃えることが制度上担保されているが、研究者としてのキャリアを積む過程で、現場から遠ざかった者がほとんどである。専門職大学においては、高度の実務の能力を有した実務家教員の登用が制度化されているため、より実践の理論に裏付けられた教育研究活動を展開することが可能である。2つ目は、「専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野における応用的能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とした展開科目を20単位以上学生に修得させることである。一般の大学においては、教養教育を基盤として専門性を極めることを通じて創造性を発揮することが求められているが、専門職大学においては、他分野の知識を修得することを通じて創造性を涵養することが制度化されている。3つ目は、「産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施する」ことを目的とした教育課程連携協議会が必置とされている点である。社会の人材ニーズに即応した職業専門人を養成するにあたり、社会の要請等を、学内へと不断に取り入れることは、非常に重要である。専門職大学制度においては、教育課程連携協議会を通じて、そのような情報を入手し、それを教育課程に組み込むことが可能となっている。

今後、地域共生社会の実現に向けて、介護保険制度や医療保険制度下に留まらず、隣近所、友人、ボランティア、企業等を担い手とする「互助」の領域、また、本人や親族等を担い手とする「自助」の領域において、リハビリテーションの専門家として、創造的な役割を果たすことのできる人材の養成を行うにあたり、他分野の知識を修得することを通じて創造性を涵養することを主目的とした展開科目が制度として整備されている専門職大学という制度は、本学の人材の養成に関する目的に適している。

2) 養成する人材像の違い

学校法人として定めている教育理念「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」に基づき、「病気を医学的に治療すると同時に患者様の心に慰めを与えることが医療人の理想である」という考えを、本学と藍野大学は共有している。

藍野大学においては、学校教育法第83条第1項に規定される大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」を踏まえ、学問的色彩が強いという機関としての強みを活かし、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成を行っている。

一方、滋賀医療技術専門学校においては、学校教育法第124条第1項に規定された「職業若しくは実生活に必要な能力を養成し、又は教養の向上を図ること」を踏まえ、理学療法士・作業療法士としての高度な実践力を有し、地域医療に貢献できる人材の養成を行ってきた。学費を他の養成校より安くするとともに、3年間で国家試験を取得できるようにすることで、学士取得者や社会人なども受け入れ、主として滋賀県の地域医療に理学療法士・作業療法士として貢献したいと考える者に短期集中的な教育を提供してきた。

本学は、学校教育法第83条の2第1項に規定される「深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること」という専門職大学の目的を踏まえ、「地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門家の養成」という社会の要請等に応えることを人材養成の主眼に置いており、そのために必要となる能力・資質を備えた人材を養成することを目指す。養成する人材像の違いをまとめると次の表のとおりとなる。

設置校ごとの養成する人材像

	藍野大学	滋賀医療技術専門学校	びわこリハビリテーション 専門職大学
教育理念 (法人)	「Saluti et Solatio Aegrorum (病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)」		
人材養成 の目的 (社会の 要請等)	医療の高度化・専門化に対 応した医療専門職の養成	地域医療に貢献する人材 の養成	地域共生社会の実現に向けたリ ハビリテーション専門家の養成
目的 (養 成する人 材像)	<ul style="list-style-type: none"> ①人を愛する心を持ち、豊かな教養を身につけた人材を育成する。 ②心の通う保健・医療サービスを提供できる人材を育成する。 ③保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。 ④国際的な視野を持つ人材を育成する。 ⑤生涯学び続け、課題発掘・解決能力を練磨できる人材を育成する。 	豊かな人間性を養い有能にして広く社会の要請にこたえ得る医療にたずさわる専門技術者の育成。	<ul style="list-style-type: none"> ①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。 ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

3) 卒業後の進路の違い

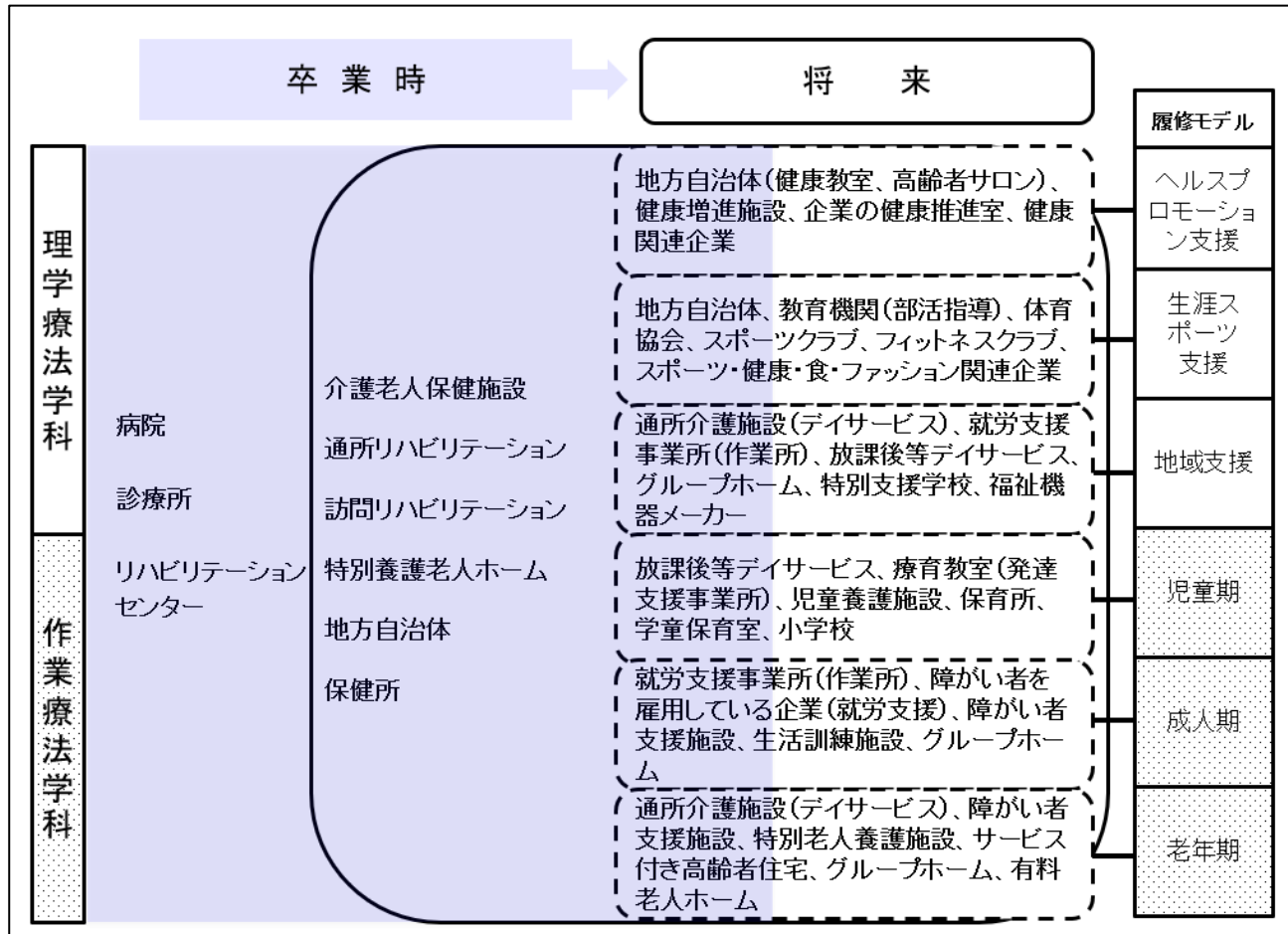
藍野大学及び滋賀医療技術専門学校の卒業後の進路は、基本的には病院である。次の表は、理学療法士又は作業療法士の国家試験に合格し卒業した者のうち病院（クリニック含む）に就職した者の人数と割合を示したものである。年度と学科ごとにばらつきはあるが、低くとも76%以上の学生が病院に就職していることが分かる。

国家試験に合格し卒業した者のうち病院就職者数とその割合（実績）

	平成 27 年度 病院等就職者割合	平成 28 年度 病院等就職者割合	平成 29 年度 病院等就職者割合
藍野大学医療保健学部 理学療法学科	99% 76名/77名	97% 76名/78名	92% 83名/90名
藍野大学医療保健学部 作業療法学科	86% 25名/29名	85% 23名/27名	81% 29名/36名
滋賀医療技術専門学校 理学療法学科	98% 51名/52名	76% 26名/34名	96% 43名/45名
滋賀医療技術専門学校 作業療法学科	95% 21名/22名	89% 16名/18名	92% 12名/13名

一方、本学は、リハビリテーション学部の目的に「地域住民に適切なリハビリテーションを提供する」とあるように、卒業後の進路は、地域包括ケアシステムを中心とした地域のリハビリテーションに関連する施設を想定している。また、地域共生社会の実現に向け、理学療法や作業療法の専門性を応用できることも人材養成の目的としており、卒業後一定期間キャリアを積んだ後、各自が学修した履修モデルの分野に就職することも想定している。しかし、卒業時に履修した分野を進路として選択する可能性も想定されるため、就職先として広く考えている。次の図で、卒業後の進路と履修モデルの関係を示す。

卒業後の進路と履修モデル（想定）



4) 教育課程及び授業科目の到達目標の違い

(1) 教育課程の概要

①藍野大学

藍野大学は、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成している。基礎科目では、中区分として教養教育科目、語学教育科目、理系基礎科目、初年次教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。職業専門科目においては、保健・医療・福祉に関連する科目及び専門分野に必要な医学の基礎知識を学ぶとともにシメディカル論などチーム医療を実践できる素地を形成するための科目を配置している。専門科目においては、理学療法士・作業療法士としての基礎と応用を学ぶ科目を配置している。

特に、藍野大学医療保健学部の教育目標において、「豊かな教養を身につけた人材」と「国際的な視野を持つ人材」を挙げているため、教養教育科目や語学教育科目等の充実を図っている。また、「保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材」の養成を同じく教育目標に掲げているため看護学科や臨床工学科の学生とチーム医療の実践について学ぶ「シメディカル論」という科目を用意している。その他、専門科目において、理学療法学科では、「がんの理学療法学」、作業療法学科においては、「特定・内部疾患作業療法学」及び「高次脳機能特論」など医療分野においてその必要性が高まっている科目を用意している。

資料 3-1：藍野大学医療保健学部理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要（2018年度以降に入学した学生用）

②滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を、教育課程の根幹としており、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大別し、教育課程を編成している。そのうえで、理学療法学科では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則必要単位数 93 単位のところ、卒業要件を 104 単位と 11 単位増、作業療法学科では、必要単位数 93 単位のところ卒業要件を 105 単位と 12 単位増としている。3 年制を採用しており、時間的制約がある中で、取得単位数を多くしているのは、実践力を高め、現場で即戦力となる人材を養成するためである。理学療法学科において単位数を増やしている科目は、「臨床能力技術演習Ⅰ・Ⅱ」及び「徒手療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などであり、臨床能力や徒手療法技術を高めることを企図している。作業療法学科において単位数を増やしている科目は、「作業分析学Ⅰ・Ⅱ」や臨床実習関連の科目などで、身体と精神・認知機能の分析力を高めることを通じて臨床能力を高めることや、臨床実習及び実習後の振り返りの科目を多くし、実践力を高めることを企図している。

資料 3-2：滋賀医療技術専門学校理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要

③びわこリハビリテーション専門職大学

本学は、教育課程を基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の4区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成している。

基礎科目では、中区分として初年次教育科目、人間と社会系科目、自然科学系科目、語学教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。ここでは、理学療法／作業療法の専門

職として必要で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は、選択科目とした。

職業専門科目は、理論系科目群と職業実践科目群に二分しており、理学療法士・作業療法士の国家資格取得に必要な中心的科目を配置している。理学療法・作業療法理論科目群のなかで、医学的な基礎となる「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」は、身体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、理学療法、作業療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進を学ぶ「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などは、2年次を中心に配当した。チームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配当し、2年次に「社会福祉学」、3年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。

臨地実務実習については、1・2年次に理学療法士・作業療法士の仕事の見学を中心とした実習を行い、医療職としての倫理観と自覚を形成し、その後の学修の動機づけとなるように設定している。そして、「理学療法／作業療法評価実習」から「理学療法／作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」へと進み、一連の治療のプロセスを学んだ後、「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修できるように配置している。以上の職業専門科目は、理学療法士・作業療法士国家資格を取得するために重要であり、そのほとんどを必修科目としている。

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、リハビリテーション領域に隣接する分野での地域の理解と課題を知る科目に、「地域共生論」、「生涯スポーツ論」、「労働衛生論」、「災害支援論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」を配置している。これらの科目を学び、地域共生社会の実現に向け支援できる方策を学ぶ科目として「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「障がい者スポーツ論」及び「障がい者スポーツ論実習」を配置している。これらは全て必修科目である。そのうえで、理学療法学科では「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」という3つの履修モデル、作業療法学科では「児童期」、「成人期」及び「老年期」の3つの履修モデルに対応した科目を履修することで、理学療法士・作業療法士としての実践力と応用力を高める。

総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となり、職業専門科目で修得した理学療法、作業療法に関する知識と技術と展開科目で学んだ知識を踏まえ、地域住民への支援の在り方を自ら考える科目となる。

以上の教育課程をもって、リハビリテーション高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、地域共生社会の実現に貢献できる人材を養成する。

(2) 授業科目の到達目標の違い

藍野大学、滋賀医療技術専門学校及び本学の3校は、理学療法士・作業療法士養成施設としての役割は共通している。よって、国家試験受験資格を与えるための教育水準は、国家試験合格に求められる水準と同等になることから、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められた授業科目の到達目標も、3校に差が生じることはない。しかし、3校の養成する人材像や目的は異なるため、目的に応じた教育課程と授業科目がそれぞれの学校の特徴として生じ、授業科目の到達目標にも違いが認められる。次に、特徴的な授業科目を取り上げ、到達目標について記載する。

①藍野大学

藍野大学は、医療専門職として高度な知識を修得することを目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「生体計測学」及び「がんの理学療法学」が挙げられる。「生体計測学」では、理学療法に必要な生体計測と、ヒトの動きや身体活動を数値化するための機器の仕組みや操作法を学び、研究に活用できる知識・技術を身につける科目である。授業の到達目標は2つあり、「①理学療法に必要な身体活動の諸現象を計測し、客観的なデータを活用する方法を習得できる。②計測で得られた客観的データを活用し、エビデンスに基づいた理学療法と実践できる能力を習得できる。」と設定し、卒業研究や将来の研究に向けた能力の達成を到達目標としている。

「がんの理学療法学」では、がんの病態や治療方法、がん患者に対する理学療法を実施する上で、必要な基礎知識を理解し、他の疾患とは異なる考え方、病期及び症状に合わせた理学療法をについて修得する科目である。授業の到達目標は、「がん患者にたいする理学療法を行う上で必要な考え方及び基礎的知識、エビデンスに基づいた理学療法が実践できる能力を体得する。また、がん患者に対する対応は、チーム医療が重視されることから、チーム医療の一員として他職と協働し医療が提供できるよう、自分の考えを論理的に表出できることを目標とする。」と設定し、医療の高度化、専門化に適應するための能力を達成目標としている。

作業療法学科では「認知神経作業療法特論」及び「ハンドセラピー特論」があげられる。「認知神経作業療法特論」では、脳血管障害によって生じる高次脳機能障害について、脳の働きと関連させながら学び、臨床で行われている高次脳機能障害作業療法の評価と介入の方法について、文献抄読を交えながら最新の知識を修得する科目である。授業の到達目標は、「脳の構造と働きを学び、その働きが損なわれたことで高次脳機能障害が出現していることを理解できる。臨床で行われている作業療法評価と介入方法を個々の高次脳機能障害と関連させて挙げるができる。主な評価方法を実施することができる。」と設定し、より高度で最新の専門知識の習得を達成目標としている。

「ハンドセラピー特論」では、ハンドセラピーは手の外科術後の患者に行われる、極めて高度に専門分化した上肢の機能障害に対するリハビリテーションの一分野であり、その概念と術後の患者のみならず手の機能障害すべてを学び、ハンドセラピーの基本的な考え方、対象とする疾患と治療及び今後の多様化と発展について学修する科目である。授業の到達目標は、「手の解剖学的知識を身に着け、手の疾患別プロトコルが理解できるようになる。」と設定し、作業療法分野により特化した分野の専門知識の習得を達成目標としている。

以上のように藍野大学では、理学療法と作業療法の医療分野での高度化と専門化に對應できる能力の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

②滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校は、医療に携わる専門技術者の養成を目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「徒手療法Ⅲ」及び「スポーツ系理学療法学」が挙げられる。「徒手療法Ⅲ」は、「徒手療法Ⅰ」及び「徒手療法Ⅱ」で徒手療法の基本的な技術を学んだことを活かし、筋骨格系の疾患に対する個々の病態に応じた評価と治療手技の選択と実施について、基本理論から学修する科目である。授業の到達目標は、「徒手療法を理解するために必須の解剖学・運動学とともに触診技術を再認識する。徒手療法の理論的背景を理解する。評価理論を理解し、正しい手順で行えるようにする。適應と禁忌を理解し、基本的な治療技術を身につける。」と設定し、臨床で使用できる治療技術の一つとして修得するこ

とを達成目標としている。

「スポーツ系理学療法学」は、実際のスポーツ場面での障害を想定し、理学療法士が提供できる知識や技術を学修する科目である。授業の到達目標は、「スポーツ場面で起こりやすい疾患について学び、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、スポーツ場面で発生しやすい下肢（股関節、膝関節、足関節）疾患、上肢（肩関節）疾患の理学療法について実技通して理解できる。また、各スポーツ障害におけるリスク管理ができるようになることも目標とする。」と設定し、理学療法により専門的な技術習得を目標としている。

作業療法学科では、「精神障害作業療法評価学」及び「日常生活活動学Ⅱ」が挙げられる。「精神障害作業療法評価学」は、精神障害の分野における作業療法評価について学ぶ科目であるが、特に LASMI、Rehab、OSA-Ⅱ、職業適性検査、精神障害ケアアセスメントなども学修し、臨床場面で使用できる知識を身につける科目である。授業の到達目標は、「学生自身が検者、被検者の役割を通して、精神障害作業療法の基本的な手順や内容を理解できる。」と設定し、より臨床的な知識や技術を身につけることを達成目標としている。

「日常生活活動学Ⅱ」では、主に脳血管障害患者を対象に、日常生活活動の作業療法支援を学修する科目である。一般的な作業療法の治療技術と、自助具を実際の患者を想定して作成する内容も加えている。授業の到達目標は、「①作業療法が対象とする主な疾患（脳血管障害を中心に）に対する ADL の考え方と、障害特性に応じた評価と介入を理解できる。②ADL、手段的 ADL に関して疾患の特性、対象の生活、価値観などを考慮して治療に役立てられる。③対象者に適した自助具を提供できる。」と設定し、自助具作成までの技術の修得を目標としている。

以上のように、滋賀医療技術専門学校では卒業後すぐに使える技術の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

③びわこリハビリテーション専門職大学

本学は、地域住民の支援ができる人材の養成を目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「地域共生論」及び「理学療法総合演習」が挙げられる。「地域共生論」は、地域住民が生涯を地域社会でつながりを持ち、住み慣れた地域で暮らしていくために、どのような環境やシステムが必要かについて理解することを目的とする科目である。授業の到達目標は、「子どもや高齢者や障がい者など、世代や背景の異なる人々が社会の中で、どのように地域社会で暮らしているか現状について学修し、孤立せず地域の中でつながりを持つための課題について理解し、地域共生社会に貢献するための必要な能力を自ら考えることができる。」と設定し、地域生活において理学療法士の専門性を活かすことができる能力の修得を目標としている。

「理学療法総合演習」は、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え学ぶ科目である。授業の到達目標は、「地域が抱える課題については、各自が選択した履修モデルの分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画することができる。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてることができる。」と設定し、地域住民に対し、理学療法士としてより実践的な関わりを考えられることを到達目標としている。

作業療法学科では、「身体障がい者就労環境論」及び「作業療法総合実習Ⅱ」が挙げられる。「身体障がい者就労環境論」は、身心の機能に障害があつたとしても就労場面において、企業での障害者雇用が

義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られているなか、どのような課題があり、解決方法があるかについて学ぶ科目である。授業の到達目標は、「①身体障害を中心に障害特性を理解できる。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解できる。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。」と設定し、地域の就労環境に対し作業療法士として実践できる専門性を理解し、応用できる能力の修得を目標としている。

「作業療法総合実習Ⅱ」は、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学修する科目である。授業の到達目標は、「地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力が習得できる。」と設定し、地域住民に対し作業療法の専門性を活かすためのより実践的な能力獲得を目標としている。

以上のように、びわこリハビリテーション専門職大学では地域住民に対して支援をする上で必要となる実践的な能力の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

5) 成績評価の違い

藍野大学では、各科目の担当教員が、筆記試験、口述試験、レポート、論文、実技、出席状況などを学生に課すことによって各科目の成績評価を行っている。その上で、AA、A、B、C、D（不可）の5段階による Grade Point Average 制度（以下、「GPA」と呼ぶ。）を導入している。それによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進している。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用している。

滋賀医療技術専門学校では、理学療法学科、作業療法学科ともに開設授業科目の全科目を必修科目かつ卒業要件としている。成績評価の方法については、担当教員に委ねており、レポートや授業態度、出席状況、試験、実技試験などを学生に課している。それらの評価方法を一つもしくは複数を組み合わせ、優（80点以上）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）の4段階で評価を行っており、優、良、可を合格（単位認定）、不可を不合格としている。GPAを導入しているが、成績通知には載せておらず、表彰等で活用しているのみに留まっている。

本学においては、各科目の成績評価の方法について、講義については、主として筆記試験により評価を行い、実習科目においては、技術試験を主としつつ、筆記試験、レポート及びプレゼンテーションなどにより評価を行う。また、臨地実務実習においては、OSCE（客観的臨床能力試験）、実習評価表及びルーブリックに基づき、評価を行う。以上のとおり、それぞれの授業形態に即した試験等を学生に課すことによって、科目ごとの目標到達度を適切に評価できる体制とする。さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについて評価をするとともに、既設学校と同様、すべての科目を GPA によって点数化する。これらによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進する。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用する。

6) 実習の違い

藍野大学と滋賀医療技術専門学校の実習は、理学療法士・作業療法士の養成課程に必要な臨床現場で学ぶ見学実習、評価実習、臨床実習が主となるが、本学は、専門職大学であるため、大学よりも多くの実習単位を設け、臨地実務実習及び職業専門科目や展開科目の実習に充てている点が大きく異なる。

本学の特徴の1つである職業専門科目や展開科目の実習は、各学科の3つの履修モデルに分かれ、臨地実務実習を終えた学生が、理学療法士・作業療法士の専門的な知識と技術をもって臨むものである。臨地実務実習よりも応用的な実習やこれまで理学療法士、作業療法士が参入していなかった施設・団体・企業等において実習を行うものがあり、実践力と応用力を同時に涵養することを目指すという従来の大学にはなかった内容となっている。主な実習先は次の表のとおりである。

履修モデルごとの実習先

	履修モデル	科目名称	実習施設
理学療法 学科	ヘルスプロモーション支援	内部障害応用論実習	近江八幡市立総合医療センター等
	生涯スポーツ支援	スポーツ障害応用論実習	滋賀レイクスターズ等
	地域支援	神経筋骨格障害応用論実習	おした整形外科医院等
作業療法 学科	児童期	児童期地域生活適応論実習	あいの南千里保育園
	成人期	成人期地域生活適応論実習	株式会社 THEMSY (放課後等デイサービス)
	老年期	老年期地域生活適応論実習	株式会社ジッセント・シップ (デイサービス)

また、臨床実習（専門職大学においては臨地実務実習）については、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則り計画されており、概ね到達目標が一致しているため、大卒での差はないと認識している。しかし、目標到達に向けた単位の配置や実習前後の学内の取り組み、実習中の指導体制、成績評価に違いがあるため、藍野大学、滋賀医療技術専門学校及び本学の違いを述べる。

滋賀医療技術専門学校と藍野大学と本学の総合臨床実習に相当する単位を比較すると、見学実習に関しては、藍野大学及び本学では、3単位と手厚く、1・2年次に理学療法士・作業療法士の職業理解を深め、その後の学修の動機付けとなるよう配置している。一方、滋賀医療技術専門学校は、3年制の学校であるため1単位と少ないが、実習以外の授業時間に見学を工夫して組み入れており、効率的に3年間で学ぶ体制が特徴的である。臨床実習に関しては、藍野大学は、理学療法学科 16単位、作業療法学科 16単位、滋賀医療技術専門学校は、理学療法学科・作業療法学科ともに 16単位を配置しているが、本学は、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ合わせて 12単位、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ合わせて 14単位と少ない。これは、理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則の改正の影響が大きく、指導方法を診療参加型実習へと変更し、実習前後の学内の取り組みを充実させ、実習施設での学びを教材として、実

習後においても学内で手厚く指導するようにしたためである。また、本学の臨地実務実習では、実習前、実習中及び実習後の評価を厳密に行うことにより、大学教育にふさわしい実習となるように計画している。

7) 教員組織の違い

藍野大学では、専任教員を採用する際の基準として、「人格識見ともに優れ、かつ、その職務に応じた教育研究上の能力があると認められる者」としており、特に、教授、准教授、講師、助教に見合う研究業績の有無を非常に重視している。また、医学、理学療法学、作業療法学を専門とする教員のほかに、心理学、統計学、言語学等を専門とする教員を採用しており、教養教育を担当する専任教員の充実も図っている。一方、滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき、理学療法士又は作業療法士の各免許を受けた後、5年以上理学療法又は作業療法に関する業務に従事した者であることを採用する際の基本としている。

本学においては、専門職大学設置基準に基づき、当該分野の研究業績を有する者はもちろん、専攻分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者と、そのうち研究業績を併せて有する者で教員組織の構成を行った。理学療学科の専任教員24名のうち博士号取得者は13名、修士号取得者は8名であり、作業療学科の専任教員16名のうち博士号取得者は7名、修士号取得者は6名である。現状、理学療法士又は作業療法士の資格を有した専任教員の多くは、実務家教員に偏っており、大学と比較した際に、研究業績を有した者が少ないことが課題であると認識している。大学として、就任予定の専任教員について修士号、博士号の取得を促進するとともに、今後、研究業績を有した専攻分野に係る専任教員の採用を進めることで、大学教育としての学修の質が担保されるよう努める。なお、専任教員の学位保有状況は次のとおりである。

学位等取得状況

	学科	収容定員	博士号取得者	修士号取得者	学士号取得者	短期大学士号	その他	合計
藍野大学	理学療学科	320	15	6	3	0	0	24
滋賀医療技術専門学校		240	3	5	0	0	1	9
びわこリハビリテーション専門職大学		320	13	8	1	1	1	24
藍野大学	作業療学科	160	5	8	0	0	0	13
滋賀医療技術専門学校		120	0	1	2	0	3	6
びわこリハビリテーション専門職大学		160	7	6	2	0	1	16

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

4. <大学名称の妥当性が不明確>

大学名称で使用している「藍野」は、本法人に係る名称として通用していて、国内外で同一の名称がないことを理由に設定したと説明しているが、専門職大学設置基準第 54 条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称になっているとは認められないため、専攻に係る教育研究上の目的を踏まえた適切な大学名称に修正すること。【2学科共通】

(対応)

当初の申請において、学校法人藍野大学の教育理念の継承を踏まえて大学名称を「藍野専門職大学」としていたが、ご意見のとおり、専門職大学設置基準第 54 条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称とするために熟考を重ね、次の理由を付して、新たな大学名称を「びわこリハビリテーション専門職大学」(英語名称: **Biwako Professional University of Rehabilitation**) と修正を行う。

本学は、本州東西軸のほぼ真ん中の滋賀県東近江市に位置し、その中央に県土の約 6 分の 1 を占める日本最大の湖・琵琶湖を抱え、周囲には緑豊かな山々や田園地帯が広がる自然環境の中にびわ湖キャンパスを有している。(1. 設置の趣旨及び必要性 (1) ③びわ湖キャンパス記載のとおり)

琵琶湖は、滋賀県庁のホームページでも示しているとおり滋賀県民の心のよりどころとして大きな存在であり、悠久の歴史とともに琵琶湖と人は共生する社会を継承してきた。滋賀県において琵琶湖は、「地域共生社会」の象徴的な存在であり多様な知的価値を持っていると言える。

また、リハビリテーション学部の目的(1)では「(抜粋) 子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なりハビリテーションを提供できる人材を養成する」としており、対象者の広い年齢層にも支持されるように、ひらがな表記「びわこ」とすることは、教育研究上の目的にふさわしい言葉であり、大学名称に用いることとした。

また、「リハビリテーション」という言葉を用いるのは、1981年にWHO(世界保健機関)が、「(抜粋) リハビリテーションは障害者が環境に適応するための訓練を行うばかりでなく、障害者の社会的統合を促す全体として環境や社会に手を加えることも目的とする。そして、障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない。」と定義しており、特に文中の「障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない。」とする定義が本学の教育研究上の目的である「地域共生社会」の実現を促す内容であると熟考したので「リハビリテーション」という教育研究上の目的にふさわしい言葉を大学名称に用いることとした。

(新旧対照表) 別記様式第 2 号 (その 1 の 1) 基本計画書 大学の名称

	新	旧
フリガナ 大学の名称	<u>びわこリハビリテーション専門職大学</u> (<u>Biwako Professional University of Rehabilitation</u>)	藍野専門職大学 (Aino Professional University)

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

5. <英語名称の国際的通用性が不明確>

学位の英語名称を「Bachelor Physical/Occupational Therapy」としているが、英語名称の国際的通用性を踏まえれば、「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」が適切な英語名称だと考えられるため、適切に修正すること。【2学科共通】

(対応)

国際通用性を踏まえ、学位の英語名称を「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」に改める。

(新旧対照表) 別記様式第2号(その1の1) 基本計画書 学位又は称号

		新	旧
新設学部等の概要	学位又は称号	理学療法学士(専門職) (Bachelor of Physical Therapy)	理学療法学士(専門職) (Bachelor Physical Therapy)
		作業療法学士(専門職) (Bachelor of Occupational Therapy)	作業療法学士(専門職) (Bachelor Occupational Therapy)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 27ページ

新	旧
<p>2) 学位の名称</p> <p>びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部理学療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「理学療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor of Physical Therapy」とする。また、びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「作業療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor of Occupational Therapy」とする。</p>	<p>2) 学位の名称</p> <p>藍野専門職大学リハビリテーション学部理学療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「理学療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor Physical Therapy」とする。また、藍野専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「作業療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor Occupational Therapy」とする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

6. <学生確保の見通しが不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、入学定員を超える進学希望者がいたとの説明だが、進学希望者を集計するために調査した内容は「本大学に興味をもったか」、「受験してみたいか」、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という単純な設問に留まり、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく専門職大学を選ぶ学生がどのくらいいるのか不明確であるため、学生を確保できる見通しについて、客観的な根拠とともに、改めて説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学としては、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という問いに対して、「理学療法学科に入学したい」又は「作業療法学科に入学したい」と回答した学生の多くは、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく本学を選ぶと考えている。その根拠を説明する。

1) 高校2年生に対する入学意向調査

入学意向調査を行う前に、本学が作成したリーフレット(追加資料2-4)を読むように指示している。リーフレットには専門職大学と大学の違い、本学の特色、類似の内容が学べる近隣の他大学を明記しており、回答者はこれらに目を通した上で本学への受験・入学意向に回答している。

さらに「進学希望者」であれば、調査回答時点である程度、進学先候補の大学・学校及び学びたい分野も決まっている者であり、それらの進学先候補校やリーフレット記載の近隣大学と本学を比較検討した上で本学を受験したいか、入学したいかという質問に回答していると考える。

Q5の『あなたは「藍野専門職大学(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか』との質問(資料2-1・P33)に対し、「受験したいと思う」と答えた者は、回答者3,817人中、248人である。(資料2-1・P20)

その内、Q6の『あなたは、藍野専門職大学(仮称、設置構想中)に受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか』との質問(資料2-1・P33)に対し、「理学療法学科に入学したい」と回答した者は151人、「作業療法学科に入学したい」と回答した者は51人であった。(資料2-1・P20)これらの者の中にはQ1の「あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。」との質問(資料2-1・P32)に対し、専門職大学ではなく、私立大学や短期大学、専門学校・専修学校を選んだ者もいる。しかし、今回の調査を通じて「専門職大学」への進学に対する関心が高まり、「入学したい」との回答につながったものと考えている。

質問については、「藍野専門職大学」という名称を使用しており、回答者は本学が専門職大学であることを意識して回答している。本学では、特に滋賀県の高校生で「入学したい」と回答した者の数は非常に信憑性が高いものであると考えている。その理由について、次のとおり説明する。

第1. 経済的負担の少ない本学の納入金

本学は、初年度納入金を160万円（入学金込み）、2年次より120万円を設定している。

一方、類似の大学の初年度納入金は173万円～195万円であり、2年次からは148万円～178万円である。

4年間総額で見た場合、その差額は97万円～209万円にまで昇る。

本学の魅力である学生・家族への経済的負担が少ない納入金の設定は、競合する大学と比較した場合、志願者へのインパクトは大きいと考えている。

びわこリハビリテーション専門職大学（本学）

リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	実験実習費	施設設備費	合計
初年度	400	900	100	200	1,600
2年次以降	－	900	100	200	1,200

類似の大学の状況

佛教学 保健医療技術学部

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費など	合計	本学との 差異
初年度	170	1,380	400	1,950	+350
2年次以降	－	1,380	400	1,780	+580

4年間での本学との差額は209万円

京都橘大学 健康科学学部

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料 （年額）	施設設備費 など	合計	本学との 差異
初年度	250	1,200	280	1,730	+130
2年次以降	－	1,200	280	1,480	+280

4年間での本学との差額は97万円

大和大学 保健医療学部

保健医療学科 理学療法専攻・作業療法専攻

単位：千円

区分	入学金	授業料 （年額）	施設設備費 など	合計	本学との 差異
初年度	180	1,150	400	1,730	+130
2年次以降	－	1,150	400	1,550	+350

4年間での本学との差額は118万円

森ノ宮医療大学 保健医療学部

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料 (年額)	施設設備費 など	合 計	本学との 差異
初年度	250	1,200	280	1,730	+130
2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280

4年間での本学との差額は97万円

以上のことから、滋賀県内だけではなく、滋賀県の北部に隣接する福井県や岐阜県、南に隣接する京都市、さらに進学するには下宿が必要な場所である三重県熊野市、京都府の京丹後市、福知山市、和歌山県の新宮市、西牟婁郡、田辺市からも本学の経済的負担の少ない納入金を魅力とし、入学希望の回答がなされていると考えている。

本学に入学したいと回答した者の出身地

理学療法学科

滋賀県	福井県	岐阜県	三重県	京都府	和歌山県	合 計
105人	16人	11人	5人	6人	8人	151人

作業療法学科

滋賀県	福井県	岐阜県	三重県	京都府	和歌山県	合 計
28人	8人	7人	1人	3人	4人	51人

出典：資料2-1「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】

P17「「藍野専門職大学」への興味度／受験意向／入学意向」より抽出

第2. 近隣の類似の大学の志願者倍率

次のとおり、近隣の類似の大学の志願者倍率（大阪行岡医療大学は非公表）を示す。

全ての大学において、入学定員を上回る志願者がおり、理学療法士・作業療法士の養成に対するニーズはあるものと判断できる。

理学療法

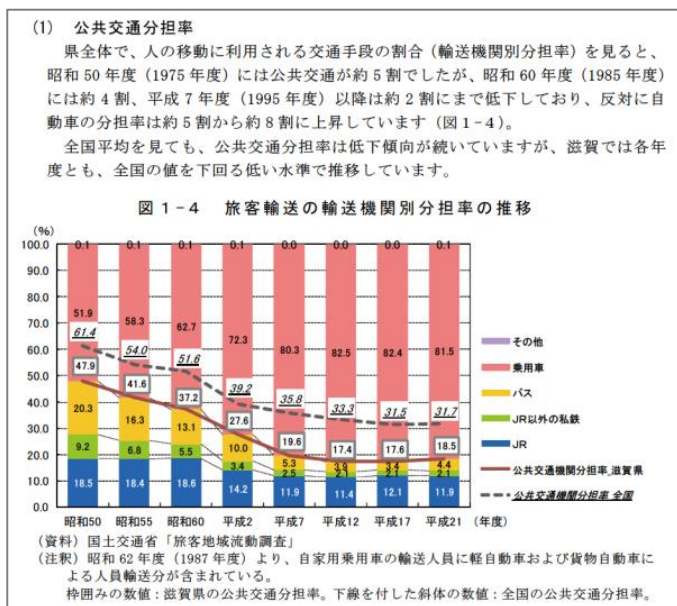
大学名	所在地	入学定員	2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
			志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率
佛教大学	京都市中京区	40	1,153	28.8	952	23.8	616	15.4
京都橘大学	京都市山科区	66	986	14.9	1,154	17.5	1,307	19.8
藍野大学	大阪府茨木市	80	469	5.9	263	3.3	230	2.9
大阪行岡医療大学	大阪府茨木市	80	—	—	—	—	—	—
大和大学	大阪府吹田市	40	645	16.1	689	17.2	724	18.1
大阪人間科学大学	大阪府摂津市	60	374	6.2	307	5.1	242	4.0
大阪保健医療大学	大阪市北区	70	306	4.4	195	2.8	217	3.1
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	60	792	13.2	722	12.0	712	11.9
大阪電気通信大学	大阪府四條畷市	40	99	2.5	71	1.8	116	2.9
中部学院大学	岐阜県関市	60	191	3.2	134	2.2	276	4.6
鈴鹿医療科学大学	三重県鈴鹿市	40	251	6.3	264	6.6	276	6.9
合計		636	5,266	8.3	4,751	7.5	4,716	7.4

作業療法

大学名	所在地	入学定員	2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
			志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率
佛教大学	京都市中京区	40	490	12.3	423	10.6	429	10.7
京都橘大学	京都市山科区	40	—	—	—	—	796	19.9
藍野大学	大阪府茨木市	40	161	4.0	97	2.4	75	1.9
大和大学	大阪府吹田市	40	417	10.4	448	11.2	489	12.2
大阪保健医療大学	大阪市北区	30	89	3.0	75	2.5	41	1.4
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	40	244	6.1	381	9.5	305	7.6
合計		230	1,401	6.1	1,424	6.2	2,135	9.3

第3. 滋賀県の車社会と自動車通学並びに理学療法学科・作業療法学科に入学したいと回答した者の居住地からの通学時間と近隣大学との比較

滋賀県は都市部とは異なり、公共交通機関が限られており、県内でも北に向かうほど、琵琶湖の周囲を走行するJRが主要となる。琵琶湖周辺から離れた地域もあり、そこに住む者は駅まで自転車や自家用車での移動を余儀なくされる。そのため、滋賀県民の移動手段は自家用車が多く、車社会であると言える。このことは、下記の滋賀県が策定した「滋賀交通ビジョン」、で証明されている。



引用：滋賀県策定「滋賀交通ビジョン」

滋賀県は車社会であり、県内であれば自家用車での通勤はごく当たり前の状況である。そのような状況において、本学の前身とも言える滋賀医療技術専門学校では、学校の立地を考慮し、最寄り駅（JR 能登川駅）から無料のスクールバスも運行を行うと同時に、自家用車での通学も認めている。自動車通学者の実績は次のとおりである。無料のスクールバスを運行しているにも関わらず、約 35%の学生が自家用車で通学している。

滋賀医療技術専門学校 自動車通学者数

地 域	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
滋賀県	高島市	0	1	1
	長浜市	8	13	10
	米原市	4	7	8
	彦根市	9	9	10
	犬上郡	4	2	2
	愛知郡	1	1	0
	東近江市	15	13	16
	近江八幡市	8	7	5
	蒲生郡	5	6	5
	守山市	1	3	3
	栗東市	3	1	0
	草津市	3	1	3
	湖南市	4	7	6
	甲賀市	7	11	11
大津市	5	6	6	
京都府	京都市	3	1	1
合 計	80	89	87	

学生数の平均約 35%が自動車に通学

滋賀医療技術専門学校での実績や本学の立地を踏まえ、自家用車での通学を本学でも認めることにより、本学を選ぶ学生は出てくるものと考えます。

なお、自家用車は燃料費や維持費などの負担はあるが、滋賀県は車社会であるということが浸透しているためか、滋賀医療技術専門学校では、自家用車での通学に対し経済的な抵抗感も見受けられない。その意識については、専門職大学でも同様であると考えます。

次に滋賀県内の高校生で、本学の理学療法学科または作業療法学科に入学したいと回答した者の居住地を次のとおり示す。

理学療法学科

長浜市	米原市	彦根市	近江八幡市	栗東市	甲賀市	湖南市	合 計
26 人	18 人	6 人	22 人	8 人	21 人	4 人	105 人

作業療法学科

長浜市	米原市	彦根市	近江八幡市	栗東市	蒲生郡	甲賀市	湖南市	合 計
7 人	6 人	2 人	5 人	5 人	1 人	1 人	1 人	28 人

出典：資料 2-1 「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】

P17 「「藍野専門職大学」への興味度／受験意向／入学意向」より抽出

理学療法学科・作業療法学科に入学したいと回答した滋賀県内の高校生で、居住地は記述で示したとおり、栗東市より北部や東部であり、特に近江八幡市から北部と滋賀県東部の甲賀市や湖南市は自動車であれば、他大学よりも本学に通う方が近い。

本学の最も近隣である同系統大学の京都橘大学への滋賀県からの通学時間を見てみた。

滋賀県の北部、中部、南部で抽出してみたが、北部の長浜市からは1時間29分かかる。本学の場合はバス通学54分・自動車通学41分である。中部の近江八幡市からは58分かかる。本学の場合はバス通学32分・自動車通学26分である。南部の栗東市からは45分かかる。本学の場合はバス通学47分・自動車通学44分である。

結果、南部の栗東市はほぼ同じくらいの通学時間であるが、それよりも北部の地域は本学に通う方が近い。なお、東部に位置する地域（蒲生郡・甲賀市・湖南市）の者も自動車通学なら本学に来る方が近い。（近くて20分、遠くて40分）

既述の表において示した入学したいと回答した者の居住地を見ると、栗東市より北部または東部に位置しており、以上の説明で最も近隣の京都橘大学よりも本学に来る方が、近いことがわかる。

このことから、本学に入学したいと回答した人数の信憑性は高いものと考えている。

また、電車やバスのように時刻に縛られない点では、大学の閉門まで時間を気にすることなく、勉強ができ、自由な時間に下校することもできることが最大のメリットと言える。

本学でも自動車通学は認めるため、滋賀医療技術専門学校の実績を鑑み、約3割程度の自動車通学者が出てくるものと想定している。

なお、駐車場については、学生専用として約140台分を確保している。



. . . 入学したいと回答した者の居住地

. . . 自動車通学者の経路

. . . スクールバスの経路

・・・自動車通学者の経路

自動車の時速は50km/hで算出

経路① 長浜市(JR長浜駅)→本学 33.7km/41分
米原市(JR米原駅)→本学 25.9km/32分
彦根市(JR彦根駅)→本学 19.8km/24分

経路② 甲賀市(JR甲賀駅)→本学 32.5km/39分
湖南市(JR甲西駅)→本学 31.5km/38分
蒲生郡(近江鉄道 日野駅)→大学 17.9km/22分

経路③ 栗東市(JR栗東駅)→本学 36.4km/44分
近江八幡市(JR近江八幡駅)→本学 20.9km/26分

・・・スクールバスの経路

バスの時速は30km/hで算出

JR長浜駅→JR能登川駅(バス)→本学 40.8km/54分
JR米原駅→JR能登川駅(バス)→本学 33.1km/46分
JR彦根駅→JR能登川駅(バス)→本学 27.1km/39分
JR甲賀駅→JR能登川駅(バス)→本学 68.3km/1時間27分
JR甲西駅→JR能登川駅(バス)→本学 51.4km/1時間3分
近江鉄道 日野駅→JR能登川駅(バス)→本学 43.7km/1時間40分
JR栗東駅→JR能登川駅(バス)→本学 36.7km/47分
JR近江八幡駅→JR能登川駅(バス)→本学 21.9km/32分

最も近隣の京都橘大学へ行く場合の時間

JR長浜駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 1時間29分
JR近江八幡駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 58分
JR栗東駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 45分

以上の第1～第3の理由から、本学としては記述のQ6の回答を確実性の高い数字として考える。

2) 医療・福祉施設の医療従事者(理学療法士・作業療法士・介護福祉士等)に対する入学意向調査

入学意向調査を行う前に、本学が作成したリーフレット(追加資料2-4)を読むように指示している。リーフレットには専門職大学と大学の違い、本学の特色、類似の内容が学べる近隣の他大学を明記しており、回答者はこれらに目を通した上で本学への受験・入学意向に回答している。さらに「進学希望者」であれば、調査回答時点である程度、進学先候補の大学・学校及び学びたい分野も決まっている者と考えられるので、それらの進学先候補校やリーフレット記載の近隣大学と本学を比較検討した上で本学を受験したいか、入学したいかという質問に回答している。

その結果、本学への受験意向は、回答者622人中、「受験したいと思う」と回答した者は、230人(37.0%)である。(資料2-2・P16) その内、「受験をしたいと思う」と回答した者で、本学の「理学療法学科・作業療法学科に入学したい」と回答した者(資料2-2・P16)は、理学療法学科139人、作業療法学科69人となっており、社会人学生を確保することができる見通し結果となった。学科を通じて、特に介護福祉士の入学希望者が多く、自己のスキルアップを望んでいることが伺え

る。(資料 2-2・P17~18)

学科名	入学定員	受験したいと思う	進学を希望する
理学療法学科	80 人	230 人	139 人
作業療法学科	40 人		69 人

出典：資料 2-2「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【施設等職員対象調査】P17「藍野専門職大学」への受験意向／入学意向」より抽出

以上のことから、本学としては、学生を確保できるものと考えているが、専門職大学としての魅力については、高校生などにしっかり理解されているとは言い難いので、テレビ CM や高校内進路ガイダンス、インターネット媒体の広報ツールにより PR し、専門職大学の存在を広めていく。

【教育課程等】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 精神統一をする手段を習得する「日本の伝統文化」、中学・高校時代の文法の復習など英語の基礎学力を修得する「英語 I」は、大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められないため、修正すること。

(対応)

ご指摘のとおり「日本の伝統文化」、「英語 I」ともに大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められなかったため、次のとおり大学教育の水準にふさわしい内容に改める。

1) 日本の伝統文化

「日本の伝統文化」については、当初、精神を統一する手段を修得するという内容としていたが、大学教育の水準に達していなかった。地域の理解を深め、幅広い教養を身に付けることを目的に、日本の伝統的な職人文化を概観し、具体的な事例として、本学のある近江の職人文化を取り上げ、地域の文化及び伝統を学ぶ内容に改めた。

資料 7-1 : シラバス (日本の伝統文化) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 日本の伝統文化

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p><u>日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江(滋賀県)とゆかりの深い、木地屋(木地師)と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をおし、できるだけビジュアルに進めます。</u></p> <p><u>(到達目標)</u></p> <p><u>(1) 日本の職人の特質について理解する。</u></p> <p><u>(2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。</u></p>	<p>(授業概要到達目標)</p> <p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/8回)</p> <p>(稲葉隆道/2回)</p> <p>一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禅定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。</p> <p>(1 砂川勇/4回)</p> <p>医療人として大切なことは、いかなる場面におい</p>

<p><u>(3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</u></p>	<p>でも現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。</p> <p>(4 分木ひとみ/2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>
---	--

2) 英語 I

英語 I については内容を見直し、中学、高校の復習といった内容から、読解力、リスニング力の修得を通じて、グローバルとは何かについて考えを深め、多文化理解を促す内容へと改めた。

資料 7-2 : シラバス (英語 I) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 英語 I

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p><u>大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活(仕事を含め)中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。</u></p> <p><u>(学習到達目標)</u></p> <p><u>語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。</u></p>	<p>(授業概要・到達目標)</p> <p>グローバル化が進む中、英語力は社会人として必須になってくる。そのため日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できるようにする。また中学、高校時代の文法やボキャブラリーの見直しなどの復習も行い、基礎学力の向上につなげる。リスニングに関しては、耳慣れすることを目標に日常的な会話の聞き取りから始め、コミュニケーションツールとして使える英語の習得を目指す。また将来、外国人の患者に対応する可能性も考え、日常会話や簡単な動作指示ができるように、表現方法を学ぶ。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 基礎科目に「コミュニケーション論」、「人間学」、「心理学」、「社会福祉学」及び「英語Ⅱ」が配置されているが、授業科目の概要で内容を確認する限り、授業計画に専攻に係る職業についての学修内容が含まれており、職業専門科目に該当する疑義があるため、これらの科目のシラバスを提出した上で、適切な区分であることを明確に説明するか、科目区分を適切に改めること。

(対応)

「コミュニケーション論」、「心理学」及び「英語Ⅱ」に関しては、授業概要では確かに専攻に係る職業についての学修内容が含まれているように見えるが、これらの科目の趣旨は、専攻に関する知識の習得に重きを置くものではなく、テーマのひとつとして取り上げているのであるが、誤解を招く授業概要となっていたため、授業概要について改め、基礎科目としての授業であることを明確にしたシラバスを提出する。

「人間学」及び「社会福祉学」については、ご指摘のとおり科目区分が不適切であると判断したため、科目区分を職業専門科目に改める。なお、「人間学」については、授業内容を検討した結果、科目名称を適切な名称である「人間発達学」へと変更する。

1) コミュニケーション論

授業概要をリハビリテーション医療に必要となる対人コミュニケーションに限定せず、社会人として求められるコミュニケーションスキルを修得することを目標とした内容に改めた。

その結果、基礎科目として適切な内容であると考えます。

資料 7-3 : シラバス (コミュニケーション論)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) コミュニケーション論

新	旧
<p>(授業概要到達目標)</p> <p><u>コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。</u></p> <p>(授業内容)</p>	<p>(授業概要)</p> <p>リハビリテーション医療を担う上で必要となる、対人コミュニケーションについて学ぶ。人のコミュニケーション能力の基本構成から、言語によるコミュニケーションと非言語的なコミュニケーションに言及し、対象となる患者の持つコミュニケーション能力の把握技術を含め実践する。例えば、言語表出が困難な患者(失語症患者や構音障害患者)に対するコミュニケーション技術を実例を踏まえて学習する。さらに、一切の意思表示能力の欠落をもたらす疾患の例を挙げ、脳機能と</p>

<p><u>第1回 コミュニケーションの基本概念と構造、人間関係の基礎</u></p> <p><u>第2回 臨床の場におけるコミュニケーション、如何にしてコミュニケーションは治療になり得るか</u></p> <p><u>第3回 社会的相互作用、相互作用における無関心と無意識</u></p> <p><u>第4回 社会的役割と役割行動、役割の特性、役割葛藤、役割距離と装い</u></p> <p><u>第5回 援助的コミュニケーション、関係性の維持と発展</u></p> <p><u>第6回 対人技法の基本、聴くこと・話を聞いてもらうことの効果、聴く・聞く・訊くの違い、非言語コミュニケーションとその効果</u></p> <p><u>第7回 死にゆく人との対話、傍らに居るというコミュニケーション、死の受容に至る経過とコミュニケーション</u></p> <p><u>第8回 人との接し方の基本、コミュニケーション能力の自己評価と研鑽</u></p>	<p>意志表出の有無、さらには感情の有無に言及し、表出困難者の人権保護の観点から医療人としての人格を育む。</p>
---	---

2) 心理学

医療と関係が深い研究の成果を紹介し、医療従事者の対象である患者を理解するために臨床心理学的な視点を持つことを目標とするとしていたが、人の理解につながる内容とし、人間の行動を科学的に観察する視点を養うことを目標に改めた。

その結果、基礎科目として適切な内容であると考える。

資料 7-4 : シラバス (心理学)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 心理学

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p>心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。</p> <p><u>(授業内容)</u></p> <p>第1回 知能とは何か、知能の構造、知的能力の発達、知能の障害とその評価</p> <p>第2回 性格とは何か、性格の定義、性格の形成に及ぼす人間関係、性格の評価</p> <p>第3回 人の欲求、一次欲求と二次欲求、行動の展開の原理、欲求が阻害された時の行動、自我防衛、不適応行動</p> <p>第4回 感情と行動、感情のコントロール、感情の発達・分化</p> <p>第5回 心の病気と異常心理学、精神病の世界の-1</p> <p>第6回 心の病気と異常心理学、精神病の世界の-2</p> <p>第7回 発達と老化、認識の発達、言語の発達、老化に伴う精神機能の変化</p> <p>第8回 他人の行動と自己の観察、人間の行動の不思議、まとめ</p>	<p>(授業概要)</p> <p>心理学とは、人のこころの動きや、そこから生じる行動について探求しようとする学問である。</p> <p>しかし、その領域は多岐にわたり、どのようにこころに接近し、とらえようとするかについては、さまざまな考え方があある。この授業では心理学の中でも、特に医療と関係の深い研究の成果を紹介し、心理学が対象とする「こころ」に対する見方や考え方を説明できることを目標とする。特に医療従事者の対象である患者を理解するために臨床心理学的な視点を持つことを目標とする。</p>

3) 英語Ⅱ

本科目の趣旨は、英語の4技能の向上を図ることにあり、そのテーマの一環としてリハビリテーションを取り上げたにすぎなかった。本来の趣旨にあわせた授業内容に改め、基礎科目として適切な内容とした。

資料 7-5 : シラバス (英語Ⅱ) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 英語Ⅱ

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p><u>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</u></p> <p><u>語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</u></p> <p><u>(授業内容)</u></p> <p><u>第1回</u> <u>Travel and Technology8 (旅行とテクノロジー)</u></p> <p><u>第2回</u> <u>The Color of Fashion (ファッションの色)</u></p> <p><u>第3回</u> <u>"Disappearing Animal (絶滅動物) I</u> <u>Endangered Species(絶滅危惧種) "</u></p> <p><u>第4回</u> <u>"Disappearing Animal (絶滅動物) II</u> <u>Bring Back the Woolly Mammoth(マンモスを呼び戻す) "</u></p> <p><u>第5回</u> <u>"Big Money (大金) I</u> <u>What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何を買う?) "</u></p> <p><u>第6回</u> <u>"Big Money (大金) II</u> <u>Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ:お金持ち、でも幸せ?) "</u></p>	<p>(科目の概要)</p> <p>リーディングは全ての技能の基礎になるため、長い文章でも我慢強く読む力をつけていく。日本人の多くに見られる「訳す」ことはせず、全体的に意味をつかむ力を身に着けられるようにする。また解剖学と合わせて骨関節、筋名等の医療英語を学習し、リーディング能力に反映させられるよう専門用語に慣れていく。授業資料のひとつとして主にリハビリテーション分野の論文を用いてアカデミックイングリッシュに触れ、ゼネラルイングリッシュとの違いを学び、論文形式に抵抗感なく取り組み、読み慣れることを目標とする。</p> <p>第1回 "Exercise and the Body(Staying Healthy): What is Health? 運動と身体：健康を保つために：健康とは"</p> <p>第2回 "Exercise and the Body (Staying Healthy): Overview of the Body 運動と身体：健康を保つために：身体の常識"</p> <p>第3回 "What is Rehabilitation?: Physical Therapy and Physical Therapists リハビリテーションとは？理学療法と理学療法士"</p> <p>第4回 "What is Rehabilitation?: Occupational Therapy and Occupational Therapists リハビリテーションとは？作業療法と作業療法士"</p> <p>第5回 "Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation: Major joints and Regions of the Body リハビリテーションのための人体の基礎知識 主要関節と部位"</p>

<p>(第7回)</p> <p><u>"Celebrations Around the world (世界の祝い)</u> <u>Wedding Customs (結婚式の習慣) "</u></p> <p>(第8回)</p> <p><u>"Conclusion</u> <u>結び"</u></p>	<p>第6回</p> <p>"The Structure of the Human Body: The skeletal System</p> <p>人体の構造：骨格系"</p> <p>第7回</p> <p>"Diseases and Rehabilitation: Bone Fractures</p> <p>疾患とリハビリテーション：骨折"</p> <p>第8回</p> <p>"Conclusion</p> <p>結び"</p>
---	---

4) 人間発達学 (人間学)

ご指摘を受け、人間学の内容を再検討した結果、主に人間の発達過程を扱う内容であることから、科目概要を修正の上、職業専門科目へと区分を変更し、科目名称を人間発達学へ改めた。

資料 7-6 : シラバス (人間発達学)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 人間発達学

新	旧
<p>(授業概要到達目標)</p> <p><u>人間発達学は人が発達する存在であるという観点から理解しようとする学問である。人間発達学では、人を細胞、組織、器官のレベルで捉えるのではなく、生活体として捉え理解をしていく。生命の誕生である胎児期から老年期までの生涯発達について、環境との相互作用の中でどのような発達を遂げるのか、また、ライフステージに応じた課題、役割などについての基本原理を理解することを目標とする。</u></p> <p>(授業内容)</p> <p>第1回 発達の概念と発達理論</p> <p>第2回 胎児期から新生児期の発達と特徴</p> <p>第3回 乳児期の発達と特徴</p> <p>第4回 幼児期の発達と特徴</p> <p>第5回 児童期の発達と特徴</p> <p>第6回 青年期の発達と特徴</p> <p>第7回 成人期の発達と特徴</p> <p>第8回 老年期の発達と特徴</p>	<p>(科目の概要)</p> <p>人間の一生をかけての心身の発達過程を学ぶことから、人間とはそもそも何か。他の哺乳類と人間の違いは何か。そんな疑問に答える作業と講義から、いかに生きるかという哲学的テーマにも挑戦していく授業である。また、リハビリテーション医療にかかわる時に必須となる、運動の発達にも言及する。具体的な運動発達の過程を学び、実践することにより、運動発達の過程がリハビリテーションに応用できることを理解する基礎を形成する学問である。</p>

5) 社会福祉学

ご指摘を受け、社会福祉学の内容を再検討した結果、リハビリテーション職に必要な社会福祉の考え方を身に付けるものであったため、基礎科目ではなく、職業専門科目にするとともに、それが分かるよう科目概要を改める。

資料 7-7：シラバス（社会福祉学）

（新旧対照表）シラバス（授業計画）社会福祉学

新	旧
<p><u>（授業概要到達目標）</u> <u>社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に着けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。</u></p> <p><u>（授業内容）</u> 第1回 <u>社会福祉の発展過程と現代社会での生活問題</u> 第2回 <u>社会福祉の理念と倫理 価値・援助者としての態度</u> 第3回 <u>少子高齢社会における共生</u> 第4回 <u>地域包括ケアシステムが目指すもの</u> 第5回 <u>医療福祉と多職種連携</u> 第6回 <u>在宅療養を支援する上でのコメディカルの役割 調べ学習と発表</u> 第7回 <u>健康長寿に向けてのコメディカルの役割 調べ学習と発表</u> 第8回 <u>地域福祉を推進する中でのコメディカルの役割 調べ学習とまとめ</u></p>	<p><u>（科目の概要）</u> 社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に着けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

8. <展開科目の体系性が不明確>

展開科目を通じて、どのような能力を育成しようとしているのか、展開科目で修得する能力は育成する専門職業人にとって有意義な内容であるのかについて説明がないため、明確に説明すること。なお、展開科目に配置されたほぼ全ての科目が「地域共生・地域包括ケアシステムを学修する科目群」として4年次に配当されているが、養成する人材像を育成するために必要な科目が体系的に配置されているのか不明確なため、配当年次の妥当性についても併せて明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

展開科目を通じて養成する能力とその意義についての説明がないとのご指摘に対して、あらためて説明を加える。展開科目の配置が一部を除き、4年次となっていることに関し、再考したところ、早い年次から段階的に履修することで、より有意義に能力の修得が可能になると考え、配当年次を改めたため、配当年次順にその説明を行う。また、展開科目についてその見直しを行った結果、両学科とも、科目の新設と既存科目の単位の変更等を行うこととなったため、その説明を併せて行う。

1) 理学療法学科

(1) 展開科目を通じて養成する能力とその意義

理学療法学科では、我が国の健康寿命延伸、障害・疾病予防、健康増進の支援を通じて、「地域共生社会の実現に向けて地域住民を支援できる人材」を育成することを目的とした。そのため、展開科目を通じて、地域住民の身体活動に新たな支援展開（生涯スポーツ支援、地域支援、ヘルスポロモーション支援等）を創造できる能力を養成する。少子高齢化を迎えている我が国において、健康増進や障害・疾病予防は大きな意義がある。そのため、運動に係る専門職である理学療法士が早期から健康増進・予防を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1・2年次では「地域共生社会の理解・地域展開」、3年次では「地域共生実現へのキャリア形成」、3・4年次では「地域共生実現のための方策と展開方法」を目的に科目の新設、再配置を行った。

①1年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士が持ち合わせて置くべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、理学療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。この根幹を養うことで、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「生涯スポーツ論」を、1年次後期に「ボランティア論」及び「労働衛生論」を配置する。スポーツの継続、ボランティア活動への参加による健康寿命延伸、QOLの維持・向上への効果を学修することで、身体活動やボランティア活動が、地域社会への貢献につながることを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせるこ

とが可能となる。また、労働環境や労働者に生じる課題を学び、その環境の的確な変更が業務効率を改善し、ひいては地域経済の発展につながることを理解する。そして、その取組みに、理学療法士が関わることで職域の拡大につながることを理解する。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に配当した。

②2年次

2年次では、現代社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民は支援を必要としているのかを学び、理学療法士がこれらの課題に対してどのように関わるのかを想像する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で理学療法士が必要とされていることを認識し、理学療法士が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを強く実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」、「教育支援論」及び「災害支援論」を配置する。地域社会が子育て、教育、そして、災害問題においてどのような課題を抱え、どのような支援を必要としているのかを学ぶことで、この課題に対して理学療法士はどのような支援を行うことができるのかを思考できるようになる。また、理学療法士が様々な角度から地域住民のQOLの維持・向上に貢献できることを理解する。理学療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「理学療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

③3年次前期

3年次前期では、地域共生とは何かを具体的に実感してもらい、地域共生社会の実現に向けて、主体的に物事を考え・行動する能力を涵養する。この能力を養うことで、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士としての知識や技術をどのように応用すれば、自分自身が地域社会のために役立つことができるかを考え・行動できるようになる。

そのために、3年次前期に「地域共生論」を配置する。地域共生社会の実現に向けて、地域で取組みを実践している理学療法士・作業療法士から、地域の現状の課題と対策方法を学ぶとともに、実際に施設を見学することで、現状の課題に対して理学療法士がどのように考え・行動すればよいかを思考できるようになり、理学療法士が健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できることを理解する。

④3年次後期～4年次

3年次後期から4年次にかけては、医療分野や介護分野で理学療法士として働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるための能力を涵養する。それによって、これらの分野で実際に何を提供できるかに関する知識と技術を身に付けることができる。

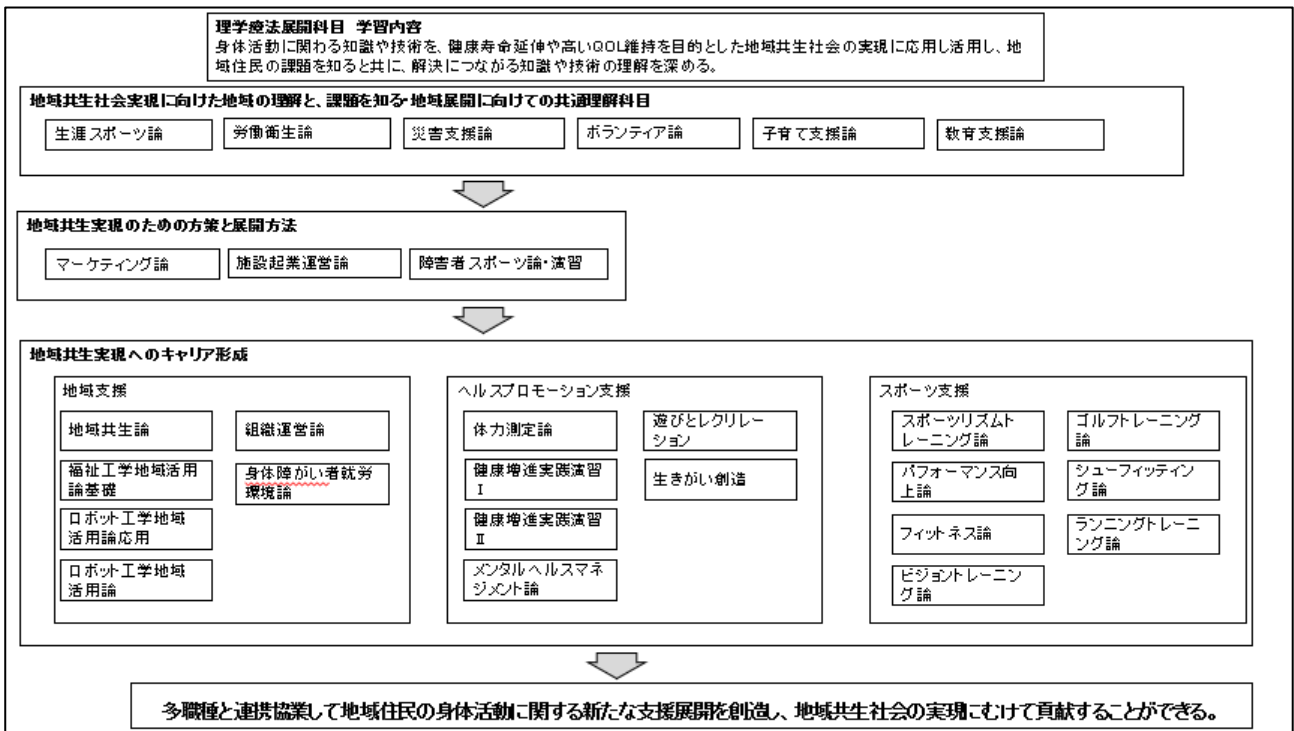
本学科では、地域社会における保健・福祉・スポーツ・就労等の分野の課題を知るとともに、解決につながる知識や技術を学修することを目的に、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」の3つの履修モデルを用意する。これらの内容を教授する科目を、理学療法理論科目群や職業実践科目群の多くの科目の履修を終えた段階である3年次後期に配置した。履修モデルの詳細は是正事項2で詳述したとおりである。

また、医療・介護分野で働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・ス

スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるためには、地域社会の現状をリサーチする能力や施設を起業し運営する能力が必要となる。したがって、これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置した。

障がい者の支援の一つに障がい者スポーツがある。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸とQOLの維持・向上に大きく貢献する。特に障がい者に対する生きがいづくりの一つの選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる理学療法士が、スポーツを紹介できる意義は大きい。本学では、障害者スポーツについての理論と実際を学修することにより、必要に応じてスポーツを紹介できるようになるための科目を用意する。これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「障がい者スポーツ論」を、4年次前期に「障がい者スポーツ論実習」を配置した。特に「障がい者スポーツ論実習」では、障がい者スポーツの楽しさを体感し、障がい者スポーツが健康寿命延伸やQOL維持・向上に役立つ手段の一つであることを、体験を通して理解する。

理学療法学科展開科目概念図



(2) 科目の変更とその理由

本学科の養成する人材像は、理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成するというものである。また、それに加えて、理学療法士の専門性を活かすことにより、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上に貢献するために、医療分野や介護分野だけに留まらず、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野においても地域共生社会の実現に向けた人材を養成するとしており、このような人材を養成するために、次の通り必要な科目を新たに新設するとともに、また現在の科目についても修正を行った。

①「生涯スポーツ論」の新設

地域社会に貢献することへの興味、関心を涵養することを目的で、生涯にわたりスポーツを継続することが、健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に効果があるということを学ぶことで、身体活動を提供することが地域社会に貢献することができるということを理解してもらう。そこで、これらの内容を教授する科目として、必須科目として「生涯スポーツ論」を新設した。

②「労働衛生論」の新設

現代社会における労働環境や労働者に生じる問題について学ぶことで、労働環境や労働者が働くうえで良い状態に変化することが地域経済の発展につながることを理解できるようになる。労働環境や労働者が働くうえでよい状態に変化することに理学療法士が関わることができ、理学療法士の活躍の場が医療分野や介護分野だけではなく企業などにも存在し、理学療法士の職域が地域社会の広い領域に存在することを理解することができる。そこで、必須科目として、労働を取り巻く実情を知るために「労働衛生論」を新設した。

③「組織運営論」の新設

地域支援履修モデルでは、少子高齢化による労働人口問題に対応できる理学療法士ならびに、医療分野や介護分野以外で、理学療法の知識と技術を必要としている人に貢献できる理学療法士の養成と目的を改めた。そのため、卒業後に医療分野や介護分野で理学療法士として働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、地域社会に出ていき起業する人材を養成することも想定している。起業した際に考えなければならないこととして、組織の発展、及び、円滑な運営について学び、自らの成長だけでなく雇用者の人材の養成に努める義務があり、その素地となる科目として、地域支援モデルの選択科目として「組織運営論」を新設した。

④「身体障がい者就労環境論」の新設

地域支援履修モデルでは、少子高齢化による労働人口問題に対応できる理学療法士ならびに、医療分野や介護分野以外で、理学療法の知識と技術を必要としている人に貢献できる理学療法士の養成と目的を改めた。そのため、障がい者の就労環境を知り、障がい者の就労を促進できるための知識が必要であると考えた。よって、地域支援モデルの選択科目として「身体障がい者就労環境論」を新設した。

⑤「地域共生論」の単位変更

必須科目である「地域共生論」の中で、地域社会で暮らしている現状について学修し、孤立せずに地域の中でつながりを持つための課題について講義するだけでは、地域課題の発見に至る十分な能力を学修できないと考えた。そこで、その素地として福祉施設での見学を行い、どのような理念のもとに設立運営がなされているのかを理解することが必要と考えを改め、1単位から2単位へ単位の変更を行った。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) 授業科目の名称及び配当年次 (理学療法学科)

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
マーケティング論	3後	マーケティング論	4前
施設起業運営論	3後	施設起業運営論	4前
生涯スポーツ論	1前	新設	
労働衛生論	1後	新設	
子育て支援論	2前	子育て支援論	4前
災害支援論	2前	災害支援論	4後
教育支援論	2前	教育支援論	4前
メンタルヘルスマネジメント論	3後	メンタルヘルスマネジメント論	4前
地域共生論	3前	地域共生論	4前
障がい者スポーツ論	3後	障がい者スポーツ論	4通
障がい者スポーツ論実習	4前	障がい者スポーツ論演習	4通
スポーツリズムトレーニング論	3後	スポーツリズムトレーニング論	4前
体力測定論	3後	体力測定論	4通
健康増進実践演習	3後	健康増進実践演習Ⅰ	4通
健康増進実践実習	3後	健康増進実践演習Ⅱ	4通
パフォーマンス向上論	3後	パフォーマンス向上論	4通
フィットネス論	3後	フィットネス論	4通
ランニングトレーニング論	3後	ランニングトレーニング論	4通
ゴルフトレーニング論	3後	ゴルフトレーニング論	4通
ビジョントレーニング論	3後	ビジョントレーニング論	4通
遊びとレクリエーション	3後	遊びとレクリエーション	4通
生きがい創造	3後	生きがい創造	4通
伝承遊び	3後	伝承遊び	4通
シューフィッティング論	3後	シューフィッティング論	4通
福祉工学地域活用論	3後	福祉工学地域活用論	4通
ロボット工学地域活用論基礎	3後	ロボット工学地域活用論基礎	4通
ロボット工学地域活用論応用	3後	ロボット工学地域活用論応用	4通
身体障がい者就労環境論	3後	新設	
組織運営論	3後	新設	

2) 作業療法学科

(1) 展開科目を通じて育成する能力とその意義

作業療法学科では、「地域共生社会の実現に貢献する人材」を育成することを目的とし、展開科目を通じて、地域住民（児童期、成人期、老年期）の生活課題に関する新たな支援展開を創造できる能力を養成する。人にとって、就労や余暇活動は、活動量の増加にさせるだけでなく、「生活の質」を向上させることに大きな意義を持ち、それは健康増進や障害・疾病予防に大きく貢献する。そのため、行為・活動に係る専門職である作業療法士が早期から就労と余暇活動を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1年次では「地域共生社会の基本概念と現状の理解」、2年次では「地域展開に向けた共通理解」、3・4年次では「地域の課題発見・解決」を目的に科目の新設、再配置を行った。

①1年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、作業療法士が持ち合わせておくべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、作業療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。それによって、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「地域社会共生論」及び「ボランティア論」を配置し、1年次後期に「地域社会共生論実習」及び「災害支援論」を配置する。「地域社会共生論」では、地域共生とは何かを学び、後期の「地域社会共生論実習」でその実際を体験する。これにより、地域社会が必要とする支援を理解する能力を修得する。また、「ボランティア論」では地域への貢献とは何か、どのような活動が地域社会への貢献につながるかを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせる意義がある。また、「災害支援論」緊急時の支援の基礎的な概念を学び、非日常的環境の中で人がどのような支援を求めるのかを理解する。1年次にこれらを学修することにより、作業療法士としての専門的知識を学修する目的を、明確にできると考える。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に担当した。

②2年次

2年次では、地域社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民が支援を必要としているのかを学び、作業療法士がこれらの課題に対してどのように関われるのか、何を支援できるのかを想起する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で作業療法士が必要とされていることを認識し、作業療法士が、医療・介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を、2年後期に「教育支援論」及び「マーケティング論」を配置した。ここでは、子育てについての概要を学修し、子どもとのかかわり方、子どもの力を引き出すためのかかわり方を学び、子どもに対するかかわり方と作業を用いた支援の在り方を結びつける基礎知識とする。また、後期の「教育支援論」で学ぶ、学校とはそもそも何か、学校内での支援の在り方、現状の課題を学ぶ。これにより、作業療法士が支援

できる課題を見極める能力を修得させる意義がある。「メンタルヘルスマネジメント論」では個人のストレス耐性について学び、企業組織の中の従業員として働く中でのストレスとストレスナーについて学ぶ。これにより、作業療法士が現状の企業組織の中での課題に対して、支援できることを理解する。「マーケティング論」では組織に所属する多くの人々、地域の人々の支援の需要をどのように把握するかを学ぶ。作業療法士として、地域の需要を自ら発見する能力の基礎となる。

また、作業療法士が様々な角度から地域住民の QOL の維持・向上に貢献できることを理解する。作業療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「作業療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

③ 年次前期

3 年次前期では、安定して組織運営を行うための方法論や課題について学修する。「施設起業運営論」において、組織運営の持続可能な要素について学び、そこから課題を発見する能力を養う。そして、その課題に対する解決策を思考する能力を養う。また、将来自身が起業する場合の基礎知識とすることで、施設運営などに行かせる能力を養う。これにより、作業療法士が組織という環境に着目して支援する基盤とするために配置した。これにより地域住民の QOL の維持・向上につなげる。

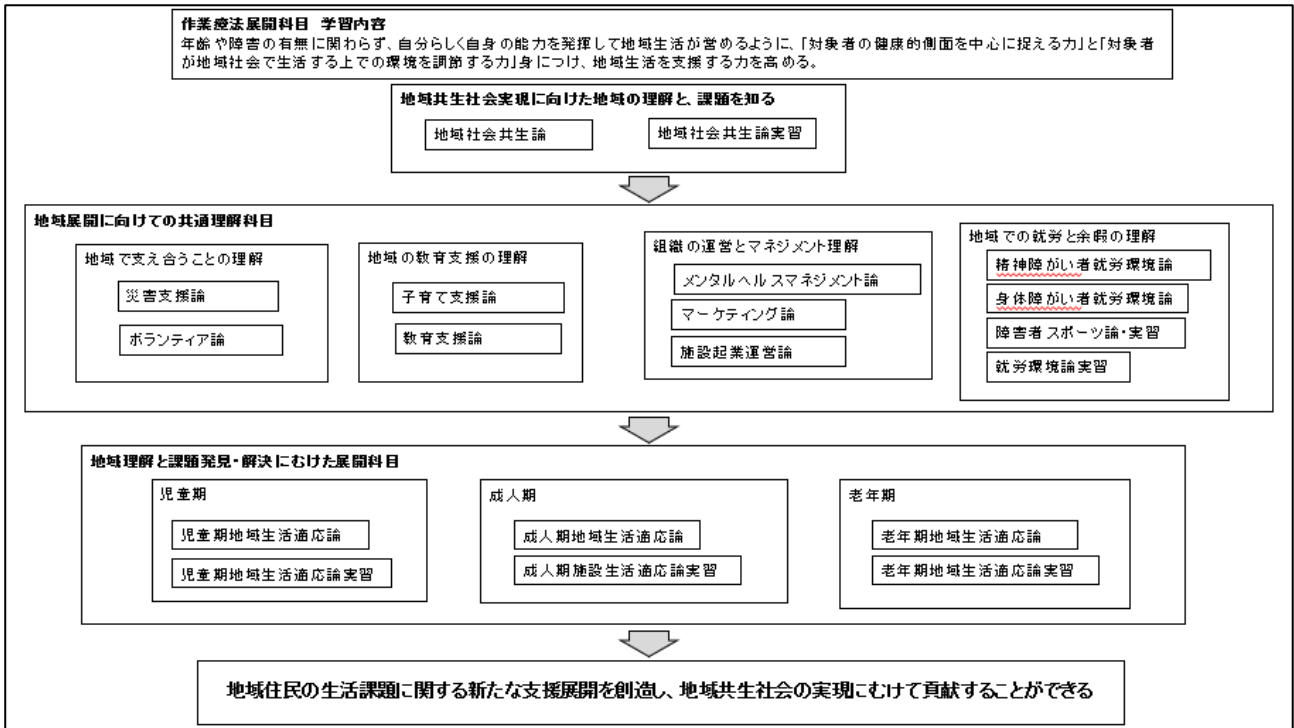
④ 3 年次後期～4 年次前期

3 年次後期から 4 年次にかけては、医療・介護分野で作業療法士として働き続けるだけでなく、将すべての年代に共通する活動として、就労と余暇活動に焦点を当てる。就労に対して、「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境論」の 2 科目で、障害を持った方の就労環境とはどのようなものかを知り、課題を解決する理論を学修する。障がいの就労環境とその改善理論を学修したのちに、「就労環境論実習」において、実際の現場で課題を発見し、その課題を解決する能力を養う。

余暇活動に対して、「障がい者スポーツ論」「障がい者スポーツ論実習」を学修する。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸と QOL の維持・向上に大きく貢献する。特に障がいの社会参加の選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる作業療法士が、スポーツを提案する必要がある。また、スポーツをとおして余暇活動、すなわち自分らしい時間の使い方を見つけるきっかけを作る能力の基礎とするために配置した。

本学科では、地域社会における保健・福祉・スポーツ・就労等の分野の課題を知るとともに、解決につながる知識や技術を学修することを目的に、「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」の 3 つの履修モデルを用意する。これらの内容を教授する科目を、作業療法理論科目群や職業実践科目群の多くの科目の履修を終えた段階である 3 年次後期に配置した。履修モデルの詳細は是正事項 2 で詳述したとおりである。

作業療法学科展開科目概念図



(2) 科目及び科目名称等の変更とその理由

本学科の養成する人材像は、作業療法士として、子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成するというものである。また、それに加えて、作業療法士の専門性を活かすことにより、地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成するとしており、このような人材を養成するために、下記の通り必要な科目を新たに新設し、また現在の科目についても修正を行った。

①身体障がい者就労環境論

地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる作業療法士を養成するため、身体障がい者の就労環境を知り、身体障がい者の就労を促進するための知識が必要であると考えた。よって、展開科目の必修として身体障がい者就労環境論を新設した。

②科目名称変更

再度展開科目の体系性を考えた結果、単位数及び授業概要・シラバス内容に変更はないが、科目名称でより科目の意図がわかるよう科目名称を変更した。

「精神障がい者就労環境論」

心理精神企業適応論より変更する。特に精神障がい者に係る就労実態、環境、課題等を教授する。

「就労環境論実習」

心理精神企業適応論実習より変更する。障害者が就労している場面での実態、環境、課題等の体験型実習を行う。

③必修科目及び選択科目の変更

申請時の展開科目の考え方として、学生の興味関心の幅を広げる意図もあり学生自ら主体的に考え科目を選択する方向で考えたが、改めて作業療法学科の人材養成像として、子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成するというものであり、それに加えて、作業療法士の専門性を活かすことにより、地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成すると改めた。そのため作業療法学科の展開科目では、地域共生社会の実現に向けて、多職種と連携して支援展開に向けた知識に加え、作業療法関連分野である地域の児童・成人・高齢期分野に関する知識と現状の理解について学修する。作業療法士として、多職種と連携し、地域住民の生活活動に関する新たな支援展開を思考し、地域共生社会の実現に向けて貢献できるよう次の科目を選択科目から必修科目として変更した。

「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、「教育支援論」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「就労環境論実習」

また、各年齢層からみた地域社会の理解を深めるために「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を設けており、学生の主体的な学修と卒業後の進路を見据えて、体験を通じて学ぶ実習科目として「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置し、各時期の「地域生活適応論」及び「地域生活適応論実習」を対として選択するものとした。そのため、「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」の科目を必修科目から選択科目として変更した。

つまり、児童期に興味関心があり卒業後の進路の方向性を考える場合は、「児童期地域生活適応論」「児童期地域生活適応論実習」を同時に選択することとなり、成人期を考える場合は、「成人期地域生活適応論」「成人期地域生活適応論実習」、老年期の場合は、「老年期地域生活適応論」「老年期地域生活適応論実習」と選択することによって、興味関心を持った年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) 授業科目の名称及び配当年次 (作業療法学科)

新			旧		
科目名称	配当年次	必・選	科目名称	配当年次	必・選
マーケティング論	<u>2</u> 後	<u>必修</u>	マーケティング論	4前	選択
施設起業運営論	<u>3</u> 前	<u>必修</u>	施設起業運営論	4前	選択
ボランティア論	<u>1</u> 前	<u>必修</u>	ボランティア論	4後	選択
子育て支援論	<u>2</u> 前	<u>必修</u>	子育て支援論	4前	選択
災害支援論	<u>1</u> 後	<u>必修</u>	災害支援論	4後	選択
教育支援論	<u>2</u> 後	<u>必修</u>	教育支援論	4前	選択
メンタルヘルスマネジメント論	<u>2</u> 前	<u>必修</u>	メンタルヘルスマネジメント論	4前	選択
障がい者スポーツ論	<u>3</u> 後	<u>必修</u>	障がい者スポーツ論	4通	選択
障がい者スポーツ論実習	<u>4</u> 前	<u>必修</u>	障がい者スポーツ論演習	4通	選択
地域社会共生論	<u>1</u> 前	必修	地域社会共生論	4前	必修
地域社会共生論実習	<u>1</u> 後	必修	地域社会共生論実習	4前	必修
精神障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	必修	心理精神企業適応論	4前	必修
身体障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	必修	新設		
就労環境論実習	<u>4</u> 前	<u>必修</u>	心理精神企業適応論実習	4前	選択
老年期地域生活適応論	<u>3</u> 後	選択	老年期地域生活適応論	4前	必修
成人期 <u>地域</u> 生活適応論	<u>3</u> 後	選択	成人期施設生活適応論	4前	必修
児童期 <u>地域</u> 生活適応論	<u>3</u> 後	選択	児童地域生活適応論	4前	必修

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内容は、総合科目の目的である「修得した知識及び技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる」ことが実現できる授業計画とは認められないため、適切に改めること。

(対応)

「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」について、職業専門科目における知識のみを統合する内容となっており、ご指摘のとおり不適切であったため、基礎科目を基盤として職業専門科目と展開科目を総合することによって、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを企図し、それぞれ次のように改める。

1) 「理学療法総合演習」

理学療法総合演習について、申請時点のシラバスにおいては、国家試験対策を中心とした基礎科目、職業専門科目における知識のみを統合する内容となっており、ご指摘のとおり、総合科目の定義に合致していなかった。そのため、基礎科目を基盤として、職業専門科目と展開科目を総合し、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを企図した授業計画に改めた。

本科目では、理学療法学科の特色である履修モデルの3分野、「ヘルスポモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」で学んだことと、各関連領域での実習から得た知識と技術を用いて、地域が抱える「予防」及び「健康づくり」等の課題に対し、理学療法士としてどのようにアプローチするのかをディスカッションを通して考えを深めたうえで、どのようなプロジェクトを企画、実施するのかについてプレゼンテーションを行う。テーマの決定に関しては、展開科目で選択した分野が基盤となり、その分野の中から学生自身が地域住民の課題を決定し、加えて、その課題解決の方法についてこれまで職業専門科目で学んだことを交え、実施計画を策定する。以上の演習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、理学療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

資料 9-1：シラバス（理学療法総合演習）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 理学療法総合演習

新		旧	
授業概要到達目標	<p>本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。</p>	授業概要到達目標	<p>本科目では解剖学・生理学・運動学など理学療法士としての重要な基礎科目と、整形外科学・神経内科学・内科学などの各種疾患学、さらには理学療法士としての治療学(運動療法・物理療法・義肢装具学など)をそれぞれ関連付けることを目標とする。学生の中で関連付けができておらず、ばらばらの知識として習得されている知識群を、それぞれ関連性を見つけて、実際の臨床で使える知識へと変換していく過程を作り出す。主として想定した患者(映像などを使用)について、各知識をどう使うかをグループワークも行いながら、知識の拡大を図る。最後に教員が解答を与えることにより、正解と不正解を学習させていく。各科目の知識の復習と知識の統合を目標とし、理学療法士国家試験に合格でき、臨床現場で活躍できる力を育成する。</p>

2) 「作業療法総合実習Ⅰ」(作業療法総合演習Ⅰ)

「作業療法総合演習Ⅰ」について申請時点のシラバスでは、職業専門科目のうち作業療法理論科目群である「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」等によって学んだ基礎医学に関する知識と、職業実践科目群の「作業療法評価学総論」及び「身体／精神／発達障害評価学実習」等によって学んだ作業療法士が行う評価に関する知識とを統合し、総復習する科目としていた。ご指摘のとおり職業専門科目の知識のみを総合する科目となっていたため、総合科目の定義に合致せず、不適切であったため、改めた。

本科目では、本科目の到達目標は、「作業療法の評価技術を応用・活用することで、地域住民が自身の能力を発揮し、健康的に暮らしていく上で、それを阻害する生活課題を発見し、その構造と問題点を導き出すことができるようになること」とし、展開科目の「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」の履修者ごとにグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理し、構造化とその分析を行うことで、各ライフステージの生活の課題とその問題点を導き出すための考えた方を学修する。以上の実習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、作業療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

なお、科目名称である「作業療法総合演習Ⅰ」は、是正項目12でご指摘をうけたように、授業形態の設定の考え方を明確にし、それに基づいて科目名称を検討した結果、授業が事例の検討とそのフィー

ドバックを通して実践に向けた思考力を養うといった内容であることから、授業形態を演習ではなく実習とした。それに合わせて、本科目の名称を「作業療法総合演習Ⅰ」から「作業療法総合実習Ⅰ」へ改めた。

資料 9-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）作業療法総合実習Ⅰ

授業概要到達目標	<p><u>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。</u></p>	授業概要到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるように学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>
----------	--	----------	---

3) 作業療法総合実習Ⅱ（作業療法総合演習Ⅱ）

作業療法総合演習Ⅱについて、申請時点のシラバスにおいては、各種疾患の病態に関する基礎医学知識、作業療法評価（検査・測定など）及び治療・支援に関する知識を繋げ、職業専門科目で履修した内容を総復習する科目としていた。ご指摘のとおり総合科目の定義に合致せず、不適切であったため、改めた。

本科目では、ゲストスピーカー（脳卒中後の片麻痺者、脊髄損傷者、脳性麻痺者）の講話から、学生自身が行う面接や情報収集を経て、生活障がい者として地域の中で暮らす方々がその能力を十分に発揮し、地域社会に参加していくことの弊害となる課題を抽出し、作業療法学だけではなく近隣領域等、他分野からの学びを参考にしながら、課題解決のための具体策を検討する。以上の実習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、作業療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

なお、科目名称である「作業療法総合演習Ⅱ」は、是正項目12のご指摘を受け、授業形態の設定の考え方を明確にし、それに基づいて科目名称を検討した結果、授業が事例の検討とそのフィードバックを通して実践に向けた思考力を養うといった内容であることから、授業形態を演習ではなく実習に改めた。それに合わせて、本科目の名称を「作業療法総合演習Ⅱ」から「作業療法総合実習Ⅱ」へ改めた。

資料 9-3 : シラバス (作業療法総合実習Ⅱ) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 作業療法総合実習Ⅱ

<p>授業概要到達目標</p>	<p><u>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺、切断等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し作業療法士としての対応策の提案ができる応用力を育成する。</u></p>	<p>授業概要到達目標</p>	<p>作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>
-----------------	--	-----------------	--

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 「シンメディカル論」では、チームアプローチの実際について学修すること目的に、理学療法学科と作業療法学科の学生全員（120名）が同時に受講することを計画しているが、シラバスを確認しても講義や演習に係る具体的な活動内容が十分に明示されておらず、教育効果を上げるために、どのような授業が展開されるのか不明確であるため、明確に説明すること。

(対応)

「シンメディカル論」について「具体的な活動内容と教育効果をあげるためにどのような授業展開がされるのか明確に説明すること」とのご指摘であるが、本科目は、既設の大学（藍野大学）で行なっている授業科目を、本学に適した内容に変更をし、総合科目に配置したものである。是正事項1の「既設の大学との違いを明確にすること」との指摘を踏まえると、本科目をそのままの内容で行うことは不適切であると判断したため、具体的な活動内容等の説明を行うのではなく、科目の名称及び内容を改め、その具体的な活動内容について説明を行う。

1) 当初予定していた科目の主旨と変更理由

シンメディカルとは、本法人が提唱している理念であり、「看護、理学療法、作業療法を含む医療、福祉、保健の専門家が一緒になり（Sym）、シンフォニーを奏できるように協力して患者さん中心の医療（Medical）を行うことが重要である」との考えを指し、「シンメディカル論」もこの考えに依拠した科目となる。この度、既設の大学（藍野大学）との養成する人材像の違いを明確にした際、保健・福祉・スポーツ・就労等、医療以外の分野で活躍する理学療法士・作業療法士の養成を掲げることにしたため、「患者さんを中心とした医療専門職の協力・協働」の在り方を学ぶ本科目を総合科目として行うのは不適当であると判断した。

2) 科目名称等

本科目の名称について「シンメディカル論」から「協働連携論総合実習」へ改める。

なお、配当年次（4年次後期）、科目区分（必修科目）及び、理学療法学科、作業療法学科の学生全員（120名）を対象とする点は、申請時と同様とする。

3) 授業の概要・実施計画

地域で生活している障がい者（脳卒中後の片麻痺者、脊髄損傷者、脳性麻痺者）をゲストスピーカーとして招き、生活状況の現状をお話しいただく。入院生活時の状況と現在の生活状況を対比し、病院等から家庭に帰り生活者となることによって、新たな生活課題に直面した状況を理学療法学科、作業療法学科の学生に提示する。本科目は、ゲストスピーカーの講話を題材として、理学療法学科、作業療法学科の学生が一緒になり、生活課題の発見と解決策を導き出すプロセスを通じて、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的とする。

4) 実施方法

講義中心の一方向性の授業では、教員と学生あるいは学生同士が意見交換を行うことが難しいため、学修した知識と技術を実践できるようにするため、少人数でのグループを構成し、学科の異なる学生同士あるいは教員、同じ学科同士の学生あるいは教員とが議論を行う中で授業を展開する。

理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名の合計 120 名を各学科 4 グループに分け、理学療法学科 20 名、作業療法学科 10 名の合計 30 名を 1 教室の構成人数とする。さらに、理学療法学科 3 名、作業療法学科 2 名の 5 名を 1 グループとし、1 教室を 6 グループ構成とすることで、小グループでのグループディスカッションができる環境を設定する。なお、1 教室には学科の異なる担当教員及び補助教員（科目担当以外の専任教員）の 2 名を配置する。

教室ごとにゲストスピーカーに講演いただいた直後に、質問時間を設けることで、素早く講演内容の理解をさせる。授業後、グループのメンバーと再度講演内容を吟味し、再質問項目を考えることでグループ間での考え方の共有を促す。その上で、再度教室全体での質問時間を設ける。このように個人からグループへ、そして教室全体へと広がっていくことで、問題の共有化を図る。続いて、1 グループ内で同じ学科の 2～3 名の学生に分かれ、意見を出し合える状況を作り、所属学科の専門的な観点から問題点やその問題へのアプローチ方法を考え、まとめる。それをグループ毎に発表することによって、新たな発見が生まれる状況を作り出す。その発表後に、質疑応答時間を設けることで、さらに吟味する時間を設ける。その後、同一グループに戻り、地域で生活している障がい者の生活課題の解決案を分析・考察する。最終的に、再度各教室担当のゲストスピーカーに対して、プレゼンテーションを行い、フィードバックをいただくことで、思考を深める。以上の方法により、理学療法士・作業療法士としての実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目指す。

資料 9-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）協働連携論総合実習 授業概要到達目標

新		旧	
授業概要到達目標	<p>リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障がい者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障がい者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障がい者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。</p>	授業概要到達目標	<p>リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

10. <単位設定の考え方が不明確>

大学から示された主要授業科目をはじめ、教育課程上、1単位の科目が散見されるが、各科目の単位設定の考え方が説明されておらず、到達目標に照らして、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているのか不明確なため、各科目の単位設定の考え方を明らかにした上で、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されていることを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、理学療法学科、作業療法学科ともに、1単位の科目が多く、各科目の単位設定の考え方についても十分な説明ができていない。そのため、まず、1単位の科目が多い理由、次に理学療法学科、作業療法学科の全体的な単位設定の考え方を説明し、その上で各科目の単位設定の考え方を明確にし、その妥当性を説明する。

1) 1単位の科目を多く設定した理由

1単位の科目を多く設定した理由は次のとおりである。

本学では、科目の内容に合わせて、講義では1単位15時間から30時間、演習及び実習では1単位30時間、臨地実務実習では1単位45時間と設定している。

特に理学療法、作業療法を学修する上での基礎となる科目及び演習、実習、臨地実務実習に直接関係する科目では、学修すべき内容が多く、多くの時間を必要とするため、1単位30時間と設定した。

一般の大学では、講義においては2単位30時間の科目設定が一般的であるが、2単位30時間の内容を1単位30時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした。そのため、1単位の科目が多いが、決して授業時間が短いわけではなく、むしろ同等の科目においては2倍の時間をかけており、授業時間内で、学修成果を上げられるように工夫している。

授業時間外の学修時間についても、本学の教育課程では平均して各期20単位程度を履修する。

時間割上では、学生は1日6時間(3コマ程度)の履修をすることになる。このため、授業時間外の学修は1日2時間から3時間、週末に3時間程度を行うことで、講義及び授業時間外の学修を合わせた1単位45時間の学修は十分に可能であり、1単位の科目は多いが、時間外の学修を阻害するような単位及び科目設定とはなっていない。

また、科目数が多いことで、成績評価が細項目となるため、成績が詳細に分析でき、学生の状況が把握しやすくなり、適切な指導を行うことができると考えている。

2) 全体的な単位及び時間数についての考え方

(1) 専門職大学設置基準に基づく単位及び時間数の考え方

専門職大学設置基準第14条第2項第1号から第3号に基づき、講義、演習及び実習の時間を、本学学則で定めている。

(2) 学則に基づく単位及び時間数の考え方

本学の単位及び時間に関しては、学則第 13 条で次のとおり定めている。

(単位の計算方法)

第 13 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技等については、30～45 時間をもって 1 単位とする。
- (4) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (5) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

以上に基づき、次のように設定をした。

講義の基礎科目、展開科目については、1 単位 15 時間

講義の職業専門科目については、1 単位 15 時間または 30 時間

演習・実習に関しては、1 単位 30 時間

臨地実務実習に関しては、1 単位 45 時間

この度のご指摘を受け、再度授業科目の単位数及び時間数の検討を両学科行った。

①理学療法学科

「体育」は、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、授業形態が「講義」ではなく、実習であったため、時間数を 15 時間から 30 時間に改めた。「基礎理学療法学Ⅲ」も同様、授業形態が実習中心となるため、時間数を 15 時間から 30 時間に訂正し、科目名も「基礎理学療法学実習Ⅰ」に変更した。「徒手理学療法学」は、授業形態が講義と実習を 1 科目の中に含めていたが、講義と実習を分けることで学生が理解しやすく学修できると考え、「徒手理学療法学」を講義 1 単位に、新たに「徒手理学療法学実習」1 単位を設定した。「地域共生論」は、地域住民の暮らしにおける課題を発見する基礎になる科目であり、展開科目の中で重要な科目となるため、より広い範囲の学びを進めるべきであると考えを改め、1 単位から 2 単位に変更した。「協働連携論総合実習」(申請時:「シンメディカル論」)についても、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、講義から実習に改めたため、時間数を 30 時間から 60 時間に変更した。

(新旧対照表) 理学療法学科

新				旧		
	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数
1	体育	1	30	体育	1	15
2	基礎理学療法学実習 I	1	30	基礎理学療法学Ⅲ	1	15
3	徒手理学療法学	1	15	徒手理学療法学	2	15
4	徒手理学療法学実習	1	30	新設	—	—
5	地域共生論	2	15	地域共生論	1	15
6	協働連携論総合実習	2	30	シンメディカル論	2	15

②作業療法学科

作業療法学科においては、臨地実務実習である「作業療法評価実習」及び「作業療法士総合臨床実習 I・II」について実習内容を検討し、見直したことから、単位数のみ変更した。詳細は、是正 15 (1) にて詳述する。また、「体育」と「協働連携論総合実習」は、申請時、講義科目としていたが、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、「体育」及び「協働連携論総合実習」(旧：シンメディカル論) は、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態を講義から実習に改めた結果、1 単位 15 時間から 1 単位 30 時間に変更した。

(新旧対照表) 作業療法学科

新				旧		
	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数	科目名称	単位	1 単位当たりの時間数
1	体育	1	30	体育	1	15
2	作業療法評価実習	5	45	作業療法臨床評価実習	3	45
3	作業療法総合臨床実習 I	7	45	作業療法臨床総合実習 I	8	45
4	作業療法総合臨床実習 II	7	45	作業療法臨床総合実習 II	8	45
5	協働連携論総合実習	2	30	シンメディカル論	2	15

3) 各授業科目の単位及び時間数についての考え方

各科目の単位数及び時間数の考え方は資料 10-1、10-2 の通りであり、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているものと考えている。

資料 10-1：各授業科目の単位及び時間数についての考え方 (理学療法学科)

資料 10-2：各授業科目の単位及び時間数についての考え方 (作業療法学科)

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1 1. <コース・領域の運用計画が不明確>

3つのコース・領域を設けて、それぞれの方向性や領域において、地域社会に貢献できる理学療法士・作業療法士を育成すると説明しているが、コース・領域に関する学生への履修指導の方法についての説明がないほか、養成する人材像ごとの履修モデルの提出もなく、学生に対して、いつ・どのように3つのコース・領域の履修指導を実施するのか不明確である。養成する人材像ごとの履修モデルを明らかにした上で、学生に対する3つのコース・領域の履修指導をいつ・どのように実施するのか明確に説明すること。この際、特定のコース・領域に学生が集中した場合の対応方針についても併せて説明すること。【2学科共通】

(対応)

1) 履修モデル

是正事項2に記載のとおり、検討を行った結果、理学療法学科、作業療法学科で養成する人材像はあくまで1つずつであり、3つのコース・領域ごとに異なる人材を養成するわけではないため、それぞれ3つの履修モデルとして再定義する。そのうえで、3つの履修モデルは資料11-1、11-2のとおりとする。

資料11-1：履修モデル（理学療法学科）

資料11-2：履修モデル（作業療法学科）

2) 履修指導の方法

学生への履修指導の方法については、履修ガイダンスを学科ごとに「入学時ガイダンス」と「2年次後期ガイダンス」の2回に分けて丁寧に行う。

(1) 入学時ガイダンス

入学時ガイダンスは、入学式終了後に、各学科長が入学生に対して行う。まず、学科における人材の養成に関する目的とディプロマ・ポリシーについて分かりやすく説明した後に、教育課程全体の説明を行う。その際、3つの履修モデルの趣旨と違いの説明を行う。履修モデルの分化は3年次より発生するため、2年次後期のはじめに希望（第1希望と第2希望）を聞き、3年次前期のはじめに結果を公表することを伝える。各学科の人材の養成に関わる目的を達成するためには、それぞれの履修人数を均等に配置することが相応しいと考えるため、学生の希望と2年次後期時点の累積GPAを参考に、偏りが生じないように振り分けることも伝える。

よって、入学時ガイダンスにおいて希望が必ず通るわけではないこと、希望の履修モデルに配置されるためには優秀な成績が鍵となるため1年次から学修に励むべきことを伝える。

(2) 2年次後期ガイダンス

2年次後期ガイダンスにおいては、履修モデルの違いについて改めて担任からその説明を行い、希望を記入する用紙を配布し、当年の12月末までに、事務部教務課まで提出するように指示をする。併せて再度、各履修モデルの人数は均等に割り振りすることを伝え、希望と2年次後期時点の累積GPAを基に振り分けることについて説明を行う。希望が必ず通るわけではないこと、希望の履修モデルへの配

置を達成するためには、2年次後期にさらなる成績向上を目指し学修に励むべきことを伝える。

設置の趣旨等を記載した書類 p.76～77 ページ

新	旧
<p>学生が、本学の授業を通じて、必要な能力を習得できるように、本学の教職員は、様々な方法で、その履修指導を行う。まず、入学時に行うオリエンテーションにおいて、事務職員より履修の方法及び卒業要件等についての説明を行い、<u>履修モデルについての説明を含め「入学時ガイダンス」としてそれぞれの学科より行う。</u>また、学生が履修上の不明な点等について聞けるように、授業の開講期間は、事務室の窓口にて、その対応を行う。理学療法学科及び作業療法学科ともに、担任制をひくため、担当教員が、適宜それらについて指導を行うとともに、オフィス・アワーを用意し、その指導時間としても活用する。<u>加えて、「2年次後期ガイダンス」を学科ごとに行い、履修モデルについて2回に分けて丁寧に行う。以下に、その詳細を記載する。</u></p> <p>①入学時ガイダンス</p> <p><u>入学時ガイダンスは、入学式終了後に、学内において各学科長が入学生に対して行う。まず、学科における人材の養成に関する目的とディプロマ・ポリシーについて分かりやすく説明した後、教育課程全体の説明を行う。その際、3つの履修モデルを設けていること及びそれぞれの趣旨と違いの説明を行う。履修モデルの分化は3年次より発生するため、2年次後期のはじめに希望（第1希望と第2希望）を聞き、3年次前期のはじめに結果を公表することを伝える。各学科の人材の養成に関わる目的を達成するためには、それぞれの履修人数を均等に配置することが相応しいと考えるため、偏りが生じないよう学生の希望と2年次後期時点の累積GPAを参考に振り分けることも伝える。</u></p> <p><u>よって、入学時ガイダンスにおいて希望が必ず通るわけではないこと、及び希望の履修モデルに配置されるためには優秀な成績が鍵となるため1</u></p>	<p>学生が、本学の授業を通じて、必要な能力を習得できるように、本学の教職員は、様々な方法で、その履修指導を行う。まず、入学時に行うオリエンテーションにおいて、事務職員より履修の方法及び卒業要件等についての説明を行う。また、学生が履修上の不明な点等について聞けるように、授業の開講期間は、事務室の窓口にて、その対応を行う。理学療法学科及び作業療法学科ともに、担任制を取るため、担当教員が、適宜それらについて指導を行うとともに、オフィス・アワーを用意し、その指導時間としても活用する。</p>

年次から学修に励むよう伝える。

②2年次後期ガイダンス

2年次後期ガイダンスにおいては、履修モデルの違いについて改めて担任からその説明を行い、希望を記入する用紙を配布し、当年の12月末までに、事務部教務課まで提出するように指示をする。併せて再度、各履修モデルの人数は均等に割り振りすることを伝え、希望と2年次後期時点の累積 GPA を基に振り分けることについて説明を行う。希望が必ず通るわけではないこと、及び希望の履修モデルへの配置を達成するためには、2年次後期にさらなる成績向上を目指し学修に励むよう伝える。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1 2. <授業形態の設定が不明確>

実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))で掲げられた各科目について、シラバスや教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))を確認したところ、シラバス等では講義又は演習の内容となっているにもかかわらず、実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))では「実技」としており、不整合が生じているため、各科目の授業内容を再度確認するとともに、適切な授業形態に修正すること。なお、修正に当たってはどのような考え方で授業形態を設定したかが確認できるよう、該当する科目のシラバスとともに、授業形態の設定の考え方を明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学において、「学内で行う実習」のことを演習、「学外で行う実習」のことを実習とし、申請書類の作成を行っていた。実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))で掲げた科目名称の末尾が演習である科目について、以上の考え方より、授業形態を実習とするのは、不適切であると判断し、止む無く、「実技」としていた。ご指摘を受け、本学として講義、実習、演習の定義を次のとおり定めた。そのうえで、全ての開設授業科目の科目名及び授業形態の見直しを次のとおり行った。

1) 講義・演習・実習の定義

本学は、講義・演習・実習の定義を次のように定める。

講義：主として教員による語りや問答を通して、学生に学修内容を伝達する科目。

演習：教員から学生への口頭による学修内容の伝達を踏まえた上で、課題などによって学修を深める科目。

実習：授業で学修した手技・手法について体験を通して学ぶ科目。また、理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目を含む。

実習の定義は、例えば、デジタル大辞泉によると、「講義などで学んだ技術や方法などを実地または実物にあたって学ぶこと」とある。これを理学療法学科、作業療法学科に当てはめた場合、「病院やリハビリテーションセンター等の実地で学ぶこと」または「生身の人体など実物にあたって学ぶこと」等を意味する。本学の実習の定義には「事例の検討や発表」という実地でも実物でもない要素を含めており、一般的な定義よりも広く捉えることとした。リハビリテーション(特に、作業療法)は、心や精神といった目に見えないものを治療の対象あるいは目的として取り扱う。そのための高度な実践力を養うためには、実物を介さずに、グループワークやアクティブラーニング等で、臨床思考を身に付ける必要がある。実習科目の目的は、高度な実践力を涵養することにあるため、「事例の検討や発表」といった要素についても、「実習」の定義の中にも含めるべきだと判断した。

2) 授業科目名称及び授業形態等の見直し

前章の定義を踏まえた上で、シラバスを全て確認したところ、シラバス(授業計画)の新旧対照表のとおりに理学療法学科で25科目、作業療法学科で27科目の授業形態が変更となった。その変更を受け、

該当の授業科目の科目名称の変更を行った。また、実習、実技又は演習という名称が授業計画に混在するシラバスを申請書類として提出していたため、それらシラバスの記載も、授業形態に即して改めた。当該変更に伴い、修正を入れたシラバスは、資料 12-1、12-2 のとおりである。授業科目一覧（別記様式第 2 号（その 2 の 4））の新旧対照表も次で示す。

資料 12-1：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 12-2：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）授業科目の名称及び授業形態 リハビリテーション学部 理学療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	シラバスなし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	演習
3	運動生理学実習	実習	運動生理学演習	演習
4	救急援助論	講義	救急援助論	講義・演習
5	地域包括ケア論	講義	地域包括ケア論	講義・演習
6	基礎理学療法学実習Ⅰ	実習	基礎理学療法学Ⅲ	講義
7	基礎理学療法研究法	講義	基礎理学療法研究法	講義・演習
8	基礎理学療法学実習Ⅱ	実習	基礎理学療法学演習	講義
9	臨床技能論実習	実習	臨床技能論	講義
10	理学療法評価学実習	実習	理学療法評価学演習Ⅰ	演習
11	理学療法評価学演習	演習	理学療法評価学演習Ⅱ	演習・講義
12	運動療法学実習	実習	運動療法学演習	演習
13	義肢装具学Ⅱ	講義	義肢装具学演習	演習
14	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
15	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
16	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
17	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
18	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
19	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
20	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	スポーツ障害系理学療法学演習	演習
21	地域理学療法学実習	実習	地域理学療法学Ⅱ	講義・演習
22	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	演習
23	健康増進実践演習	演習	健康増進実践演習Ⅰ	演習
24	健康増進実践実習	実習	健康増進実践演習Ⅱ	演習
25	協働連携論総合実習	実習	シンメディカル論	講義

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業科目の名称及び授業形態 リハビリテーション学部 作業療法学科

新		旧		
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	シラバスなし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	演習
3	基礎作業学実習Ⅰ	実習	基礎作業学演習Ⅱ	演習
4	基礎作業学実習Ⅱ	実習	基礎作業学演習Ⅰ	演習
5	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	演習
6	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	演習
7	精神障害作業療法評価学実習	実習	精神障害作業療法評価学演習	演習
8	発達障害作業療法評価学実習	実習	発達障害作業療法評価学演習	演習
9	運動器疾患作業療法学実習	実習	運動器疾患作業療法学演習	演習
10	中枢神経疾患作業療法学実習	実習	中枢神経疾患作業療法学演習	演習
11	高次脳機能障害作業療法学実習	実習	高次脳機能障害作業療法学演習	演習
12	精神障害作業療法学実習	実習	精神障害作業療法学演習	演習
13	発達障害作業療法学実習Ⅰ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅰ	演習
14	発達障害作業療法学実習Ⅱ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅱ	演習
15	老年期障害作業療法学実習	実習	老年期障害作業療法学演習	演習
16	日常生活活動論実習	実習	日常生活活動論演習	演習
17	社会生活行為論実習	実習	社会生活行為論演習	演習
18	作業分析活用論実習	実習	作業分析活用論Ⅱ	講義
19	作業療法義肢装具実習	実習	作業療法義肢装具演習	演習
20	生活行為向上マネジメント論実習	実習	生活行為向上マネジメント論演習	演習
21	地域生活作業療法学実習Ⅰ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅰ	演習
22	地域生活作業療法学実習Ⅱ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅱ	演習
23	地域生活作業療法学実習Ⅲ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅲ	演習
24	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	演習
25	協働連携論総合実習	実習	シンメディカル論	講義
26	作業療法総合実習Ⅰ	実習	作業療法総合演習Ⅰ	演習
27	作業療法総合実習Ⅱ	実習	作業療法総合演習Ⅱ	演習

なお、申請時において、「身体障害作業療法基礎技法」としていた講義科目について、実習・実技との誤解を生む科目名称のため、「身体障害作業療法基礎技術論」に名称を変更した。併せて、「作業分析活用論Ⅱ」の授業形態の見直しを行った結果、講義から実習に変更になったことを受け、「作業分析活用論Ⅰ」の名称を「作業分析活用論」とした。

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業科目の名称 作業療法学科

	新	旧
授業科目の名称	身体障害作業療法基礎技術論	身体障害作業療法基礎技法
	作業分析活用論	作業分析活用論 I

(新旧対照表) 実験、実習又は実技による授業科目一覧 (別記様式第 2 号 (その 2 の 4)) リハビリテーション学部 理学療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	当該様式への記載なし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	実技
3	運動生理学実習	実習	運動生理学演習	実技
4	基礎理学療法学実習 I	実習	当該様式への記載なし	
5	基礎理学療法学実習 II	実習	基礎理学療法学演習	実技
6	臨床技能論実習	実習	当該様式への記載なし	
7	理学療法評価学実習	実習	理学療法評価学演習 I	実技
8	当該様式への記載なし		理学療法評価学演習 II	実技
9	運動療法学実習	実習	運動療法学演習	実技
10	徒手理学療法学実習	実習	当該様式への記載なし	
11	当該様式への記載なし		義肢装具学演習	実技
12	神経障害系理学療法学実習 I	実習	神経障害系理学療法学演習 I	実技
13	神経障害系理学療法学実習 II	実習	神経障害系理学療法学演習 II	実技
14	運動器障害系理学療法学実習 I	実習	運動器障害系理学療法学演習 I	実技
15	運動器障害系理学療法学実習 II	実習	運動器障害系理学療法学演習 II	実技
16	内部障害系理学療法学実習 I	実習	内部障害系理学療法学演習 I	実技
17	内部障害系理学療法学実習 II	実習	内部障害系理学療法学演習 II	実技
18	—		小児期理学療法学演習	実技
19	—		老年期理学療法学演習	実技
20	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	スポーツ障害系理学療法学演習	実技
21	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	実技
22	当該様式への記載なし		健康増進実践演習 I	実技
23	健康増進実践実習	実習	健康増進実践演習 II	実技
24	—		リハビリテーション総合演習	実技

(新旧対照表) 実験、実習又は実技による授業科目一覧 (別記様式第 2 号 (その 2 の 4)) リハビリテーション学部 作業療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	—	
2	運動学実習	実習	運動学演習	実技
3	基礎作業学実習Ⅱ	実習	基礎作業学演習Ⅰ	実技
4	基礎作業学実習Ⅰ	実習	基礎作業学演習Ⅱ	実技
5	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	実技
6	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	実技
7	精神障害作業療法評価学実習	実習	精神障害作業療法評価学演習	実技
8	発達障害作業療法評価学実習	実習	発達障害作業療法評価学演習	実技
9	運動器疾患作業療法学実習	実習	運動器疾患作業療法学演習	実技
10	中枢神経疾患作業療法学実習	実習	中枢神経疾患作業療法学演習	実技
11	高次脳機能障害作業療法学実習	実習	高次脳機能障害作業療法学演習	実技
12	精神障害作業療法学実習	実習	精神障害作業療法学演習	実技
13	発達障害作業療法学実習Ⅰ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅰ	実技
14	発達障害作業療法学実習Ⅱ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅱ	実技
15	老年期障害作業療法学実習	実習	老年期障害作業療法学演習	実技
16	日常生活活動論実習	実習	日常生活活動論演習	実技
17	社会生活行為論実習	実習	社会生活行為論演習	実技
18	作業分析活用論実習	実習	—	
19	作業療法義肢装具実習	実習	作業療法義肢装具演習	実技
20	生活行為向上マネジメント論実習	実習	生活行為向上マネジメント論演習	実技
21	地域生活作業療法学実習Ⅰ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅰ	実技
22	地域生活作業療法学実習Ⅱ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅱ	実技
23	地域生活作業療法学実習Ⅲ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅲ	実技
24	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	実技
25	協働連携論総合実習	実習	当該様式への記載なし	
26	作業療法総合実習Ⅰ	実習	作業療法総合演習Ⅰ	実技
27	作業療法総合実習Ⅱ	実習	作業療法総合演習Ⅱ	実技

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

13. <シラバスの内容が不十分>

提出されたシラバスを確認したところ、1単位 45 時間の学修時間数に含まれる「授業時間以外の学習」欄が未記載になっているもの、学生が担当教員に質問等を行うことができる機会を担保するオフィスアワーが未記載になっているもの、授業計画の内容が「活動①」、「活動②」のように各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものなど、専門職大学設置基準第 19 条で規定する授業方法等の明示を満たしていない科目が多いため、全てのシラバスを点検し、不十分なシラバスは是正すること。【2学科共通】

(対応)

「授業時間外の学習」及び「オフィスアワー」が未記載となっていたシラバスについて、その全てに記載を行った。また、各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものについても、専門職大学設置基準第 19 条を踏まえ、その修正を行った。「授業時間外の学習」及び「オフィスアワー」については、新旧対照表で、学修内容が不明確なものについては、シラバスを添付する。

資料 13-1：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 13-2：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業時間外の学習及びオフィスアワー 理学療法学科

新		旧	
授業科目名	授業時間外の学習	授業科目名	授業時間外の学習
	オフィスアワー		オフィスアワー
学びの基盤	授業で学んだ内容を、他の講義で実践して学ぶスキルアップを図るため、必ず復習するようにしてください。	学びの基盤	授業で学んだ内容を、他の講義で実践して学ぶスキルアップを図ってください。
	前期：月 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅰ	各單元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。	解剖学Ⅰ	京都大学での解剖学見学実習を希望する。
	前期：火、木 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅱ	各單元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。	解剖学Ⅱ	記載なし
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅲ	構造と機能が説明できるようになるために講義後、必ず復習をすること。	解剖学Ⅲ	記載なし
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし

運動学Ⅰ	人間の動きは複雑です。 <u>講義後に学生同士で肢位を変え、動きを体感し確認しながら復習を行うこと。</u>	運動学Ⅰ	人間の動きは複雑です。学生同士で肢位を変え、動きを体感し確認しながら進めてください。
	<u>後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
運動学Ⅱ	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。	運動学Ⅱ	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。
	<u>安田 前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
	<u>里中 前期：水 16：10～17：15</u> <u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u>		
運動学実習	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。	運動学演習	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。
	<u>安田 後期：水 16：10～17：15</u> <u>藤谷 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
運動生理学実習	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	運動生理学演習	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	<u>後期：月 16：10～17：15</u>		記載なし
救急援助論	<u>医療職種として重要な知識ですので、各講義ごとに復習をするようにしてください。</u>	救急援助論	記載なし
	<u>後期：水、金 16：10～17：15</u>		記載なし
内科学Ⅰ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。	内科学Ⅰ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。
	<u>前期：火、木 16：10～17：15</u>		記載なし

内科学Ⅱ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。	内科学Ⅱ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし
整形外科Ⅰ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。 授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	整形外科Ⅰ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。
	前期：火 16：10～17：15		記載なし
整形外科Ⅱ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。 授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	整形外科Ⅱ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。
	後期：火 16：10～17：15		記載なし
予防医学	授業後は、配布資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。また復習とともに、他の科目との関連性を広げてください。	予防医学	復習とともに、他の科目との関連性を広げてください。
	山川 前期：木 16：10～17：15		記載なし
	分木 前期：月 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15		
地域包括ケア論	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を予習し、授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	地域包括ケア論	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を復習し、地域社会に興味を持って講義に臨んで下さい。
	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15		記載なし
リハビリテーション概論	講義後は教科書、文献等を見返し要点をまとめることで習になるように進めて下さい。	リハビリテーション概論	本講義は理学療法に至る入口の学問です。リハビリテーションとは何かを考え、幅広い概念で捉えられるよう柔軟な態度で授業に臨んで下さい。また、同時に医療用語の理解を進めて下さい。
	前期：月 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法Ⅰ	講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。特に、ICFについてまとめることで理解を深めてもらいます。学生同士で議論する時間を作ってまとめてください。	基礎理学療法Ⅰ	ICF についてまとめることで理解を深めてもらいます。学生同士で議論する時間を作ってまとめてください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし

基礎理学療法学Ⅱ	<u>授業ごとに復習、レポート作成により考えをまとめる時間を作ってください。</u>	基礎理学療法学Ⅱ	常に、なぜだろうと、疑問を持ち、自分で考えるくせを付けましょう
	前期：木 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法学実習Ⅰ	<u>講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</u>	基礎理学療法学Ⅲ	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法研究法	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。	基礎理学療法研究法	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法学実習Ⅱ	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。	基礎理学療法演習	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。
	後期：月 16：10～17：15		記載なし
臨床技能論実習	<u>理学療法の対象となる疾患・評価・動作について、講義前に復習しておいてください。</u> 授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。	臨床技能論	理学療法の対象となる疾患について、病態、障害像が想起できるように復習しておいてください。 授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。
	川崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
理学療法管理学	<u>日常生活での様々な事象について常に注意し、観察しながら本講義内容を当てはめて生活してみましょう。また、ノートや参考資料等を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</u>	理学療法管理学	日常生活での様々な事象について常に注意し、観察しながら本講義内容を当てはめて生活してみましょう。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
理学療法評価学	理学療法士には各回の内容の関連を含め確実に習得していく必要があるため、復習を行い技術の習得に努めること。	理学療法評価学	理学療法士には各回の内容の関連を含め確実に習得していく必要があるため、復習をし技術の習得に努めること。
	後期：月 16：10～17：15		記載なし

理学療法評価学実習	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。	理学療法評価学演習Ⅰ	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。
	大西 前期：水 16：10～17：15 宇於崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
理学療法評価学演習	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。	理学療法評価学演習Ⅱ	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	山内 前期：水 16：10～17：15 弘部 前期：水 16：10～17：15 藤谷 前期：水 16：10～17：15		記載なし
画像評価学	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり各講義予習・復習してください。	画像評価学	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。
	堀 後期：木 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15		記載なし
運動療法学	本授業においては、解剖学、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	運動療法学	本授業においては、解剖学、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	治郎丸 前期：木 16：10～17：15		記載なし
運動療法学実習	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけられるよう復習すること。	運動療法学演習	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
徒手理学療法学	本講義は、解剖学や運動学が基礎になる応用科目になるので、しっかり予習・復習してください。	徒手理学療法学	本講義は、解剖学や運動学が基礎になる応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし

物理療法学	<u>生理学の分野の復習、講義後は教科書や参考資料を基に復習してください。</u>	物理療法学	本授業においては、寒冷、温熱、電気などの物理的エネルギーが生体に加わった時の生理的反応を評価や治療に応用するため、生理学の分野への理解があった上での学問になります。講義の中でも復習しますが、事前に復習するようにしましょう。
	前期：木 16：10～17：15		記載なし
日常生活活動学	ADL 評価 (Barthel Index、FIM) がしっかりできるように復習してください。 歩行補助具の適合は、学生同士で練習し、適合と歩行指導・介助ができるようになるまで練習してください。	日常生活活動学	ADL 評価 (Barthel Index、FIM) がしっかりできるように復習してください。 歩行補助具の適合は、学生同士で練習し、適合と歩行指導・介助ができるようになるまで練習してください。
	植田 前期：水 16：10～17：15 川崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
義肢装具学Ⅰ	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。 <u>また、講義後は教科書や参考資料を基に復習しておくこと。</u>	義肢装具学	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。
	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15		記載なし
義肢装具学Ⅱ	<u>授業時間は限られているため、授業後に紹介した義肢や装具を実際に手に取って構造や機能の理解を深めるようにしてください。</u>	義肢装具学演習	復習で、授業時間は限られているため、授業で紹介した義肢や装具を実際に手に取って構造や機能の理解を深めるようにしてください。
	大西 後期：火 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15		記載なし
神経障害系理学療法学実習Ⅰ	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は <u>教科書、配布資料等の見返し要点をまとめること</u> で復習になるように進めてください。	神経障害系理学療法学演習Ⅰ	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は効果書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	藤谷 後期：水 16：10～17：15		記載なし
神経障害系理学療法	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は <u>教科書、配布資料等の見返し要点をまとめること</u> で復習になるように進めてください。	神経障害系理学療法	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は効果書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	整形外科学で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科学の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。	運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	整形外科学で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科学の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。
	<u>後期：火 16：10～17：15</u>		記載なし
運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	整形外科学で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科学の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。 <u>また講義後は教科書の復習を行うこと。</u>	運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	整形外科学で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科学の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また解剖学と運動学の知識が重要になりますので、これらの復習もしてください。
	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15		
内部障害系理学療法学実習Ⅰ	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。
	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
内部障害系理学療法学実習Ⅱ	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。
	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
小児期理学療法学	小児疾患についての復習を中心とした自己学習と、実際に学んだ理学療法技術について友達同士で実習の復習もできるだけ多く練習してください。	小児期理学療法学	小児疾患についての復習を中心とした自己学習と、実際に学んだ理学療法技術について友達同士で実習の復習もできるだけ多く練習してください。

	<u>里中 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
スポーツ障害系理学療法実習	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	スポーツ障害系理学療法実習	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	<u>後期：木 16：10～17：15</u>		記載なし
神経筋骨格障害応用論実習	実習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。	神経筋骨格障害応用論実習	実習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。
	<u>山内 後期：水 16：10～17：15</u> <u>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</u> <u>大西 後期：水 16：10～17：15</u> <u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
内部障害応用論実習	必要な文献の収集と、理解を深めポートフォリオを作成してください。	内部障害応用論実習	必要な文献の収集と、理解を深めポートフォリオを作成してください。
	<u>後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
スポーツ障害応用論実習	本授業においては、これまで学んできた全ての科目の理解が必要となります。特にスポーツ分野の科目を中心に復習して基礎知識の整理を行っててください。また、臨床現場において情報収集や検査実、トレーニングができるように実技練習など実践できるように備えておいてください。また、毎日の実習で得た知識・技術の振り返りや教科書の見返しなどにより、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	スポーツ障害応用論実習	本授業においては、これまで学んできた全ての科目の理解が必要となります。特にスポーツ分野の科目を中心に復習して基礎知識の整理を行っててください。また、臨床現場において情報収集や検査実、トレーニングができるように実技練習など実践できるように備えておいてください。また、毎日の実習で得た知識・技術の振り返りや教科書の見返しなどにより、要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	<p>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</p> <p>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</p> <p>野口 後期：水、金 16：10～17：15</p> <p>和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域理学療法学	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。<u>また講義後は教科書の復習を行うこと。そして、自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</u></p>	地域理学療法学Ⅰ	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。</p> <p>自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</p>
	<p>植田 後期：水 16：10～17：15</p> <p>川崎 後期：月 16：10～17：15</p>		記載なし
地域理学療法実習	<p>褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。<u>また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。</u></p>	地域理学療法学Ⅱ	<p>褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。</p>
	<p>弘部 前期：水 16：10～17：15</p> <p>鈴木 前期：水 16：10～17：15</p>		記載なし
理学療法見学実習Ⅰ	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	見学実習Ⅰ	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>		記載なし
理学療法見学実習	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。	見学実習Ⅱ	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>		記載なし
理学療法見学実習Ⅲ	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。	見学実習Ⅲ	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>記載なし</p>
<p>理学療法評価実習</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>
	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>記載なし</p> <p>評価実習</p>

	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>		
<p>理学療法総合臨床実習Ⅰ</p>	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u> <u>植田 前期：火 16：10～17：15</u> <u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u> <u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u> <u>大西 前期：水 16：10～17：15</u> <u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u> <u>里中 前期：水 16：10～17：15</u> <u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u> <u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u> <u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u> <u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u> <u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u> <u>分木 前期：月 16：10～17：15</u> <u>堀 前期：木 16：10～17：15</u> <u>安田 前期：水 16：10～17：15</u> <u>山内 前期：水 16：10～17：15</u> <u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>総合臨床実習Ⅰ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p>記載なし</p>
<p>理学療法総合臨床実習Ⅱ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	<p>総合臨床実習Ⅱ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>		記載なし
理学療法地域実習	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	地域リハビリテーション実習	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p>記載なし</p>

障がい者スポーツ論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。	障がい者スポーツ論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。
	<u>後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
障がい者スポーツ論実習	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。	障がい者スポーツ論演習	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。
	<u>大西 前期：月、水 16：10～17：15</u> <u>安田 前期：水 16：10～17：15</u> <u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
体力測定論	配布資料を中心に復習・課題の作成を行って下さい。	体力測定論	配布資料を中心に復習・課題の作成を行って下さい。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
健康増進実践演習	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。	健康増進実践演習Ⅰ	復習を中心に学習してください。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
健康増進実践実習	<u>次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。</u>	健康増進実践演習Ⅱ	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
パフォーマンス向上論	本授業においては、生理学、運動生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	パフォーマンス向上論	本授業においては、生理学、運動生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	後期：木 16：10～17：15		記載なし
フィットネス論	運動学と生理学の知識を応用することで、フィットネスに対する理解が深まります。 <u>基礎科目のあらかじめ復習をしてから、本講義に臨んでください。講義後は配布資料をまとめるなど復習をしてください。</u>	フィットネス論	運動学と生理学の知識を応用することで、フィットネスに対する理解が深まります。基礎科目の復習をしてから、本講義に臨んでください。
	佐藤 後期：月 16：10～17：15 治郎丸 後期：木 16：10～17：15 大西 後期：火 16：10～17：15		記載なし
ランニングトレーニング論	本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	ランニングトレーニング論	本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	後期：木 16：10～17：15		記載なし
ゴルフトレーニング論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 <u>また授業後は教科書の要点をまとめるなど復習をすること。</u>	ゴルフトレーニング論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。
	宇於崎 後期：月 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15		記載なし
遊びとレクリエーション	講義後は配布資料、参考資料をまとめるだけでなく、 <u>学んだことを基に自らの余暇活動の見直しにつなげてください。</u>	遊びとレクリエーション	自らの余暇活動の見直しにつなげてください。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし

<p>ロボット工学地域活用論応用</p>	<p>本講義においては、ロボット工学の基礎を理解するために、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。</p> <p>また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p> <p><u>安田 後期：水 16：10～17：15</u></p>	<p>ロボット工学地域活用論応用</p>	<p>本講義においては、ロボット工学の基礎を理解するために、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。</p> <p>また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p> <p>記載なし</p>
<p>協働連携論総合実習</p>	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習行うこと。<u>またレポート作成、発表などの準備を各自で進めるようにしてください。</u></p> <p><u>大西 後期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>辛島 後期：水、木 16：10～17：15</u></p> <p><u>有田 後期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 後期：水 16：10～17：15</u></p>	<p>シンメディカル論</p>	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p> <p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程調整すること</p>
<p>理学療法総合演習</p>	<p>予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。</p> <p><u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 後期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 後期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 後期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 後期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>理学療法総合演習</p>	<p>予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。</p> <p>記載なし</p>

リハビリテーション総合演習	興味がある分野に関する先行研究を集め、その内容を整理し、課題の発見や方向性について考えておくこと。実験・調査はゼミで協働して行い、各自が主体的に参加できるように心がけること。	リハビリテーション総合演習	興味がある分野に関する先行研究を集め、その内容を整理し、課題の発見や方向性について考えておくこと。実験・調査はゼミで協働して行い、各自が主体的に参加できるように心がけること。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>植田 後期：火 16：10～17：15</u> <u>大西 後期：火 16：10～17：15</u> <u>里中 後期：水 16：10～17：15</u> <u>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</u> <u>野口 後期：水、金 16：10～17：15</u> <u>弘部 後期：水 16：10～17：15</u> <u>藤谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u> <u>堀 後期：木 16：10～17：15</u> <u>安田 後期：水 16：10～17：15</u> <u>山内 後期：水 16：10～17：15</u> <u>和智 後期：水、金 16：10～17：15</u>		記載なし

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業時間外の学習及びオフィスアワー (作業療法学科)

新		旧	
授業科	授業時間外の学習	授業科	授業時間外の学習
	オフィスアワー		オフィスアワー
学びの基礎	<u>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u>	学びの基礎	予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>金 16：10～17：15</u>		記載なし
物理学Ⅰ	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題(宿題)のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。	物理学Ⅰ	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題(宿題)のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>木 16：10～17：15</u>		記載なし
物理	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演	物理	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演

	<p>習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>		<p>習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
統計学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	統計学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
数学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	数学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
英語Ⅰ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	英語Ⅰ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期 火曜日 2 限目、3 限目 水曜日 3 限目、4 限目 後期 水曜日 3 限目、4 限目 木曜日 2 限目、3 限目</p>
英語Ⅱ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	英語Ⅱ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期 火曜日 2 限目、3 限目 水曜日 3 限目、4 限目 後期 水曜日 3 限目、4 限目 木曜日 2 限目、3 限目</p>
解剖学Ⅰ	<p>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</p> <p>前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	解剖学Ⅰ	<p>京都大学での解剖学実習見学を1回希望する。</p> <p>前期：月、火、水曜日、16:10～17:00</p>

解剖学Ⅱ	<u>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと</u> <u>復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</u>	解剖学Ⅱ	記載なし
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>木 16：10～17：15</u>		後期：月、水、木曜日、16:10～17:00
解剖学Ⅲ	<u>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと</u> <u>復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</u>	解剖学Ⅲ	記載なし
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>木 16：10～17：15</u>		後期：月、水、木曜日、午後 16:10～17:00
生理学Ⅰ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。	生理学Ⅰ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。
	<u>前期：月 16：10～17：15</u> <u>水 16：10～17：15</u>		講義中に情報提供する。
生理学Ⅱ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。	生理学Ⅱ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。
	<u>後期：月 16：10～17：15</u> <u>水 16：10～17：15</u>		講義中に情報提供する。
運動学Ⅰ	<u>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</u>	運動学Ⅰ	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>金 16：10～17：15</u>		記載なし
運動学Ⅱ	<u>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</u>	運動学Ⅱ	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>金 16：10～17：15</u>		記載なし
運動学実	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること	運動学演	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること

	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>火 16：10～17：15</p>		記載なし
薬理学概論	<p>毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。</p>	薬理学概論	<p>毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。</p>
	<p>後期：月 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域包括ケア論	<p>予習：次回行う部分に目を通してくること</p> <p>復習：講義した内容について整理すること</p>	地域包括ケア論	<p>毎回の授業の予習を行ってこること</p>
	<p>後期：木 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
リハビリテーション概論	<p>予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。</p>	リハビリテーション概論	<p>予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		記載なし
作業療法学総論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>	作業療法学総論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
基礎作業学実習Ⅰ	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと</p> <p>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>	基礎作業学実習Ⅰ	<p>その都度の復習をお願いします。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		記載なし
基礎作業学実習Ⅱ	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>	基礎作業学実習Ⅱ	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>

	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
基礎作業学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	基礎作業学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業療法研究法	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。	作業療法研究法	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。
	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
作業療法管理・制度論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態出で受講すること。具体的内容は授業 終了時に次回までの課題を説明する。	作業療法管理・制度論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終 了時に次回までの課題を説明する。
	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行 い日程を調整すること
作業療法と倫理	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通 し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理を することとする。	作業療法と倫理	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通 し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理を することとする。
	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業療法評価学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること	作業療法評価学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること
	後期：水 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実 技練習を行いデモンストレーションに備えること 復：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し 実技練習をすること	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	【準備学習】 <各回共通> 予習:授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技 練習を行いデモンストレーションに備えること。 復習:毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し 実技練習をすること。
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし

身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法評価学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	精神障害作業療法評価学演習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業療法評価学実習	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態で受講すること。具体的内容は授業 終了時に次回までの課題を説明する。	発達障害作業療法評価学演習	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出を した状態で受講すること。具体的内容は授業終 了時に次回までの課題を説明する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
身体障害作業療法基礎技術論	2年前期に修了した科目を十分に振り返っておく ようにしてください。 人の身体を理解するために、各内容を関連付けて 考えられるようになる必要があります。 各自で教科書を読むなどの予習・復習の時間を設 けてください。	身体障害作業療法基礎技術法	2年前期に修了した科目を十分に振り返っておく ようにしてください。 人の身体を理解するために、各内容を関連付けて 考えられるようになる必要があります。 各自で教科書を読むなどの予習・復習の時間を設 けてください。
	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
運動器疾患作	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと	運動器疾患作	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。

	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
中枢神経疾患作業療法学実習	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること	中枢神経疾患作業療法学演習	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること
	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
高次脳機能障害作業療法学実習	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。	高次脳機能障害作業療法学演習	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	精神障害作業療法学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。 演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらおう学生とは事前学習を行う。	精神障害作業療法学演習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。 演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらおう学生とは事前学習を行う。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。	発達障害作業	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。

	後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業療法実習Ⅱ	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。	発達障害作業療法実習Ⅱ	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。
	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
老年期障害作業療法実習	予習：次回の授業範囲について事前に調べること 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと	老年期障害作業療法実習	授業毎に復習をお願いしたい。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
日常生活活動論実習	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。	日常生活活動論実習	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし
社会生活行為論実習	自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。	社会生活行為論実習	自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業分析活用論	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な	作業分析活用論	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な

	<p>分析視点を理解してください。<u>予習は次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習は毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。</u></p>		<p>分析視点を理解してください。</p>
	<p><u>後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
作業分析活用論実習	<p>授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。</p>	作業分析活用論Ⅱ	<p>授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。</p>
	<p><u>後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
家族援助論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>	家族援助論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>
	<p><u>前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>木 16：10～17：15</u></p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
住環境支援論	<p><u>予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u></p>	住環境支援論	<p>その都度の復習をお願いしたい。</p>
	<p><u>前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>木 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
作業療法義肢装具実習	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成 point を熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>	作業療法義肢装具演習	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成 point を熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>
	<p><u>後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
生活行為向上マネ	<p><u>予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u></p>	生活行為向上マネ	<p>記載なし</p>

	<p>前期：水 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。	地域生活作業療法学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。
	<p>前期：水 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習Ⅰ	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。 授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。	地域生活作業療法学実習Ⅰ	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。 授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。
	<p>後期：木 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	地域作業療法学実習Ⅱ	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	<p>後期：火 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習Ⅲ	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。 地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。	地域作業療法学実習Ⅲ	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。 地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。
	<p>前期：火 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
子育て支援論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。	子育て支援論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。

	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
障がい者スポーツ論実習	<p>講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。</p> <p>その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。</p>	障がい者スポーツ論演習	<p>講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。</p> <p>その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。</p>
	<p>前期：安田（水 16：10～17：15）</p> <p>大西（火、木 16：10～17：15）</p> <p>池谷（水 16：10～17：15）</p>		記載なし
作業療法総合実習Ⅰ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>	作業療法総合演習Ⅰ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>安部（火・金 16：10～17：15）</p> <p>嶋川（火・金 16：10～17：15）</p> <p>木岡（水・金 16：10～17：15）</p> <p>杉本（月・金 16：10～17：15）</p>		記載なし
作業療法総合実習Ⅱ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>	作業療法総合演習Ⅱ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>下西（木・金 16：10～17：15）</p> <p>澤（水・金 16：10～17：15）</p> <p>木岡（水・金 16：10～17：15）</p> <p>杉本（月・金 16：10～17：15）</p>		記載なし
協働連携論総合実習	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p>	シンメデイカル論	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>分木（水 16：10～17：15）</p> <p>辛島（水・木 16：10～17：15）</p> <p>有田（月・水 16：10～17：15）</p> <p>池谷（水 16：10～17：15）</p>		記載なし

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

14. <遠隔地の実習施設の対応方法が不明確>

実習先について、学生負担や適切な実習指導体制の観点から、学科ごとに実習先の地域分布を示した上で、遠方の実習先においては過度な学生負担となっていないか、教員の巡回指導等が適切に行われる体制となっているかを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学の臨地実務実習施設については、本学の定める実習目標に対応できるよう、滋賀県内をはじめ京都府、大阪府等の近畿圏域から全国各地に受け入れ施設を確保していた。しかし、遠隔地の実習先における学生への過度な負担や、教員の巡回指導等の観点から、受け入れ施設全体の見直しを行い、学生に対する負担の軽減と無理のない巡回指導が可能となるよう修正した。

1) 遠隔地の実習先の見直し

本学は滋賀県内で唯一の理学療法士・作業療法士の養成校となることから、滋賀県出身の学生が多くなることが見込まれる。この観点から、実習先に通うことが可能な地域を「滋賀県、京都府南部、大阪府北部～大阪市内、岐阜県南部、福井県嶺南部」と仮定し、遠隔地の定義を「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1時間半を越える範囲」とすると、理学療法学科においては107施設中20施設(京都府2施設・大阪府1施設・福井県1施設を含む)、作業療法学科においては71施設中11施設(京都府1施設・大阪府1施設を含む)が遠隔地の実習地に該当していた。このため、理学療法学科においては北海道、宮城県、千葉県の受け入れ施設を省き、新たに承諾の得られた京都府1施設、大阪府2施設を臨地実務実習施設として加えた。また、作業療法学科においては富山県、石川県、静岡県、広島県、和歌山県、奈良県、兵庫県、遠隔地となる京都府1施設、大阪府1施設の受け入れ施設を省き、56施設とした。

臨地実務実習施設の変更(都道府県別)とその分布図を以下に示す。

(新旧対照表) 理学療法学科 臨地実務実習施設

新		旧	
都道府県	施設数	都道府県	施設数
北海道	0	北海道	1
宮城	0	宮城	1
千葉	0	千葉	1
石川	2	石川	2
福井	2	福井	2
岐阜	1	岐阜	1
静岡	1	静岡	1
愛知	1	愛知	1
滋賀	64	滋賀	64
京都	20	京都	19

大 阪	<u>10</u>	大 阪	8
兵 庫	2	兵 庫	2
和 歌 山	1	和 歌 山	1
岡 山	1	岡 山	1
徳 島	1	徳 島	1
愛 媛	1	愛 媛	1
合 計	107	合 計	107

(新旧対照表) 作業療法学科 臨地実務実習施設

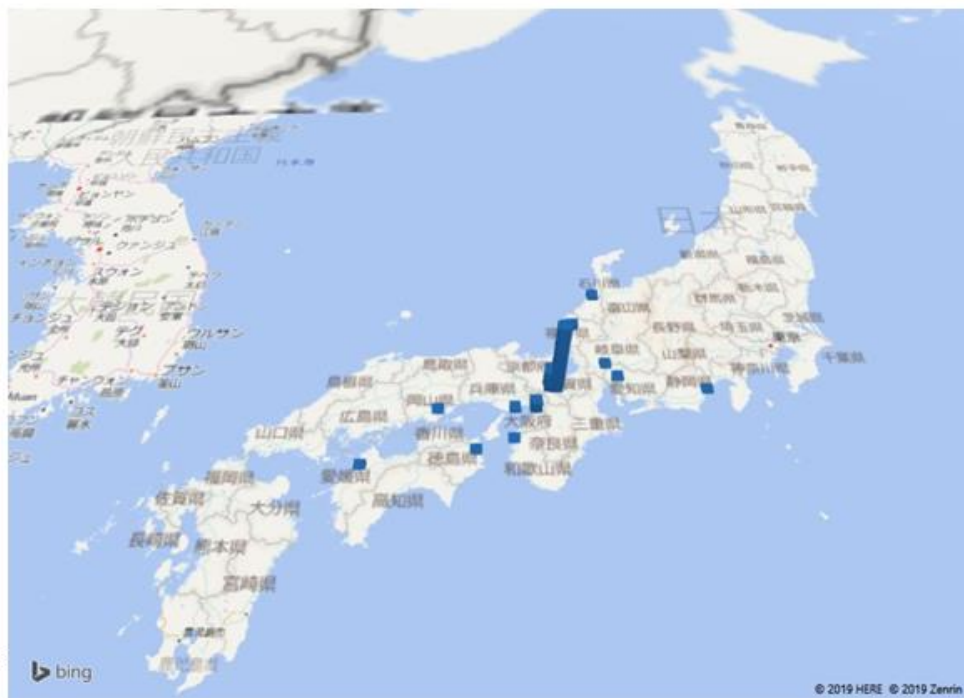
新		旧	
都道府県	施設数	都道府県	施設数
富 山	<u>0</u>	富 山	1
石 川	<u>0</u>	石 川	2
福 井	<u>0</u>	福 井	2
静 岡	<u>0</u>	静 岡	1
滋 賀	44	滋 賀	44
京 都	<u>9</u>	京 都	12
大 阪	<u>3</u>	大 阪	4
兵 庫	<u>0</u>	兵 庫	1
奈 良	<u>0</u>	奈 良	2
和 歌 山	<u>0</u>	和 歌 山	1
広 島	<u>0</u>	広 島	1
合 計	<u>56</u>	合 計	71

理学療法学科 臨地実務実習施設地域分布図

理学療法学科 実習先地域分布図

都道府県	施設数
石川	2
福井	2
岐阜	1
静岡	1
愛知	1
滋賀	64
京都	20
大阪	10
兵庫	2
和歌山	1
岡山	1
徳島	1
愛媛	1
合計	107

は滋賀県から通える地域を示す。(一部地域を除く。京都府北部など)

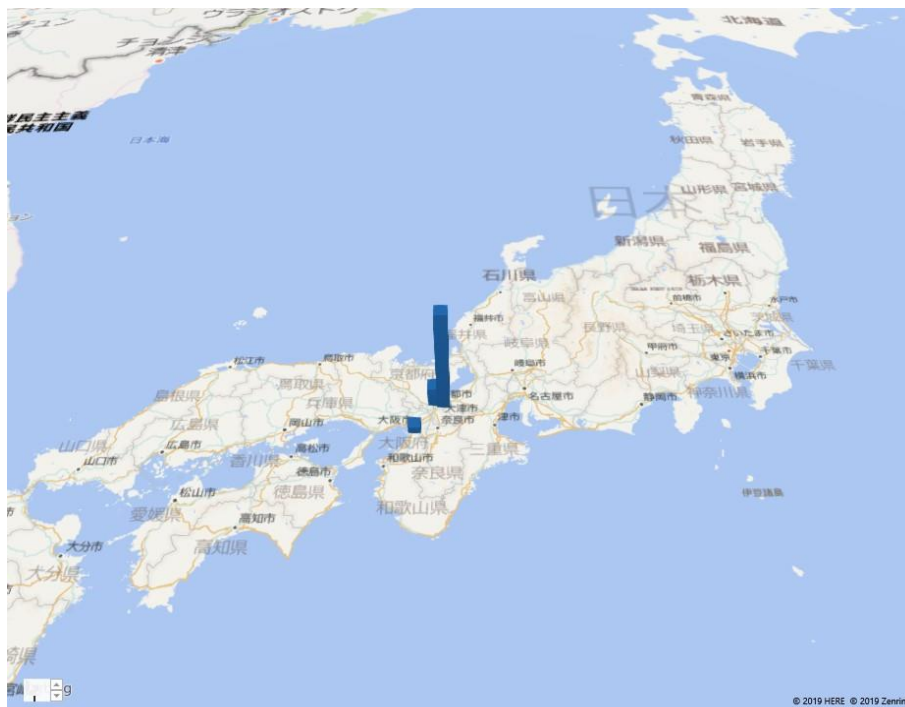


作業療法学科 臨地実務実習施設地域分布図

作業療法学科 実習先地域分布図

都道府県	施設数
滋賀	44
京都	9
大阪	3
合計	56

は滋賀県から通える地域を示す。



2) 学生への配慮

実習配置は、「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1時間半を越えない範囲」とし、遠隔地の実習先とならないよう実習調整者がその調整を行うこととする。一人の学生に複数回遠隔地の実習先が配置されないよう、実習調整者がその調整を行うが、実習先の受入れ状況等、遠隔地の実習先に配置せざるを得ない状況になった場合は、実習先の宿舎またはアパートを借り上げ、家賃については本学が負担する。

3) 教員の巡回指導体制

臨地実務実習のうち、「理学療法評価実習」、「作業療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ」、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」及び「作業療法総合臨床実習Ⅱ」において、専任教員（実習担当教員）における巡回指導を行う。実習担当教員一人あたりの担当施設数は、担当科目数を考慮して、「理学療法評価実習」で3施設程度、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」で5施設程度としている。また、作業療法評価実習で5施設程度、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」で5施設程度とし、担当教員の過度な負担を避け、担当科目の授業に支障がでないよう調整する。

実習担当教員の巡回指導は、実習期間中に必ず1回は実施し、実習における問題が生じた場合には、必要に応じて2回目以降の巡回指導を行う。巡回指導の時期については、全ての学生において一定となるように配慮し、評価時期が平等となるよう調整する。また、巡回指導日に実習担当教員の担当科目を入れないよう時間の調整を行う。

下表に実習地と本学または実習担当教員の居住地までの距離ならびに所要時間における実習巡回条件区分を下表に示す。

実習巡回条件

区分	巡回日程	施設数	大学から施設までの条件
近距離施設	1日以内	1~3	大学もしくは教員の居住地から半径50km以内 もしくは、移動時間が片道1時間半程度
中距離施設	1日以内	1~2	大学もしくは教員の居住地から移動時間が片道1時間半以上、半日以内
遠距離施設	1泊2日	1~3	大学もしくは教員の居住地から移動時間が半日以上

表の区分より、本学から実習地までの距離及び所要時間に応じて1度に巡回可能な施設数を調整する。1人の担当教員が担当する実習地は、1実習期間中に複数の遠距離施設を担当しないよう、実習調整者が組み合わせの調整を行い、巡回の際の移動に無理が生じないよう配慮し、担当教員への過度な負担による教育の質の低下が起こらないよう調整する。なお、巡回指導における移動手段は、本学から向かう場合はその利便性の配慮から公用車もしくは自家用車とし、担当教員の居住地から向かう場合は、自家用車もしくは公共交通機関を使用する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

15. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。

【2学科共通】

(1) 臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、例えば「OSCE (客観的臨床能力試験)」などにより、実習前における能力の到達度の確認や、実習後における公平な成績評価の実施が重要であるが、本学科の教育課程上、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画を明確に説明すること。特に実習後の客観的臨床能力試験については実施すると説明はあるが、十分な説明がなく、具体的な実施計画が不明なため、時期や方法を含めた詳細の実施計画を明確に説明すること。

(対応)

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるのご指摘を受け、理学療法学科、作業療法学科ともに、臨地実務実習の計画の見直しを行った。第一に、全体計画の見直した点について記載を行った後、第二に、実習前における能力の到達度の確認方法について、第三に、実習後の OSCE (客観的臨床能力試験) などの具体的な実施計画についてその記載を行う。

1) 理学療法学科

(1) 全体計画の見直し

申請時点の教育課程においては、1年次から3年次までの3年間で、優先的に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則った単位を履修させ、4年次に展開科目・総合科目を学ぶ構成としていたが、是正事項1を受け、全ての科目の配当年次の見直しを行った。臨地実務実習の名称を変更、次に実習目的の見直しを行った。

①臨地実務実習の名称の変更と臨地実務実習配当年次の見直し

臨地実務実習の名称の変更については、本学は、リハビリテーション学部の中に理学療法学科と作業療法学科を併設しているが、理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが同じであるにも関わらず、実習の名称のつけ方が異なっていた。そこで、臨地実務実習の名称を学科(理学療法・作業療法)、実習の種別(見学・評価・総合臨床・地域)の順で表すこと(例:理学療法評価実習)で、実習内容が分かりやすくなるように名称変更を行った。

配当年次については、理学療法総合臨床実習Ⅱを3年次後期から4年次前期へ変更した。見直しを図った結果、理学療法士の養成に必要な科目に偏らず、展開科目を含めた様々な科目が1年次から段階的に学べるように修正された。このことにより、我々が3年制の専門学校の教育では行えなかった理学療法士の知識や技術が、新たな分野で活かせる可能性を並行して学ぶことができ、より広い視野をもち、柔軟な思考で問題解決能力の高い人材を養成できると考える。

臨地実務実習の配当年次の変更及び実習の名称の変更内容を以下に示す。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第 2 号 (その 2 の 1) リハビリテーション学部 理学療法学科

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
理学療法見学実習 I	1 前	見学実習 I	1 前
理学療法見学実習 II	1 後	見学実習 II	1 後
理学療法見学実習 III	2 前	見学実習 III	2 前
理学療法評価実習	3 前	評価実習	3 前
理学療法総合臨床実習 I	3 後	総合臨床実習 I	3 後
理学療法総合臨床実習 II	4 前	総合臨床実習 II	3 後
理学療法地域実習	4 前	地域リハビリテーション実習	4 前

②「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習 I・II」の実習目的の見直し

平成 30 年 10 月 5 日に新しい理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが示され、本学が申請した実習の目的から変更されている点があったため、「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習 I・II」について、下表のとおり修正する。

新		旧	
実習名	目的	実習名	目的
理学療法 評価実習	<u>診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準 I (スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等)、理学療法評価技術の水準 I (情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等)の内容を実践することを目標とする。</u>	評価実習	理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動がとれる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、理学療法士の指導管理の下、理学療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目的とする。
理学療法 総合臨床 実習 I	<u>診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準 I (関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等)の一部を実践することを目標とする。</u>	総合臨床 実習 I	理学療法評価から治療までの一連の理学療法について学ぶ実習であるが、臨床参加型実習において理学療法業務の水準 I の一部を実践し理学療法士の思考過程を理解することを目的とする。

理学療法 総合臨床 実習Ⅱ	診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。	総合臨床 実習Ⅱ	理学療法評価から治療までの一連の理学療法について学ぶ実習であるが、臨床参加型実習において理学療法業務の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践し、理学療法士の思考過程を理解することを目的とする。
---------------------	--	-------------	---

資料 15-1：水準と臨床実習の教育目標との関係

(2) 「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」の概要

		1限	2限	3限	4限
実習前	木	実習オリエンテーション①	筆記試験	ポートフォリオの書き方 実習前レポート作成	
	金	実習オリエンテーション②	実習前レポート作成・提出		
実習中		臨地実務実習			
実習後	月			実習セミナー	凝縮ポートフォリオ作成
	火	凝縮ポートフォリオ作成・提出			

①実習前

実習前、関連する領域の知識について筆記試験で一定の水準に到達していることの確認を行う。筆記試験の範囲は以下に示す。実習中に作成するポートフォリオの書き方を指導する。さらに、実習施設の概要や役割をまとめ、実習前レポートとして提出することで、実習に臨む体制を整える。

	筆記試験
理学療法見学実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリテーション概論 ●コミュニケーション論 ●基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ
理学療法見学実習Ⅱ	理学療法見学実習Ⅰの筆記試験の範囲に加えて、理学療法評価学
理学療法見学実習Ⅲ	理学療法見学実習Ⅱの筆記試験の範囲に加えて、老年医学
理学療法地域実習	<ul style="list-style-type: none"> ●地域理学療法学 ●地域包括ケア論

②実習中

学生は、様々な対象者の理学療法の介入場面の見学を通して経験し、多様な理学療法の支援のあり方を学ぶ。その際、実習指導者から口頭、文章、図示などの教示がされる。それらの要点をまとめて実習ポートフォリオを作成し、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。

実習担当教員は、実習中と実習後に、実習指導者に電話連絡し、実習の状況を把握する。実習に支障をきたしている時は、実習担当教員が訪問し、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と実習担当教員が行う。実習指導者は、本学の評価表を用いて行うが、実習担当教員が電話連絡した際に、本学の評価基準が守られているか確認する。

また、学生が実習中に作成した実習ポートフォリオと成長報告書は、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

③実習後

実習後は、凝縮ポートフォリオの作成を通して実習の振り返りを行う。提出された凝縮ポートフォリオとその作成中の取り組みの状況、実習施設の概要や役割の理解の深まり等、見学実習の学修の成果の観点で学内教員が評価を行う。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験とOSCEの評価を含めていたが、実習前の筆記試験とOSCEは、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うように変更した。

「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験	評価に含めない (知識の水準の確認)	口頭試問	提出課題 30% 口頭試問 40% 筆記試験 30%
	実習前レポート		実習前レポート	
実習中	実習指導者評価	60%	成長報告書	
	実習ポートフォリオ			
	成長報告書			
実習後	凝縮ポートフォリオ	40%	筆記試験 口頭試問 実習後レポート	

(3)「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の概要

		1限	2限	3限	4限
実習前	月	実習オリエンテーション①	筆記試験	OSCEのオリエンテーション	OSCE課題の実技練習
	火	OSCE（火曜日・水曜日の2日間かけて試験を実施する。）			
	水	学生は2日間の8コマのうち、あらかじめ指定された1コマ（90分）の時間に試験を受ける。試験以外の時間は、実技練習の時間に充てる。			
	木	OSCEのフィードバック・実技練習			
	金	ポートフォリオの書き方	実習オリエンテーション②		
実習中	臨地実務実習				
実習後	月			実習セミナー	OSCEのオリエンテーション
	火	実習報告会			
	水	口頭試験			
	木	OSCE（木曜日・金曜日の2日間かけて試験を実施する。）			
	金	学生は2日間の8コマのうち、あらかじめ指定された1コマ（90分）の時間に試験を受ける。試験以外の時間は、実技練習の時間に充てる。			

※理学療法総合臨床実習Ⅰは、実習開始が第2週の月曜日となるため、実習前の学内の取り組みは前月の最終週に行う。

①実習前

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」においては、知識レベルを判定するための筆記試験と技術レベルを判定するOSCEの2つの試験において、一定の水準に到達していることを確認する。筆記試験は、当該実習までに履修した科目から実習に必要な基本的な知識を問うものである。OSCEは、学生に理学療法士として必要な技能、態度の基本能力を身に付けさせるものである。本学では、「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の実習の前後に設ける。これらは、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように設定する。筆記試験とOSCEの試験範囲と内容は下表に示す。

	筆記試験	OSCE（課題例）
理学療法評価実習	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎医学（解剖学・生理学・運動学） ●疾患学（内科・整形外科・神経内科・小児科等） ●理学療法評価学 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な理学療法評価（医療面接、血圧・脈拍、関節可動域測定、徒手筋力検査、形態計測、反射、片麻痺運動機能検査等）
理学療法総合臨床実習Ⅰ	理学療法評価実習の筆記試験の範囲に加えて、運動療法学・物理療法学・日常生活活動学・義肢装具学	<ul style="list-style-type: none"> ●関節可動域運動（基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル） ●歩行補助具の適合、歩行の評価・分析 ●物理療法の実施

理学療法総合臨床実習 II	理学療法総合臨床実習 I の筆記試験の範囲に加えて、障害別理学療法治療学	<ul style="list-style-type: none"> ●関節可動域訓練（患者想定し、基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル） ●起居動作（寝返り・起き上がり等）とベッド・車いす間の移乗指導と介助 ●歩行の指導と介助
---------------	--------------------------------------	---

OSCE の具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、次のように設定する。

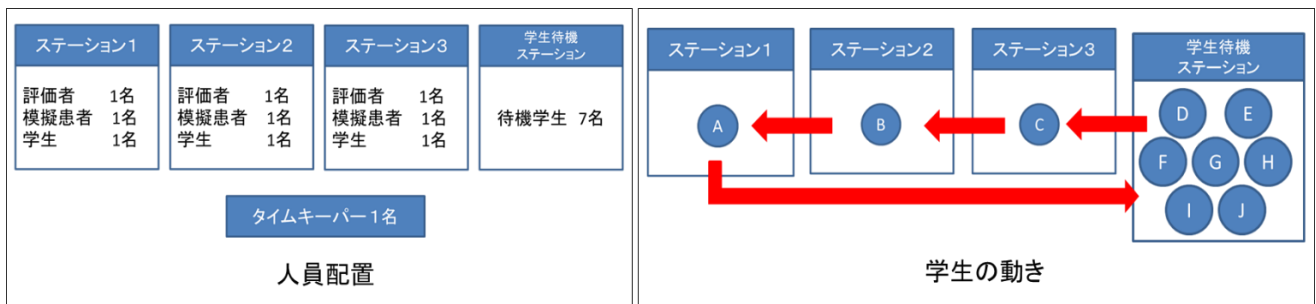
OSCE の試験環境の設定

試験会場は、1 階実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、3 つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。1 つのステーションに配置される人員は、評価者 1 名、模擬患者 1 名、受験する学生の 3 名とする。学生待機ステーションには 7 名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

OSCE の実施方法

1 つのステーションでの試験時間は 5 分で、試験終了 2 分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を 1 分間設ける。つまり、学生が 1 課題を受験に必要な時間は 8 分間となる。

理学療法学科の 80 名の学生を 10 名ずつの 8 グループに分け、1 グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を 1 名ずつ配置し、3 ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従って下の図のとおりローテーションする。10 名が、すべての課題を終了するために必要な時間は 80 分となるが、余裕をもって、1 グループ 1 限（90 分）ずつ割り当てる。つまり、8 グループに対して OSCE を行うために 8 時限必要となり、2 日間かけて行う計画である。



OSCE の課題（例）股関節の関節可動域の測定

設問) 変形性股関節症の患者です。この患者の股関節の屈曲の関節可動域（他動）を測定して、結果を報告してください。測定の前に、評価者に基本軸、移動軸を伝えてください。測定後は、患者は端坐位にしてください。制限時間は 5 分です。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	右変形性股関節症	疼痛	右股関節の荷重痛
年齢・性別	不問	ROM 制限	右股屈曲 100°伸展 -10°
受傷・発症後	1 年前	筋力低下	右股屈曲・伸展 MMT3
主訴	歩くとき股関節が痛い	起居動作	自立
理解・表出	正常	歩行	自立

採点基準) ルーブリック評価の採点基準に基づき、評価をする。

②実習中

実習中、学生は、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとること、これまでに学修した知識を臨床場面に結びつけ、実習指導者の下で、リスク管理技術及び理学療法評価技術、治療技術の模倣・実施を経験し、理学療法の一連のプロセスを学ぶ。それを実習ポートフォリオにまとめ、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況(何をどのように理解したか)を確認し、その後の指導に活かす。また、実習担当教員は、巡回時に学生の実習ポートフォリオを確認し、作成がスムーズに進行できるように支援を行う。

実習中は、各実習施設に最低1名の専任教員(実習担当教員)を配置し、実習期間中に必ず1回以上、巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている時は、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と教員が行う。実習担当教員は、訪問あるいは電話連絡時に、実習指導者とともに学生の状況を評価表に沿って中間評価を行う。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。その際、本学の定める評価の基準と実習指導者の評価に差があるときは、評価をつける根拠を聞きとり、評価基準を説明し、評価が適正に行われるように働きかける。また、実習中に作成した実習ポートフォリオは、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験と OSCE」から、「凝縮ポートフォリオの報告に対する口頭試問と OSCE」に変更した。知識は、凝縮ポートフォリオをもとに実習報告を行い、経験した内容に関する口頭試問を行うことで確認する。また、技術は、実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定して、OSCE を行い、実習目的の到達度を確認する。なお、この口頭試問及び OSCE は、実習終了後1週間の間に実施する。

変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験と OSCE を行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の特性によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請した計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認

するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うように変更した。

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験	評価に含めない (知識の水準の確認)	OSCE	提出課題 10% 施設評価 20% OSCE 40% 筆記試験 30%
	OSCE		筆記試験	
実習中	実習指導者評価	60%	施設評価	
	実習ポートフォリオ		凝縮ポートフォリオ	
	体験チェックリスト		成長報告書	
	成長報告書			
実習後	凝縮ポートフォリオ	40%	OSCE	
	口頭試問		筆記試験	
	OSCE			

2) 作業療法学科

(1) 全体計画の見直し

申請時点の教育課程においては、1年次から3年次までの3年間で、優先的に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則った単位を履修させ、4年次に展開科目・総合科目を学ぶ構成としていたが、是正事項1を受け、全ての科目の配当年次を見直すとともに、臨地実務実習の名称及び単位数を変更した。次に各臨地実務実習の見直しを行い、具体的にどのような形で実習を行うかの流れを提示した。

①臨地実務実習の名称及び実習単位数の変更

臨地実務実習の名称変更については、本学は、リハビリテーション学部の中に理学療法学科と作業療法学科を併設しているが、理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが同じであるにも関わらず、実習の名称のつけ方が異なっていた。そこで、臨地実務実習の名称を学科(理学療法・作業療法)、実習の種別(見学・評価・総合臨床・地域)の順で表すこと(例:作業療法評価実習)で、実習内容が分かりやすくなるように名称変更を行った。

単位数の変更については、実習単位を「作業療法評価実習」では3単位から5単位への変更、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」では8単位から7単位への変更を行った。変更理由は、提出した実習計画では、「作業療法評価実習」では、実習地で学ぶ期間が短すぎることに、また、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」では、実習施設と学内とで学ぶ時間が曖昧で分かりづらいことにある。そこで、作業療法の多様な考えを学ぶ機会を学生に設ける為、「作業療法評価実習」は、実習施設で4週間、実習後に学内で1週間の学修を設定した。また、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」は、実習施設で6週間、実習後に学内で1週間の学修を設定した。

配当年次については、「作業療法総合臨床実習Ⅱ」を3年次後期から4年次前期へ変更した。見直しを図った結果、作業療法士の養成に必要な科目に偏らず、展開科目を含めた様々な科目が1年次から段階的に学べるように修正された。このことにより、我々が3年制の専門学校の教育では行えなかった作業療法士の知識や技術が、新たな分野で活かせる可能性を並行して学ぶことができ、より広い視野をも

ち、柔軟な思考で問題解決能力の高い人材を養成できると考える。

臨地実務実習の名称、配当年次及び単位数の変更内容を次に示す。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) リハビリテーション学部 作業療法学科

新			旧		
授業科目の名称	配当年次	単位数	授業科目の名称	配当年次	単位
作業療法見学実習Ⅰ	1後	1	作業療法見学実習Ⅰ	1後	1
作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	作業療法見学実習Ⅱ	2前	1
作業療法評価実習	3前	5	作業療法臨床評価実習	3前	3
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	作業療法臨床総合実習Ⅰ	3後	8
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	作業療法臨床総合実習Ⅱ	3後	8
作業療法地域実習	4前	1	地域作業療法実習	4前	1

②臨地実務実習の内容の見直し

「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の見直し

提出した「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の計画では、1週間（実質5日間）のうち、初日と最終日の2日間が学内での学修、中3日間が実習施設での学修となっていたが、5日間実習施設で実習を行うことに変更した。変更理由は、当初は、実習施設と養成校が協力して学生の学びの支援をする為の計画であったが、実習施設での学びの時間が不十分になると考えたためである。また、見学実習であり、学生間の討論も成長に必要な要因の一つと考え、学生の配置数も1施設2名（「作業療法地域実習」は必要時4名）と変更とした。「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の主な流れを以下に示す。

	月	火	水	木	金	土	日
第1週	オリエンテーション 施設見学					実習 ポー	
	作業療法士の業務見学、作業療法以外の他部門の見学等、患者とのコミュニケーション					トフ	
	実習ポートフォリオの提出					オリ	
	実習指導者のフィードバック				実習の総括	オ報 告会	

※見学実習は、実習施設の体制に従って、週5日（40時間）行う。土曜日に実習ポートフォリオ報告会（5時間）を行い、45時間（1単位）とする。

新		旧	
授業科目の名称	学生の配置数	授業科目の名称	学生の配置数
作業療法見学実習Ⅰ	1施設2名程度	作業療法見学実習Ⅰ	1施設1名程度
作業療法見学実習Ⅱ	1施設2名程度	作業療法見学実習Ⅱ	1施設1名程度
作業療法地域実習	1施設2名又は4名程度	地域作業療法実習	1施設3～4名程度

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の見直し

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の主な流れを以下に示す。

	月	火	水	木	金	土	日	
第1週 実習施設	オリエンテー ション 施設見学	他部門の見学					実習施設の 体制によっ て、実習を 行うことが ある	
	作業療法士の 臨床の見学	作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）の提出						
		実習指導者のフィードバック						
作業療法評 価実習では 第2～3 週、作業療 法総合臨床 実習Ⅰ・Ⅱ では第2～ 5週 実習施設		他部門、カンファレンス、サービス担当者会議等の見学						
		作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施 （情報収集、検査・測定、姿勢評価、ADL評価等）						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）提出						
	巡回教員によ る実習ポート フォリオの内 容の確認	実習指導者のフィードバック						
作業療法評 価実習では 第4週、作 業療法総合 臨床実習 Ⅰ・Ⅱでは 第6週 実習施設		他部門、カンファレンス、サービス担当者会議等の見学						
		作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施（情報収集、検査・測定、姿勢評価、ADL 評価等）						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）、成長報告書提出						
	巡回教員によ る実習ポート フォリオの内 容の確認 （予備日）	実習指導者のフィードバック			実習の総括			
作業療法評 価実習では 第5週、作 業療法総合 臨床実習 Ⅰ・Ⅱでは 第7週 学内	凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオの作成	OSCE（実習 後）、OSCEの 試験の時間外は 凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオ報告会			

※実習中の実習担当教員の巡回は、作業療法評価実習で第2週に1回実施する。作業療法総合臨床実習で第3週に1回実施する。

(2) 「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

①実習前

実習中に作成するポートフォリオの書き方を指導する。さらに、実習前は、実習施設の概要（実践する場がどのような環境にあるのか、どのような対象者がいるのか、作業療法士が用いる介入で多い方法、作業療法士の組織図上の位置、設置にいたる歴史的経緯、実習地の地域の中での役割など）についてまとめ、実習前レポートとして提出することで、実習に臨む体制を整える。

②実習中

学生は、様々な対象者の作業療法の介入場面の見学を通して経験し、多様な作業療法の支援のあり方を学ぶ。その際、実習指導者から口頭、文章、図示などの教示がされる。それらの要点をまとめて実習ポートフォリオを作成し、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。

実習担当教員は、実習中と実習後に、実習指導者に電話連絡し、実習の状況を把握する。実習に支障をきたしている時は、実習担当教員が訪問し、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と実習担当教員が行う。実習指導者は、本学の評価表を用いて行うが、実習担当教員が電話連絡した際に、本学の評価基準が守られているか確認する。

また、学生が実習中に作成した実習ポートフォリオは、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験と OSCE」から、「実習ポートフォリオの発表と提出課題」の2つに変更した。その変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験と OSCE を行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の特徴によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。そこで、実習ポートフォリオをもとに発表を行い、教員が評価する。なお、実習ポートフォリオの発表は、施設実習終了後に実施する。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うよう改める。

「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	実習前レポート	評価に含めない	口頭試問 実習前レポート	提出課題 30% 口頭試問 40% 筆記試験 30%
実習中	実習指導者評価 実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書	60%	成長報告書	
実習後	凝縮ポートフォリオの発表 教員の評価	40%	筆記試験 口頭試問 実習後レポート	

(3) 「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

①実習前

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」においては、知識レベルを判定するための筆記試験と技術レベルを判定する OSCE の 2 つの試験において、一定の水準に到達していることを確認する。

筆記試験は、実習地で出会うことの多い疾患に対する基本的な知識（身体障害領域の実習地であれば、脳梗塞の病態についての知識、基本的な介入方法、評価の視点、治療視点など）を問うものである。目的は、臨地実務実習に行くにあたって、疾患の知識の習得である。

OSCE は、学生に作業療法士として必要な技能、態度の基本能力を身に付けさせるものである。本学では、「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の実習の前後に設ける。これらは、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように設定する。「作業療法評価実習」は、基本的な作業療法介入の手技と療法士面接とし、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」は、実習地で経験しうる技術、手技といった応用的な技能とする。試験課題は、実習施設の特性にあった疾患・障害領域に合わせて患者設定し、臨床実習における OSCE で獲得すべき水準Ⅰ（作業療法臨床実習指針）の技能と本学が推奨する「作業」を通して対象者を理解する為の技能の 2 つの課題とする。

OSCE の具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、次のように設定する。

OSCE の試験環境の設定

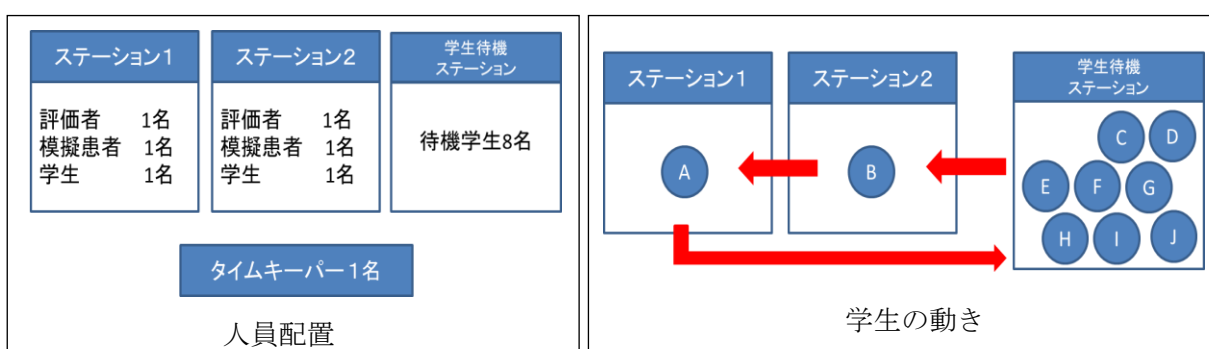
試験会場は、2 階評価実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、2 つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。

1つのステーションに配置される人員は、評価者1名、模擬患者1名、受験する学生の3名とする。学生待機ステーションには8名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

OSCEの実施方法

1つのステーションでの試験時間は5分で、試験終了2分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を1分間設ける。つまり、学生が1課題を受験に必要な時間は8分間となる。

作業療法学科の40名の学生を10名ずつの4グループに分け、1グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を1名ずつ配置し、2ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従って下の図のとおりローテーションする。10名が、すべての課題を終了するために必要な時間は80分となるが、余裕をもって、1グループ1限(90分)ずつ割り当てる。つまり、4グループに対してOSCEを行うために4時限必要となり、1日間かけて行う計画である。



OSCEの課題(例1) 肩・肘関節可動域の検査測定(肩・肘関節動作の機能の評価の技術)

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この患者の肩関節が移転の角度を測定してください。測定の際は基本軸、移動軸を口頭で採点者に説明しながら計測してください。制限時間は5分です。では、始めてください。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準(ループリック評価)で評価をする。

OSCEの課題(例2) 興味関心チェックシートを用いた面接(対象者の「作業」を調査する質問紙法、面接の技術)

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この方の「作業」に着眼したアプローチを考えたあな

たは、興味関心チェックシート（様々な作業活動が記載されており、それぞれの経験の有無、関心の有無を問う質問紙）を用いた面接を実施することになりました。制限時間は5分です。では、始めてください。

準備物) 鉛筆、消しゴム、興味関心チェックシート（制限時間の問題から設問項目を5問とする）、机

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準（ループリック評価）にて評価する。

②実習中

実習中、学生は、作業療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとること、これまでに学修した知識を臨床場面に結びつけ、実習指導者の下で、リスク管理技術及び作業療法評価技術、治療技術の模倣・実施を経験し、作業療法の一連のプロセスを学ぶ。それを実習ポートフォリオにまとめ、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。また、教員は、巡回時に学生の実習ポートフォリオを確認し、作成がスムーズに進行できるように支援を行う。

学生には毎週末に実習地でどのような経験をしたかを記す体験チェックリストを課題として設定する。この表は、作業療法の実践の何をどれくらい経験したのかを明らかにし、経験できていないものは、経験する機会を実習指導者と学生、実習担当教員で確認するものである。

実習中は、各実習施設に最低1名の専任教員（実習担当教員）を配置し、実習期間中に必ず1回以上巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている時は、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と教員が行う。実習担当教員は、訪問あるいは電話連絡時に、実習指導者とともに学生の状況を評価表に沿って中間評価を行う。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。その際、本学の定める評価の基準と実習指導者の評価に差があるときは、評価をつける根拠を聞きとり、評価基準を説明し、評価が適正に行われるように働きかける。また、実習中に作成した実習ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書は、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験とOSCE」から、「凝縮ポートフォリオの発表とOSCE」の2つに変更した。その変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験とOSCEを行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の特性によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。そこで、知識は、凝縮ポートフォリオをもとに発表を行い、教員が評価する。OSCEは、実習で経験した疾患・障害

領域に合わせて患者設定して、実習目的の到達度を確認する。なお、凝縮ポートフォリオの発表（作成の期間を含む）と OSCE は、施設実習終了後 1 週間の間に実施する。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うよう改める。

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験 OSCE	評価に含めない	筆記試験 OSCE	提出課題 10% 施設評価 20% OSCE 40% 筆記試験 30%
実習中	実習指導者評価 実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書	50%	施設評価 凝縮ポートフォリオ 成長報告書	
実習後	凝縮ポートフォリオの発表 OSCE 教員の評価	50%	OSCE 筆記試験	

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

15. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。

【2学科共通】

(2) 提出された巡回指導計画表に、担当教員の氏名が記載されておらず、巡回指導のシフトが適切に組まれているのか不明なため、巡回指導計画表を修正した上で、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることを説明すること。その際、完成年度時において、担当教員が講義と実習を同時期に担当する場合には、教員ごとの科目担当時間割等を資料として添付した上で、教員の負担等の観点から無理のない計画であることを併せて説明すること。

(対応)

申請時に提出を行った巡回指導計画表に、担当教員の氏名を記載しておらず不適切であった。巡回指導計画表(資料15-2、15-3)及び実習担当教員ごとの勤務スケジュール表(資料15-4、15-5)を添付することで、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることの説明を行う。

完成年度における実習担当教員の科目担当時間割を資料に示す。全ての実習担当教員に研究日を1日設定しており、これに科目担当を入れても担当していない時間があり、この時間を巡回指導にあてる。1人あたりの実習担当施設数は、理学療法評価実習においては3施設程度、作業療法評価実習においては5施設程度、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいては5施設程度、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいては5施設程度配置している。また、1人の担当教員が担当する実習地は、1実習期間中、本学が定める実習巡回条件区分の遠距離施設を複数担当しないように配慮し、近距離施設と遠距離施設を組み合わせるよう調整する。

各実習担当教員における科目担当の平均単位数を下表に示す。両学科とも、平均担当単位数が前期・後期ともに5単位程度であった。これは、下表に示す他大学の平均担当単位数と比較しても少なく、このことから本学の教員体制から考え、巡回指導を十分行うことができ、かつ実習担当教員の学生教育及び研究に支障をきたすことはない。さらに、臨床実習全体の計画の作成、実習地との調整、臨床実習の進捗管理等、実習の管理を臨地実務実習以外の科目を担当しない実習調整者が行うことで、他の実習担当教員が学生教育及び研究の時間をさらにとることができるよう配慮する。

資料15-2：巡回指導計画表(理学療法学科)

資料15-3：巡回指導計画表(作業療法学科)

資料15-4：勤務スケジュール表(理学療法学科)

資料15-5：勤務スケジュール表(作業療法学科)

表1 本学両学科教員の平均担当単位数 (完成年度時)

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	17	2.16	5.07	80
作業療法学科	9	2.80	3.56	40

表2 宝塚医療大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	14	5.28	5.28	70

(宝塚医療大学HP <http://www.tumh.ac.jp/course/teachers/index.html>

平成30年度シラバス

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000375.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000376.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000377.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000378.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000379.pdf>

本学調べ)

表3 森ノ宮医療大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	15	8.03	6.13	70

(森ノ宮医療大学 HP <https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/kyoin.php#rigaku>

講義概要 シラバス https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/syllabus_list.pdf

本学調べ)

表4 藤田医科大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
作業療法学科	9	2.80	3.78	40

(藤田医科大学 HP <https://www.fujita-hu.ac.jp/rs/list2.html?g=4>

平成30年度 (2018) シラバス

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7b.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k77.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7i.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7l.pdf>

本学調べ)

表5 国際医療福祉大学小田原キャンパスの平均担当単位数

学科名	教員数（名）	平均担当単位（単位）		定員（名）
		前期	後期	
作業療法学科	15	6.23	8.00	80

（国際医療福祉大学 HP <https://otawara.iuhw.ac.jp/gakubu/sagyou/professor.html>

平成 29 年度 授業計画（シラバス集） <https://www2.iuhw.ac.jp/pdf/syllabus/作業療法学科.pdf>
 本学調べ)

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

16. <取得可能な資格に関する指導方法が不十分>

取得可能な資格として挙げられた各資格を取得することがどのような意義をもつのかについて、学生にどのように指導していくのか不明なため、資格取得のための学生の費用負担に関する考え方とともに、明確に説明すること。その際、3つのコース・領域の学修における対応関係についても留意すること。【2学科共通】

(対応)

設置の趣旨等を記載した書類の62項～63頁において、取得可能な資格として、理学療法学科においては、理学療法士国家試験受験資格以外に、「中級障がい者スポーツ指導員」、「スポーツリズムトレーニング (DIFFUSER)」及び「ゴルフフィジオトレーナー」の3つの資格を挙げ、作業療法学科においては、作業療法士国家試験受験資格以外に、「福祉住環境コーディネーター2級」、「中級障がい者スポーツ指導員」及び「メンタルヘルス・マネジメント2種」の3つの資格を挙げたが、資格の取得自体を単位取得の条件とはしておらず、もとより3つのコース・領域（現：履修モデル）との対応関係は想定していなかった。

これらは、本学の授業に関連した資格を挙げており、当該科目を受講すれば資格が取れるというものではない。学生が授業を通して、これらの資格に興味を持った場合、その後、自身のキャリアアップのため、自らの意思で資格を取得できることを伝え、資格取得のための情報を提供することが、本学の学生に対する指導内容となる。資格に関する情報提供は、授業内や学内情報の掲示版にて行い、資格取得にあたっての費用は、学生負担とする。

そのため、「理学療法士／作業療法士国家試験受験資格」とは切り離し、授業科目の延長で取得可能な資格として、以上の6つの資格を列記することで、本改善事項への対応とさせていただく。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

17. <国家試験受験資格の位置付けが不適切>

共生型社会に向けたリハビリテーションの専門家育成を掲げているにもかかわらず、国家試験を受験しなかった者又は受験できなかった者も卒業要件を満たせば卒業できることを設置計画書上で明示しているが、専門職大学制度における専門職業人の育成目的を踏まえれば、国家試験の受験資格に関する考え方が不適切なため、適切に改めること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、理学療法士・作業療法士というリハビリテーションの専門家を養成することが、本学の目的の根幹となるため、学生に国家試験受験資格を取得させたうえで卒業させるべきである。そのため、学生が国家試験受験資格を取得し、卒業できるよう大学として責任を持って取り組む旨を明記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (75 ページ)

新	旧
<p>2) 資格の位置づけ</p> <p><u>理学療法士・作業療法士というリハビリテーションの専門家を養成することが、本学の根幹となるため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国家資格を取得することが、また、作業療法学科の学生は、作業療法士の国家資格を取得することが、主要な目標となる。そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。</u></p>	<p>2) 資格の位置づけ</p> <p>理学療法学科の学生は、国家資格である理学療法士を取得することが、また、作業療法学科の学生は、国家資格である作業療法士を取得することが主要な目標となるが、国家試験に不合格であった場合、又は、国家試験を受験しなかった場合、あるいは受験できなかった場合でも、上述の卒業要件を満たしていれば、卒業（修了）できるものとする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 教育課程連携協議会に関する専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者として十分なのか不明確であるため、妥当性を明確に説明するか、構成員を追加する等構成を見直すこと。

(対応)

申請時の専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員(東近江市福祉総合支援課主幹の河島克彦氏)について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者としての妥当性についてご指摘を受け、検討を行った。

新たに、当該区分の構成員として滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏を追加し、河島克彦氏については、本学の目的を達成するために、欠かせぬ人材であるため、専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員へ移動する。さらに、見直しを行う過程で、本学の目的を達成するために、滋賀県立リハビリテーションセンター主査の乙川亮氏を専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員として新たに追加する。

1) 滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏を専門職大学設置基準第11条第2項3号の区分の構成員に据える。

滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏は、これまで滋賀県健康医療福祉部の要職を歴任し、県内の医療政策や福祉政策、医療福祉や健康寿命延伸の推進など、現在に至るまで県民の保健・医療・福祉に多く携わるとともに、県内の幅広い意見を集約している人材である。

以上の理由で、現在、そしてこれからの保健・医療・福祉分野の課題や動向、地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門職の在り方に関する提言ができる存在となると考え、教育課程連携協議会の代表者としてふさわしいと考え、角野文彦氏を専門職大学設置基準第11条第2項3号の区分の構成員に据えることとした。

略歴

年 月	事 項
昭和 61 年 3 月	滋賀医科大学医学部 卒業
昭和 61 年 6 月	滋賀県入庁 彦根保健所
平成 11 年 4 月	滋賀医科大学「公衆衛生」非常勤講師
平成 20 年 4 月	滋賀県 健康福祉部 健康推進課長
平成 24 年 4 月	滋賀県 健康医療福祉部 次長
平成 25 年 4 月	滋賀医科大学 特命教授 (現在に至る)
平成 30 年 4 月	滋賀県 健康医療福祉部 理事 (現在に至る)

備考：理事職について

○滋賀県職員の標準的な職に関する規則

平成28年4月1日
滋賀県規則第60号

滋賀県職員の標準的な職に関する規則をここに公布する。
滋賀県職員の標準的な職に関する規則
(趣旨)

第1条 この規則は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第15条の2第2項の規定に基づき、滋賀県職員の標準的な職に関し、必要な事項を定めるものとする。
(定義)

第2条 この規則において「本庁」とは滋賀県行政組織規則(昭和51年滋賀県規則第16号)第2章に規定する機関を、「地方機関」とは同規則第3章および第4章に規定する機関をいう。
(標準的な職)

第3条 滋賀県職員(技能労務職員を除く。)の標準的な職は、次の表のとおりとする。

事務部局の区分	機関の種別	職	標準的な職
知事の事務部局	本庁	部長、 理事 、防災危機管理監、コンプライアンス推進監、会計管理者および会計管理局長	部長
	地方機関	東京本部の本部長	
	本庁	次長、管理監、技監、知事公室長、防災危機管理局長、IT統括監、スポーツ局長、子ども・青少年局長、観光交流局長、ここ滋賀推進監および流域政策局長	次長
	地方機関	大津土木事務所、政策研修センター、工業技術総合センター、ここ滋賀および農業技術振興センターの所長、近代美術館の館長、琵琶湖環境科学研究センターの副センター長ならびに琵琶湖博物館の副館長	

滋賀県健康医療福祉部 理事の分掌事務

(健康・医療政策担当)

(健康医療福祉部次長事務取扱)

(病院事業庁次長事務取扱)

(総務事務・厚生課主席参事事務取扱)

2) 東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹を専門職大学設置基準第11条第2項5号の区分の構成員に変更する。

本学において、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者を十分に議論した結果、前述のとおり、専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員として角野文彦氏を追加し、東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹については、専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員として区分を変更して据えることとした。

河島克彦氏が在籍する東近江市福祉総合支援課の主な業務内容は、地域包括支援センターの運営(高齢者対象)・要援護高齢者、障害者、生活困窮者の総合相談、高齢者、障害者及び生活困窮者の総合相談、地域包括支援センターの運営、高齢者及び障害者の権利擁護、認知症に対する相談に関することであり、福祉総合支援課が蓄積する豊富な情報は重要な資源と言える。河島克彦氏は主幹として、当該部署業務の中心的役割を果たしている。加えて、本学の学生にとって、地域の現状把握、分析、課題解決能力を身に付けさせ、実践力を高めるためにはフィールドワークが不可欠であり、それを実施するためには福祉総合支援課の協力が重要となる。これらの理由から、河島氏は、欠かせぬ人材であるため、設置基準

第 11 条第 2 項 5 号の区分の構成員に据える。

3) 滋賀県立リハビリテーションセンター主査の乙川亮氏を、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号の区分の構成員に加える。

上記、2) で東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹を設置基準第 11 条第 2 項 5 号の区分の構成員として据えることとしたが、東近江市という市単位の意見だけは、その市の特徴に偏ることも考えられる。そこで、もう 1 つ大きな枠として、県単位のリハビリテーションの状況をよく知る人材も追加することで構成員の構成がよりバランスが良くなると考え、さらにもう 1 名、乙川亮氏を専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号の区分の構成員に加えた。

乙川氏は、滋賀県立リハビリテーションセンターに在籍する作業療法士である。同センターの役割は、滋賀県のリハビリテーションの質的向上を目的として、地域リハビリテーションを推進し、地域と県全域をつなぐ支援のネットワークづくりや、利用者本位の一貫したサービスを総合的に提供できる体制の整備などを行うことにある。その中でも、支援部門は、関係機関・施設・各種団体との協働により、教育・研修、情報の収集・提供、交流など様々な事業を行っている。構成員に乙川氏が加わることで、滋賀県のリハビリテーション中核としての機能（最先端のリハビリテーションに関する知識や技術、地域連携など）を本学の教育課程に反映したいと考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 教育課程の不断の見直しを実現するために重要な事項を審議し、学長に意見を述べる役割を担う教育課程連携協議会の位置付けを踏まえれば、学則上で教育課程連携協議会の設置を規定することが適切だと考えられるが、本大学の学則では規定がないため、適切に規定すること。

(対応)

教育課程連携協議会の趣旨・重要性を踏まえ、教育課程連携協議会を本学に設置する旨を、学則に明記する。

(新旧対照表) 学則7ページ

新	旧
<p>(略)</p> <p>第10章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第39条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>(略)</p> <p><u>第11章 教育課程連携協議会</u> <u>(教育課程連携協議会)</u></p> <p><u>第41条 本学に、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するため、教育課程連携協議会を置く。</u></p> <p><u>2 教育課程連携協議会に関する事項は別に定める。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>第10章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第39条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>(略)</p>

※是正事項30の「書類不備」への対応として第40条に運営会議について規定するため、教育課程連携協議会は第41条としている。

(新旧対照表) 教育課程連携協議会規程 1 ページ

新	旧
<p>(目的)</p> <p>第 1 条 この規程は、専門職大学設置基準第 11 条及び学則第 41 条に基づき、<u>びわこリハビリテーション専門職大学</u> (以下「<u>本学</u>」という。)と産業界及び地域社会との連携により、本学の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する教育課程連携協議会 (以下「<u>連携協議会</u>」という。) について必要な事項を定める。</p>	<p>(目的)</p> <p>第 1 条 この規程は、専門職大学設置基準第 11 条に基づき、<u>藍野専門職大学</u> (以下「<u>本学</u>という。）」と産業界及び地域社会との連携により、本学の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する教育課程連携協議会 (以下「<u>連携協議会</u>」という。) について必要な事項を定める。</p>

【教員組織等】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

19. <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>

両学科において、専攻分野に係る理論系の専任教員が少なく、専門職大学設置基準第31条第1項が規定する当該専攻分野に係る教員組織体制として不十分であるため、適切な教員組織体制に修正すること。【2学科共通】

(対応)

専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分であるとの指摘を受け、教員組織を見直し、次のとおり、普通教員（実務家教員以外の教員）並びに研究業績を有する実務家教員の追加を行った。

1) 理学療法学科配属

理論系の専任教員について、普通教員（実務家教員以外の教員）10人（教授候補6人・准教授候補2人・講師候補1人・助教候補1名）を追加した。なお、教員審査で普通教員（実務家教員以外の教員）の講師相当と判定を受けた者1名は諸般の事情から外した。結果、専攻分野に係る理論系の教員は、次の表のとおり6名増となった。

追加した教員10名のうち、授与する学位に係る理学療法を専門とする教員は5名であり、4名は、理学療法の基礎となる医学を専門とする教員となる。残りの1人は、理学療法の関連領域であるスポーツ科学を専門とする教員となる。また、そのうちの1人はヘルスプロモーションや地域保健を専門としており、本学科の目的と整合する。

申請時

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
普通教員 (実務家教員以外)	4人	0人	0人	0人	4人
実務家教員研究者	5人	3人	0人	0人	8人
合計	9人	3人	0人	0人	12人

補充後

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
普通教員 (実務家教員以外)	8人 (+4)	3人 (+3)	1人 (+1)	1人 (+1)	13人 (+9)
実務家教員研究者	1人 (-4)	3人 (±0)	1人 (+1)	0人 (±0)	5人 (-3)
合計	9人 (±0)	6人 (+3)	2人 (+2)	1人 (+1)	18人 (+6)

補充した者の略歴は次のとおりである

①普通教員（実務家教員以外）10人

・山川正信 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康教育学、疫学、ヘルスプロモーション、地域保健

昭和50年3月	京都大学大学院工学研究科修士課程（衛生工学専攻）修了
昭和51年9月	滋賀医科大学医学部 助手（保健管理学講座）
平成3年3月	学位取得 医学博士（滋賀医科大学）
平成7年2月	滋賀医科大学医学部 講師（福祉保健医学講座）
平成7年10月	ハワイ大学留学（～平成8年9月）
平成9年4月	大阪教育大学教育学部 教授
平成21年4月	（兼）大阪教育大学附属池田中学校 校長 （兼）大阪教育大学附属高等学校池田校舎 校舎主任
平成27年3月	大阪教育大学 名誉教授
平成29年4月	学校法人関西女子学園 宝塚大学看護学部教授・学長（現在に至る）

・山田久夫 教授（候補）

専門分野：解剖学

昭和55年3月	関西医科大学医学部 卒業
昭和55年4月	京都府立医科大学 助手（第一解剖学教室）（昭和63年3月まで）
昭和60年9月	学位取得 医学博士（京都府立医科大学）
昭和63年4月	京都府立医科大学 講師（平成3年8月まで）
平成元年9月	滋賀医科大学 助教授（解剖学第二講座）（平成12年6月まで） 平成5年6月～平成6年6月 文部省在外研究員（米国アイオワ大学医学部薬理学教室）
平成12年7月	関西医科大学 教授（解剖学第一講座）（現在に至る） 平成15年度～平成20年度 附属図書館長 平成19年度～平成23年度 産学連携・知的財産 統括室長 平成20年度～平成23年度 学生部長 （他に学内役職は多数）

・中野法彦 教授（候補）

専門分野：神経再生、細胞生物学、生化学

平成6年3月	北海道大学医学部医学科 卒業
平成11年3月	大阪大学大学院医学研究科 修了 学位取得 博士（医学）（大阪大学）
平成11年4月	大阪大学医学部附属病院 基礎系医員
平成11年11月	大阪府立母子保健総合医療センター研究所 研究員
平成14年4月	大阪府立母子保健総合医療センター研究所 主任研究員（平成16年3月まで）
平成15年4月	大阪大学 客員助教授（歯学研究科）（平成16年3月まで）
平成16年4月	杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室 講師

平成 19 年 6 月 藍野大学再生医療研究所 特任准教授
平成 23 年 4 月 藍野大学再生医療研究所 准教授
平成 25 年 4 月 (兼) 藍野大学医療保健学部臨床工学科 准教授 (現在に至る)

・植田昌治 教授 (候補)

専門分野：心身相関、精神的要因、運動

昭和 62 年 3 月 藍野医療技術専門学校 理学療法学科 卒業
昭和 62 年 4 月 京都市身体障害者リハビリテーションセンター 訓練課 勤務 (平成 5 年 3 月まで)
平成 5 年 4 月 藍野医療技術専門学校理学療法学科専任教員 (平成 11 年 3 月まで)
平成 12 年 4 月 藍野医療技術専門学校理学療法学科学科主任 (平成 16 年 3 月まで)
平成 16 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 講師 (平成 20 年 3 月まで)
平成 20 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 准教授 (平成 22 年 3 月まで)
平成 21 年 4 月 藍野学院短期大学(平成 24 年に藍野大学短期大学部に名称変更)
専攻科地域看護学専攻 非常勤講師(現在に至る)
平成 22 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 教授
平成 28 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 学科長補佐 (現在に至る)

・堀 寛史 教授 (候補)

研究分野：痛み、臨床哲学、理学療法学

平成 11 年 3 月 西日本リハビリテーション学院 卒業
平成 11 年 4 月 医療法人 寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 入職 (平成 15 年 3 月退職)
平成 15 年 3 月 放送大学 教養学部 卒業 学士 (教養)
平成 15 年 4 月 医療法人 光寿会 アラキ整形外科 リハビリテーション科 入職 (平成 17 年 3 月退職)
平成 17 年 3 月 熊本大学大学院文学研究科人間科学専攻 修了 修士 (文学)
平成 17 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 入職 助手
平成 18 年 4 月 大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室 入科
平成 20 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 助教
平成 21 年 3 月 大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室
博士後期課程 単位取得後退学
平成 21 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 講師 (現在に至る)
平成 29 年 7 月 博士 (学術) 大阪大学文学研究科 取得

・里中綾子 教授 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、福祉工学、スポーツ科学、応用健康科学

平成 8 年 3 月 名古屋大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業
平成 8 年 4 月 小山田記念温泉病院, 理学療法士 (平成 9 年 3 月まで)
平成 9 年 4 月 ふく田整形外科, 理学療法士 (平成 13 年 3 月まで)
平成 13 年 4 月 ひがし春日井病院, 理学療法士 (平成 21 年 12 月まで)
平成 14 年 4 月 障害者療護施設夢の家, 理学療法士 (非常勤, 平成 16 年 3 月まで)

平成 15 年 4 月 障害者療護施設麦の里, 理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 3 月まで)

平成 16 年 4 月 障害者療護施設ハートランド小牧の杜, 理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 6 月まで)

平成 21 年 3 月 名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士前期課程 修了

平成 22 年 1 月 あさひ病院, 理学療法士 (平成 23 年 3 月まで)

平成 23 年 4 月 訪問看護ステーション仁, 理学療法士 (平成 24 年 3 月以降は非常勤勤務)

平成 24 年 3 月 名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士後期課程 修了
学位取得 博士 (リハビリテーション療法学) (名古屋大学)

平成 24 年 4 月 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所, リサーチレジデント (平成 25 年 12 月まで)

平成 24 年 4 月 名古屋大学医学部保健学科, 非常勤講師 (平成 25 年 12 月まで)

平成 26 年 1 月 名古屋大学大学院医学系研究科ウェルビーイング in アジア特任助教 (平成 30 年 3 月まで)

平成 30 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科ウェルビーイング in アジア特任准教授 (現在に至る)

・兼清健志 准教授 (候補)

専門分野：神経再生、幹細胞生物学、グリア細胞、薬学、栄養学、生化学

平成 14 年 3 月 富山医科薬科大学薬学部 卒業

平成 16 年 3 月 富山医科薬科大学大学院 薬学研究科 博士前期課程 修了

平成 19 年 9 月 富山医科薬科大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了
学位取得 博士 (薬学) (富山医科薬科大学)

平成 19 年 10 月 富山医科薬科大学大学院医学薬学研究部・生薬学研究室 協力研究員

平成 20 年 1 月 理化学研究所 フロンティア研究システム システム糖鎖生物学研究グループ
疾患糖鎖研究チーム 研究員 (平成 20 年 3 月まで)

平成 20 年 4 月 理化学研究所 基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究領域 システム糖鎖生物学研究グループ
疾患糖鎖研究チーム 特別研究員 (平成 25 年 3 月まで)

平成 25 年 4 月 理化学研究所 グローバル研究クラスター 理研-マックスプランク連携研究センター
システム糖鎖生物学研究グループ 疾患糖鎖研究チーム 協力研究員 (平成 25 年 7 月まで)

平成 25 年 8 月 藍野大学再生医療研究所 助教 (平成 27 年 3 月まで)

平成 25 年 12 月 理化学研究所 グローバル研究クラスター 理研-マックスプランク連携研究センター
システム糖鎖生物学研究グループ 疾患糖鎖研究チーム 客員研究員 (現在に至る)

平成 27 年 4 月 藍野大学再生医療研究所 講師 (現在に至る)

・佐藤隆彦 准教授 (候補)

専門分野：スポーツ科学、バイオメカニクス学、体育学

平成 20 年 3 月 金沢大学教育学部スポーツ科学課程 卒業

平成 20 年 4 月 北陸大学 非常勤講師 (平成 21 年 3 月まで)
北陸大学バスケットボール部 契約コーチ (平成 22 年 3 月まで)

平成 22 年 3 月 金沢大学大学院教育学研究科保健体育専攻修士課程 修了

平成 23 年 4 月 国立スポーツ科学センター 非常勤専門職員 (平成 25 年 3 月まで)

平成 23 年 10 月 東京リゾート&スポーツ専門学校 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)

平成 26 年 4 月 明海大学 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)

	日本医学柔整鍼灸専門学校 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)
平成 27 年 4 月	早稲田大学スポーツ科学学術院 研究助手 (平成 28 年 3 月まで)
平成 28 年 1 月	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士課程 修了
	学位取得 博士 (スポーツ科学) (早稲田大学)
平成 28 年 4 月	立命館大学スポーツ健康科学部 特任助教 (現在に至る)

・和智 道生 講師 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、スポーツ科学、運動器リハビリテーション、画像評価

平成 23 年 3 月	佛教大学 保健医療技術学部卒業
平成 23 年 4 月	医療法人金沢整形外科クリニック 理学療法士 (平成 27 年 3 月まで)
平成 26 年 3 月	立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程 修了
	学位取得 修士 (スポーツ科学) (立命館大学)
平成 27 年 3 月	医療法人金沢整形外科クリニック リハビリテーション科
	医療保険課 課長 理学療法士 (現在に至る)
平成 27 年 4 月	京都府立久御山高等学校 非常勤講師 (現在に至る)
平成 27 年 11 月	滋賀県水泳連盟競泳委員会 委員 (現在に至る)
平成 30 年 3 月	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学
平成 30 年 10 月	京都工芸繊維大学大学院 工芸化学科学研究科
	バイオテクノロジー専攻 博士後期課程 入学 (現在に至る)

・佐々木 絵美 助教 (候補)

専門分野：医療技術評価学、リハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学、身体教育学

平成 21 年 3 月	滋賀医療技術専門学校 理学療法学科卒業
平成 21 年 4 月	吉川整形外科クリニック リハビリテーション科(平成 31 年 2 月まで)
平成 25 年 3 月	放送大学教養学部卒業
平成 31 年 3 月	放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学プログラム卒業
平成 31 年 3 月	いそクリック リハビリテーション科 (現在に至る)

2) 作業療法学科配属

理論系の専任教員について、普通教員 (実務家教員以外の教員) を 4 人 (教授候補 3 人、講師候補 1 人) 追加した。追加した教員 4 人のうち、授与する学位に係る作業療法を専門とする教員は 2 人であり、残りの 2 人は、作業療法の基礎となる医学を専門とする教員である。福祉工学や地域研究、労働衛生、健康科学等を研究分野とする教員がおり、本学科の目的と合致しており、有意義な研究になるものと考えている。

申請時

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員 (実務家教員以外)	5 人	0 人	0 人	0 人	5 人
実務家教員研究者	1 人	2 人	1 人	0 人	4 人
合 計	6 人	2 人	1 人	0 人	9 人

補充後

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員 (実務家教員以外)	7 人 (+2)	1 人 (+1)	1 人 (+1)	0 人 (±0)	9 人 (+4)
実務家教員研究者	0 人 (-1)	1 人 (-1)	1 人 (±0)	1 人 (+1)	3 人 (-1)
合 計	7 人 (+1)	2 人 (±0)	2 人 (+1)	1 人 (+1)	12 人 (+3)

補充した者の略歴は次のとおりである

①普通教員（実務家教員以外）4 人

・辛島千恵子 教授（候補）

専門分野：リハビリテーション科学・福祉工学、地域研究、特別支援教育

昭和 53 年 3 月	国立療養所近畿中央病院付属リハビリテーション学院作業療法科卒業
昭和 53 年 4 月	済生会 吹田療育園(昭和 55 年 8 月まで)
昭和 55 年 10 月	石川整肢学園(平成 7 年 4 月作業療法課主任:平成 9 年 12 月まで)
昭和 61 年 4 月	金沢大学医学部医療技術短期大学作業療法学科非常勤講師 (発達障害治療学 30 時間担当:平成 8 年 3 月まで)
平成 10 年 4 月	YMCA 米子医療福祉専門学校(専任教員:平成 12 年 3 月まで)
平成 12 年 4 月	金沢大学医学部保健学科作業療法学専攻助手(平成 14 年 3 月まで)
平成 13 年 3 月	佛教大学社会学部社会福祉学専攻卒業
平成 14 年 4 月	四條畷学園短期大学作業療法専攻教授(平成 17 年 3 月まで)
平成 14 年 4 月	金沢大学医学部保健学科作業療法学専攻非常勤講師 (発達障害治療学 30 時間:平成 16 年 3 月まで)
平成 15 年 3 月	金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻(前期課程)修了
平成 17 年 4 月	四條畷学園大学作業療法専攻教授 (発達障害治療学 30 時間 : 平成 18 年 3 月まで)
平成 18 年 3 月	金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻(後期課程)修了
平成 18 年 4 月	名古屋大学医学部保健学科作業療法学専攻教授(平成 24 年 3 月まで)
平成 24 年 4 月	名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 作業療法学講座教授(現在に至る)

・井出千束 教授（候補）

専門分野：脳神経化学、神経細胞学、神経質再生

昭和 42 年 5 月	東京大学医学部医学科	卒業
昭和 47 年 3 月	東京大学大学院医学研究科博士課程	修了 学位取得 医学博士（東京大学）
昭和 47 年 4 月	東京大学医学部助手	（昭和 50 年 12 月まで）
昭和 51 年 1 月	ペンシルバニア州立大学医学部解剖学教室	留学（昭和 52 年 5 月まで）
昭和 52 年 6 月	自治医科大学医学部	助教授（昭和 56 年 1 月まで）
昭和 56 年 2 月	岩手医科大学医学部	教授（平成 2 年 3 月まで）
平成 2 年 4 月	神戸大学医学部	教授（平成 6 年 3 月まで）
平成 6 年 4 月	京都大学大学院医学研究科	教授（平成 17 年 3 月まで）
平成 17 年 4 月	京都大学	名誉教授
平成 17 年 4 月	藍野大学医療保健学部作業療法学科	教授（平成 30 年 3 月まで）
平成 19 年 2 月	藍野大学再生医療研究所	所長（現在に至る）
平成 30 年 4 月	藍野大学医療保健学部臨床工学科	学科長・教授（現在に至る）

・埤田和史 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康科学、労働衛生学、身体障がい者就労環境

昭和 52 年 4 月	滋賀医科大学医学部医学科	入学
昭和 58 年 3 月	滋賀医科大学医学部医学科	卒業（医学士）
昭和 58 年 5 月	医師免許取得	（医籍登録番号 第 272984 号）
昭和 58 年 4 月	岡山医療生活協同組合立総合病院岡山協立病院	内科医師（昭和 62 年 3 月まで）
昭和 62 年 4 月	滋賀医科大学大学院医学研究科	入学
平成 3 年 3 月	滋賀医科大学大学院医学研究科	修了 博士（医学）
平成 3 年 4 月	滋賀医科大学予防医学講座	助手（平成 8 年 4 月まで）
平成 8 年 5 月	滋賀医科大学予防医学講座	講師（平成 10 年 3 月まで）
平成 10 年 4 月	滋賀医科大学予防医学講座	助教授（平成 20 年 8 月まで）
平成 10 年 7 月	スウェーデン王立労働生活研究所	上級研究員（平成 11 年 8 月まで）
平成 12 年 4 月	滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門	准教授（現在に至る）
平成 25 年 4 月	聖泉大学非常勤講	（平成 22 年 5 月、聖泉大学看護学科開設に際して教員審査を受け資格認定される。担当科目：衛生学）（平成 29 年 3 月まで）

・澤賢一郎 講師（候補）

専門分野：人間医工学、作業療法学

平成 16 年 3 月 神戸総合医療介護福祉専門学校 卒業 （作業療法士）

平成 16 年 4 月 医療法人関田会 ときわ病院（平成 19 年 3 月まで）

平成 19 年 4 月 医療法人慈恵会 新須磨リハビリテーション病院（平成 25 年 3 月まで）

平成 22 年 4 月 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻修士課程 修了 （保健学修士）

平成 25 年 4 月 医療法人幸生会 琵琶湖中央病院（平成 30 年 3 月まで）

平成 29 年 4 月 同病院 係長

平成 30 年 4 月 大和大学 保健医療学部 総合リハビリテーション学科
作業療法学専攻 講師（現在に至る）

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

20. <担当単位数が不適切>

週当たりの平均勤務日数が5日の専任教員がおらず、全ての専任教員が3日又は4日となる中、担当単位数が30単位を超える者もあり、科目数の過度な負担により十分な研究時間を確保することができないおそれや、授業及び学生指導などの教育の質の低下を招くおそれがあり、教育研究の実現可能性に疑義がある。担当する科目数を見直した上で、教育と研究を両立することができる教員組織を整えること。なお、見直した教員組織を説明する際には、各教員の1週間の勤務スケジュール(授業、学生指導、研究をいつ実施するのか示すもの。なお、既設の大学や専門学校を兼務する専任教員については既設の大学や専門学校での勤務に関する情報を含めたもの。)が分かる資料を提出すること。【2学科共通】

(対応)

申請書類において、全ての専任教員の勤務日数を3日又は4日としていたのは、全ての専任教員について、研究時間を確保できるよう研究日を2日又は1日設けており、その日を勤務日数に含めていなかったためである。しかし、研究も勤務の一部であるため、全専任教員について、「申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数」を5日に改めた。併せて、申請書類において、シラバスのオフィスアワー記入欄が未記載となっていたが、1週間の中で必ず1時間以上設けるように改めた。

また、是正事項19<専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>及び是正事項21<専任教員数が設置基準を満たしていない>への対応も踏まえ、教員組織の見直しを行い、理学療法学科で9名、作業療法学科で5名の専任教員を増やし、担当単位数が、原則30単位を超えないよう調整を行った。

資料15-1、15-2は、専任教員ごとの1週間の勤務スケジュールを表したものである。授業時間、研究日、オフィスアワー及び学内業務等を示すとともに、既設の大学と専門学校を兼務する専任教員については、既設の大学と専門学校での勤務に関する情報も示した。資料15-1、15-2のとおり、全専任教員について、1週間のうち最低1日は研究のみに充てることのできる日を設けており、学内業務としている時間についても、研究が可能であるため、十分な研究時間を確保できていると考えている。また、学生指導についても、前述のとおり、オフィスアワーの時間を1週間の中で必ず1時間以上設けており、学内業務の時間の一部はそれに充てることを想定しているため、十分な学生指導の時間を確保できているものと考えている。

資料15-4：勤務スケジュール表(理学療法学科)

資料15-5：勤務スケジュール表(作業療法学科)

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 担当単位数及び申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数 (理学療法学科)

氏名	新		旧	
	担当単位数 合算	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数	担当単位数	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数
砂川 勇	削除	削除	1.6	3日
山川 正信	1.6	5日	—	—
山田 久夫	10	5日	—	—
金沢 伸彦	<u>4</u>	<u>5日</u>	7.6	3日
篠田 恵一	4	<u>5日</u>	4	3日
中野 法彦	2	5日	—	—
植田 昌治	25.9	5日	—	—
堀 寛史	28	5日	—	—
分木 ひとみ	<u>30.1</u>	<u>5日</u>	35.5	4日
兼清 健志	2	5日	—	—
佐藤 隆彦	5.8	5日	—	—
和智 道夫	23.5	5日	—	—
佐々木 絵美	20	5日	—	—
宇於崎 孝	<u>29.7</u>	<u>5日</u>	30.9	4日
川崎 浩子	<u>28.1</u>	<u>5日</u>	37.6	4日
鈴木 美香	<u>23.9</u>	<u>5日</u>	28.9	4日
弘部 重信	27.1	5日	—	—
野口 真一	24.5	5日	—	—
山内 正雄	<u>29.3</u>	<u>5日</u>	34.3	4日
里中 綾子	26.6	5日	—	—
治郎丸 卓三	<u>29.1</u>	<u>5日</u>	33.8	4日
藤谷 亮	<u>29</u>	<u>5日</u>	32.3	4日
池谷 雅江	<u>29.7</u>	<u>5日</u>	33.7	4日
安田 孝志	<u>31.4</u>	<u>5日</u>	31.7	4日
大西 均	<u>28.1</u>	<u>5日</u>	33.6	4日

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 担当単位数及び申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数 (作業療法学科)

氏名	新		旧	
	担当単位数 合算	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数	担当単位数	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数
野田 亨	<u>3</u>	<u>5</u> 日	5	4日
三谷 章	4	<u>5</u> 日	4	4日
外池 光雄	4	<u>5</u> 日	4	4日
田中 弘一郎	1	<u>5</u> 日	1	4日
辛島 千恵子	27	5日	—	—
井出 千束	2	5日	—	—
埜田 和史	2	5日	—	—
鈴木 規巳洋	2	<u>5</u> 日	2	4日
澤 賢一郎	29	5日	—	—
下西 徳	30	5日	—	—
木岡 和実	<u>24</u>	<u>5</u> 日	28	4日
杉本 久美子	<u>24</u>	<u>5</u> 日	28	4日
大西 満	<u>30.2</u>	<u>5</u> 日	31.2	4日
安部 征哉	29	<u>5</u> 日	29	4日
嶋川 昌典	29	<u>5</u> 日	29	4日
有田 智氏	<u>28</u>	<u>5</u> 日	26	4日

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

【2学科共通】

(対応)

専門職大学設置基準の規定を満たしていないかったため、次のとおり、専任教員を追加する。

1) 理学療法学科配属

教員審査の結果、専任教員数は普通教員（実務家教員以外の教員）が4人、実務家教員は9人（実研5人・実専4人）、計13人（内、教授3人）である。この結果を踏まえ、普通教員（実務家教員以外の教員）を10人（教授候補6人・准教授候補2人・講師候補1人・助教候補1人）、実務家教員の内、実専を2人（講師候補）追加した。教員審査で普通教員（実務家教員以外の教員）の講師相当と判定いただいた者1人は諸般の事情から外したため、理学療法学科に配属する専任教員数は24人となる。内訳は次のとおりである。

補充後の専任教員数（理学療法学科）

区 分		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員（実務家以外の教員）		8	3	1	1	13
実務家 教員	実 研	1	3	1	0	5
	実 専	0	1	5	0	6
	小 計	1	4	6	0	11
合 計		9	7	7	1	24

2) 作業療法学科配属

教員審査の結果、専任教員数は普通教員（実務家教員以外の教員）が5人、実務家教員は6人（実研3人・実専3人）、計11人（内、教授4人）である。この結果を踏まえ、普通教員（実務家教員以外の教員）を4人（教授候補3人）、実務家教員の内、実専を1人（講師候補）補充した。その結果、作業療法学科に配属する専任教員数は16人となる。内訳は次のとおりである。

補充後の専任教員数（作業療法学科）

区 分		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員（実務家以外の教員）		7	1	1	0	9
実務家 教員	実 研	0	1	1	1	3
	実 専	0	0	1	3	4
	小 計	0	1	2	4	7
合 計		7	2	3	4	16

3) 結論

既述1)、2)の対応により、専門職大学設置基準別表第一の「イ」及び「ロ」で規定されている専任教員数は満たしている。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

22. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。

【2学科共通】

(対応)

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っているとのご指摘を受け、その対応方針について説明する。

本改善事項を受け、教員補充の際に、比較的若い専任教員を補充するよう努めたが、主として、是正事項21<専任教員数が設置基準を満たしていない>への対応によって、教授相当の教員を補充した関係で、平均年齢は、理学療法学科においては微減(51.5歳⇒49.2歳)するも、作業療法学科においては、微増(51.9歳⇒55.6歳)となった。完成年度を迎えたとき、迎える前に、本学の定年65歳を超える教員は、理学療法学科6名、作業療法学科8名の計14名となる。

対応方針として、第一に、2019年(平成31年)3月25日実施の平成30年度第12回理事会の第1号議案「専門職大学設置に係る補正申請について」において、教育研究の継続性を踏まえ、14名の教員について、完成年度を迎えるまで定年を超えて契約を延長することの議決を行った。なお、今回の専門職大学設置に伴う定年延長の措置は、あくまでも、例外的な措置であり、今後の運用に当たっては、特任教授制度等の適用により、適切な定年制度の運用を図っていくこととする。

第二に、本学は、専任教員に対して1週間に1日、研究日を用意する。その研究日を活用し、研究業績を積む、又は学士号、修士号、博士号の取得を奨励することで、高年齢の教員の退官後も、内部昇進によって、教育研究活動の継続性を図る。

第三に、新規教員の採用を計画的に実施することによって、年齢構成のバランスをとり、教育研究活動の継続性を図る。特に、30代の専任教員は、両学科併せて2割に過ぎないため、30代の専任教員の採用を図る。

以上3点を今後の対応方針とする。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

23. <給与の考え方が不明確>

教員の氏名等(別記様式第3号)において、月額基本給が0と記載された教員が散見されるが、授業科目を担当するにもかかわらず、月額基本給が0になる理由が不明なため、合理的な理由を説明するか、改めること。【2学科共通】

(対応)

別記様式第3号において「兼任教員」及び「兼任教員のうち本法人の設置校に本務を置く教員」の月額基本給を0と記載していた。

本法人は、専任教育職員(本法人の就業規則上の呼び名)の業務について、教育研究、教学組織運営及び事務業務等多岐に亘るため、例えば、担当する授業科目数によって、給与を算出することは合理的ではないという考え方を背景に、労働時間(就業時間)を定め、その労務提供に対して給与を支払うことを就業規則に定め、各専任教育職員と雇用契約を締結してきた。別の設置校において授業を担当する場合であっても、本務では当該時間を労務提供しない代わりに、当該設置校で労務を提供しているがゆえに、本俸に含めることが妥当であると考えてきた。

しかし、例えば、大学設置基準第12条第1項には、「教員は、一の大学に限り、専任教員となるものとする。」とあり、同条第2項には「専任教員は、専ら前項の大学における教育研究に従事するものとする。」とあるように、専任教員の定義は、法人単位ではなく、学校単位のものである。そのため、本務以外の設置校において授業科目を担当する場合に、その賃金を本俸の中に含めると考えるのは、不適当であると考えを改めるに至った。

そこで、兼任教員は、本学の一員として本務の一環で当該授業科目を担当するという考え方に立ち、本俸とは別に給与を支払うことはせず、0と記載した箇所について、本俸の記載を行う。他方、兼任教員のうち本法人の設置校にて勤務する者は、本務以外の業務を行っているという考え方にに基づき、本俸とは別に1コマ2,500円(2時間)を支払うこととする。これは、開設年度に滋賀医療技術専門学校の専任教員として勤務しつつ、本学の授業科目を担当する場合も同様の対応とする。

なお、本金額は、本法人の専任教育職員でない兼任教員に支払う給与額より低い金額となる。そのように設定を行った理由は、前述のとおり、本法人は、就業時間における労務の提供をもって給与を支払っているが、担当する授業科目を教授する時間の本俸を控除しないためである。本務以外の設置校で授業科目を担当する者と担当しない者との公平性に配慮し、金額を設定した。併せて、資料23-1のとおり、非常勤講師の給与を含む任用等に関する規程を定める。

資料23-1: びわこリハビリテーション専門職大学 非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 月額基本給 (千円) (理学療法学科)

新			旧		
氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)	氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)
鈴木 美香	兼任	<u>10</u>	鈴木 美香	兼任	0
川崎 浩子	兼任	<u>23</u>	川崎 浩子	兼任	0
藤谷 亮	兼任	<u>10</u>	藤谷 亮	兼任	0
安田 孝志	兼任	<u>10</u>	安田 孝志	兼任	0
大西 均	兼任	<u>10</u>	大西 均	兼任	0
外池 光雄	兼担	<u>500</u>	外池 光雄	兼担	0
野田 亨	兼担	—	野田 亨	兼担	0
三谷 章	兼担	<u>795</u>	三谷 章	兼担	0
田中 弘一郎	兼担	<u>585</u>	田中 弘一郎	兼担	0
鈴木 規己洋	兼担	<u>670</u>	鈴木 規己洋	兼担	0
大西 満	兼担	<u>975</u>	大西 満	兼担	0
杉本 久美子	兼担	—	杉本 久美子	兼担	0
飯田 英晴	兼任	<u>26</u>	飯田 英晴	兼任	0
藤本 雅子	兼任	<u>25</u>	藤本 雅子	兼任	0
小田 泰宏	兼任	<u>13</u>	小田 泰宏	兼任	0

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 月額基本給 (千円) (作業療法学科)

新			旧		
氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)	氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)
木岡 和美	兼任	<u>5</u>	木岡 和美	兼任	0
鈴木 耕平	兼任	—	鈴木 耕平	兼任	0
寺井 淳	兼任	—	寺井 淳	兼任	0
砂川 勇	兼担	—	砂川 勇	兼担	0
分木 ひとみ	兼担	<u>850</u>	分木 ひとみ	兼担	0
金沢 伸彦	兼担	<u>625</u>	金沢 伸彦	兼担	0
篠田 恵一	兼担	<u>600</u>	篠田 恵一	兼担	0
安田 孝志	兼担	<u>500</u>	安田 孝志	兼担	0
池谷 雅江	兼担	<u>500</u>	池谷 雅江	兼担	0
鈴木 美香	兼担	<u>420</u>	鈴木 美香	兼担	0
飯田 英晴	兼任	<u>14</u>	飯田 英晴	兼任	0
堀 寛史	兼担	<u>690</u>	堀 寛史	兼担	0
丹葉 寛之	兼任	<u>13</u>	丹葉 寛之	兼任	0
藤本 雅子	兼任	<u>13</u>	藤本 雅子	兼任	0

【名称、その他】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

24. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 基本計画書では研究室は 21 室となっている一方で、設置の趣旨等を記載した書類では 20 室と説明しており、不整合であるため、正確な研究室数を明らかにした上で、専任教員 27 名に対する研究室の割り振りの考え方について明確に説明すること。

(対応)

研究室について、基本計画書では、助手室を含めて 21 室としていたが、設置の趣旨等を記載した書類では、助手室を含めず 20 室と記載していたため、不整合が生じていた。ご指摘を受け、検討した結果、次のとおり学長室及び助手等室を含めて 27 室とした。

1) 対応に当たっての前提

専門学校の教育環境が劣化しないこと、利便性などについて専門学校生が不利益を被らないことを前提に、施設・設備を共有する滋賀医療技術専門学校を移設する。これを以って、空いたスペースを本学の研究室や学生の教育環境の充実に充てる。

2) 研究室の整備

是正事項 19 <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>及び是正事項 21 <専任教員数が設置基準を満たしていない>等への対応として、教員組織の見直しを行った結果、専任教員数は、理学療法学科で 24 名、作業療法学科で 16 名の計 40 名となる。そこで、新たに研究室の整備を行い、研究室は学長室を含めて 27 室とした。研究室の割り振りについては、教授は 1 人 1 部屋、准教授・講師は 2 人 1 部屋、助教・助手は集合部屋として教員研究室を整備する。各教員の配置については、下記の表 1 に示す。

教員研究室は 1 階に学長室を含め 7 部屋 (教授 1 名、准教授 6 人、講師 6 人)、3 階に 2 部屋 (助教 5 人、助手 3 人)、2 階に 2 部屋 (教授 1 名、講師 3 名)、4 階に 16 部屋 (教授 14 人、准教授 2 人、講師 2 人) を配置する。

共同研究室を 2 名もしくは複数名で使用する准教授及び講師は、円滑に教育研究が行われるよう研究領域が近い教員を配置する。研究室 15 と研究室 17 については、研究領域が異なるものの、同じ学科の専任教員を同室に配置することで大学教育が円滑になるよう配慮している。また、研究室 23 は 3 名で 1 部屋としているが、室内をパーティションで 3 区画に区切ることで、1 人のスペースを 15.00 m²以上とし、専任教員のプライバシーを守り教育研究上の機密情報を守るよう鍵付きのキャビネットをそれぞれ配置する。研究室 25 は、助教・助手室として 8 名の教員を配置しているが、研究室 23 と同様にプライバシー及び機密情報を守るよう配慮する。さらに、隣接の研究室 26 に鍵付きの書庫を配置し、各教員がより広く研究室を使用できるよう配慮している。

専任教員の研究室割り振り

	区分	室名	階数	面積	番号	教員氏名	番号	教員氏名
1	個別研究室	研究室 1	4	22.91㎡	PT6	里中綾子 (教)		
2	個別研究室	研究室 2	4	22.91㎡	PT4	植田昌治 (教)		
3	個別研究室	研究室 3	4	22.91㎡	PT2	金沢伸彦 (教)		
4	個別研究室	研究室 4	4	22.91㎡	PT3	中野法彦 (教)		
5	個別研究室	研究室 5	4	22.91㎡	PT3	篠田恵一 (教)		
6	個別研究室	研究室 6	4	21.74㎡	PT18	山内正雄 (教)		
7	個別研究室	研究室 7	4	21.74㎡	OT2	井出千束 (教)		
8	共同研究室	研究室 8	4	21.85㎡	OT4	田中弘一郎 (教)		
9	共同研究室	研究室 9	4	34.10㎡	OT2	三谷章 (教)		
10	共同研究室	研究室 10	4	30.25㎡	OT1	野田亨 (教)		
11	共同研究室	研究室 11	4	30.07㎡	OT3	外池光雄 (教)		
12	共同研究室	研究室 12	4	30.07㎡	OT1	辛島千恵子 (教)		
13	共同研究室	研究室 13	4	30.07㎡	OT3	埜田和史 (教)		
14	共同研究室	研究室 14	4	32.37㎡	PT2	山田久夫 (教)		
15	共同研究室	研究室 15	4	35.54㎡	OT10	大西満 (准)	OT4	鈴木規巳洋 (准)
16	共同研究室	研究室 16	4	35.57㎡	OT11	阿部征哉 (講)	OT5	澤賢一郎 (講)
17	共同研究室	研究室 17	1	38.00㎡	PT9	佐藤隆彦 (准)	PT8	兼清健志 (准)
18	共同研究室	研究室 18	1	38.00㎡	PT21	大西均 (准)	PT12	宇於崎孝 (准)
19	共同研究室	研究室 19	1	38.00㎡	PT19	治郎丸卓三 (准)	PT20	安田孝志 (准)
20	共同研究室	研究室 20	1	38.00㎡	PT13	川崎浩子 (講)	PT14	鈴木美香 (講)
21	共同研究室	研究室 21	1	38.00㎡	PT7	分木ひとみ (准)	PT16	池谷雅江 (講)
22	共同研究室	研究室 22	1	38.00㎡	PT15	弘部重信 (講)	OT6	下西徳 (講)
23	共同研究室	研究室 23	2	52.00㎡	PT17	野口真一 (講)	PT10	和智道生 (講)
					PT22	藤谷亮 (講)		
24	個別研究室	研究室 24	2	16.00㎡	PT5	堀寛史 (教)		
25	助教・助手室	研究室 25	3	52.00㎡	OT12	嶋川昌典 (助教)	OT7	木岡和実 (助教)
					OT8	杉本久美子 (助教)	OT9	有田智 (助教)
					PT11	佐々木絵美 (助教)		鈴木耕平 (助手)
						寺井淳 (助手)		前田浩二 (助手)
26	個別研究室	研究室 26	3	16.00㎡		助教・助手室の書庫として使用		
27		学長室	1	28.40㎡	PT1	山川正信 (教)		

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

24. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 各研究室の具体的な仕様が示されていないため、各専任教員が取り組む研究領域を踏まえ、どのような研究手法をとり、それに必要な環境（研究用実験室や研究用機器、機密情報の管理などを含む）が整備されているかどうかを明確にし、必要に応じて整備計画を充実させること。

(対応)

各研究室の具体的な仕様について記載ができていなかったため、あらためて示すとともに各教員と研究領域・手法及び実施場所について記載する。

教員研究室は、机、椅子、電話機、ノート型パソコン、プリンター、機密情報を保管するための鍵付きキャビネット及び本棚等を配置する。研究室内は良好な環境を維持し、適正な整備及び管理を行うことで、専任教員の教育研究の成果を高めるよう配慮する。

専任教員が取り組む研究領域及び研究場所について以下の表に示す。本学では、基礎研究から臨床研究、フィールドワーク、調査研究など幅広く研究テーマを設け、実施する。特に理学療法学科では身体活動の分析を中心に研究をし、作業療法学科では身体と精神の両面から生活活動の分析や調査を中心として地域住民の生活を支援できるよう研究を行う。なお、本学の開設時及び開設後の設備計画に基づき研究用機材は適切に配置する。

研究内容により、研究室以外で研究活動を行うが、各部屋の機能及び配置する機材について説明する。機能訓練室には、歩行や走行、ジャンプといった人間の基本的な動き及び、投球やスイングなど各種スポーツ動作を行うことができる走行スペースを併設する。ここでは、三次元動作解析装置及び床反力、筋電図、FlightScope といったものを新たに設置し、人間のさまざまな動きを分析することができる。さらに、トレッドミルや自転車エルゴメーター、呼気ガス分析装置を配置し、運動生理学的変化を分析する。治療室や評価実習室、演習室では、超音波診断装置や体成分分析装置等、移動が可能な計測機器を使用して計測する。基礎医学実習室には電子顕微鏡等を配置し、組織化学や神経生理学に関する研究を行う。その他、本学では地域や病院などフィールドワークを行いやすいよう研究日として1週間に1日は必ず研究を実施できる日を設ける。

機密情報の管理については、大学が保有する研究情報、研究成果のうち未公開のものすべてを機密情報として管理する。入試情報や学内人事、財務情報など企業等と行う共同研究に際しての研究情報も含め、次の通り厳重に管理する。学長が統括責任者として秘密情報の管理を統括し、研究グループごとに管理者をおく。保有している機密情報は有体物については、各研究室におく鍵のかかるキャビネットに保管する。電子データ等の無体物については、各研究室のパソコンにて、アクセス制限をかけ保存する。大学外で得たデータ等や大学外にデータ等を持ち出す場合は、管理者の許可のもと、鍵のかかる鞆を使用する。大学内全職員に対して、機密情報の管理への意識を継続的に持つための研修を行い、意識啓発に努める。

専任教員が取り組む研究領域及び研究場所（理学療法学科）

番号	氏名	研究領域や手法	研究室以外で行う 研究の場所
1	山川 正信	主に地域や施設で実施されるリハ事業の企画・効果の評価を質問紙法などによる疫学的な視点から行っていく。	地域や協力施設
2	山田 久夫	解剖学、神経解剖学、神経病理学、神経科学一般に関する量的・質的研究を中心に行っていく。	基礎医学実習室
3	金沢 伸彦	三次動作解析、表面筋電図を用いて、各年代の健常人および障害者の歩行時の運動パターンと筋活動パターンについて研究を行っていく。	機能訓練室・走行スペース
4	篠田 恵一	アルツハイマー病などの認知症の臨床症状、及びその治療、対策、予防パーキンソン病の治療について臨床研究を行っていく。	藍野病院
5	中野 法彦	再生医療、特に脊髄損傷治療へ向けた再生医療研究を行っていく。研究室内に卓上の光学顕微鏡を研究室に配置する。	藍野大学中央研究施設
6	植田 昌治	心身健康科学領域における心身相関の科学的な解明について量的研究を行っていく。	藍野病院
7	堀 寛史	哲学：理学療法哲学・倫理学という新しい学問の確立。知識情報：ICTによる知的な治療計画・介護計画の支援。スポーツ理学療法：スポーツ損傷を軽減させるための評価方法の検討。	フィールドワーク。 知識情報は病院・施設。
8	里中 綾子	運動生理学を援用したリハビリテーション医学領域における臨床研究を進める。 具体的には地域に在住する障がい者や高齢者の身体活動と体力向上に関する研究を行っていく。	在宅の障害者や高齢者の身体活動の観測等はフィールドワークが中心。 地域の病院や施設。
9	分木 ひとみ	地域在住の高齢者の転倒予防を中心とした介護予防の介入を行い、縦断的な変化について研究する。 重度心身障害児・者の加齢に伴う変化と、介護の重度化の予防について縦断的な研究を行う。	研究フィールドは地域の高齢者や施設
10	兼清 健志	再生医療、特に脊髄損傷治療へ向けた再生医療研究を行っていく。研究室内に卓上の光学顕微鏡を研究室に配置する。	藍野大学中央研究施設

11	佐藤 隆彦	研究領域はバイオメカニクスであり、身体運動を動力学的に分析することで、障害発生の機序解明、障害予防、リハビリテーションプログラムの提案、トレーニングプログラムの提案、などについての研究を行う。	機能訓練室
12	和智 道生	超音波診断装置を用いて各筋の筋厚を計測し、形態的特徴や障害について実験研究を行っていく。	評価実習室
13	佐々木 絵美	肩関節の各運動方向における肩関節周囲筋の筋活動および筋収縮のタイミングについての実験研究。 介護保険下での理学療法士の役割や、今後の理学療法士の需要と供給の調査研究についても実施する。	治療室、地域の施設
14	宇於崎 孝	臨床現場で行う画像評価に加え、側弯症の姿勢および運動特性を分析し、徒手理学療法の効果について実験研究を行う。	実習室、地域の病院 及びクリニック
15	川崎 浩子	介助動作の分析、腰痛予防対策、二次障害予防の方策の実験研究、調査を行っていく。	フィールド調査は、 研究協力施設
16	鈴木 美香	表面筋電図を用いて、若年者と高齢者の歩幅の大きさとその際の筋活動について実験研究を行っていく。また、超音波診断装置を用いて、歩幅の大きさに関する筋の筋厚についても実験研究を行っていく。	治療室、地域の施設
17	弘部 重信	在宅心不全患者の運動実態調査や試行的介入を行っていく。	フィールドは地域の 施設
18	池谷 雅江	障がい者スポーツに関する実験研究は、学外で継続的にアスリートを対象に行う。足部アプローチと静的バランス、神経ダイナミクスの実験研究を行っていく。	障がい者スポーツ実 施施設
19	野口 真一	表面筋電図、超音波診断装置、呼吸機能検査装置を用いて、各年代の健常人、障害者、およびアスリートの歩行や走行動作時の運動パターンと筋活動パターンについての実験研究。	評価実習室、スポー ツ現場
20	山内 正雄	スポーツ種目やスポーツの開始時期などの違いが扁平足罹患に影響するのか調査研究を行う。 脊柱の複合運動の組み合わせやその可動域について実験研究を行う。	実習室、地域の病院 及びクリニック

21	治郎丸 卓三	三次動作解析、表面筋電図を用いて、各年代の健常人、障害者、およびアスリートの歩行や走行動作時の運動パターンと筋活動パターンについて実験研究を行っていく。また、超音波診断装置を用いて、各筋における表面筋電図の記録法の確立について研究を行っていく。	機能訓練室・走行スペース、治療室
22	安田 孝志	三次動作解析、床反力計、表面筋電図を用いて、障がい者（アスリート中心）、健常者のパフォーマンス分析に対する実験研究を行っていく。	機能訓練室、地域の体育館、ゴルフ練習場
23	大西 均	人の運動や姿勢を多方面から分析する実験研究。表面筋電図計測などを使用した運動・姿勢の分析を行っていく。	治療室、地域の病院及びクリニック
24	藤谷 亮	姿勢不良者の運動・姿勢筋制御について、各神経疾患における運動・姿勢筋制御について、筋活動研の実験研究を行っていく。	フィールドワーク（病院、施設、教育機関等）

専任教員が取り組む研究領域及び研究場所（作業療法学科）

	氏名	研究領域	研究室以外で行う研究の場所
1	野田 亨	科研費のテーマとしている科研費挑戦的研究 「大和言葉を手掛かりとした日本人の身体名称、および身体観についての研究」（17K18497） の継続、およびその発展研究 「組織化学と光学顕微鏡、あるいは電子顕微鏡を組み合わせた形態学的研究」	基礎医学実習室
2	三谷 章	リハビリテーション訓練によって促進される脳機能回復の基盤となっている神経機構を、神経生理学的手法をはじめとする神経科学的手法を用いて明らかにする。	基礎医学実習室、治療室
3	外池 光雄	脳科学、生体工学、匂い研究、認知症に関する事例・実験研究を行っていく。	基礎医学実習室

4	田中 弘一郎	<p>1. ストレス関連疾患の発症メカニズムに関する研究 現在取得している科学研究費助成金課題（ストレスによる機能性胃腸症の発症メカニズム解明とイメージングバイオマーカーの開発）を中心に、ストレス関連疾患の発症に関与する神経系を介した脳と腸の相互作用を超高磁場機能的 MRI (fMRI) を用いてリアルタイムかつ非侵襲的に可視化する方法を開発し、ストレス関連疾患の発症メカニズムを解明するための基盤研究を行う。</p> <p>2. ストレス関連疾患及び精神神経疾患に対する薬剤の研究開発 藤田医科大学との共同研究。ストレス負荷時にみられる代謝異常の研究から得られた治療に寄与すると考えられる標的分子に対する薬剤の研究開発を行う。 生化学・分子生物学実験に用いる簡単な器具・機器を配置する。</p>	基礎医学実習室、 藍野大学中央研究施設、大阪大学脳情報通信融合研究センター、藤田医科大学
5	辛島 千恵子	<p>現在、科研費のテーマとしている研究 基盤研究 C「特別支援教育・作業療法士と教員のための環境因子観察表と実践モデルの開発」 基盤研究 C「発達障害・他がある子どもと養育者の地域包括ケアに生かす外出に関する質問紙の開発」の継続。</p>	特別支援学校
6	井出 千束	脊髄損傷の治療法の開発を行っていく。研究室に顕微鏡を配置する。	藍野大学中央研究施設
7	埴田 和史	<p>作業関連性運動器障害の予防に関する研究。 ①医療福祉領域における腰痛・頸肩腕障害の予防、農作業安全の推進に関わる研究。 ②就労支援及び二次障害予防に関する研究。 研究室に携帯型4チャンネル表面筋電計、騒音計、活動量計、熱中症計、心拍計、デジタルビデオカメラ、座圧計を配置する。</p>	フィールド調査を中心に研究、治療室
8	鈴木 規巳洋	<p>①英語4技能上達のためのモチベーションアップのアクティブラーニング法 ②大人数対処のための多面的評価法（発言・提出・グループワーク・家庭学習・暗唱・個別能力対応等）・調査・実験研究および事例研究</p>	フィールドワーク

9	澤 賢一郎	中枢神経疾患による麻痺患者の運動機能から行為動作について事例研究を行う。 認知症患者の作業観察をおこない行動特性について事例、実験研究を行う。	フィールドワーク (病院、施設など 研究協力施設)
10	下西 徳	内部障害に対する作業療法、神経難病患者に対する意思伝達装置、訪問リハビリテーションをテーマに事例、実験研究を行っていく。	星ヶ丘医療センター
11	木岡 和実	障害をもつ方の環境調整からの生活支援について、職種による捉え方の違いや連携についての調査研究。 作業療法士養成教育が学生の職業観に与える影響についての調査研究。	研究フィールドは 地域の施設、作業 療法士養成校
12	杉本 久美子	障害をもった方、高齢者を中心に、地域で暮らす方の生活障害を評価・支援し、健康増進と障害予防のためにライフスタイルを設計する方法を調査研究する。 急性期、回復期、生活期の連携、他職種との連携の在り方、政策動向等、作業療法を取り巻く環境を踏まえて調査研究していく。	フィールドワーク (病院、施設、自 治体、地域包括ケ アセンター)
13	有田 智氏	整形外科領域での事例研究。 術後の運動療法効果、検証を事例、実験研究を行っていく。	地域の病院、施設
14	大西 満	1.小学生のバランス能力と協調性に関する研究 2.子育てにおける対応方法に関する研究 調査・実験研究	小学校、地域の施 設
15	安部 征哉	①作業療法教育研究 学内の作業療法教育の手法を具体的に考え、臨床実習でも手法も具体的に調査研究していく。 ②認知機能・高次脳機能研究 認知症や半側空間無視の患者がどのように視線を動かし視覚的にものを認識しているのか実験研究をしていく。	フィールドワーク (病院、施設など 研究協力施設)
16	嶋川 昌典	環境と学生との相互作用の視点から質的研究を行う。	フィールドは、臨 床実習や評価実習 の施設

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

25. <適切な学生控室を確保しているのか不明確>

主として学生控室は食堂と兼用の学生ホール (207.42 m²) を利用することだが、全学年で480名の学生が在籍する完成年度以降、食堂と兼用の中で余裕をもって休息、交流その他の活動で利用できる十分な環境になっているのか不明確なため、大学の規模に応じた適切な学生控室が配置されることを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学では、学生ホール内に厨房を用意し、食堂を兼ねて授業時間外の自己や学生交流の際に利用する予定である。ここには座席が192席を準備しているが、ご指摘のとおり、全学年在籍する完成年度以降、480名が同時に座ることは困難である。そこで、学生控室の確保の対応を改めて見直した。昼食時の対応、学生交流に関する対応の2点について次のとおりとする。

1) 昼食時の対応

現在の専門学校の状況は360名の在籍している学生約80%が自宅より通学しており、昼食を持参している学生も非常に多い。現在、8室ある1室40席の普通教室(合計320席)では飲食を認めており、各自がそれぞれの場所で昼食をとっても食堂と合わせて十分な状況にある。本学完成年度以降には480名が在籍するが、食堂192席、普通教室320席に加えて、3階の大教室2室(120席)を新たに飲食可能な部屋として開放すると、合計で632席を昼食時に利用することができる。本学完成年度以降も、在籍学生の多くが自宅より通学すると想定しており、その状況に大きな変化はないと思われるため、学生は余裕をもって昼食をとることができると考えている。

2) 学生交流に関する対応

学生の自己学修については、図書館の自習スペース(80席)と視聴覚室(40席)を常時開放し、書籍や雑誌、インターネット等で学修できる環境を整えている。また、完成年度以降の授業時間割をみると、理学療法学科と作業療法学科を合わせても、同時に授業を行うのは最大で8教室使用することになる。本学では、普通教室が8室あり、その他にも実習室や演習室もあるため、これらの教室で十分授業が可能となる。そこで、3階にある大教室2部屋を常時開放することで学生が自由にディスカッションや交流ができるスペースとして使用する。この部屋は、両学科合同で授業をする場合のみ使用するために設置した教室であるが、両学科合同で行うのは4年次後期の協働連携論総合実習2単位のみである。そこで、授業での使用時にはあらかじめ示した時間割及び大教室前に授業利用時間を提示し、他学生に対して周知を促すことで、学生の学修や交流及び授業の妨げとならないよう配慮して管理できると考えている。放課後の余暇やサークル活動では、普通教室8室、大教室2室を引き続き開放し、演習室1室、実習室1室も教務課の利用許可を得て使用を認めることとする。ここでは実技練習なども含めて身体を動かしながら交流できるスペースとして利用することが可能である。

これらのことから、本学の環境において学生の学修や交流が十分に行うことができると考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

26. <外国書の学術雑誌等の選定方針が不明確>

図書等の整備について、外国書の学術雑誌0冊、電子ジャーナル1冊の計画となっており、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義がある。外国書の学術雑誌及び電子ジャーナルの選定理由を明らかにした上で、教育・研究に必要な図書等が十分に整備されていることを明確に説明するか、必要に応じて充実すること。【2学科共通】

(対応)

図書等の整備について、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義があるのご指摘を受け、「外国書の学術雑誌」については、次のとおり、経年的に整備することとした。「電子ジャーナル」については、現状の整備計画で十分であると考えており、その理由を説明する。

1) 外国書の学術雑誌の整備

外国書の学術雑誌は、次の7種を経常経費で経年整備する。リスト及び選定理由は、次のとおりである。併せて、購入計画を示す。

外国書の学術雑誌購入計画リスト

優先度	冊数	Print	選定理由
		Rehabilitation	
4	121	Title : American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation Pub. : Lippincott Williams & Wilkins ISSN : 0894-9115 MJN : 557935 :USA Vol. : 98 冊数 : 12 LP : YEN 214,400 定価 : 299,500 * 形態 :	予防、診断、治療及び筋骨格状態、脳損傷、脊髄損傷、心肺疾患、外傷、急性及び慢性疼痛、切断、義肢装具、移動、歩行、及び小児科だけでなく、癌のリハビリテーション、教育、行政など、リハビリテーションについて幅広い領域を網羅した雑誌であるため選定した。日本の理学療法、作業療法においても発展的に研究していくために重要な雑誌である。リストアップしたリハビリテーション関係の雑誌の中で、CiNii Booksでの所蔵館数が3番目に多いため、優先順位を4位とした。 Impact Factor: 1.843 (2017/2018) (Impact Factor: 雑誌を評価する主要な指標の一つで、雑誌に掲載された論文の引用回数によって算出する。数が多いほど価値が高い。)
1	213	Title : Archives of Physical Medicine and Rehabilitation Pub. : W.B. SAUNDERS COMPANY ISSN : 0003-9993 MJN : 017710 :USA Vol. : 100 冊数 : 12 LP : USD 1,464.00 定価 : 232,400 * 形態 :	米国リハビリテーション医学会の公式ジャーナルであり、理学療法、作業療法などのリハビリテーション及び関連分野の重要な動向や研究開発について掲載している学術雑誌であるため選定した。個人の治療はもとより、研究に有益な情報源となる雑誌である。リストアップしたリハビリテーション関係の雑誌の中で、CiNii Booksでの所蔵館数をもっとも多いため、優先順位を1位とした。 Impact Factor: 3.077 (2017/2018)
7	26	Title : Physical & Occupational Therapy in Pediatrics Pub. : Informa Healthcare ISSN : 0194-2638 MJN : 314046 :USA Vol. : 39 冊数 : 6 LP : USD 2,288.00 定価 : 365,700 * 形態 : with Electronic Journal	小児科における乳児、子供及び若者の発達の及び身体的なリハビリテーションに関わる情報を提供する医学雑誌で、病院、リハビリテーションセンター、学校、そして保健及び福祉サービス機関の理学療法士及び作業療法士など小児科専門家のためのジャーナルであるため選定した。理学療法、作業療法の専門雑誌であるが、対象が小児限定であり、価格が高いため、優先順位を7位とした。 Impact Factor: 1.719 (2017/2018)
		Physical Therapy (理学療法)	
3	157	Title : Physical Therapy Pub. : Oxford University Press ISSN : 0031-9023 MJN : 164070 :USA Vol. : 99 冊数 : 12 LP : STP 170.00 定価 : 39,000 * 形態 :	アメリカの理学療法に関する学術誌である。アメリカ理学療法士の全数を網羅する学術誌である。日本の理学療法の発展的な治療や研究に必要な雑誌であるため選定した。リストアップされたリハビリテーションの関係雑誌で、CiNii Booksでの所蔵館数が2番目に多いため、優先順位を3位とした。 Impact Factor: 2.587 (2017/2018)
		Occupational Therapy (作業療法)	
2	74	Title : British Journal of Occupational Therapy Pub. : Sage Publications ISSN : 0308-0226 MJN : 398210 :GBR Vol. : 82 冊数 : 12 LP : USD 789.00 定価 : 131,100 * 形態 : with Electronic Journal	イギリスの作業療法に関する学術誌である。イギリスでの作業療法全般に関する学術誌であり、政治、医療関係の法律、病院サービス及び社会保障等を論じた内容も含まれる雑誌である。日本の作業療法にも発展的な治療や研究のために必要な雑誌であるため選定した。リストアップされたリハビリテーションの雑誌は、多くが理学療法が主となるため、作業療法の雑誌を優先順位を2位とした。

		Other	
5	233	Title : Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume) Pub. : Lippincott Williams & Wilkins ISSN : MJN : 438221 :USA Vol. : 101 冊数 : 24 LP : YEN 201,900 定価 : 282,000* 形態 :	整形外科・外傷・リウマチを網羅し、整形外科と関連領域の外科の進歩と改善、新しい知識や新技術が記された専門性のあるジャーナルであるため選定した。非常に重要な雑誌でCiNii Booksでの所蔵館数も多いが、整形外科学の雑誌であり、リハビリテーション専門の雑誌ではないため、優先順位を5位とした。 Impact Factor: 4.583 (2017/2018)
6	159	Title : Stroke Pub. : AM HEART ASSN ISSN : 0039-2499 MJN : 203021 :USA Vol. : 50 冊数 : 12 LP : YEN 333,600 定価 : 466,000* 形態 :	脳血管障害の予防、診断、治療に関する臨床報告や実験の最新情報を網羅したAHA/ASAの学会誌である。神経内科、循環器、血管外科、脳神経外科、また、リハビリテーション、理学療法など、扱う領域が多いため選定した。非常に重要な雑誌であるが、脳卒中という医学的要素の強い雑誌であり、CiNii Booksでの所蔵館数が「Journal of Bone and Joint Surgery」に比べ少なく、さらに高価なため、優先順位を6位とした。 Impact Factor: 6.239 (2017/2018)

●購入計画

単位:千円

年	優先度No	金額(定価)	累計金額(定価)
1年目	1、2、3	403	403
2年目	4	300	703
3年目	5	282	985
4年目	6	466	1,451
5年目	7	366	1,817
合計		1,817	1,817

税抜き

2) 電子ジャーナルの整備

設置認可申請書、別記様式第2号(その1の1)基本計画内の図書・設備に挙げた1冊の電子ジャーナルとは、メディカルオンラインのことである。メディカルオンラインは、医療関係者のための医療情報の総合Webサイトである。メディカルオンラインは、取り扱っている配信ジャーナル数1,405ジャーナル、配信文献数308万文献に及んでいる。日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、看護学、医療技術、栄養学及び衛生・保健などのあらゆる医学関連分野の「医学文献」から検索し、必要な文献はその場で全文閲覧・ダウンロードが可能である。また、メディカルオンラインは、本学が選定している39冊の学術誌の多くを含んでいる。以上のことから、電子ジャーナルの選定は、1冊ではあるが、教育・研究の観点から考えても、十分な数を網羅出来ていると考えている。また、常に最新の情報を収集できるという点でも、最適なジャーナルであると考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

27. <図書館スペースが十分か不明確>

収容可能冊数が 12,960 冊の図書館に対して、完成年度は 12,434 冊を整備する計画となっており、追加で購入可能な図書等は 500 冊程度に限られるため、今後、教育研究活動に必要な図書等が生じた場合、適切に整備できるのか疑義がある。このため、今後の図書等の整備に関する対応方針を明確に説明するか、必要に応じて図書等のスペースを充実させること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘を受け、施設・設備を共有する滋賀医療技術専門学校を移設することによって空いたスペースを活用することで、図書室を拡大(申請時: 162.97 m²→現行の計画: 311.66 m²)することとした。これによって、収納可能冊数は、12,960 冊から 24,167 冊とおおよそ 2 倍となった。そのため、書籍の経年整備に伴う蔵書の増加に十分対応することが可能である。変更後と変更前の図面を資料 27-1 において示す。

併せて、株式会社朝日ネットが提供している教育支援サービス「manaba」を經由して、電子書籍「Maruzen eBook Library」を閲覧・利用できる環境を整備することで、スペースの制限を受けずに、教育研究活動の充実を図れる体制とした。

なお、電子書籍については、理学療法学科・作業療法学科の科目や各教員の研究環境を配慮し、計 116 冊購入する計画であり、その一覧は資料 27-2 のとおりである。

資料 27-1: 図書館図面 変更後・変更前

資料 27-2: 購入予定の電子書籍一覧

電子書籍「Maruzen eBook Library」

Copyright © 2018 Asahi Net, Inc. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL 13

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

28. <体育館の代替施設の利用方法が不明確>

体育館等のスポーツ施設を設けないため、市営の運動公園を利用し、バス送迎を行うとのことだが、法令上規定されている学生の利用に際しての経済的負担の軽減が図られた運用になっているのか、学生の授業時間割等に配慮がなされたバスの運行計画となっているのか、学生のクラブ活動など授業以外でも利用できる使用契約となっているのかなど、市営の運動公園の具体的な利用計画が不明なため、明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

申請時においては、市営の運動公園の具体的な利用計画について記載を行っていなかったため、早期予約と費用負担、市営の運動公園の詳細、バスの運行計画について次のとおり記載を行う。

1) 早期予約と費用負担

おくのの運動公園の賃借料及び施設までのバスの費用については、本学が全額負担とし、学生に経済的負担をかけることはない。また、当該施設を管理する東近江市とは、一般の施設利用者が3ヶ月前から予約可能なところ、本学は利用しようとする前年度1月から予約を可能とする取り決めを行っている(資料 28-1)。クラブ活動などによって学生が当該施設を利用する場合は、学生サポートセンターの窓口にて申し出ることとし、予約の手続きは、事務部学生課が代行する。

資料 28-1：東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

2) おくのの運動公園の詳細

おくのの運動公園の詳細は次のとおりであり、体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、フットサルコート及び多目的広場と多様な施設が揃っているため、学生のクラブ活動など授業以外でも活動することが可能な施設となる。

おくのの運動公園

名 称	おくのの運動公園
所 在 地	東近江市青山町 70 番地
施 設	体育館、野球場、グラウンド、テニスコート
開園時間	・体育館・グラウンド 通年 午前 8 時 30 分～22 時 00 分 ・野球場・テニスコート・フットサルコート 4 月～10 月 午前 8 時 30 分～22 時 00 分 11 月～3 月 午前 8 時 30 分～日没 ・多目的広場 通年 午前 8 時 30 分～日没
休 園	年末年始 (12 月 28 日～翌年 1 月 3 日)

3) バスの運行計画

スクールバスの状況及び運行時刻は次のとおりであり、学生の授業時間割等に配慮したバスの運行計画とする。

(1) スクールバスの状況

スクールバスはリース賃貸借しており、以下のバスを充て、柔軟に対応できる体制とする。

なお、スクールバスは学生の登下校にも使用するが、自動車通学も認めている。想定としては、スクールバスの利用と自動車通学はおよそ6:4または7:3になるものと想定されるため、全てのバスを学生の登下校に使用することはない。よって、クラブ活動等に伴うバスの運行状況に不測の事態が起こったとしても、代替用のバスでの対応が可能である。

NO	座席数	備考
1	56席	立ち乗りを含めると70人
2	57席	立ち乗りを含めると65人
3	51席	立ち乗り不可
4	29席	立ち乗り不可
5	18席	立ち乗り不可

※上記のバスの内、2台程度、大型バス（70人乗りのバス）へのリース替えを計画中である。

(2) 運行時刻

基礎科目である「体育」及び「クラブ・サークル活動」での移動のために、バスの運行を行う。

①体育

1単位30時間の体育（選択科目）は、理学療法学科2クラス水曜日の3・4限目（2コマ）、作業療法学科1クラス月曜日の3・4限目（2コマ）で開講し、時間は13時00分～16時10分となる。

<授業時間割等への配慮>

時間割上2限目終了が12:10であり、着替え及び昼食は大学構内で済ませてからスクールバスにて移動を行う。本学出発後は通常5分でおくの運動公園へ到着するが、乗車時間は余裕をみて10分見込んでいる。また、体育終了後はバスで帰校し、大学で着替えることとなるが、体育の開催日5限目には授業を入れないよう配慮した。

なお、以下は基本的な運行時間であり、授業開始・終了時間変更などの事態が生じた場合は、運行時間を随時変更する。

おくの運動公園 行き

本学 発	おくの運動公園 着
12:45	12:55

本学 行き

おくの運動公園 発	本学 着
16:30	16:40

②クラブ・サークル活動

以下が基本的な運行時間であり、予約状況や活動時間により、運行時刻・バス本数は増減する。

月曜日～金曜日

おくのの運動公園 行き

本学 発	おくのの運動公園 着
16:30	16:40
18:30	18:40

本学 行き

おくのの運動公園 発	本学 着
19:00	19:10
20:00	20:10
21:00	21:10

土曜日・日曜日・祝日（年末年始除く）

おくのの運動公園 行き

本学 発	おくのの運動公園 着
9:30	9:40
12:30	12:40

本学 行き

おくのの運動公園 発	本学 着
13:00	13:10
14:00	14:10
15:00	15:10
16:00	16:10

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

29. <学則が不適切>

学則第35条第1項に、入学検定料、入学金、授業料などは学校法人藍野大学学費取扱規程に定めると記載されているが、法令上、授業料、入学料その他の費用徴収に関することは学則に記載しなければならないとされていることから、適切に改めること。【2学科共通】

(対応)

別に定めるのではなく、学則内に次のとおり別表として定める。

学則第35条 別表2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

入学金、授業料等

年額 (単位:円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	400,000	900,000	100,000	200,000
作業療法学科	400,000	900,000	100,000	200,000

(新旧対照表) 学則6ページ

新	旧
<p>(略)</p> <p>第8章 学 費</p> <p>(学費)</p> <p>第35条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、<u>別表2</u>に定める。</p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>第8章 学 費</p> <p>(学費)</p> <p>第35条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、学校法人藍野大学学費取扱規程に定める。</p> <p>(略)</p>

学則第 35 条 別表 2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

入学金、授業料等

年額 (単位：円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	<u>400,000</u>	<u>900,000</u>	<u>100,000</u>	<u>200,000</u>
作業療法学科	<u>400,000</u>	<u>900,000</u>	<u>100,000</u>	<u>200,000</u>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

30. <書類不備>

認可申請書類に不備が散見されるため、適切に修正すること。【2学科共通】

(対応)

認可申請書類に不備が散見されたため、次のとおり改める。

1) 学則における運営会議の規定について

学則において、運営会議について規定を行うとの章立てとしていたにもかかわらず、規定していなかったため、修正を行い、次の新旧対象表に示す。

(新旧対照表) 学則 7ページ

新	旧
<p>第 10 章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。</p> <p>3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。</p> <p>4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</p> <p><u>(運営会議)</u></p> <p>第 40 条 本学に運営会議を置き、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司る。</p> <p><u>2 運営会議の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</u></p>	<p>第 10 章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。</p> <p>3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。</p> <p>4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</p>

2) 損害賠償責任保険、傷害保険への加入について

実習中の学生の損害賠償責任保険に関して、入学時に全学生に対して加入を行う損害賠償責任保険、傷害保険について、保険名称ならびに保険内容に誤りがあったため、修正を行い、次の新旧対照表に示す。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 109～110 ページ

新	旧
<p>入学時に全学生に対して、<u>医療系学生の総合補償制度である総合生活保険（障害補償）への加入を行う。この保険は、実習中を含めた学校管理下（敷地外可）の傷害事故を補償するものであり、この保険への加入により、実習期間中に学生自身が怪我等の障害をおった場合、ならびに実習中に起こった患者の身体または財物への損壊に対して補償を行う体制を整える。</u></p>	<p>入学時に全学生に対して、<u>学生生徒災害障害保険ならびに医療分野学生生徒賠償責任保険への加入を行う。この保険への加入により、実習期間中に学生自身が怪我等の障害をおった場合、ならびに実習中に起こった患者の身体または財物への損壊に対して補償を行う体制を整える。</u></p>

3) 実務の経験等を有する専任教員一覧書類について

実務の経験等を有する専任教員一覧において、本学実務家教員である「池谷雅江」の実務経験の概要欄が作成中であったため、次の新旧対象表に示す。

実務経験等を有する専任教員一覧（別記様式第3号（その4）理学療法学科 9 ページ

新	旧
<p>平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 草津総合病院 リハビリテーション科 理学療法士</u></p> <p><u>骨折、靭帯損傷に対する術後、人工関節置換術、リウマチ等の整形外科疾患、中枢神経疾患の理学療法</u></p>	<p>記述なし（作成中）</p>
<p>平成 16 年 2 月～平成 30 年 8 月</p> <p><u>医療法人湖光会 若草診療所 非常勤職員</u></p> <p><u>急性期、慢性期の整形外科疾患、中枢神経疾患、神経難病、高齢者の運動器不安定症に対する理学療法、訪問リハビリテーションを実施</u></p>	
<p>平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 矢橋中央病院 リハビリテーション科 理学療法士 異動</u></p> <p><u>高齢者、人工透析患者に対する理学療法、胃ろう離脱の取り組みをチーム医療で実施</u></p>	
<p>平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 草津総合病院 リハビリテーション科 理学療法士 異動</u></p>	
<p>平成 19 年 4 月～現在に至る</p> <p><u>滋賀医療技術専門学校 理学療法学科 専任教員（現在休職中）</u></p> <p><u>「社会福祉学」「医学英語」「徒手療法学Ⅲ」「神経障害系理学療法学Ⅰ」「神経障害系理学療法学Ⅱ」「運動療法学実習」「運動学演習」「理学療法研究法」「評価実習Ⅰ」「評価</u></p>	

	実習Ⅱ」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」等	
平成 20 年、平成 21 年 7 月	龍谷大学 社会福祉学科 集中講義 講師 「起居・移乗介助」	
平成 21 年 6 月～平成 22 年 3 月	大津市通所型介護予防事業（運動器の機能 向上プログラム）実施	
平成 22 年 6 月～平成 23 年 3 月	大津市通所型介護予防事業（運動器の機能 向上プログラム）実施	
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 非常勤講師 「マニュアルセラピー」の実技アシスタ ントとして、学生に技術指導を行った	
平成 24 年 5 月～6 月	佛教大学 保健医療技術学部 理学療法学 科 非常勤講師 「日常生活活動学」[運動学]を講義	
平成 27 年 2 月～平成 30 年 8 月	社会医療法人誠光会 草津ケアセンター リハビリテーション科 非常勤職員	
平成 27 年 8 月～平成 28 年 3 月	会福祉法人大樹会やすらぎハウス 介護予 防事業（滋賀県要介護度改善推進モデル事 業）実施	

4) 組織名称の誤植

設置の趣旨等を記載した書類の 50 ページにおいて、教育課程連携協議会の構成員である。宮内吉則氏の所属組織である「一般社団法人滋賀県作業療法士会」の名称を「公益社団法人作業療法士会」としていた。正しい名称に改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 80 ページ

新	旧
⑤宮内吉則 : <u>一般社団法人</u> 作業療法士会 会長	⑤宮内吉則 : 公益社団法人作業療法士会 会長

5) その他

その他、誤字・脱字、てにをはの間違いなど軽微な間違いについて適切に修正を行う。

【教育課程等】

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

3 1. <授業の到達目標と授業計画が不一致>

職業専門科目で配置された「地域生活作業療法学演習 I」は、掲げられた授業の到達目標を達成するための授業計画としては不適切なため、修正すること。

(対応)

当該授業科目の到達目標を、申請時点においては「地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」としていた。一方、授業計画では、「風船バレーボール大会参加」を主に置いていた。「障害を持つ方の生活」と「風船バレーボール大会」とは一致しないため、ご指摘のとおり不適切であった。当該科目においては、障害を持つ方の「生活」ではなく、「社会参加」の意義について理解することを授業の到達目標として用意した授業科目となる。そのため、そのことが分かるよう授業の到達目標を改める。なお、是正事項 1 2 <授業形態の設定が不明確>の対応として、科目名称を「地域生活作業療法学演習 I」から「地域生活作業療法学実習 I」に改めた。

資料 32-1 : シラバス (地域生活作業療法学実習 I) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画)

新		旧	
授業概要到達目標	<p>目標は、「<u>地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える</u>」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>	授業概要到達目標	<p>目標は、「<u>地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える</u>」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関わりを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>

<その他の事項>

学長予定者の変更について

(対応)

申請時において、滋賀医療技術専門学校開学当初より 22 年に渡り学校長及び名誉学校長を務めてきた砂川勇氏を本学の学長候補者としてきたが、先の設置構想審査における対応や、教員資格審査で職位が教授から講師相当と判断頂いたことを重く受け止め、再度、本法人内で熟慮熟考を重ねた結果、本人からの学長予定者を辞退したい旨の申入れもあり、本補正申請において学長予定者を変更させて頂きたい。

1) 新学長予定者の選考方針

本法人は、新学長予定者の選考方針を次のとおり示し、選考会議において検討を重ねた。

- (1) 学校教育法第 92 条第 3 項において規定されている「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する」という校務に関する最終的な決定権を学長が有し、所属職員に対して指揮命令権を有する最重要ポストであることを深く認識し行動できる者。
- (2) 専門職大学の制度的理解や本学設置の趣旨を深く理解し、推進する資質・能力を有し、学長としてのリーダーシップと大学構成員とのコミュニケーション能力を有する者。
- (3) 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動等について、これまでの大学執行部における経験を踏まえ、更に本学の教育研究活動を発展させるべく適切かつ効果的に本学の運営ができる能力を有する者。
- (4) 専門職大学としての本学の将来像について明確なビジョンと情熱を有し、強力なリーダーシップを発揮し、本学の目的の達成に向けて着実に実行する能力を有する者。

2) 選考結果

新学長予定者の選考方針に基づき検討を重ねた結果、山川正信氏を本学の学長予定者としたい。山川正信氏は、本学が求めるべき学長像に合致し、また、地域共生社会に貢献する志の高い学生を育む教育への取り組みや、本学の研究の推進、専門職大学としてのシステム構築、教職員の多様性とやる気を生かす大学の体制構築など具体的な考えを示しており、本学の学長として最も適任であるという結論に至った。

・山川正信 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康教育学、疫学、ヘルスプロモーション、地域保健

昭和 50 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修士課程（衛生工学専攻）修了

昭和 51 年 9 月 滋賀医科大学医学部 助手（保健管理学講座）

平成 3 年 3 月 学位取得 医学博士（滋賀医科大学）

平成 7 年 2 月 滋賀医科大学医学部 講師（福祉保健医学講座）

平成 7 年 10 月 ハワイ大学留学（～平成 8 年 9 月）

平成 9 年 4 月 大阪教育大学教育学部 教授

平成 21 年 4 月 (兼) 大阪教育大学附属池田中学校 校長

(兼) 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 校舎主任

平成 27 年 3 月 大阪教育大学 名誉教授

平成 29 年 4 月 学校法人関西女子学園 宝塚大学看護学部教授・学長 (現在に至る)

審査意見への対応を記載した書類（3月）資料編 目次

資料 1-1：カリキュラムマップ（理学療法学科）

資料 1-2：カリキュラムマップ（作業療法学科）

資料 2-1：「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）

資料 3-1：藍野大学医療保健学部理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要（2018年度以降に入学した学生用）

資料 3-2：滋賀医療技術専門学校理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要

資料 7-1：シラバス（日本の伝統文化）変更後・変更前

資料 7-2：シラバス（英語Ⅰ）変更後・変更前

資料 7-3：シラバス（コミュニケーション論）

資料 7-4：シラバス（心理学）

資料 7-5：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前

資料 7-6：シラバス（人間発達学）

資料 7-7：シラバス（社会福祉学）

資料 9-1：シラバス（理学療法総合演習）変更後・変更前

資料 9-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

資料 9-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前

資料 9-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

資料 10-1：各授業科目の単位及び時間数についての考え方（理学療法学科）

資料 10-2：各授業科目の単位及び時間数についての考え方（作業療法学科）

資料 11-1：履修モデル（理学療法学科）

資料 11-2：履修モデル（作業療法学科）

資料 12-1：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 12-2：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

資料 13-1：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 13-2：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

資料15-1：水準と臨床実習の教育目標との関係

資料15-2：巡回指導計画表（理学療法学科）

資料 15-3：巡回指導計画表（作業療法学科）

資料 15-4：勤務スケジュール表（理学療法学科）

資料 15-5：勤務スケジュール表（作業療法学科）

資料 23-1：びわこリハビリテーション専門職大学 非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

資料 27-1：図書館図面 変更後・変更前

資料 27-2：購入予定の電子書籍一覧

資料 28-1：東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

資料 32-1：シラバス（地域生活作業療法学演習Ⅰ）変更後・変更前

理学療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
<p>(1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を育成する。</p> <p>(2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通して地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>(2) 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p> <p>(3) 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>(4) 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>	<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p> <p>(1) 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(2) 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協働し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(3) 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(4) 理学療法の知識・技術を基礎とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発見し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	初年度教育科目	学びの基礎 コミュニケーション論									
			人間と社会系科目	教育学 倫理学入門 哲学入門 (選択) 社会学 (選択) 日本の伝統文化 (選択) 日本の近代史 (選択)	心理学 音楽 (選択) 体育 (選択)	経営学入門 (選択)	キャリア発達論						
			自然科学系科目	生物学 物理学 I 数学 (選択)	物理学 II (選択)		統計学						
			語学教育系科目	英語 I	英語 II (選択)		韓国語 (選択) 中国語 (選択)						
			理学療法理論科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I 生理学 I	解剖学 II 生理学 II 運動学 I	運動学 II	人間発達学 運動学実習 運動生理学実習					
理学療法理論科目群	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学 薬理学概論	内科学 I 神経内科学 I 整形外科学 I 小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学	内科学 II 神経内科学 II 整形外科学 II	救急援助論 予防医学								
理学療法理論科目群	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論		社会福祉学	地域包括ケア論								
職業専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法学 I 基礎理学療法学 II	基礎理学療法学実習 I 基礎理学療法学実習 II		基礎理学療法学実習 I 基礎理学療法学実習 II								
職業専門科目	理学療法管理学									理学療法管理学 保健医療福祉関連制度			
職業専門科目	理学療法評価学		理学療法評価学	理学療法評価学実習	画像評価学	理学療法評価学演習							
職業実践科目群	理学療法治療学		運動療法学 日常生活活動学 義肢装具学 I 物理療法学	運動療法学実習 義肢装具学 II 神経障害系理学療法学実習 I 運動障害系理学療法学実習 I 小児理学療法学演習 老年期理学療法学演習 スポーツ障害系理学療法学演習	徒手理学療法学 徒手理学療法学実習	徒手理学療法学実習			内部障害応用論実習 (選択) 神経筋骨格障害応用論実習 (選択) スポーツ障害応用論実習 (選択)				
職業実践科目群	地域理学療法学			地域理学療法学	地域理学療法学実習								
職業実践科目群	臨床実務実習	理学療法見学実習 I	理学療法見学実習 II	理学療法見学実習 III		理学療法評価実習	理学療法総合臨床実習 I	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習				
展開科目	地分野を学ぶための共通科目	生涯スポーツ論	ボランティア論 労働衛生論	災害支援論 子育て支援論 教育支援論			地域共生論	マーケティング論 施設起業運営論 障がい者スポーツ論	障がい者スポーツ論実習				
展開科目	地域支援モデル						福祉工学地域活用論 (選択) ロボット工学地域活用論基礎 (選択) ロボット工学地域活用論応用 (選択) 身体障がい者就業環境論 (選択) 組織運営論 (選択)						
展開科目	ヘルスポモーション支援モデル						体力測定論 (選択) 健康増進実践演習 (選択) 健康増進実践演習 (選択) 遊びとレクリエーション (選択) 生きがい創造 (選択) 伝承遊び (選択) メンタルヘルスマネジメント論 (選択)			マップの見方 1. 同系色の科目については科目間の関連が強い。 2. 緑文字は選択科目 3. 赤文字は実習科目			
展開科目	生涯スポーツ支援モデル						スポーツリズムトレーニング論 (選択) パフォーマンス向上論 (選択) フィットネス論 (選択) ランニングトレーニング論 (選択) ゴルフトレーニング論 (選択) ビジョントレーニング論 (選択) シューフィッティング論 (選択)						
総合科目							リハビリテーション総合演習			理学療法総合演習 協働連携総合実習			

作業療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像		ディプロマ・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
<p>(1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。</p> <p>(2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。</p>	<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を満たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法学士(専門職)の学位を授与する。</p>	<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>	<p>初年次教育科目</p> <p>人間と社会系科目</p> <p>自然科学系科目</p> <p>語学教育系科目</p>	<p>学びの基礎 コミュニケーション論</p> <p>教育学 倫理学入門 社会学 哲学入門(選択) 日本の伝統文化(選択) 日本の近代史(選択)</p> <p>生物学 物理学 I 数学(選択)</p> <p>英語 I</p>	<p>心理学 音楽(選択) 体育(選択)</p> <p>経営学入門(選択)</p> <p>キャリア発達論</p> <p>物理学 II(選択)</p> <p>英語 II(選択)</p> <p>韓国語(選択) 中国語(選択)</p>	<p>経営学入門(選択)</p> <p>キャリア発達論</p>	<p>統計学</p> <p>韓国語(選択) 中国語(選択)</p>				
	<p>(1) 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にすることを人間的性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>	<p>(1) 人の生命や価値観や人の暮らしを社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(1) 人の生命や価値観や人の暮らしを社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>人体の機能と構造及び心身の発達</p> <p>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p>保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p>	<p>解剖学 I 生理学 I 運動学 I</p> <p>人間発達学 解剖学 II 生理学 II 運動学 II</p> <p>運動学実習</p>	<p>内科学 I 神経内科学 I 整形外科 I</p> <p>薬理学概論</p> <p>精神医学 小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学</p> <p>救急援助論</p> <p>予防医学</p>	<p>内科学 II 神経内科学 II 整形外科 II</p> <p>救急援助論</p> <p>予防医学</p>				
	<p>(2) 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>	<p>(2) 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(2) 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>基礎作業療法学</p> <p>作業療法管理学</p> <p>作業療法評価学</p>	<p>作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I</p> <p>基礎作業学実習 II</p>	<p>作業療法管理・制度論 作業療法と倫理</p> <p>作業療法評価学総論</p> <p>身体障害作業療法評価学実習 I 身体障害作業療法評価学実習 II 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習</p>					
	<p>(3) 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>	<p>(3) 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動、参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(3) 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動、参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>作業療法治療学</p> <p>地域作業療法学</p> <p>臨床実務実習</p>	<p>作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I</p> <p>基礎作業学実習 II</p> <p>作業療法管理・制度論 作業療法と倫理</p> <p>作業療法評価学総論</p> <p>身体障害作業療法評価学実習 I 身体障害作業療法評価学実習 II 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習</p> <p>日常生活活動論実習 社会生活行為論実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p> <p>作業療法研究法 家族援助論 住環境支援論 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 II 老年期障害作業療法学実習 生活行為向上マネジメント論実習</p>	<p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p>					
	<p>(4) 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>	<p>(4) 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(4) 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>作業療法治療学</p> <p>地域作業療法学</p> <p>臨床実務実習</p>	<p>作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I</p> <p>基礎作業学実習 II</p> <p>作業療法管理・制度論 作業療法と倫理</p> <p>作業療法評価学総論</p> <p>身体障害作業療法評価学実習 I 身体障害作業療法評価学実習 II 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習</p> <p>日常生活活動論実習 社会生活行為論実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p> <p>作業療法研究法 家族援助論 住環境支援論 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 II 老年期障害作業療法学実習 生活行為向上マネジメント論実習</p>	<p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p>					
<p>(5) 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>	<p>(5) 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(5) 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>他分野を学ぶための共通科目</p> <p>老年期モデル</p> <p>成人期モデル</p> <p>児童期モデル</p>	<p>ボランティア論 地域社会共生論</p> <p>災害支援論 地域社会共生論実習</p> <p>子育て支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p> <p>マーケティング論 教育支援論</p> <p>施設起業運営論</p> <p>障害者スポーツ論 障害者スポーツ論実習</p> <p>精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論</p> <p>就労環境論実習</p>	<p>災害支援論 地域社会共生論実習</p> <p>子育て支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p> <p>マーケティング論 教育支援論</p> <p>施設起業運営論</p> <p>障害者スポーツ論 障害者スポーツ論実習</p> <p>精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論</p> <p>就労環境論実習</p>						
			<p>職業専門科目</p> <p>職業実践科目</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	<p>1年前期</p> <p>1年後期</p> <p>2年前期</p> <p>2年後期</p> <p>3年前期</p> <p>3年後期</p> <p>4年前期</p> <p>4年後期</p>	
			<p>総合科目</p>	<p>1年前期</p>	<p>1年後期</p>	<p>2年前期</p>	<p>2年後期</p>	<p>3年前期</p>	<p>3年後期</p>	<p>4年前期</p>	<p>4年後期</p>
											<p>協働連携論総合実習 作業療法総合実習 I 作業療法総合実習 II</p>

マップの見た
1. 同系色の科目については科目間の関連が強い。
2. 緑文字は選択科目
3. 赤文字は実習科目

「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）【概要】

「地域共生社会」とは

平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

改革の背景と方向性

公的支援の『縦割り』から『丸ごと』への転換

- 個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援
- 人口減少に対応する、分野をまたがる総合的サービス提供の支援

『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへの転換

- 住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出す
- 地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す

改革の骨格

地域課題の解決力の強化

- 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備【29年制度改革】
- 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【29年制度改革】
- 地域福祉計画の充実【29年制度改革】

地域を基盤とする包括的支援の強化

- 地域包括ケアの理念の普遍化：高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築
- 共生型サービスの創設【29年制度改革・30年報酬改定】
- 市町村の地域保健の推進機能の強化、保健福祉横断的な包括的支援のあり方の検討

「地域共生社会」の実現

- 多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な就労・社会参加の場の整備
- 社会保障の枠を超え、地域資源（耕作放棄地、環境保全など）と丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

- 対人支援を行う専門資格に共通の基礎課程創設の検討
- 福祉系国家資格を持つ場合の保育士養成課程・試験科目の一部免除の検討

地域丸ごとのつながりの強化

専門人材の機能強化・最大活用

実現に向けた工程

平成29(2017)年：介護保険法・社会福祉法等の改正

- ◆市町村による包括的支援体制の制度化
- ◆共生型サービスの創設 など

平成30(2018)年：

- ◆介護・障害報酬改定：共生型サービスの評価 など
- ◆生活困窮者自立支援制度の強化

平成31(2019)年以降：

更なる制度見直し

2020年代初頭：
全面展開

【検討課題】

- ①地域課題の解決力強化のための体制の全国的な整備のための支援方策（制度のあり方を含む）
- ②保健福祉行政横断的な包括的支援のあり方
- ③共通基礎課程の創設 等

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
看護	看護学概論	30	2			2										
	基礎看護学援助論 I	60	2			2										
	基礎看護学援助論 II	60	2				2									
	基礎看護学活動論 I	30	2					2								
	基礎看護学活動論 II	60	2					2								
	臨床看護総論	30	2						2							
	基礎看護学実習 I	45	1				1									
	基礎看護学実習 II	90	2						2							
	成人看護学概論	30	2					2								
	成人看護学援助論 I	30	1						1							
	成人看護学援助論 II	30	1						1							
	成人看護学演習 I	30	1							1						
	成人看護学演習 II	30	1							1						
	成人看護学実習 I	135	3								3					
	成人看護学実習 II	135	3								3					
	老年看護学概論	30	2					2								
	老年看護学援助論	30	1						1							
	老年看護学演習	60	2							2						
	老年看護学実習	180	4								4					
	小児看護学概論	30	2					2								
	小児看護学援助論	30	1						1							
	小児看護学活動論	30	1							1						
	小児看護学実習	90	2								2					
	母性看護学概論	30	2					2								
	母性看護学援助論	30	1						1							
	母性看護学活動論	30	1							1						
	母性看護学実習	90	2								2					
	精神看護学概論	30	2						2							
	精神看護学援助論	30	1					1								
	精神看護学活動論	60	2							2						
	精神看護学実習	90	2								2					
	在宅看護学概論	30	2					2								
	在宅看護学援助論	30	1							1						
	在宅看護学活動論	30	1							1						
	在宅看護学実習	90	2								2					
	統合看護実践論 I	30	2							2						
	統合看護実践論 II	30	2									2				
	統合看護学実習	90	2									2				
	看護学総合演習	30	1										1			
	公衆衛生看護学概論	○ 30		2			2									
	公衆衛生看護学援助論 I	○ 30			2			2								
	公衆衛生看護学援助論 II	○ 30			2				2							
	公衆衛生看護学活動論 I	○ 30			2					2						
	公衆衛生看護学活動論 II	○ 30			2					2						
	公衆衛生看護学活動論 III	○ 30			2							2				
	公衆衛生看護管理論	○ 30			2								2			
学校保健	★ ○ 30		2			2										
養護学概論	★ 30			2				2								
健康相談活動論	★ 60			2					2							
公衆衛生看護学実習 I	○ 180			4								4				
公衆衛生看護学実習 II	○ 45			1								1				
公衆衛生看護学総合演習	○ 30			1									1			
卒業研究	90	2											2			
教育	教職論 ●★	30		2			2									
	教育原論 ●★	30			2	2										
	教育心理学 ●★	30			2		2									
	教育社会学 ●★	30		2			2									
	教育課程論 ●★	30			2			2								
	看護教育方法 I ●	30			2				2							
	看護教育方法 II ●	30			2								2			
	道德教育の研究 ★	30			2					2						
	特別活動の指導 ●★	30			2				2							
	教育方法論 ●★	30			2				2							
	生徒・進路指導論 ●★	30			2				2							
	教育相談 ●★	30			2		2									
	教育実習指導 ●	15			1					1						
	教育実習 ●	90			2								2			
	教職実践演習(高) ●	30			2								2			
	教職実践演習(養護教諭) ★	30			2								2			
	養護実習指導 ★	15			1								1			
	養護実習 ★	120			4								4			

* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修。

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2015年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 必修科目 35単位 計 35単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上
	法学 ●★	30			2	2										
	医療倫理学	30	2										2			
	社会保障論	30	1											1		
	世界の保健医療	30		1			1									
	国際比較福祉論	30		1			1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1					1						
	医療心理学	30			1	1										
	体育講義 ●★	30			1		1									
	体育実習 ●★	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30			1	1										
	コミュニケーション論	30			1	1										
	統計学 I	30	1			1										
	統計学 II	30			1		1									
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学 ●	30			1	1										
	数学基礎 I	30			1	1										
数学基礎 II	30			1		1										
物理学基礎 I	30			1	1											
物理学基礎 II	30			1		1										
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで											
小計	855	8	2	24	16	10	1	1	1	0	2	1				
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2										
	解剖生理学 II	30	2				2									
	臨床生化学	30	2						2							
	代謝栄養学	30	2					2								
	薬理学	30	2					2								
	微生物学	30	2				2									
	病理学	30	2				2									
	病態学 I (症候論)	30	2					2								
	病態学 II (病態生理学)	30	2					2								
	病態学 III (病態臨床学)	30	2						2							
	病態学 IV (病態治療論)	30	2						2							
	臨床検査学	30	2					2								
	基礎医学実習	60	2				2									
	リハビリテーション総論	30	2				2									
	ターミナルケア	30	2							2						
	医療社会学	30			2	2										
	精神医学概論	30	2				2									
保健統計学	30	2				2										
保健福祉行政論 I ★○	30			2								2				
保健福祉行政論 II ○	15			1									1			
疫学 ★○	30			2					2							
公衆衛生学	30			2	2											
シンメディカル論	15	1							1							
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1				

* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修
○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (2015年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
看護	看護学概論	30	2			2										
	基礎看護学援助論 I	60	2			2										
	基礎看護学援助論 II	60	2				2									
	基礎看護学活動論 I	30	2					2								
	基礎看護学活動論 II	60	2					2								
	臨床看護総論	30	2						2							
	基礎看護学実習 I	45	1			1										
	基礎看護学実習 II	90	2						2							
	成人看護学概論	30	2					2								
	成人看護学援助論 I	30	1						1							
	成人看護学援助論 II	30	1						1							
	成人看護学演習 I	30	1							1						
	成人看護学演習 II	30	1							1						
	成人看護学実習 I	135	3								3					
	成人看護学実習 II	135	3								3					
	老年看護学概論	30	2					2								
	老年看護学援助論	30	1						1							
	老年看護学演習	60	2							2						
	老年看護学実習	180	4								4					
	小児看護学概論	30	2					2								
	小児看護学援助論	30	1						1							
	小児看護学活動論	30	1							1						
	小児看護学実習	90	2								2					
	母性看護学概論	30	2					2								
	母性看護学援助論	30	1						1							
	母性看護学活動論	30	1							1						
	母性看護学実習	90	2								2					
	精神看護学概論	30	2					2								
	精神看護学援助論	30	1						1							
	精神看護学活動論	60	2							2						
	精神看護学実習	90	2								2					
	在宅看護学概論	30	2					2								
	在宅看護学援助論	30	1							1						
	在宅看護学活動論	30	1							1						
	在宅看護学実習	90	2								2					
	統合看護実践論 I	30	2							2						
	統合看護実践論 II	30	2									2				
	統合看護学実習	90	2									2				
	看護学総合演習	60	2										2			
	公衆衛生看護学概論	○ 30		2			2									
	公衆衛生看護学援助論 I	○ 30			2			2								
	公衆衛生看護学援助論 II	○ 30			2				2							
	公衆衛生看護学活動論 I	○ 30			2					2						
	公衆衛生看護学活動論 II	○ 30			2						2					
	公衆衛生看護学活動論 III	○ 30			2							2				
	公衆衛生看護管理論	○ 30			2								2			
学校保健	★ 30		2			2										
養護学概論	★ 30			2				2								
健康相談活動論	★ 60			2					2							
公衆衛生看護学実習 I	○ 180			4								4				
公衆衛生看護学実習 II	○ 45			1								1				
公衆衛生看護学総合演習	○ 60			2									2			
卒業研究	90	2											2			
教育	教職論	● ★ 30		2			2									
	教育原論	● ★ 30			2	2										
	教育心理学	● ★ 30			2		2									
	教育社会学	● ★ 30		2			2									
	教育課程論	● ★ 30			2			2								
	看護教育方法 I	● 30			2				2							
	看護教育方法 II	● 30			2								2			
	道德教育の研究	★ 30			2						2					
	特別活動の指導	● ★ 30			2					2						
	教育方法論	● ★ 30			2				2							
	生徒・進路指導論	● ★ 30			2					2						
	教育相談	● ★ 30			2		2									
	教育実習指導	● 15			1						1					
	教育実習	● 90			2									2		
	教職実践演習(高)	● 30			2									2		
	教職実践演習(養護教諭)	★ 30			2									2		
	養護実習指導	★ 15			1									1		
	養護実習	★ 120			4									4		
	小計		3450	71	8	55	7	14	22	20	21	18	15	17		
	合計		4995	114	10	88	29	38	29	29	29	18	19	19		

* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修
○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2014年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 8単位 必修科目 1単位以上 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 35単位 必修科目 35単位以上 計 35単位以上 専門科目 71単位 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上
	法学 ●★	30			2	2										
	医療倫理学	30	2											2		
	社会保障論	30	1												1	
	世界の保健医療	30		1			1									
	国際比較福祉論	30		1			1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1						1					
	医療心理学	30			1	1										
	体育講義 ●★	30			1		1									
	体育実習 ●★	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30			1	1										
	コミュニケーション論	30			1	1										
	統計学 I	30	1			1										
	統計学 II	30			1		1									
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学 ●	30			1	1										
数学基礎 I	30			1	1											
数学基礎 II	30			1		1										
物理学基礎 I	30			1	1											
物理学基礎 II	30			1		1										
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工学情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで											
小計	855	8	2	24	16	10	1	1	1	0	2	1				
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2										
	解剖生理学 II	30	2				2									
	臨床生化学	30	2						2							
	代謝栄養学	30	2					2								
	薬理学	30	2					2								
	微生物学	30	2				2									
	病理学	30	2				2									
	病態学 I (症候論)	30	2					2								
	病態学 II (病態生理学)	30	2					2								
	病態学 III (病態臨床学)	30	2						2							
	病態学 IV (病態治療論)	30	2						2							
	臨床検査学	30	2					2								
	基礎医学実習	60	2				2									
	リハビリテーション総論	30	2				2									
	ターミナルケア	30	2							2						
	医療社会学	30			2	2										
	精神医学概論	30	2				2									
保健統計学	30	2				2										
保健福祉行政論 I ★○	30			2								2				
保健福祉行政論 II ○	15			1										1		
疫学 ★○	30			2					2							
公衆衛生学	30			2	2											
シンメディカル論	15	1							1							
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1				

* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修

○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2012年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 必修科目 35単位 計 35単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目から あわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上
	法学 ●★	30			2	2										
	医療倫理学	30	2									2				
	社会保障論	30	1											1		
	世界の保健医療	30		1			1									
	国際比較福祉論	30		1			1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	人間学	30			1					1						
	医療心理学	30			1	1										
	体育講義 ●★	30			1		1									
	体育実習 ●★	30			1	1										
	英語Ⅰ	30	1			1										
	英語Ⅱ	30	1				1									
	医療英語Ⅰ	30			1			1								
	医療英語Ⅱ	30			1				1							
	文章表現法	30			1	1										
	コミュニケーション論	30			1	1										
	統計学Ⅰ	30	1			1										
	統計学Ⅱ	30			1		1									
	情報科学Ⅰ	30	2			2										
	情報科学Ⅱ	30			1		1									
	生化学 ●	30			1	1										
	数学基礎Ⅰ	30			1	1										
	数学基礎Ⅱ	30			1		1									
	物理学基礎Ⅰ	30			1	1										
	物理学基礎Ⅱ	30			1		1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
	小計	840	8	2	23	16	9	1	1	1	0	2	1			
	専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2									
解剖生理学Ⅱ		30	2				2									
臨床生化学		30	2						2							
代謝栄養学		30	2					2								
薬理学		30	2					2								
微生物学		30	2				2									
病理学		30	2				2									
病態学Ⅰ(症候論)		30	2					2								
病態学Ⅱ(病態生理学)		30	2					2								
病態学Ⅲ(病態臨床学)		30	2						2							
病態学Ⅳ(病態治療論)		30	2						2							
臨床検査学		30	2					2								
基礎医学実習		60	2				2									
リハビリテーション総論		30	2				2									
ターミナルケア		30	2						2							
医療社会学		30			2	2										
精神医学概論		30	2				2									
保健統計学		30	2				2									
保健福祉行政論Ⅰ ★○	30			2							2					
保健福祉行政論Ⅱ ○	15			1								1				
疫学 ★○	30			2				2								
公衆衛生学 ★○	30			2	2				2							
シンメディカル論	15	1							1							
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1				

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2010年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	健康科学	30	1			1									卒業要件 基礎科目 13単位 必修科目 13単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 8単位以上 計 22単位以上 専門基礎科目 必修科目 26単位 選択必修科目 1単位以上 計 27単位以上 専門科目 必修科目 82単位 計 82単位 専門基礎科目と 専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 135単位以上
	統計学Ⅰ	30	1			1									
	統計学Ⅱ	30			1		1								
	情報科学Ⅰ	30	2						2						
	情報科学Ⅱ	30			1			1							
	環境と生活	30			1	1									
	数学基礎Ⅰ	30			1	1									
	数学基礎Ⅱ	30			1		1								
	物理学基礎Ⅰ	30			1	1									
	物理学基礎Ⅱ	30			1		1								
	生化学	30			1			1							
	科学技術概論	30			1			1							
	英語Ⅰ	30	1			1									
	英語Ⅱ	30	1				1								
	医療英語Ⅰ	30	1					1							
	医療英語Ⅱ	30	1						1						
	英文抄読	30			2					2					
	日本語	30			1	1									
	文章表現法	30			1				1						
	コミュニケーション論	30	1			1									
	ボランティア論	30			1	1									
	社会保障論	30	1						1						
	法学	30			2					2					
	医療倫理学	30	2										2		
	世界の保健医療	30		1			1								
	国際比較福祉論	30		1			1								
	体育講義	30			1		1								
	体育実習	30			1	1									
	人間学	30			1					1					
	医療心理学	30	1			1									
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
小計	900	13	2	21	11	7	1	10	3	0	2	0			
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2									
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2								
	臨床生化学	30	1									1			
	代謝栄養学	30	2						2						
	薬理学	30	2						2						
	微生物学	30	2				2								
	病理学	30	2				2								
	病態学Ⅰ(症候論)	30	1					1							
	病態学Ⅱ(病態生理学)	30	1					1							
	病態学Ⅲ(病態臨床学)	30	1						1						
	病態学Ⅳ(病態治療論)	30	1						1						
	臨床検査学	30			1			1							
	基礎医学実習	60	2					2							
	リハビリテーション総論	30			1		1								
	ターミナルケア	30			1					1					
	医療社会学	30			1	1									
	精神病学	30			1				1						
	保健統計学	30	2									2			
	保健福祉行政論Ⅰ	30	2									2			
	保健福祉行政論Ⅱ	15	1										1		
疫学	30	2						2							
国際看護研修	30			2					2						
シンメディカル学Ⅰ	15		1			1									
シンメディカル学Ⅱ	15		1					1							
シンメディカル学Ⅲ	15		1							1					
シンメディカル学Ⅳ	15		1									1			
小計	735	26	4	7	3	10	3	10	3	1	4	3			

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2010年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択 必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
看護学概論	30	2			2										
基礎看護学援助論Ⅰ	45	2			2										
基礎看護学援助論Ⅱ	45	2				2									
基礎看護学活動論Ⅰ	30	1					1								
基礎看護学活動論Ⅱ	30	1					1								
臨床看護総論	30	2						2							
基礎看護学実習Ⅰ	45	1			1										
基礎看護学実習Ⅱ	90	2						2							
成人看護学概論	30	2					2								
成人看護学援助論Ⅰ	30	1					1								
成人看護学援助論Ⅱ	30	1							1						
成人看護学演習Ⅰ	30	1							1						
成人看護学演習Ⅱ	30	1								1					
成人看護学実習Ⅰ	135	3								3					
成人看護学実習Ⅱ	135	3								3					
老年看護学概論	30	2					2								
老年看護学援助論	30	1						1							
老年看護学演習	60	2							2						
老年看護学実習	180	4								4					
小児看護学概論	30	2					2								
小児看護学援助論	30	1						1							
小児看護学活動論	30	1							1						
小児看護学実習	90	2								2					
母性看護学概論	30	2			2										
母性看護学援助論	30	1					1								
母性看護学活動論	30	1							1						
母性看護学実習	90	2								2					
精神看護学概論	30	2					2								
精神看護学援助論	30	1					1								
精神看護学活動論	60	2						2							
精神看護学実習	90	2							2						
在宅看護学概論	30	2					2								
在宅看護学援助論	30	2						2							
在宅看護学実習	90	2							2						
統合看護実践論Ⅰ	30	2						2							
統合看護実践論Ⅱ	30	2								2					
統合看護学実習	90	2								2					
地域看護学概論	30	2					2								
地域看護学援助論	30	2						2							
地域看護学活動論Ⅰ	30	2						2							
地域看護学活動論Ⅱ	30	2							2						
地域看護学管理論	30	2								2					
学校保健	30	2					2								
養護学概論	30			2						2					*1
健康相談活動論	30			2						2					*1
地域看護学実習Ⅰ	135	3									3				
地域看護学実習Ⅱ	45	1									1				
看護学総合演習	30	1										1			
卒業研究	90			2									2		
教職論	30			2		2									
教育原論	30			2		2									理学・作業療法学科履修可
教育心理学	30			2		2									
教育社会学	30			2		2									
教育課程論	30			2			2								
看護教育方法Ⅰ	30			2				2							
看護教育方法Ⅱ	30			2					2						
道德教育の研究	30			2				2							
特別活動の指導	30			2					2						
教育方法論	30			2				2							理学・作業療法学科履修可
生徒・進路指導論	30			2					2						
教育相談	30			2		2									
教育実習指導	15			1						1					
教育実習	60			2								2			
養護実習指導	15			1							1				
養護実習	120			4								4			
教職実践演習(高)	30			2									2		
教職実践演習(養護教諭)	30			2										2	
小計	3105	82	0	42	11	8	21	20	17	19	15	13			
合計	4740	121	6	70	25	25	25	40	23	20	21	16			

*1 2011年度入学生は、地域看護学実習Ⅰ・地域看護学実習Ⅱの配当年次を4年通年とする。

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2018年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択必修	選択	3年		4年			
						前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から3単位以上選択 合計 47単位以上 (認定単位数82単位と合せ129単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から23単位以上選択 合計 67単位以上 (認定単位数62単位と合せ129単位以上)	
	論理学入門	15			1		1		1		
	人間学	15			1	1		1			
	心理学	15			1	1		1			
	宗教学入門	15			1	1		1			
	文化人類学	15			1	1		1			
	欧米の文化	15			1	1		1			
	近畿の伝統文化	15			1		1		1		
	日本史の見方	15			1		1		1		
	法学 ●	30			2	2		2			
	経済学入門	15			1	1		1			
	フィールドワーク入門	15			1		1		1		
	ボランティア論	15			1	1		1			
	世界の保健医療	15			1		1		1		
	国際比較福祉論	15			1		1		1		
	環境と生活	15			1		1		1		
	科学技術論	15			1		1		1		
	発酵学入門	15			1	1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1			
	からだの化学と機能	15			1		1		1		
	基 礎 科 目	英語 I	30	1			1				
		英語 II	30	1				1			
		医療英語 I	15			1			1		
		医療英語 II	15			1			1		
		フランス語入門 I	15			1	1		1		
		フランス語入門 II	15			1		1	1		
		複言語学習のすすめ	30			2	2		2		
		統計学 II	30			1		1			1
情報科学 II		30			1		1		1		
数学基礎 I		30			1	1		1			
理 系 基 礎 科 目	数学基礎 II	30			1		1		1		
	物理学基礎 I	30			1	1		1			
	物理学基礎 II	30			1		1		1		
	化学基礎	15			1	1		1			
	生物学入門	15			1		1		1		
	再生医療入門	15			1		1		1		
	学びの基盤	15	1			1					
	健康科学	15			1	1		1			
	コミュニケーション論	15			1	1		1			
	文章表現法	15	1					1			
初 年 次 教 育 科 目	統計学 I	30	1			1					
	情報科学 I	30	2			2					
	体育講義 ●	30			1		1		1		
	体育実習 ●	30			1	1		1			
	国際医療研修	30			1		1		1		
	その他	—			1 または 2				3年前期から 4年前期まで		
専 門 基 礎 科 目	解剖生理学 I	30	2			2					
	解剖生理学 II	30	2				2				
	生化学 ●	30			1	1		1			
	臨床生化学	30	2					2			
	代謝栄養学	30	2				2				
	薬理学	30	2				2				
	微生物学	30	2						2		
	病理学	30	2						2		
	病態学 I (症候論)										
	病態学 II (病態生理学)										
	病態学 III (病態臨床学)										
	病態学 IV (病態治療論)										
	臨床検査学	30			1	1		1			
	基礎医学実習	60			2		2		2		
	精神医学概論										
	リハビリテーション総論	30			2		2		2		
	ターミナルケア	30			2	2		2			
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1		1			
	医療心理学	15			1	1		1			
	医療倫理学	30	2					2			
	社会保障論	30	1						1		
	医療制度論	30			2	2		2			
	保健福祉行政論 I										
	保健福祉行政論 II										
	公衆衛生学	30	2				2				
	疫学										
	保健統計学										
	シメディカル論	15	1					1			
ホースセラピー	15			1	1		1				

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2018年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護	看護学概論	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30			2	2		2		
	基礎看護学活動論 II	60			2	2		2		
	臨床看護総論	30			2		2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45			1		1		1	
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30			2	2		2		
	成人看護学援助論 I	30	1				1			
	成人看護学援助論 II	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30			1	1		1		
	成人看護学演習 II	30			1	1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論	30			2	2		2		
	老年看護学援助論	30	1				1			
	老年看護学演習	60			2	2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30			2	2		2		
	母性看護学援助論	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30			2		2		2	
	精神看護学援助論	30			1	1		1		
	精神看護学活動論	60			2	2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30			2	2		2		
	在宅看護学援助論 ●	30			1	1		1		
	在宅看護学活動論	30			1	1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30			2	2		2		
	統合看護実践論 II	30			2	2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
公衆衛生看護管理論										
学校保健										
養護学概論										
健康相談活動論										
公衆衛生看護学実習 I										
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30			2		2		2		
教育原論 ●	30			2	2		2			
教育心理学 ●	30			2		2		2		
教育社会学 ●	30			2		2		2		
教育課程論 ●	30			2	2		2			
看護教育方法 I ●	30			2		2		2		
看護教育方法 II ●	30			2				2		
道德教育の研究	30			2	2		2			
特別活動の指導 ●	30			2		2		2		
教育方法論 ●	30			2		2		2		
生徒・進路指導論 ●	30			2		2		2		
教育相談 ●	30			2		2		2		
教育実習指導 ●	15			1	1		1			
教育実習 ●	45			2				2		
教職実践演習 (高) ●	30			2				2		
教職実践演習 (養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2016年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択必修	選択	3年		4年			
						前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から3単位以上選択 合計 47単位以上 (認定単位数82単位と合せ129単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から23単位以上選択 合計 67単位以上 (認定単位数62単位と合せ129単位以上)	
	論理学入門	15			1		1		1		
	人間学	15			1	1		1			
	心理学	15			1	1		1			
	宗教学入門	15			1	1		1			
	文化人類学	15			1	1		1			
	欧米の文化	15			1	1		1			
	近畿の伝統文化	15			1		1		1		
	日本史の見方	15			1		1		1		
	法学 ●	30			2	2		2			
	経済学入門	15			1	1		1			
	フィールドワーク入門	15			1		1		1		
	ボランティア論	15			1	1		1			
	世界の保健医療	15			1		1		1		
	国際比較福祉論	15			1		1		1		
	環境と生活	15			1	1		1			
	科学技術論	15			1		1		1		
	発酵学入門	15			1	1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1			
	からだの化学と機能	15			1		1		1		
	基礎教育科目	英語 I	30	1			1				
		英語 II	30	1				1			
		医療英語 I	15			1			1		
		医療英語 II	15			1					1
		フランス語入門 I	15			1	1		1		
		フランス語入門 II	15			1		1			1
	理系基礎科目	統計学 II	30			1		1			1
		情報科学 II	30			1		1			1
数学基礎 I		30			1	1		1			
数学基礎 II		30			1		1		1		
物理学基礎 I		30			1	1		1			
物理学基礎 II		30			1		1		1		
化学基礎		15			1	1		1			
生物学入門		15			1		1		1		
再生医療入門		15			1		1		1		
学びの基盤		15	1			1					
初年次教育科目	健康科学	15			1	1		1			
	コミュニケーション論	15			1	1		1			
	文章表現法	15	1					1			
	統計学 I	30	1			1					
	情報科学 I	30	2			2					
	体育講義 ●	30			1		1		1		
その他	国際医療研修	30			1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2				3年前期から 4年前期まで		
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2					
	解剖生理学 II ●	30	2				2				
	生化学 ●	30		1		1		1			
	臨床生化学	30	2					2			
	代謝栄養学	30	2				2				
	薬理学 ●	30	2				2				
	微生物学 ●	30	2						2		
	病理学 ●	30	2						2		
	病態学 I (症候論)										
	病態学 II (病態生理学)										
	病態学 III (病態臨床学)										
	病態学 IV (病態治療論)										
	臨床検査学	30			1	1		1			
	基礎医学実習	60			2		2		2		
	精神医学概論										
	リハビリテーション総論	30			2		2		2		
	ターミナルケア	30			2	2		2			
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1		1			
	医療心理学	15			1	1		1			
	医療倫理学	30	2					2			
	社会保障論	30	1						1		
	医療制度論	30			2	2		2			
	保健福祉行政論 I										
	保健福祉行政論 II										
	公衆衛生学	30	2			2					
	疫学										
保健統計学											
シメディカル論	15	1					1				
ホースセラピー	15			1	1		1				

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2016年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	3年		4年		
						前	後	前	後	
専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30			2	2		2		
	基礎看護学活動論 II	60			2	2		2		
	臨床看護総論	30			2		2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45			1		1		1	
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30			2	2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30			1	1		1		
	成人看護学演習 II	30			1	1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30			2	2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60			2	2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30			2	2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30			2		2		2	
	精神看護学援助論	30			1	1		1		
	精神看護学活動論	60			2	2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30			2	2		2		
	在宅看護学援助論	30			1	1		1		
	在宅看護学活動論	30			1	1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30			2	2		2		
	統合看護実践論 II	30			2	2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30			2		2		2		
教育原論 ●	30			2	2		2			
教育心理学 ●	30			2		2		2		
教育社会学 ●	30			2		2		2		
教育課程論 ●	30			2	2		2			
看護教育方法 I ●	30			2		2		2		
看護教育方法 II ●	30			2				2		
道德教育の研究	30			2	2		2			
特別活動の指導 ●	30			2		2		2		
教育方法論 ●	30			2		2		2		
生徒・進路指導論 ●	30			2		2		2		
教育相談 ●	30			2		2		2		
教育実習指導 ●	15			1	1		1			
教育実習 ●	45			2				2		
教職実践演習 (高) ●	30			2				2		
教職実践演習 (養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2015年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から7単位以上選択 合計 50単位以上 (認定単位数82単位と合せ132単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から27単位以上選択 合計 70単位以上 (認定単位数62単位と合せ132単位以上)
	法学 ●	30		2		2		2		
	医療倫理学	30		2				2		
	社会保障論	30		1					1	
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	科学技術論	30		1			1		1	
	再生医療概説	15		1			1		1	
	人間学	30		1		1		1		
	医療心理学	30		1		1		1		
	体育講義 ●	30		1			1		1	
	体育実習 ●	30		1		1		1		
	英語 I ●	30	1			1				
	英語 II ●	30	1				1			
	医療英語 I	30		1		1		1		
	医療英語 II	30		1			1		1	
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	統計学 I	30	1			1				
	統計学 II	30		1			1		1	
	情報科学 I ●	30	2			2				
	情報科学 II	30		1			1		1	
	生化学 ●	30		1		1		1		
	数学基礎 I	30		1		1		1		
	数学基礎 II	30		1			1		1	
	物理学基礎 I	30		1		1		1		
物理学基礎 II	30		1			1		1		
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から 4年前期まで					
小計	855	9	25	0	17	11	16	11		
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2				
	解剖生理学 II ●	30	2				2			
	臨床生化学	30	2					2		
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学 ●	30	2				2			
	微生物学 ●	30	2						2	
	病理学 ●	30	2						2	
	病態学 I (症候論)									
	病態学 II (病態生理学)									
	病態学 III (病態臨床学)									
	病態学 IV (病態治療論)									
	臨床検査学	30		2		2		2		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		2			2		2	
	ターミナルケア	30		2		2		2		
	医療社会学	30		2		2		2		
	精神医学概論									
	保健統計学									
	保健福祉行政論 I									
	保健福祉行政論 II									
疫学										
公衆衛生学	30	2			2					
シンメディカル論	15	1					1			
小計	435	17	10	0	10	10	9	8		

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2015年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護 専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30		2		2		2		
	基礎看護学活動論 II	60		2		2		2		
	臨床看護総論	30		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1			1		1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		1		1		1		
	在宅看護学活動論	30		1		1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2		2		2		
	統合看護実践論 II	30		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30		2			2		2		
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	45		2					2		
教職実践演習(高) ●	30		2					2		
教職実践演習(養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1575	17	59	0	42	22	40	25	
合計		2865	43	94	0	69	43	65	44	

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2014年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から7単位以上選択 合計 50単位以上 (認定単位数82単位と合せ132単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から27単位以上選択 合計 70単位以上 (認定単位数62単位と合せ132単位以上)
	法学 ●	30		2		2		2		
	医療倫理学	30		2				2		
	社会保障論	30		1					1	
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	科学技術論	30		1			1		1	
	再生医療概説	15		1			1		1	
	人間学	30		1		1		1		
	医療心理学	30		1		1		1		
	体育講義 ●	30		1			1		1	
	体育実習 ●	30		1		1		1		
	英語 I ●	30	1			1				
	英語 II ●	30	1				1			
	医療英語 I	30		1		1		1		
	医療英語 II	30		1			1		1	
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	統計学 I	30	1			1				
	統計学 II	30		1			1		1	
	情報科学 I ●	30	2			2				
	情報科学 II	30		1			1		1	
	生化学 ●	30		1		1		1		
	数学基礎 I	30		1		1		1		
数学基礎 II	30		1			1		1		
物理学基礎 I	30		1		1		1			
物理学基礎 II	30		1			1		1		
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から 4年前期まで					
小計	855	9	25	0	17	11	16	11		
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2				
	解剖生理学 II ●	30	2				2			
	臨床生化学	30	2					2		
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学 ●	30	2				2			
	微生物学 ●	30	2						2	
	病理学 ●	30	2						2	
	病態学 I (症候論)									
	病態学 II (病態生理学)									
	病態学 III (病態臨床学)									
	病態学 IV (病態治療論)									
	臨床検査学	30		2		2		2		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		2			2		2	
	ターミナルケア	30		2		2		2		
	医療社会学	30		2		2		2		
	精神医学概論									
保健統計学										
保健福祉行政論 I										
保健福祉行政論 II										
疫学										
公衆衛生学	30	2			2					
シンメディカル論	15	1					1			
小計	435	17	10	0	10	10	9	8		

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2014年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護 専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	60		2		2		2		
	基礎看護学活動論 II	60		2		2		2		
	臨床看護総論	60		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1			1		1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		1		1		1		
	在宅看護学活動論	30		1		1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	60		2		2		2		
	統合看護実践論 II	60		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2						2		
教職論 ●	30		2			2		2		
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	45		2					2		
教職実践演習(高) ●	30		2					2		
教職実践演習(養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1695	17	59	0	42	22	40	25	
合計		2985	43	94	0	69	43	65	44	

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2012年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 14単位 専門分野 必修 15単位 全分野から15単位以上選択 合計 53単位以上 (認定単位数82単位と合せ135単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 14単位 専門分野 必修 15単位 全分野から35単位以上選択 合計 73単位以上 (認定単位数62単位と合せ135単位以上)
	統計学Ⅰ	30	1			1				
	統計学Ⅱ	30		1			1		1	
	情報科学Ⅰ	30	2			2				
	情報科学Ⅱ	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	数学基礎Ⅰ	30		1		1		1		
	数学基礎Ⅱ	30		1			1		1	
	物理学基礎Ⅰ	30		1		1		1		
	物理学基礎Ⅱ	30		1			1		1	
	生化学	30		1		1		1		
	科学技術概論	30		1			1		1	
	英語Ⅰ	30	1			1				
	英語Ⅱ	30	1				1			
	医療英語Ⅰ	30		1		1		1		
	医療英語Ⅱ	30		1			1		1	
	英文抄読	30		2		2		2		
	日本語	30		1		1		1		
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	社会保障論	30	1						1	
	法学	30		2		2		2		
	医療倫理学	30	2					2		
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	体育講義	30		1			1		1	
	体育実習	30		1		1		1		
人間学	30		1		1		1			
医療心理学	30		1		1		1			
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から4年前期まで					
小計	900	9	27	0	20	10	19	10		
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2				
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2			
	臨床生化学	30	1						1	
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学	30	2				2			
	微生物学	30	2						2	
	病理学	30	2						2	
	病態学Ⅰ(症候論)									
	病態学Ⅱ(病態生理学)									
	病態学Ⅲ(病態臨床学)									
	病態学Ⅳ(病態治療論)									
	臨床検査学	30		1		1		1		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		1			1		1	
	ターミナルケア	30		1		1		1		
	医療社会学	30		1		1		1		
	精神病学									
	保健統計学									
保健福祉行政論Ⅰ										
保健福祉行政論Ⅱ										
疫学										
国際看護研修										
シンメディカル学Ⅰ										
シンメディカル学Ⅱ										
シンメディカル学Ⅲ	15	1					1			
シンメディカル学Ⅳ	15		1					1		
小計	420	14	7	0	5	9	4	9		

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2012年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護 専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	60		1		1		1		
	基礎看護学活動論 II	60		1		1		1		
	臨床看護総論	60		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1			1				
	成人看護学援助論 II ●	30	1			1				
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1		1			1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		2		2		2		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2			2	2		
	統合看護実践論 II	30		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	地域看護学概論 ●									
	地域看護学援助論									
	地域看護学活動論 I									
	地域看護学活動論 II									
	地域看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	地域看護学実習 I									
地域看護学実習 II										
卒業研究	90		2						2	
教職論 ●	30		2			2		2		
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	90		2						2	
教職実践演習(高) ●	30		2						2	
教職実践演習(養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1650	15	59	0	41	21	38	25	
合計		2970	38	93	0	66	40	61	44	

* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2011年度編入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択	自由	3年		4年			
						前	後	前	後		
基礎科目	健康科学	30	1			1				卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 16単位 専門基礎分野 必修 11単位 専門分野 必修 17単位 全分野から9単位以上選択 合計 53単位以上 (認定単位数82単位と合せ135単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 16単位 専門基礎分野 必修 11単位 専門分野 必修 17単位 全分野から29単位以上選択 合計 73単位以上 (認定単位数62単位と合せ135単位以上)	
	統計学Ⅰ	30	1			1					
	統計学Ⅱ	30	1				1				
	情報科学Ⅰ	30	2				2				
	情報科学Ⅱ	30		1			1		1		
	環境と生活	30		1		1		1			
	数学基礎Ⅰ	30		1		1		1			
	数学基礎Ⅱ	30		1			1		1		
	物理学基礎Ⅰ	30		1		1		1			
	物理学基礎Ⅱ	30		1			1		1		
	生化学	30	1				1				
	科学技術概論	30		1			1		1		
	英語Ⅰ	30	1			1					
	英語Ⅱ	30	1				1				
	医療英語Ⅰ	30	1					1			
	医療英語Ⅱ	30	1						1		
	英文抄読	30		2				2			
	日本語	30	1			1					
	文章表現法	30	1						1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1			
	ボランティア論	30		1		1		1			
	社会保障論	30	1				1				
	法学	30		2			2				
	医療倫理学	30	2					2			
	世界の保健医療	30		1			1		1		
	国際比較福祉論	30		1			1		1		
	体育講義										
	体育実習										
	人間学	30		1		1		1			
	医療心理学	30	1			1					
	小計	840	16	16	0	25		19			
	専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ									
		解剖生理学Ⅱ									
		臨床生化学									
		代謝栄養学									
		薬理学									
		微生物学									
		病理学									
		病態学Ⅰ(症候論)									
病態学Ⅱ(病態生理学)											
病態学Ⅲ(病態臨床学)											
病態学Ⅳ(病態治療論)											
臨床検査学											
基礎医学実習											
リハビリテーション総論		30	1						1		
ターミナルケア		30	1			1					
医療社会学		30	1			1					
精神病学		30	1				1				
保健統計学		30	2					2			
保健福祉行政論Ⅰ		30	2					2			
保健福祉行政論Ⅱ		15	1						1		
疫学	30	2				2					
国際看護研修	30			2		2					
シンメディカル学Ⅰ											
シンメディカル学Ⅱ											
シンメディカル学Ⅲ	15		1			1					
シンメディカル学Ⅳ	15		1					1			
小計	285	11	2	2	8		7				

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2011年度編入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護	看護学概論	30		2		2		2		
	基礎看護学援助論 I	45		2		2		2		
	基礎看護学援助論 II	45		2			2		2	
	基礎看護学活動論 I	30		1		1		1		
	基礎看護学活動論 II	30		1		1		1		
	臨床看護総論	30		2			2		2	
	基礎看護学実習 I									
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I	30		1		1		1		
	成人看護学援助論 II	30		1		1		1		
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1			1		1	
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論	30		2		2		2		
	老年看護学援助論	30		1			1		1	
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論	30		2		2		2		
	小児看護学援助論	30		1			1		1	
	小児看護学活動論	30		1		1		1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論	30		2		2		2		
	母性看護学援助論	30		1		1		1		
	母性看護学活動論	30		1		1		1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1		1		1		
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		2			2		2	
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2			2		2	
	統合看護実践論 II	30		2			2		2	
	統合看護学実習									
	地域看護学概論	* 30	2				2			
	地域看護学援助論	* 30	2				2			
	地域看護学活動論 I	* 30	2				2			
	地域看護学活動論 II	* 30	2					2		
	地域看護管理論	* 30	2					2		
	学校保健	* 30	2				2			
	養護学概論	30		2		2		2		
	健康相談活動論	30		2		2		2		
	地域看護学実習 I	* 135	3						3	
	地域看護学実習 II	* 45	1						1	
	看護学総合演習	* 30	1							1
	卒業研究	90		2						2
	教職論	30		2			2		2	
教育原論	30		2		2		2			
教育心理学	30		2		2		2			
教育社会学	30		2			2		2		
教育課程論	30		2		2		2			
看護教育方法 I	30		2			2		2		
看護教育方法 II	30		2		2		2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導	30		2			2		2		
教育方法論	30		2		2		2			
生徒・進路指導論	30		2			2		2		
教育相談	30		2			2		2		
教育実習指導										
教育実習										
総合演習										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1800	17	72	0	78		55		
合計		2925	44	90	2	111		81		

* 選択科目は、一部指定以外は3年次・4年次いずれの学年で履修しても可
 * は保健師指定科目関係

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	理学療法学概論	30	1			1										
	生体計測学	30	1								1					
	理学療法評価学	30	2				2									
	理学療法評価学実習	45	1						1							
	臨床推論	30	1							1						
	臨床推論演習	30	1								1					
	理学療法診断論	30	1									1				
	物理療法学実習	45	1								1					
	義肢装具学	30	2							2						
	義肢装具学演習	30	1								1					
	運動療法学	30	2						2							
	運動療法学実習	45	1								1					
	運動器理学療法学総論	30	1							1						
	運動器理学療法学	30	2									2				
	運動器理学療法学実習	45	1										1			
	脳血管理学療法学総論	30	1							1						
	脳血管理学療法学	30	2									2				
	脳血管理学療法学実習	45	1										1			
	神経筋理学療法学	30	2									2				
	神経筋理学療法学実習	45	1										1			
	循環呼吸器理学療法学	30	2									2				
	小児理学療法学	30	2										2			
	日常生活活動学	30	2								2					
	地域理学療法学	30	2										2			
	実践地域理学療法学	30	2											2		
	がんの理学療法学	30	2												2	
	住環境コーディネーター論	30		2							2					
	スポーツ障害論	30		2								2				
	障がい者スポーツ特論	45		1				1								
	パーソナルトレーナー論	30		2					2							
	パーソナルトレーナー実習	45		1						1						
	体表解剖学	30	2					2								
	マニュアルセラピー論Ⅰ	30		1								1				
	マニュアルセラピー論Ⅱ	30		1									1			
	臨床見学実習	45	1					1								
	臨床観察実習Ⅰ	45	1						1							
	臨床観察実習Ⅱ	45	1							1						
	臨床評価実習Ⅰ	45	1									1				
	臨床評価実習Ⅱ	180	4										4			
	臨床総合実習	720	16											16		
	理学療法学研究法	30	2									2				
	理学療法学研究法演習	30	1										1			
卒業研究	90	2													2	
理学療法学特論	30	2													2	
理学療法学総合演習	30	1													1	

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	理学療法概論	30	1			1										
	生体計測学	30	1							1						
	理学療法評価学	30	2				2									
	理学療法評価学実習	45	1					1								
	臨床推論	30	1						1							
	臨床推論演習	30	1							1						
	理学療法診断論	30	1								1					
	物理療法学実習	45	1							1						
	義肢装具学	30	2						2							
	義肢装具学演習	30	1							1						
	運動療法学	30	2					2								
	運動療法学実習	45	1							1						
	運動器理学療法総論	30	1							1						
	運動器理学療法	30	2								2					
	運動器理学療法実習	45	1									1				
	脳血管理学療法総論	30	1							1						
	脳血管理学療法	30	2								2					
	脳血管理学療法実習	45	1									1				
	神経筋理学療法	30	2								2					
	神経筋理学療法実習	45	1									1				
	循環呼吸器理学療法	30	2									2				
	小児理学療法	30	2									2				
	日常生活活動学	30	2							2						
	地域理学療法	30	2									2				
	実践地域理学療法	30	2										2			
	がんの理学療法	30	2										2			
	住環境コーディネーター論	30		2								2				
	スポーツ障害論	30		2								2				
	パーソナルトレーナー論	30		2			2									
	パーソナルトレーナー実習	45		1				1								
	体表解剖学	30	2				2									
	マニュアルセラピー論 I	30		1							1					
マニュアルセラピー論 II	30		1								1					
臨床見学実習	45	1				1										
臨床観察実習 I	45	1					1									
臨床観察実習 II	45	1						1								
臨床評価実習 I	45	1								1						
臨床評価実習 II	180	4									4					
臨床総合実習	720	16										16				
理学療法学研究法	30	2								2						
理学療法学研究法演習	30	1									1					
卒業研究	90	2												2		
理学療法学特論	30	2												2		
理学療法学総合演習	30	1												1		

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 11単位 選択科目 6単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 74単位 計 74単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2 単位以上 合計 125単位以上
	法学	30			2			2								
	医療倫理学	30	2						2							
	社会保障論	30	1				1									
	世界の保健医療	30			1		1									
	国際比較福祉論	30			1		1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1		1									
	医療心理学	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30	1			1										
	コミュニケーション論	30	1				1									
	統計学 I	30			1			1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1			1										
	数学基礎 II	30			1		1									
	物理学基礎 I	30	1			1										
	物理学基礎 II	30			1		1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
	小計	795	11	0	21	10	12	4	4	0	0	0	0	0	0	
	専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
生体構造論 II		30	1			1										
生体構造論 III		30	1				1									
生体機能論 I		30	1			1										
生体機能論 II		30	1			1										
生体機能論 III		30	1				1									
生体機能構造論実習 I		45	1			1										
生体機能構造論実習 II		45	1			1										
生体機能構造論実習 III		45	1				1									
機能神経解剖学		30		2					2							
運動生理学		30	2					2								
バイオメカニクス		30		2					2							
病理学		30	2				2									
リハビリテーション医学		30	2				2									
内科学 I		30	1					1								
内科学 II		30	1						1							
神経内科学 I		30	1						1							
神経内科学 II		30	1							1						
整形外科 I		30	1						1							
整形外科 II		30	1							1						
精神医学 I		30	2							2						
老年医学		30	2							2						
小児科学		30	2								2					
公衆衛生学	30	2					2									
社会福祉論	30	2						2								
シンメディカル論	15	1								1						
薬理学	30		2								2					
栄養学	30		2									2				
小計	870	32	8	0	6	9	11	13	1	0	0	0	0			

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2014年度以降入学生)

専 門 科 目	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択 必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
	理学療法概論	30	2			2											
	運動学	30	2				2										
	運動学演習	30	1					1									
	運動学実習	45	1					1									
	生体計測学	30		2						2							
	理学療法評価学	30	2				2										
	理学療法評価学実習	45	1					1									
	臨床推論	30	2						2								
	臨床推論演習	30	1							1							
	理学療法診断論	30	2								2						
	物理療法学	30	2							2							
	義肢装具学	30	2						2								
	義肢装具学演習	30	1							1							
	運動療法学	30	2					2									
	運動療法学実習	45	1						1								
	骨関節理学療法学	30	2							2							
	骨関節理学療法学実習	45	1								1						
	脳血管理学療法学	30	2							2							
	脳血管理学療法学実習	45	1								1						
	神経筋理学療法学	30	2							2							
	神経筋理学療法学実習	45	1								1						
	循環呼吸器理学療法学	30	2							2							
	小児理学療法学	30	2							2							
	日常生活活動学	30	2						2								
	地域理学療法学	30	2							2							
	実践地域理学療法学	30	2								2						
	住環境コーディネーター論	30		2						2							
	統合医療論	30		2							2						
	スポーツ障害論	30		2						2							
	パーソナルトレーナー論	30		2			2										
	パーソナルトレーナー実習	45		1				1									
	マニュアルセラピー	30	2				2										
	マニュアルセラピー実習	45	1					1									
	マニュアルセラピー特論	30		2							2						
	臨床見学実習	45	1				1										
	臨床観察実習	45	1					1									
	臨床評価実習	180	4								4						
	臨床総合実習	720	16									16					
	理学療法学研究法	30	2							2							
	理学療法学研究法演習	30	1								1						
	卒業研究	90	2													2	
	理学療法学特論	30	2													2	
	理学療法学総合演習	30	1													1	
	小計	2340	74	13	0	2	9	7	8	24	16	16	5				
	合計	4005	117	21	21	18	30	22	25	25	16	16	5				

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 11単位 選択科目 6単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 74単位 計 74単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2 単位以上 合計 125単位以上
	法学	30			2			2								
	医療倫理学	30	2						2							
	社会保障論	30	1				1									
	世界の保健医療	30			1		1									
	国際比較福祉論	30			1		1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	人間学	30			1		1									
	医療心理学	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30	1			1										
	コミュニケーション論	30	1				1									
	統計学 I	30			1			1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2				2									
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1				1									
	数学基礎 II	30			1		1									
	物理学基礎 I	30	1				1									
	物理学基礎 II	30			1		1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
小 計	780	11	0	20	10	11	4	4	0	0	0	0	0	0		
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1										
	生体構造論 II	30	1			1										
	生体構造論 III	30	1				1									
	生体機能論 I	30	1			1										
	生体機能論 II	30	1			1										
	生体機能論 III	30	1				1									
	生体機能構造論実習 I	45	1			1										
	生体機能構造論実習 II	45	1			1										
	生体機能構造論実習 III	45	1				1									
	機能神経解剖学	30		2					2							
	運動生理学	30	2					2								
	バイオメカニクス	30		2					2							
	病理学	30	2				2									
	リハビリテーション医学	30	2				2									
	内科学 I	30	1					1								
	内科学 II	30	1						1							
	神経内科学 I	30	1						1							
	神経内科学 II	30	1							1						
	整形外科 I	30	1							1						
	整形外科 II	30	1								1					
	精神医学 I	30	2					2								
	老年医学	30	2					2								
	小児科学	30	2						2							
	公衆衛生学	30	2				2									
	社会福祉論	30	2					2								
	シンメディカル論	15	1							1						
	薬理学	30		2						2						
栄養学	30		2						2							
小 計	870	32	8	0	6	9	11	13	1	0	0	0	0			

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2012年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択 必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
理学療法学概論	30	2			2										
運動学	30	2				2									
運動学演習	30	1					1								
運動学実習	45	1					1								
生体計測学	30		2						2						
理学療法評価学	30	2				2									
理学療法評価学実習	45	1					1								
臨床推論	30	2						2							
臨床推論演習	30	1							1						
理学療法診断論	30	2								2					
物理療法学	30	2							2						
義肢装具学	30	2					2								
義肢装具学演習	30	1							1						
運動療法学	30	2					2								
運動療法学実習	45	1						1							
骨関節理学療法学	30	2							2						
骨関節理学療法学実習	45	1								1					
脳血管理学療法学	30	2							2						
脳血管理学療法学実習	45	1								1					
神経筋理学療法学	30	2							2						
神経筋理学療法学実習	45	1								1					
循環呼吸器理学療法学	30	2							2						
小児理学療法学	30	2							2						
日常生活活動学	30	2						2							
地域理学療法学	30	2							2						
実践地域理学療法学	30	2								2					
住環境コーディネーター論	30		2							2					
統合医療論	30		2								2				
スポーツ障害論	30		2							2					
パーソナルトレーナー論	30		2			2									
パーソナルトレーナー実習	45		1				1								
マニュアルセラピー	30	2				2									
マニュアルセラピー実習	45	1					1								
マニュアルセラピー特論	30		2									2			
臨床見学実習	45	1				1									
臨床観察実習	45	1					1								
臨床評価実習	180	4									4				
臨床総合実習	720	16										16			
理学療法学研究法	30	2							2						
理学療法学研究法演習	30	1									1				
卒業研究	90	2												2	
理学療法学特論	30	2												2	
理学療法学総合演習	30	1												1	
小計	2340	74	13	0	2	9	7	8	24	16	16	5			
合計	3990	117	21	20	18	29	22	25	25	16	16	5			

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	作業療法学総論	30	2			2										
	基礎作業学	30	2			2										
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2										
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2									
	作業療法評価学総論	30	2				2									
	発達過程評価学演習	60	2					2								
	身体機能評価学演習	60	2					2								
	心理社会評価学演習	60	2					2								
	生活環境評価学演習	30	1							1						
	作業療法治療学総論	30	2				2									
	乳幼児期作業療法学演習	60	2						2							
	学童青年期作業療法学	30	2							2						
	心理社会作業療法学	30	2							2						
	心理社会作業療法学演習	60	2						2							
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2						2							
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2							2						
	整形疾患作業療法学演習	60	2							2						
	特定・内部疾患作業療法学	30	2							2						
	高齢期作業療法学	30	2							2						
	作業療法臨床分析学演習	30	1							1						
	地域作業療法学	30	2							2						
	地域作業療法学演習	30	1										1			
	地域作業療法臨床実習	45	1										1			
	作業療法研究法	30	2							2						
	作業療法研究実習	90	2												2	
	作業療法学総合演習	30	1												1	
	対人関係特論	30			2			2								
	障害と犯罪心理	30			2					2						
	特別支援教育特論	30			2										2	
	精神障害ケアマネジメント論	30			2										2	
	認知神経作業療法特論	30			2					2						
	作業療法と倫理	30			2			2								
	福祉用具特論	30			2										2	
	作業療法と認知症	30			2									2		
	集団作業療法特論	30			2				2							
	高次脳機能特論	30			2										2	
	義肢・装具特論	30			2										2	
	ハンドセラピー特論	30			2										2	
	障害者スポーツ特論	30			2										2	
	解剖運動学特論	30			2										2	
保健医療福祉実習	30	1				1										
臨床実習Ⅰ	45	1					1									
臨床実習Ⅱ	45	1						1								
臨床実習Ⅲ	135	3										3				
臨床実習Ⅳ	360	8										8				
臨床実習Ⅴ	360	8											8			

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考				
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年						
						前	後	前	後	前	後	前	後					
	作業療法学総論	30	2			2												
	基礎作業学	30	2			2												
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2												
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2											
	作業療法評価学総論	30	2				2											
	発達過程評価学演習	60	2					2										
	身体機能評価学演習	60	2					2										
	心理社会評価学演習	60	2					2										
	生活環境評価学演習	30	1							1								
	作業療法治療学総論	30	2				2											
	乳幼児期作業療法学演習	60	2						2									
	学童青年期作業療法学	30	2							2								
	心理社会作業療法学	30	2							2								
	心理社会作業療法学演習	60	2						2									
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2						2									
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2							2								
	整形疾患作業療法学演習	60	2							2								
	特定・内部疾患作業療法学	30	2							2								
	高齢期作業療法学	30	2							2								
	作業療法臨床分析学演習	30	1								1							
専門科目	地域作業療法学	30	2								2							
	地域作業療法学演習	30	1									1						
	地域作業療法臨床実習	45	1										1					
	作業療法研究法	30	2								2							
	作業療法研究実習	90	2											2				
	作業療法学総合演習	30	1												1			
	対人関係特論	30			2				2									
	障害と犯罪心理	30			2						2							
	作業療法と社会学	30			2									2				
	特別支援教育特論	30			2										2			
	精神障害ケアマネジメント論	30			2											2		
	認知神経作業療法特論	30			2						2							
	作業療法と倫理	30			2				2									
	福祉用具特論	30			2											2		
	作業療法と認知症	30			2									2				
	集団作業療法特論	30			2					2								
	ハンドセラピー特論	30			2											2		
	障害者スポーツ特論	30			2											2		
	解剖運動学特論	30			2											2		
	保健医療福祉実習	30	1				1											
	臨床実習Ⅰ	45	1					1										
	臨床実習Ⅱ	45	1						1									
	臨床実習Ⅲ	135	3									3						
	臨床実習Ⅳ	360	8										8					
	臨床実習Ⅴ	360	8											8				
		小計	2520	69	0	26	7	7	10	9	19	14	14	15				
	合計	4305	112	6	56	24	26	24	31	22	16	14	15					

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 必修科目 10単位 選択科目 7単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 37単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上
	法学	30			2	2										
	医療倫理学	30	2					2								
	社会保障論	30	1						1							
	世界の保健医療	30			1	1										
	国際比較福祉論	30			1	1										
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1	1										
	人間学	30			1	1										
	医療心理学	30	1			1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1		1									
	医療英語 II	30			1			1								
	文章表現法	30			1		1									
	コミュニケーション論	30			1		1									
	統計学 I	30	1					1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2				2									
	情報科学 II	30			1				1							
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1				1									
	数学基礎 II	30			1		1									
	物理学基礎 I	30			1		1									
	物理学基礎 II	30			1		1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2		1年前期から4年前期まで									
	小計	780	10	0	21	11	9	5	4	0	0	0	0	0	0	
	専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
		生体構造論 II	30	1			1									
		生体構造論 III	30	1				1								
生体機能論 I		30	1			1										
生体機能論 II		30	1			1										
生体機能論 III		30	1				1									
生体機能構造論実習 I		45	1			1										
生体機能構造論実習 II		45	1			1										
生体機能構造論実習 III		45	1				1									
機能神経解剖学		30		2					2							
基礎運動学		30	2						2							
基礎運動学実習		30	1						1							
バイオメカニクス		30			2					2						
病理学		30		2						2						
リハビリテーション医学		30	2					2								
内科学 I		30	1						1							
内科学 II		30	1							1						
神経内科学 I		30	1						1							
神経内科学 II		30	1							1						
整形外科 I		30	1						1							
整形外科 II		30	1							1						
精神医学 I		30	2						2							
精神医学 II		30	2							2						
老年医学		30	2						2							
小児科学		30	2							2						
臨床心理学		30	2					2								
社会福祉論		30	2					2								
シンメディカル論	15	1							1							
薬理学	30			2						2						
栄養学	30			2						2						
メンタルヘルス論	30			2							2					
住環境論	30		2							2						
小計	990	33	6	8	6	9	9	18	3	2	0	0	0	0		

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
作業療法学総論	30	2			2										
基礎作業学	30	2			2										
基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2										
基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2									
作業療法評価学総論	30	2				2									
発達過程評価学演習	60	2					2								
身体機能評価学演習	60	2					2								
心理社会評価学演習	60	2					2								
生活環境評価学演習	30	1							1						
作業療法治療学総論	30	2				2									
乳幼児期作業療法学演習	60	2						2							
学童青年期作業療法学	30	2							2						
心理社会作業療法学	30	2							2						
心理社会作業療法学演習	60	2							2						
中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2							2						
中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2								2					
整形疾患作業療法学演習	60	2								2					
特定・内部疾患作業療法学	30	2								2					
高齢期作業療法学	30	2								2					
作業療法臨床分析学演習	30	1									1				
地域作業療法学	30	2										2			
地域作業療法学演習	30	1											1		
地域作業療法臨床実習	45	1												1	
作業療法研究法	30	2								2					
作業療法研究実習	90	2												2	
作業療法学総合演習	30	1												1	
対人関係特論	30			2				2							
障害と犯罪心理	30			2					2						
作業療法と社会学	30			2									2		
特別支援教育特論	30			2										2	
精神障害ケアマネジメント論	30			2										2	
認知神経作業療法特論	30			2						2					
作業療法と倫理	30			2				2							
福祉用具特論	30			2										2	
作業療法と認知症	30			2										2	
集団作業療法特論	30			2					2						
ハンドセラピー特論	30			2										2	
障害者スポーツ特論	30			2										2	
解剖運動学特論	30			2										2	
保健医療福祉実習	30	1				1									
臨床実習Ⅰ	45	1					1								
臨床実習Ⅱ	45	1						1							
臨床実習Ⅲ	135	3									3				
臨床実習Ⅳ	360	8										8			
臨床実習Ⅴ	360	8											8		
小計	2520	69	0	26	7	7	10	9	19	14	14	15			
合計	4290	112	6	55	24	25	24	31	22	16	14	15			

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	臨床工学概論	30	1			1									
	生体医工学	30	2					2							
	生体物性学	30	2					2							
	医用材料学	30	2						2						
	生体計測装置学Ⅰ	30	2						2						
	生体計測装置学Ⅱ	30	2							2					
	生体計測機器学実習	30	1								1				
	心血管カテーテル治療学	30	2									2			
	医用画像診断機器学	30	2					2							
	医用治療機器学Ⅰ	30	2						2						
	医用治療機器学Ⅱ	30	2							2					
	医用治療機器学実習	30	1								1				
	人工心肺制御学Ⅰ	30	2							2					
	人工心肺制御学Ⅱ	30	2									2			
	人工呼吸制御学Ⅰ	30	2							2					
	人工呼吸制御学Ⅱ	30	2									2			
	血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2					
	血液浄化療法学Ⅱ	30	2									2			
	人工心肺制御学実習	30	1								1				
	血液浄化療法学実習	30	1									1			
	人工呼吸制御学実習	30	1									1			
	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2					
	医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2				
	医用機器安全管理学実習	30	1									1			
	臨床工学関連法規	30	1							1					
	臨床医学外科総論	30	1							1					
	臨床医学内科総論	30	1							1					
	呼吸器病態学	30	1							1					
	循環器病態学	30	1								1				
	腎泌尿器病態学	30	1							1					
	麻酔集中治療医学	30	1								1				
	臨床実習講義	30	1										1		
臨床血液浄化実習	45	1											1		
臨床手術室実習	45	1												1	
臨床集中治療室実習	45	1												1	
臨床医療機器管理実習	45	1												1	
シンメディカル論	15	1											1		
臨床工学特論	30	1												1	
臨床工学総合演習	30	1												1	
臨床工学特別演習	90	2									2				
卒業研究	90	2												2	

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2015年度以降入学生)

専 門 科 目	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
	臨床工学概論	30	1			1										
	生体医工学	30	2						2							
	生体物性学	30	2						2							
	医用材料学	30	2								2					
	医用信号・画像処理	30	2						2							
	生体計測機器学	30	2							2						
	生体計測機器学実習	30	1								1					
	医用画像診断機器学	30	2							2						
	医用治療機器学Ⅰ	30	2							2						
	医用治療機器学Ⅱ	30	2								2					
	医用治療機器学実習	30	1								1					
	人工臓器学	30	2							2						
	人工心臓学Ⅰ	30	2							2						
	人工心臓学Ⅱ	30	2							2						
	人工呼吸療法学	30	2							2						
	高気圧治療論	30	1												1	
	血液浄化療法学Ⅰ	30	2								2					
	血液浄化療法学Ⅱ	30	2								2					
	生命維持装置学実習	90	2								2					
	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2						
	医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2					
	医用機器安全管理学実習	30	1								1					
	関連法規	30	2									2				
	臨床医学総論Ⅰ	30	2						2							
	臨床医学総論Ⅱ	30	2							2						
	腎・泌尿器学	30	2						2							
	麻酔・集中治療医学	30	2							2						
	医用画像診断学	30	1								1					
	臨床実習Ⅰ	45	1											1	*	
	臨床実習Ⅱ	45	1											1	*	
	臨床実習Ⅲ	45	1											1	*	
	臨床実習Ⅳ	45	1											1	*	
	シンメディカル論	15	1										1			
	臨床工学特論Ⅰ	30		2											2	
	臨床工学特論Ⅱ	30		2											2	
	臨床工学総合演習	30	1												1	
	卒業研究	90	2												2	
	小計	1275	58	4	0	1	0	0	10	21	17	1	12			
	合計	3255	125	15	0	17	18	19	26	27	17	1	13			

* 臨床実習Ⅰ・臨床実習Ⅱ・臨床実習Ⅲ・臨床実習Ⅳの変更については、2012年度入学生より適用する。

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2010年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
基礎科目	健康科学	30	1			1										卒業要件： 基礎科目 必修 22単位 選択 4単位 小計 26単位 専門基礎科目 必修 45単位 専門科目 必修 60単位 選択科目2単位 小計62単位 合計133単位	
	統計学Ⅰ	30		1		1											
	統計学Ⅱ	30		2		1	2										
	情報科学Ⅰ	30		1		1											
	情報科学Ⅱ	30	1			1											
	環境と生活	30		1		1											
	数学基礎Ⅰ	30	1			1											
	数学基礎Ⅱ	30	1			1											
	物理学基礎Ⅰ	30	1			1											
	物理学基礎Ⅱ	30	1			1											
	生化学	30	1			1											
	科学技術概論	30	1			1											
	英語Ⅰ	30	1			1											
	英語Ⅱ	30	1			1											
	医療英語Ⅰ	30	1				1										
	医療英語Ⅱ	30	1					1									
	英文抄読	30	2						2								
	日本語	30		1		1											
	文章表現法	30	1				1										
	コミュニケーション論	30	1			1											
	ボランティア論	30		1		1											
	社会保障論	30	1				1										
	法学	30	2					2									
	医療倫理学	30	2						2								
	世界の保健医療	30		1			1										
	国際比較福祉論	30		1		1											
	人間学	30	1						1								
	医療心理学	30		1			1										
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学の連携事業の教育プログラム	—		1 または 2			1年前期から4年前期まで										
	小計	840	22	12	0	11	11	4	4	2	0	0	0	0			
	専門基礎科目	解剖学Ⅰ	30	2			2										
		解剖学Ⅱ	30	2				2									
		生理学Ⅰ	30	2			2										
		生理学Ⅱ	30	2				2									
生理学実習		45	1					1									
医学概論		30	1					1									
病理学概論		30	1						1								
臨床生化学		30	1						1								
感染症・免疫学		30	1						1								
代謝栄養学		30	1						1								
臨床薬理学		30	1							1							
公衆衛生学		30	1				1										
救命救急医学		30	1						1								
リハビリテーション概論		30	1				1										
看護学概論		30	1						1								
数学基礎演習		30	1				1										
物理学基礎演習		30	1				1										
数学		30	1					1									
物理学		30	1						1								
数学・物理学演習		30	1							1							
電気工学Ⅰ		30	1				1										
電気工学Ⅱ		30	1					1									
電気工学実習		60	2							2							
電子工学Ⅰ		30	1						1								
電子工学Ⅱ		30	1							1							
電子工学実習		60	2								2						
計測工学		30	1							1							
機械工学		30	2								2						
機械工学演習		30	1								1						
機械工学実習		60	2									2					
システム・制御工学		30	2									2					
システム・制御工学演習		30	1									1					
情報科学Ⅲ		30	2									2					
情報科学実習	60	2										2					
小計	1155	45	0	0	4	9	15	12	5	0	0	0	0				

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2010年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
臨床工学概論	30	1			1										
生体医工学	30	2					2								
生体物性学	30	2						2							
医用材料学	30	2							2						
医用信号・画像処理	30	2					2								
生体計測機器学	30	2						2							
生体計測機器学実習	30	1								1					
医用画像診断機器学	30	2						2							
医用治療機器学Ⅰ	30	2						2							
医用治療機器学Ⅱ	30	2							2						
医用治療機器学実習	30	1								1					
人工臓器学	30	2						2							
人工心臓学Ⅰ	30	2						2							
人工心臓学Ⅱ	30	2						2							
人工呼吸療法学	30	2						2							
血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2						
血液浄化療法学Ⅱ	30	2							2						
生命維持装置学実習	90	2							2						
医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2						
医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2					
医用機器安全管理学実習	30	1								1					
関連法規	30	2								2					
臨床医学総論Ⅰ	30	2						2							
臨床医学総論Ⅱ	30	2							2						
腎・泌尿器学	30	2						2							
麻酔・集中治療医学	30	2							2						
医用画像診断学	30	1							1						
臨床実習Ⅰ	45	1											1		
臨床実習Ⅱ	45	1											1		
臨床実習Ⅲ	45	1											1		
臨床実習Ⅳ	45	1											1		
シンメディカル学Ⅰ	15	1					1								
シンメディカル学Ⅱ	15	1						1							
シンメディカル学Ⅲ	15	1								1					
シンメディカル学Ⅳ	15	1											1		
臨床工学特論Ⅰ	30		2											2	
臨床工学特論Ⅱ	30		2											2	
臨床工学総合演習	30	1												1	
卒業研究	90	2												2	
小計	1290	60	4	0	1	1	0	9	23	18	4	8			
合計	3285	127	16	0	16	21	19	25	30	18	4	8			

滋賀医療技術専門学校 理学療法学科
学科目及び時間数 (単位数)

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	14	心理学	2	30	30		
			生物学	2	30	30		
			教育学	1	15	15		
			物理学	1	15	15		
			医療統計学	1	15		15	
			小計	7	105	90	15	0
			社会福祉学	2	30	30		
	人間と生活		公衆衛生学	1	15	15		
			英語	2	30	30		
			医学英語	1	15	15		
			国語	1	15	15		
			小計	7	105	105	0	0
			基礎分野小計	14	210	195	15	0
			専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	3	90	90
解剖学実習	2	90			90			
生理学Ⅰ	2	60			60			
生理学Ⅱ	2	60			60			
運動学Ⅰ	1	30			30			
運動学Ⅱ	1	30				30		
身体機能論	1	30			30			
身体構造論	1	30			30			
運動学演習Ⅰ	1	30			30			
運動学演習Ⅱ	1	30				30		
臨床運動学	1	30				30		
人間発達学	1	30			30			
小計	17	540			450	90	0	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1		15		15		
	臨床心理学	1		15	15			
	臨床医学	1		15	15			
	内科学Ⅰ	1		30		30		
	内科学Ⅱ	1		30		30		
	整形外科Ⅰ	1		30		30		
	整形外科Ⅱ	1		30		30		
	神経内科学Ⅰ	1		30		30		
	神経内科学Ⅱ	1		30		30		
	精神医学	1		15	15			
	小児科学	1		30		30		
	薬理学概論	1		15		15		
	救急援助法	1		15	15			
画像診断学	1	15			15			
小計	14	315		60	255	0		
保険医療福祉とリハビリテーションの理念	2	リハビリテーション概論		1	30	30		
		リハビリテーション医学		1	30	30		
		保健医療福祉制度論		1	30			30
		小計		3	90	60	0	30
	26	945		570	345	30		

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
専門分野	基礎理学療法学	6	基礎理学療法学Ⅰ	1	15	15		
			基礎理学療法学Ⅱ	1	15	15		
			基礎理学療法学Ⅲ	1	15	15		
			理学療法研究法	3	45			45
			小計	6	90	45	0	45
			理学療法評価学	5	臨床能力技術演習Ⅰ	1	15	15
	臨床能力技術演習Ⅱ	1	15			15		
	理学療法評価学Ⅰ	1	30		30			
	理学療法評価学Ⅱ	2	60			60		
	理学療法評価学演習Ⅰ	1	15			15		
	理学療法評価学演習Ⅱ	1	15				15	
	小計	7	150		45	90	15	
	理学療法治療学	20	運動療法学	1	30		30	
			運動療法学実習	1	30		30	
			徒手療法Ⅰ	1	30		30	
			徒手療法Ⅱ	1	15		15	
			徒手療法Ⅲ	1	30			30
			物理療法学Ⅰ	1	15		15	
			物理療法学Ⅱ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅰ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅱ	1	30		30	
			義肢学	1	30		30	
			装具学	1	30		30	
			神経障害系理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			神経障害系理学療法学Ⅱ	1	30		30	
			骨関節障害系理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			骨関節障害系理学療法学Ⅱ	1	30		30	
			内部障害系理学療法学	1	30		30	
			小児期理学療法学	1	30		30	
			老年期理学療法学	1	15		15	
			スポーツ系理学療法学	1	15		15	
			理学療法学特論	2	60			60
			小計	21	540	0	450	90
	地域理学療法学	4	生活環境学Ⅰ	1	15			15
			生活環境学Ⅱ	1	15			15
			地域理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			地域理学療法学Ⅱ	1	15			15
			小計	4	60	0	15	45
	臨床実習	18	評価実習Ⅰ	1	45	45		
			評価実習Ⅱ	3	135		135	
			臨床実習Ⅰ	7	315			315
			臨床実習Ⅱ	7	315			315
			小計	18	810	45	135	630
		53	専門分野合計	56	1650	135	690	825
	合計	93		104	2805	900	1050	855

滋賀医療技術専門学校 作業療法学科

学科目及び時間数（単位数）

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年	
基礎分野	科学的思考の基盤	14	心理学	2	30	30			
			生物学	2	30	30			
			教育学	1	15	15			
			統計学	1	15	15			
			物理学	1	15	15			
			(小計)	7	105	105	0	0	
			社会福祉学	2	30	30			
	人間と生活		英語	2	30	30			
			医学英語	1	15	15			
			社会学	1	15	15			
			国語	1	15	15			
			(小計)	7	105	105	0	0	
			基礎分野小計	14	210	210	0	0	
			専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学	3	90	90
解剖学実習	2	90				90			
生理学Ⅰ	2	60				60			
生理学Ⅱ	2	60				60			
作業運動学Ⅰ	1	30				30			
作業運動学Ⅱ	1	30				30			
作業運動学実習	1	45				45			
人間発達学	1	30				30			
(小計)	13	435				435	0	0	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	病理学概論				1	15		15
		臨床心理学		1		30	30		
		臨床医学		1		15	15		
		内科学Ⅰ		1		30		30	
		内科学Ⅱ		1		30		30	
		整形外科Ⅰ		1	30		30		
		整形外科Ⅱ		1	30		30		
		神経内科学Ⅰ		1	30		30		
		神経内科学Ⅱ		1	30		30		
		精神医学		1	30	30			
		小児科学		1	30		30		
		薬理学概論		1	15		15		
		救急援助法		1	15	15			
		画像診断学		1	15		15		
(小計)	14	345		90	255	0			
保険医療福祉とリハビリテーションの理念	2	26		リハビリテーション概論	1	30	30		
				リハビリテーション医学	1	30	30		
				(小計)	2	60	60	0	0
専門基礎分野小計	29	840		585	255	0			

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
専門分野	基礎作業療法学	6	作業療法概論Ⅰ	1	30	30		
			作業療法概論Ⅱ	1	30	30		
			作業療法管理運営論	1	15			15
			作業分析学Ⅰ	1	15		15	
			作業分析学Ⅱ	1	15		15	
			基礎作業学実習Ⅰ	1	30	30		
			基礎作業学実習Ⅱ	1	30	30		
			レクリエーション概論	1	15	15		
			作業療法研究論	1	15			15
			(小計)	9	195	135	30	30
			作業療法評価学	5	作業療法評価学総論	1	30	30
	身体障害作業療法評価学Ⅰ	1			30	30		
	身体障害作業療法評価学Ⅱ	1			30	30		
	精神障害作業療法評価学	1			30		30	
	発達障害作業療法評価学	1			15		15	
	老年期障害作業療法評価学	1			15		15	
	(小計)	6			150	90	60	0
	作業治療学	20	身体障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅲ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅳ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅲ	1	30		30	
			発達障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			発達障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			老年期障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			老年期障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			義肢装具治療学	1	45		45	
			日常生活活動学Ⅰ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅱ	1	30		30	
			職業関連活動論	1	15		15	
			高次神経障害作業治療学	1	30		30	
			バリアフリー生活環境論	1	30		30	
			作業療法ゼミナール	1	30		30	
			評価実習セミナー	1	30		30	
			臨床実習Ⅰセミナー	1	30			30
			臨床実習Ⅱセミナー	1	30			30
			リハビリテーション特論	1	30			30
	(小計)	22	660	0	570	90		
	地域作業療法学	4	地域リハビリテーション学	1	15	15		
			地域生活作業療法学Ⅰ	1	30		30	
			地域生活作業療法学Ⅱ	1	15		15	
			家族援助論	1	15			15
			(小計)	4	75	15	45	15
	臨床実習	18	臨床見学・体験実習Ⅰ	1	45	45		
			臨床見学・体験実習Ⅱ	1	45	45		
			評価実習	3	135		135	
			臨床実習Ⅰ	8	360			360
			臨床実習Ⅱ	8	360			360
			(小計)	21	945	90	135	720
	53	専門分野小計	62	2025	330	840	855	
	93	合計	105	3075	1125	1095	855	

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	木村 裕樹	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>【授業概要】 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p>【到達目標】 （１）日本の職人の特質について理解する。 （２）日本の職人のイメージと実態について理解する。 （３）日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「職人」とは何か：ガイダンス、現代の暮らしと「職人」					木村 裕樹
第2回	「職人」の歴史：「職人」概念、職人集団、居職と出職、名産、手仕事と量産					木村 裕樹
第3回	現代の職人をめぐる制度：伝統的工芸品産業の振興、文化財保護行政					木村 裕樹
第4回	近江の木地屋（１）：職祖伝承と発祥地、轆轤					木村 裕樹
第5回	近江の木地屋（２）：漆器産地と木地屋					木村 裕樹
第6回	近江の鋳物師					木村 裕樹
第7回	職人という生き方と教育（１）：料理と職人					木村 裕樹
第8回	職人という生き方と教育（２）：スポーツと職人					木村 裕樹
備考						
授業時間以外の学習について	日本の職人はマスメディアで取り上げられる機会の多い存在です。本や雑誌、新聞、インターネット記事、映画などをこまめにチェックし、情報収集につとめてください。博物館や美術館の展示、あるいは百貨店の見学も役立ちます。					
課題・評価方法	授業時に指示する課題（30%）やレポート（70%）への積極的な取りくみを、評価の基準とします。					
教科書	使用しない。					
参考書	遠藤元男『ヴィジュアル史料日本職人史』（1～4）雄山閣。大高洋司・大久保純一・小島道裕編『鋳形蕙斎画 近世職人尽絵詞—江戸の職人と風俗を読み解く』勉誠出版。白洲正子『かくれ里』新潮社。その他、講義時に適宜、紹介する。					
オフィスアワー	講義終了後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	稲葉隆道・砂川勇・分木ひとみ	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>オムニバス方式 8回 (稲葉隆道／2回) 一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禪定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。 (砂川勇／4回) 医療人として大切なことは、いかなる場面においても現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。 (分木ひとみ／2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	命の大切さを再度考えてみよう					稲葉隆道
第2回	「生苦」より学ぶ人生と職業倫理					稲葉隆道
第3回	茶道の成り立ち					分木ひとみ
第4回	喫茶の所作と経験					分木ひとみ
第5回	理学療法士となって半世紀					砂川勇
第6回	尺八の製作（塩ビ管による尺八の製作）					砂川勇
第7回	精神統一と音色					砂川勇
第8回	求められるセラピストを目指して					砂川勇
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート課題 50%					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語I	必	鈴木 規巳洋	1	15	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>(科目の概要) 大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。</p> <p>(学習到達目標) 語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を实践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	Education and Gender I 教育とジェンダー I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第2回	Education and GenderII 教育とジェンダー II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第3回	Global Warming I 地球温暖化 I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第4回	Global Warming 地球温暖化II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第5回	Fighting Disease I 病との闘い I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第6回	Fighting Disease II 病との闘い II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第7回	Terrorism テロリズム 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規巳洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	Global Issues Towards Peace（南雲堂）					
参考書	グローバリゼーションと現代社会、リハビリテーションの基礎英語					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限 水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限 木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語I	必	鈴木 規己洋	1	15	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	グローバル化が進む中、英語力は社会人として必須になってくる。そのため日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できるようにする。また中学、高校時代の文法やボキャブラリーの見直しなどの復習も行い、基礎学力の向上につなげる。リスニングに関しては、耳慣れすることを目標に日常的な会話の聞き取りから始め、コミュニケーションツールとして使える英語の習得を目指す。また将来、外国人の患者に対応する可能性も考え、日常会話や簡単な動作指示ができるように、表現方法を学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にできる豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。 DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
	内容					担当教員
第1回	How to develop good study skills and habits! 良い勉強スキルと習慣の作り方					鈴木 規己洋
第2回	How to stop procrastinating! 先のばしにすることをやめる方法					鈴木 規己洋
第3回	How to become your own "Lie detector"! あなた自身の「うそ発見器」になる方法					鈴木 規己洋
第4回	How to learn a language online! 言葉をオンラインで学ぶ方法					鈴木 規己洋
第5回	How to deal with difficult people! 扱いにくい人の対処法					鈴木 規己洋
第6回	How to keep people awake in meetings! 会議で目を覚ましておく方法					鈴木 規己洋
第7回	How to do the right thing! 正しいことをする方法					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	HOW-TO ENGLISH Advice for a better Life. Jim Knudsen（南雲堂）					
参考書	PT/OTが書いた「リハビリテーション英会話」、医学略語用語集					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限 水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限 木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
コミュニケーション論	必	飯田 英晴	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	コミュニケーションの基本概念と構造、人間関係の基礎					飯田 英晴
第2回	臨床の場におけるコミュニケーション、如何にしてコミュニケーションは治療になり得るか					飯田 英晴
第3回	社会的相互作用、相互作用における無関心と無意識					飯田 英晴
第4回	社会的役割と役割行動、役割の特性、役割葛藤、役割距離と装い					飯田 英晴
第5回	援助的コミュニケーション、関係性の維持と発展					飯田 英晴
第6回	対人技法の基本、聴くこと・話を聞いてもらうことの効果、聴く・聞く・訊くの違い、非言語コミュニケーションとその効果					飯田 英晴
第7回	死にゆく人との対話、傍らに在るといふコミュニケーション、死の受容に至る経過とコミュニケーション					飯田 英晴
第8回	人との接し方の基本、コミュニケーション能力の自己評価と研鑽					飯田 英晴
備考	毎回授業内容について課題を出し提出してもらおう。遅刻、無断欠席、授業態度の良くない学生には厳しく対応する。					
授業時間以外の学習について	計5回の授業時間外課題を提出してもらおう					
課題・評価方法	終講試験60%、授業時間課題+提出課題40%で最終評価を出す。					
教科書	特に指定しない。講義初回に書き込み型のテキストを配布する					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー	講義担当日の放課後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
心理学	必	飯田 英晴	1	15	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	心理学は人の心の動き そこから生 じる行動について 求しようとする 域で なる。その 域は多 に り、発達心理学、 心理学、 心理学、臨床心理学、 心理学、社会心理学な い。本講義 では、心理学の ても人の理解につながる 域の基礎を学 。 能の構造、 能の発達、性 の形 、人 の 求、 応と 応行動、行動の展 、 、 等人の理解につながる基礎を学 、人間の行動を 科学的に 察する を う。					
学位授与方 針との関連	DP1 人を い教 を し、 と を持 ない 理 のもと、理学療法 としての自 と を持 、生 に り自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	能とは何か、 能の構造、 能の能力の発達、 能の とその評価					飯田 英晴
第2回	性 とは何か、性 の定義、性 の形 に す人間関係、性 の評価					飯田 英晴
第3回	人の 求、 次 求と 次 求、行動の展 の 理、 求が れ 時の行 動、自 、 応行動					飯田 英晴
第4回	と行動、 のコント ー 、 の発達・					飯田 英晴
第5回	心の と 心理学、 の の 1					飯田 英晴
第6回	心の と 心理学、 の の 2					飯田 英晴
第7回	発達と 、 識の発達、言語の発達、 に う 能の					飯田 英晴
第8回	人の行動と自己の 察、人間の行動の 、 とめ					飯田 英晴
備考	計5回の テストを行う。 テストの は最終評価に る。遅刻、無断欠席、授業態度の い学 生には厳しく臨み す。					
授業時間以 外の学習に ついて	5回 度の授業時間外課題を提出してもらい、最終 に る					
課題・評価 方法	終講試験60%、授業時間外課題+ テスト 40%で評価する。					
教科書	特に指定しない。初回時に書き込み型のテキストを配布する。					
参考書	特に指定しない。					
オフィスア ワー	講義担当日の放課後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語II	選	鈴木 規巳洋	1	15	2年次前期	演習
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>(科目の概要) グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</p> <p>(学習の到達目標) 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>					
内 容						担当教員
第1回	Travel and Technology(旅行とテクノロジー)					鈴木 規巳洋
第2回	The Color of Fashion(ファッションの色)					鈴木 規巳洋
第3回	Disappearing Animal(絶滅動物) I Endangered Species(絶滅危惧種)					鈴木 規巳洋
第4回	Disappearing Animal(絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth(マンモス呼び戻す)					鈴木 規巳洋
第5回	Big Money(大金) I What Does a Million Dollars Buy?(百万ドルで何をかう?)					鈴木 規巳洋
第6回	Big Money(大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy?(宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規巳洋
第7回	Celebrations Around the world(世界の祝い) Wedding Customs(結婚式の習慣)					鈴木 規巳洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規巳洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験(30%)、小テスト・中間確認(20%)、グループワーク(40%)、レポート(10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限 水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限 木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語II	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リーディングは全ての技能の基礎になるため、長い文章でも我慢強く読む力をつけていく。日本人の多くに見られる「訳す」ことはせず、全体的に意味をつかむ力を身に着けられるようにする。また解剖学と合わせて骨関節、筋名等の医療英語を学習し、リーディング能力に反映させられるよう専門用語に慣れていく。授業資料のひとつとして主にリハビリテーション分野の論文を用いてアカデミックイングリッシュに触れ、ゼネラルイングリッシュとの違いを学び、論文形式に抵抗感なく取り組み、読み慣れることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。 DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
	内容					担当教員
第1回	Exercise and the Body (Staying Healthy): What is Health? 運動と身体：健康を保つために：健康とは					鈴木 規己洋
第2回	Exercise and the Body (Staying Healthy): Overview of the Body 運動と身体：健康を保つために：身体の常識					鈴木 規己洋
第3回	What is Rehabilitation?: Physical Therapy and Physical Therapists リハビリテーションとは？ 理学療法と理学療法士					鈴木 規己洋
第4回	What is Rehabilitation?: Occupational Therapy and Occupational Therapists リハビリテーションとは？ 作業療法と作業療法士					鈴木 規己洋
第5回	Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation: Major joints and Regions of the Body リハビリテーションのための人体の基礎知識 主要関節と部位					鈴木 規己洋
第6回	The Structure of the Human Body: The skeletal System 人体の構造：骨格系					鈴木 規己洋
第7回	Diseases and Rehabilitation: Bone Fractures 疾患とリハビリテーション：骨折					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	「リハビリテーション基礎英語（Medical View）」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton（MEDICAL VIEW） 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限 水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限 木曜日2限、3限					

講義要目

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
人間発達学	必	丹葉 寛之	1	15	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	人間学は人が発達する存在であるという観点から理解しようとする学問である。人間学では、人を細胞、組織、器官のレベルで捉えるのではなく、生活体として捉え理解をしていく。生命の誕生である胎児期から老年期までの生涯発達について、環境との相互作用の中でどのような発達を遂げるのか、また、ライフステージに応じた課題、役割などについての基本原理を理解することを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	発達の概念と発達理論					丹葉 寛之
第2回	胎児期から新生児期の発達と特徴					丹葉 寛之
第3回	乳児期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第4回	幼児期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第5回	児童期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第6回	青年期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第7回	成人期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第8回	老年期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90％）ラーニングポートフォリオ（10％）					
教科書	上杉雅之「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版					
参考書						
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会福祉学	必	松田 美智子	1	15	2年 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
第1回	社会福祉の発展過程と現代社会での生活問題					松田 美智子
第2回	社会福祉の理念と倫理 価値・援助者としての態度					松田 美智子
第3回	少子高齢社会における共生					松田 美智子
第4回	地域包括ケアシステムが目指すもの					松田 美智子
第5回	医療福祉と多職種連携					松田 美智子
第6回	在宅療養を支援する上でのコメディカルの役割 調べ学習と発表					松田 美智子
第7回	健康長寿に向けてのコメディカルの役割 調べ学習と発表					松田 美智子
第8回	地域福祉を推進する中でのコメディカルの役割と 調べ学習 まとめ					松田 美智子
備考	人の尊厳をまもり、患者のみならず家族や関係者をも対象としてサポートできる医療専門職・支援者を目指して下さい。医療施設や機関内に留まらず、地域社会に貢献できる医療専門職・支援者を目指して下さい。					
授業時間以外の学習について	現代社会の様々な生活課題や医療事情に積極的に関心をもって、課題の発見や課題解決のための医療専門職としての視野を広げ自身の考えを深め表現するための主体的な学習を心がけて下さい。					
課題・評価方法	授業前半と後半でレポート課題を2題課します。また授業後半ではグループによる調べ学習と発表をしていただきます。授業時間外の予習や復習の成果を重視します。主体的な学習態度や意欲についても評価します。					
教科書	授業内容の理解に必要な資料を適宜、提示・紹介・配布します。					
参考書	参考文献についても適宜紹介します。					
オフィスアワー	講義終了後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西 均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷 亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西 均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷 亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第4回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッションとフィードバック					
第5回	地域課題に対する選択するテーマの決定					
第6回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策について情報交換					
第7回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策についてディスカッション					
第8回	地域課題に対する理学療法の実用計画書の作成					
第9回	地域課題に対する理学療法の実用計画についてディスカッション					
第10回	地域課題に対する理学療法の実用計画についてディスカッションとフィードバック					
第11回	地域課題に対する理学療法の実用計画のプレゼンテーション作成					
第12回	地域課題に対する理学療法の実用計画のプレゼンテーション					
第13回	地域課題に対する理学療法の実用計画のプレゼンテーション					
第14回	地域課題に対する理学療法の実用計画のプレゼンテーション					
第15回	地域課題に対する理学療法の実用計画書のレポート作成					
備考	授業はゼミ形式で進める					
授業時間以外の学習について	予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>池谷 後期：水 16：10～17：15</p> <p>植田 後期：火 16：10～17：15</p> <p>川崎 後期：月 16：10～17：15</p> <p>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</p> <p>大西 後期：火 16：10～17：15</p> <p>里中 後期：水 16：10～17：15</p> <p>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</p> <p>野口 後期：水、金 16：10～17：15</p> <p>弘部 後期：水 16：10～17：15</p> <p>藤谷 後期：水 16：10～17：15</p> <p>分木 後期：水 16：10～17：15</p> <p>堀 後期：木 16：10～17：15</p> <p>安田 後期：水 16：10～17：15</p> <p>山内 後期：水 16：10～17：15</p> <p>和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	山内正雄・分木ひとみ・宇於崎孝・川崎浩子・治郎丸卓三・藤谷亮・大西均・安田孝志・池谷雅江・鈴木美香	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>本科目では解剖学・生理学・運動学など理学療法士としての重要な基礎科目と、整形外科・神経内科学・内科学などの各種疾患学、さらには理学療法士としての治療学(運動療法・物理療法・義肢装具学など)をそれぞれ関連付けることを目標とする。学生の中で関連付けができておらず、ばらばらの知識として習得されている知識群を、それぞれ関連性を見つけて、実際の臨床で使える知識へと変換していく過程を作り出す。主として想定した患者(映像などを使用)について、各知識をどう使うかをグループワークも行いながら、知識の拡大を図る。最後に教員が解答を与えることにより、正解と不正解を学習させていく。各科目の知識の復習と知識の統合を目標とし、理学療法士国家試験に合格でき、臨床現場で活躍できる力を育成する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション(授業目標と方法など)					山内正雄・分木ひとみ・宇於崎孝・川崎浩子・治郎丸卓三・藤谷亮・大西均・安田孝志・池谷雅江・鈴木美香
第2回	解剖学・生理学・運動学：①(基礎科目と疾患のつながりと理学療法)					
第3回	解剖学・生理学・運動学：② グループワーク					
第4回	解剖学・生理学・運動学：③ グループワーク 解説					
第5回	整形外科領域(骨関節障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第6回	整形外科領域(骨関節障害)：② グループワーク 解説					
第7回	神経内科学領域(中枢神経・末梢神経・筋障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第8回	神経内科学領域の障害：② グループワーク 解説					
第9回	内科学領域(内部障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第10回	内科学領域(内部障害)：② グループワーク 解説					
第11回	精神医学領域の障害：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第12回	精神医学領域の障害：② グループワーク 解説					
第13回	小児科学領域の障害：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第14回	小児科学領域の障害：② グループワーク 解説					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題(20%) 筆記試験(70%) 授業態度(10%)					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西 満 安部 征哉・嶋川 昌典 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習 I	必	安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智氏	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるよう学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目的と方法など）					安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智
第2回	解剖学（骨、筋、神経）					
第3回	解剖学（内臓諸器官）					
第4回	確認テスト					
第5回	生理学（感覚、運動）					
第6回	生理学（循環、呼吸）					
第7回	確認テスト					
第8回	運動学（力学、四肢・体幹の運動）					
第9回	運動学（動作分析、姿勢、歩行）					
第10回	確認テスト					
第11回	病理学					
第12回	リハビリテーション概論					
第13回	臨床医学					
第14回	精神医学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西 満 下西 徳・澤 賢一郎 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅱ	必	大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。					
学位授与方針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平
第2回	作業活動、作業療法概論、作業療法評価法					
第3回	ADL					
第4回	義肢装具					
第5回	確認テスト					
第6回	老年期障害					
第7回	脳血管障害					
第8回	神経変性・筋障害					
第9回	内科学					
第10回	確認テスト					
第11回	脊髄損傷					
第12回	関節リウマチ、整形外科疾患					
第13回	精神障害					
第14回	小児科学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ 池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。					
学位授与方 針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ 池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間 以外の学習 について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価 方法	レポート試験（70%）、ラーニングポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスア ワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

	授業科目の名称	授業形態	配当年次	単位数		1単位当たりの単位数	単位数及び時間数の考え方
				必修	選択		
1	学びの基盤	講義	1前	1		15	専門職大学での学びは様々あるが、授業の学び方に焦点をあて講義するため1単位とした。学習した内容を他の講義で実践できるよう事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めるために1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
2	コミュニケーション論	講義	1前	1		15	コミュニケーションの範疇は広いが、社会人・医療人として必須になる対人コミュニケーションスキルを習得することに焦点をあて講義するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
3	音楽	講義	1後		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
4	キャリア発達論	講義	2後	1		15	将来のキャリア発達とその支援について基礎を学ぶため1単位とした。将来の展望を持ち自らの考えをまとめる時間を十分にとるため、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
5	教育学	講義	1前	1		15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
6	倫理学入門	講義	1前	1		15	倫理学の基本的な考え方を学ぶため1単位とした。現代社会の抱える倫理的問題を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
7	哲学入門	講義	1前		1	15	哲学の歴史と基本用語を習得するため1単位とした。今まで理解している哲学との比較を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
8	心理学	講義	1後	1		15	心理学の領域は多岐にわたるが、その歴史や基礎を学ぶため1単位とした。自らの考え振り返る時間を十分にとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
9	経営学入門	講義	2前		1	15	基本的な論点や社会の仕組みを学ぶため1単位とした。現代社会の現状と課題について事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
10	社会学	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
11	日本の伝統文化	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
12	日本の近代史	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
13	体育	実習	1後		1	30	身体運動を学び、それらを合わせて実践する科目であるため1単位とした。事前・事後に実習での取り組みを考える時間を確保するため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
14	生物学	講義	1前	1		15	生物学の基本的な概念について学び理解するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
15	物理学 I	講義	1前	1		15	力学的視点の基礎を学ぶこと、物理学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
16	物理学Ⅱ	講義	1後		1	15	物理学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
17	統計学	講義	2後	1		15	統計学的思考の基礎を担う科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
18	数学	講義	1前		1	15	物理学や統計学の基礎にある科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
19	英語 I	講義	1前	1		15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
20	英語Ⅱ	講義	1後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
21	韓国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
22	中国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
23	解剖学 I	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。

24	解剖学Ⅱ	講義	1後	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
25	解剖学Ⅲ	講義	1後	1	30	解剖学Ⅰ、Ⅱと同じく理学療法を学ぶ基盤となる科目であるが、比較すると学習内容が少ないため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
26	生理学Ⅰ	講義	1前	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
27	生理学Ⅱ	講義	1後	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
28	運動学Ⅰ	講義	1後	1	30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
29	運動学Ⅱ	講義	2前	1	30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
30	運動学実習	実習	2後	1	30	運動学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々なデータ計測などの時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
31	運動生理学実習	実習	2後	1	30	解剖学・運動学・生理学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。人体の運動における生理的反応を学ぶための実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
32	人間発達学	講義	1後	1	15	運動学Ⅱや小児科学の基礎になる人間の発達について学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
33	救急援助論	講義	2後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
34	内科学Ⅰ	講義	2前	1	30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
35	内科学Ⅱ	講義	2後	1	30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
36	神経内科学Ⅰ	講義	2前	1	30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
37	神経内科学Ⅱ	講義	2後	1	30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
38	整形外科Ⅰ	講義	2前	1	30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
39	整形外科Ⅱ	講義	2後	1	30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
40	精神医学	講義	1後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
41	小児科学	講義	2前	1	30	小児期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。子供に触れたことのない学生にとってはイメージしにくく、多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
42	老年医学	講義	2前	1	30	老年期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。今後、関わることの多い高齢者についての知識を多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
43	薬理学概論	講義	1後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
44	予防医学	講義	3前	1	15	予防的な面での医学的知識を学ぶ科目であるため1単位とした。他の医学的知識と重なる部分も多く、今までに学んだことを繋ぎ合わせる科目であるため1単位15時間とした。
45	画像診断学	講義	2前	1	15	画像診断における基本的な知識を学ぶ科目。画像評価学ならびに各疾患学でさらに画像診断学を含めた内容があるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
46	栄養学	講義	2前	1	15	基本的な人体と栄養との関係の基礎知識を学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
47	社会福祉学	講義	2前	1	15	地域理学療法学を学ぶ基礎であるため1単位とした。地域社会での理学療法士として関りも考察するため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
48	地域包括ケア論	講義	3前	1	30	本学が考える地域共生社会で活躍できる理学療法士・作業療法士の育成の基礎となる科目であるため1単位とした。そのため、範囲も多く理解に時間を要するため授業時間を多くした方が知識が深まるため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。

49	リハビリテーション概論	講義	1前	1	30	リハビリテーションの思想、歴史、専門職としての基本的な知識を学ぶ科目のため1単位とした。1年次の科目であり、耳慣れないリハビリテーションの概念をしっかりと理解させる必要があるため、授業時間を多くした方が知識の理解が深まるため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
50	基礎理学療法学Ⅰ	講義	1前	1	15	理学療法士としての基礎になる科目であり、基礎理学療法学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
51	基礎理学療法学Ⅱ	講義	1前	1	15	理学療法士としての基礎になる科目であり、基礎理学療法学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
52	基礎理学療法学実習Ⅰ	実習	1後	1	30	基礎理学療法学Ⅰ、運動学、解剖学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深く理解を促すには、実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
53	基礎理学療法研究法	講義	3前	1	15	理学療法士としての研究を行うにあたり基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
54	基礎理学療法学実習Ⅱ	実習	1後	1	30	基礎理学療法学Ⅰ、運動学、解剖学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深く理解を促すには、実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
55	臨床技能論実習	実習	3前	1	30	理学療法評価学・演習・実習と合わせて統合した科目になるため1単位とした。基礎的知識を統合し考察する科目なため、実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
56	理学療法管理学	講義	4後	1	15	理学療法士としての将来の職場管理を担うための基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
57	保健医療福祉関連制度論	講義	4後	1	15	理学療法士として働くための制度理解の基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
58	理学療法評価学	講義	1後	1	30	理学療法士として必要な評価学の基礎的な理論を学ぶ科目で、かつ各種検査は理学療法評価学実習で学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
59	理学療法評価学実習	実習	2前	2	30	理学療法評価学を基盤としているが、範囲が広くすべての疾患に対する評価を実習をとおして学ぶ科目であるため2単位とした。理学療法評価の実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
60	理学療法評価学演習	演習	3前	1	30	理学療法評価学や理学療法評価学実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法評価の思考を理解するには演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
61	画像評価学	講義	2後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
62	運動療法学	講義	2前	1	30	理学療法士として実践する運動療法の基礎的な理論を学ぶ科目であるため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
63	運動療法学実習	実習	2後	1	30	運動療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動療法を実践する実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
64	徒手理学療法学	講義	3前	1	15	徒手理学療法学を学ぶ基礎で徒手理学療法学実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
65	徒手理学療法学実習	実習	3後	1	30	徒手理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動療法を実践する実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
66	物理療法学	講義	2前	1	15	理学療法士としての物理的な力で治療する基礎的な理論を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
67	日常生活活動学	講義	2前	1	30	理学療法士として必要な日常生活活動学の基礎的な理論を学ぶ科目で、かつ疾患別の日常生活指導は他の疾患別理学療法学に含めるため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
68	義肢装具学Ⅰ	講義	2前	1	30	義肢装具の基礎的な理論を学ぶ科目であり、かつ義肢装具学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
69	義肢装具学Ⅱ	講義	2後	1	30	義肢装具の基礎的な理論を学ぶ科目であり、かつ義肢装具学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
70	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	2後	1	30	神経内科学を基盤として神経障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
71	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1	30	神経内科学を基盤として神経障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
72	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	2後	1	30	整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
73	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1	30	整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。

74	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	3前	1		30	内科学を基盤として内部障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
75	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1		30	内科学を基盤として内部障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
76	小児期理学療法学演習	演習	2後	1		30	小児科学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
77	老年期理学療法学演習	演習	2後	1		30	老年医学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
78	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	2後	1		30	運動学や整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
79	神経筋骨格障害応用論実習	実習	4後		2	45	臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
80	内部障害応用論実習	実習	4後		2	45	臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
81	スポーツ障害応用論実習	実習	4後		2		臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
82	地域理学療法学	講義	2後	1		15	理学療法士としての地域で実践する基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
83	地域理学療法学実習	実習	3前	1		30	地域理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
84	理学療法見学実習Ⅰ	実習	1前	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
85	理学療法見学実習Ⅱ	実習	1後	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
86	理学療法見学実習Ⅲ	実習	2前	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
87	理学療法評価実習	実習	3前	4		45	臨地実務実習として臨床現場にて4週間の評価実践をとおして学習する実習であるため4単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
88	理学療法総合臨床実習Ⅰ	実習	3後	6		45	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習であるため6単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
89	理学療法総合臨床実習Ⅱ	実習	4前	6		45	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習であるため6単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
90	理学療法地域実習	実習	4前	1		45	臨地実務実習として訪問リハビリや通所リハビリ施設にて1週間（5日間）の実習をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
91	マーケティング論	講義	3後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
92	施設起業運営論	講義	3後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
93	ボランティア論	講義	1後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
94	生涯スポーツ論	講義	1前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
95	労働衛生論	講義	1後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
96	子育て支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
97	災害支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
98	教育支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。

99	メンタルヘルスマネジメント論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
100	地域共生論	講義	3前		2	15	展開科目の中でも他の科目との関連性が高く学ぶ範囲も広いとため、理解には十分な時間が必要なため2単位とした。さらに地域社会での実践事例をもとに考えをまとめる時間が必要なため事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
101	障がい者スポーツ論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
101	障がい者スポーツ論実習	実習	4前		1	30	地域理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
102	健康増進実践実習	実習	3後		1	30	健康増進実践演習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
103	スポーツリズムトレーニング論	講義	3後		1	30	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。新しい考え方で理解には十分な講義時間が必要なため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
104	体力測定論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
105	健康増進実践演習	演習	3後		1	30	健康増進実践実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な課題への取り組みなど演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
107	パフォーマンス向上論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
108	フィットネス論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
109	ランニングトレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
110	ゴルフトレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
111	ビジョントレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
112	遊びとレクリエーション	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
113	生きがい創造	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
114	伝承遊び	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
115	シューフィッティング論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
116	福祉工学地域活用論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
117	ロボット工学地域活用論基礎	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
118	ロボット工学地域活用論応用	講義	3後		2	30	展開科目の中でも臨床的に高度な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
119	身体障がい者就労環境論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
120	組織運営論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
121	協働連携論総合実習	実習	4後		2	30	本学での学びの集大成となる科目であり、かつ総合科目の中心的な科目であるため2単位とした。両学科合同で授業を行い、複数教員が関わるために手厚い指導となるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため2単位60時間とした。
122	理学療法総合演習	演習	4後		1	30	展開科目を含めたすべての科目と合わせて学ぶ科目であるため1単位として、3つの応用論実習で学んだこと多角的に捉えなおす時間が必要なため1単位30時間とした。
123	リハビリテーション総合演習	演習	3後		1	30	理学療法研究法を基盤として合わせて演習を行う科目であるため1単位とした。事前・事後学習として議論を行い理解を深める時間が必要なため1単位30時間とした。

作業療法学科

	授業科目の名称	授業形態	配当年次	単位数		1単位当たりの単位数	単位数及び時間数の考え方
				必修	選択		
1	学びの基盤	講義	1前	1		15	専門職大学での学びは様々あるが、授業の学び方に焦点をあて講義するため1単位とした。学習した内容を他の講義で実践できるよう事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めるために1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
2	コミュニケーション論	講義	1前	1		15	コミュニケーションの範疇は広いが、社会人・医療人として必須になる対人コミュニケーションスキルを習得することに焦点をあて講義するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
3	音楽	講義	1後		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
4	キャリア発達論	講義	2後	1		15	将来のキャリア発達とその支援について基礎を学ぶため1単位とした。将来の展望を持ち自らの考えをまとめる時間を十分にとるため、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
5	教育学	講義	1前	1		15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
6	倫理学入門	講義	1前	1		15	倫理学の基本的な考え方を学ぶため1単位とした。現代社会の抱える倫理的問題を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
7	哲学入門	講義	1前		1	15	哲学の歴史と基本用語を習得するため1単位とした。今まで理解している哲学との比較を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
8	心理学	講義	1後	1		15	心理学の領域は多岐にわたるが、その歴史や基礎を学ぶため1単位とした。自らの考え振り返る時間を十分にとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
9	経営学入門	講義	2前		1	15	基本的な論点や社会の仕組みを学ぶため1単位とした。現代社会の現状と課題について事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
10	社会学	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
11	日本の伝統文化	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
12	日本の近代史	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
13	体育	実習	1後		1	30	身体運動を学び、それらを合わせて実践する科目であるため1単位とした。事前・事後に実習での取り組みを考える時間を確保するため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
14	生物学	講義	1前	1		15	生物学の基本的な概念について学び理解するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
15	物理学 I	講義	1前	1		15	力学的視点の基礎を学ぶこと、物理学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
16	物理学Ⅱ	講義	1後		1	15	物理学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
17	統計学	講義	2後	1		15	統計学的思考の基礎を担う科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
18	数学	講義	1前		1	15	物理学や統計学の基礎にある科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
19	英語Ⅰ	講義	1前	1		15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
20	英語Ⅱ	講義	1後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
21	韓国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。

22	中国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
23	解剖学Ⅰ	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した
24	解剖学Ⅱ	講義	1後	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
25	解剖学Ⅲ	講義	1後	1		30	解剖学Ⅰ、Ⅱと同じく理学療法を学ぶ基盤となる科目であるが、比較すると学習内容が少ないため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
26	生理学Ⅰ	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
27	生理学Ⅱ	講義	1後	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
28	運動学Ⅰ	講義	1後	1		30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
29	運動学Ⅱ	講義	2前	1		30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
30	運動学実習	実習	2後	1		30	運動学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々なデータ計測などの時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
31	人間発達学	講義	1後	1		15	運動学Ⅱや小児科学の基礎になる人間の発達について学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
32	救急援助論	講義	2後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
33	内科学Ⅰ	講義	2前	1		30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
34	内科学Ⅱ	講義	2後	1		30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
35	神経内科学Ⅰ	講義	2前	1		30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
36	神経内科学Ⅱ	講義	2後	1		30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
37	整形外科Ⅰ	講義	2前	1		30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
38	整形外科Ⅱ	講義	2後	1		30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
39	精神医学	講義	1後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
40	小児科学	講義	2前	1		30	小児期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。子供に触れたことのない学生にとってはイメージしにくく、多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
41	老年医学	講義	2前	1		30	老年期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。今後、関わることの多い高齢者についての知識を多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
42	薬理学概論	講義	1後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
43	予防医学	講義	3前	1		15	予防的な面での医学的知識を学ぶ科目であるため1単位とした。他の医学的知識と重なる部分も多く、今までに学んだことを繋ぎ合わせる科目であるため1単位15時間とした。

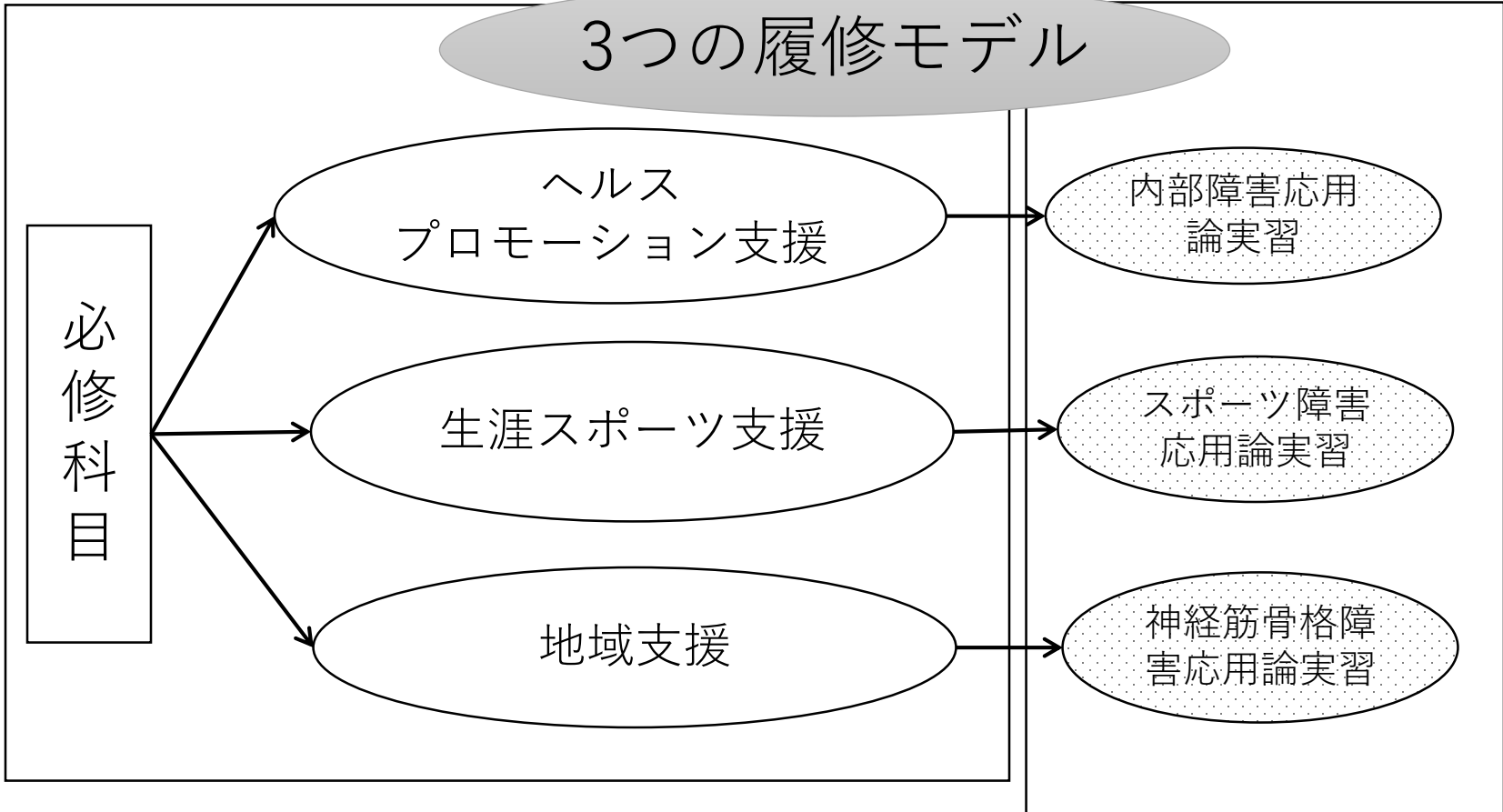
44	画像診断学	講義	2前	1	15	画像診断における基本的な知識を学ぶ科目。画像評価学ならびに各疾患学でさらに画像診断学を含めた内容があるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
45	栄養学	講義	2前	1	15	基本的な人体と栄養との関係の基礎知識を学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
46	社会福祉学	講義	2前	1	15	地域理学療法学を学ぶ基礎であるため1単位とした。地域社会での理学療法士として関りも考察するため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
47	地域包括ケア論	講義	3前	1	30	本学が考える地域共生社会で活躍できる理学療法士・作業療法士の育成の基礎となる科目であるため1単位とした。そのため、範囲も多く理解に時間を要するため授業時間を多くした方が知識が深まるため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
48	リハビリテーション概論	講義	1前	1	30	リハビリテーションの思想、歴史、専門職としての基本的な知識を学ぶ科目のため1単位とした。1年次の科目であり、耳慣れないリハビリテーションの概念をしっかりと理解させる必要があるため、授業時間を多くした方が知識の理解が深まるため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
49	作業療法学総論	講義	1前	1	30	作業療法の歴史から作業の意味を学ぶが、基礎作業学や基礎作業学実習と合わせて基礎を学ぶため1単位とした。初めて作業療法に触れるため十分な講義時間をもうけ、理解ができるように1単位30時間とした。
50	基礎作業学	講義	1前	1	15	基礎作業学実習ⅠとⅡを行う上での概念科目であるため1単位とした。作業は自分の経験を考察することも重要であるため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
51	基礎作業学実習Ⅰ	実習	1前	1	30	基礎作業学を基盤に実際に作業活動を行う内容であるため1単位とした。実習時間が多くなるが、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
52	基礎作業学実習Ⅱ	実習	1後	1	30	基礎作業学を基盤に実際に作業活動を行う内容であるため1単位とした。実習時間が多くなるが、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
53	作業療法研究法	講義	3前	1	15	作業療法士としての研究を行うにあたり基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
54	作業療法管理・制度論	講義	1後	1	15	作業療法に関する制度を学ぶことは重要であるが、作業療法に関連したもののみを取り上げる為、1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
55	作業療法と倫理	講義	1後	1	15	作業療法士になる上での基本的な倫理観を学ぶため、1単位とした。基礎科目に倫理学があり、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
56	作業療法評価学総論	講義	1後	1	30	対象者への作業療法介入を考える際に、どのように対象者を捉えるかを学ぶ科目であり、各種評価学と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。学生は障がいや問題点に視点が向きやすいため十分な講義時間をもうけ、理解ができるように1単位30時間とした。
57	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	2前	1	30	身体障害作業療法評価学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目のため1単位とした。身体障害の対象者への定型的な評価技法は多くあるため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
58	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	2前	1	30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目のため1単位とした。身体障害の対象者への定型的な評価技法は多くあるため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
59	精神障害作業療法評価学実習	実習	2前	1	30	作業療法評価学総論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。精神障害の対象者への評価技法を学ぶため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
60	発達障害作業療法評価学実習	実習	2前	1	30	作業療法評価学総論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。発達障害の対象者への評価技法を学ぶため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
61	身体障害作業療法基礎技術論	講義	2後	1	30	身体障害の対象者への定型的な治療介入を学び、次に続く各身体疾患においてベースとなる技術を学ぶため科目であるため1単位とした。学生が理解を要するために養成校で教員が多くの指導時間をかける必要があるため、1単位30時間とした。
62	運動器疾患作業療法実習	実習	2後	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動器疾患の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
63	中枢神経疾患作業療法実習	実習	2後	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。中枢神経疾患の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
64	高次脳機能障害作業療法実習	実習	3前	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。高次脳機能障害の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
65	精神障害作業療法学	講義	2後	1	30	精神障害の対象者への治療的な考え方を学ぶ科目であり、精神障害作業療法実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。障がいが見える形で捉えにくい精神疾患はとかく、幻聴や妄想といった際立った症状や障がい目が見えにくいため、学生の理解を促すためには養成校で学ぶ時間が必要であるため、1単位30時間とした。

66	精神障害作業療法学実習	実習	3前	1	30	精神障害作業療法学と合わせて学ぶため1単位とした。様々な精神障害者への治療的介入を実習を通して学ぶため実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
67	発達障害作業療法学実習 I	実習	2後	1	30	発達障害作業療法学実習 II と合わせて学ぶため1単位とした。発達障害の対象者への基本的な治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
68	発達障害作業療法学実習 II	実習	3前	1	30	発達障害作業療法学実習 I と合わせて異なった内容を学ぶため1単位とした。発達障害の対象者への基本的な治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
69	老年期障害作業療法学	講義	2後	1	30	高齢者への作業療法の基本的な介入について学ぶ科目であり、老年期障害作業療法学実習と合わせて学ぶため1単位とした。高齢者への介入は、抜本的な問題解決というよりも、いかにその方にとって生活の質が向上するかの視点であり、学生の理解には教員による指導が養成校で必要となるため、1単位30時間とした。
70	老年期障害作業療法学実習	実習	3前	1	30	老年期障害作業療法学と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な疾患の高齢者への作業療法の治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
71	日常生活活動論実習	実習	2前	1	30	様々な対象者の日常生活の改善に向けた介入を学ぶ科目であるが、疾患別の日常生活指導は他の科目に含めるため1単位とした。実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
72	社会生活行為論実習	実習	2前	1	30	生活行為向上マネジメント論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とする。様々な対象者の社会参加を支援することを学ぶ科目であるが、実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
73	作業分析活用論	講義	2後	1	30	作業分析活用論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な作業活動を分析することについて学生の理解には教員による指導が養成校で必要となるため、1単位30時間とした。
74	作業分析活用論実習	実習	2後	1	30	作業分析活用論と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な作業活動を分析し、分析することに慣れ親しむための実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
75	家族援助論	講義	3前	1	15	家族の支援の基本的な概念を学ぶため1単位とした。家族援助は実践例を通じた方が学習しやすいため、本科目は概念を学ぶため事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
76	住環境支援論	講義	3前	1	30	物理的な住環境の支援、対象者が住みやすくなる支援の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。本学科が考える環境に着眼する視点を学生に学ばせる科目であり、養成校にて教員の指導に時間をかけた方が学びやすいため、1単位30時間とした。
77	作業療法義肢装具実習	実習	2後	1	30	義肢装具の作成を通して、人と道具との関係性の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
78	生活行為向上マネジメント論実習	実習	3前	1	30	社会生活行為論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。対象者の作業に着眼したアプローチを学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
79	地域生活作業療法学総論	講義	2前	1	30	地域における作業療法の支援のあり方を考える科目で地域生活作業療法学実習 I ・ II と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。各実習の基本的な概念を学ぶため、養成校での指導に時間を要するので、1単位30時間とした。
80	地域生活作業療法学実習 I	実習	2後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
81	地域生活作業療法学実習 II	実習	2後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
82	地域生活作業療法学実習 III	実習	3後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
83	作業療法見学実習 I	実習	1後	1	45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
84	作業療法見学実習 II	実習	2前	1	45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
85	作業療法評価実習	実習	3前	5	225	臨地実務実習として臨床現場にて4週間の評価実践をとおして学習する実習であるため4単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
86	作業療法総合臨床実習 I	実習	3後	7	315	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習に加えて1週間の学内での実習を行うため7単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
87	作業療法総合臨床実習 II	実習	4前	7	315	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習に加えて1週間の学内での実習を行うため7単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。

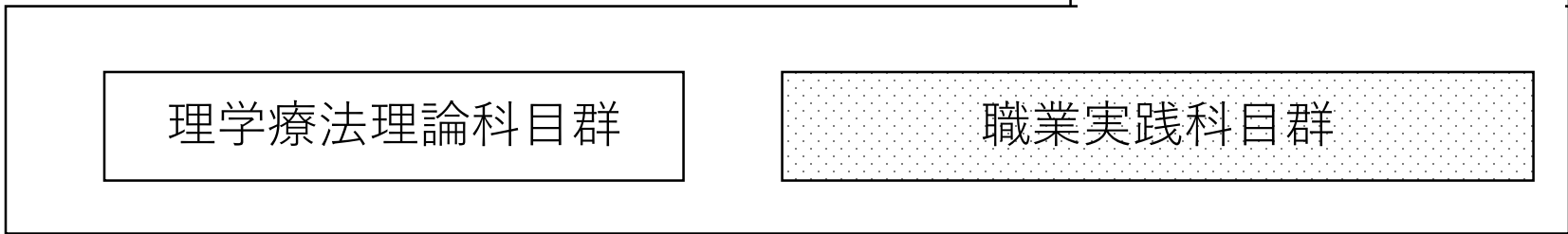
88	作業療法地域実習	実習	4前	1	45	臨地実務実習として訪問リハビリや通所リハビリ施設にて1週間（5日間）の実習をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
89	マーケティング論	講義	2後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
90	施設起業運営論	講義	3前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
91	ボランティア論	講義	1前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
92	子育て支援論	講義	2前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
93	災害支援論	講義	1後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
94	教育支援論	講義	2後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
95	メンタルヘルスマネジメント論	講義	2前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
96	障がい者スポーツ論	講義	3後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
97	障がい者スポーツ論実習	実習	4前	1	30	地域理学療法を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
98	地域社会共生論	講義	1前	2	15	展開科目の中でも他の科目との関連性が高く学ぶ範囲も広いとため、理解には十分な時間が必要なため2単位とした。さらに地域社会での実践事例をもとに考えをまとめる時間が必要なため事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
99	地域社会共生論実習	実習	1後	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
100	精神障がい者就労環境論	講義	3後	2	15	成人期における精神障がい者の就労の様々な事例を学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
101	身体障がい者就労環境論	講義	3後	2	15	成人期、老年期における身体障がいや高齢者の就労の様々な事例を学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
102	就労環境論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
103	老年期地域社会適応論	講義	3後	2	15	老年期における地域課題について学ぶ科目であり、次の実習へと繋がる科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。講師が外部の教員になるため、事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
104	老年期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
105	成人期地域社会適応論	講義	3後	2	15	成人期における地域課題について学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
106	成人期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
107	児童期地域社会適応論	講義	3後	2	15	児童期における地域課題について学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
108	児童期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
109	協働連携論総合実習	実習	4後	2	30	本学での学びの集大成となる科目であり、かつ総合科目の中心的な科目であるため2単位とした。両学科合同で授業を行い、複数教員が関わるために手厚い指導となるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため2単位60時間とした。

110	作業療法総合実習Ⅰ	実習	4後	1		30	本学科での作業療法の学びの集大成の科目である。作業療法総合実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。さらに、多角的に捉えなおすためのグループワークを行う時間を要するので、1単位30時間とした。
111	作業療法総合実習Ⅱ	実習	4後	1		30	本学科での作業療法の学びの集大成の科目である。作業療法総合実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。作業療法総合実習Ⅰでまとめた内容に更に当事者からの意見も踏まえ、グループで議論を行う時間を要するので1単位30時間とした。

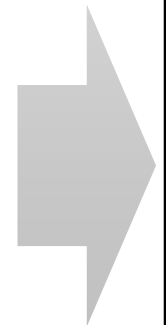
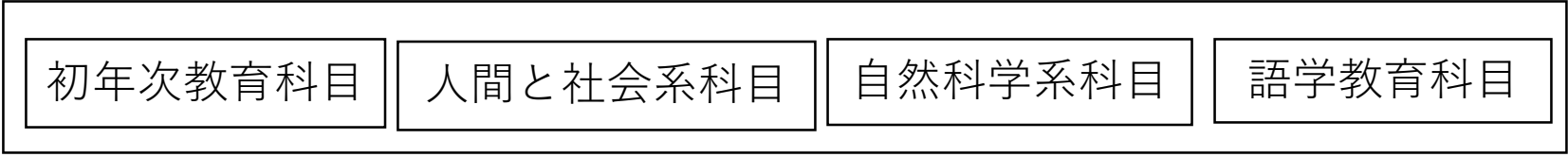
展開科目



職業専門科目



基礎科目



総合科目

理学療法学科 履修モデル（地域支援）

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		選択5単位
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	必修7単位
		社会福祉学						
	理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		身体障がい者就労環境論※3	福祉工学地域活用論※3	ロボット工学地域活用論基礎※3	ロボット工学地域活用論応用※3	組織運営論※3		選択8単位
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必修2単位
		神経筋骨格障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
							合計	129単位

※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位選択

理学療法学科 履修モデル (ヘルスプロモーション支援)

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		選択5単位
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位	
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必須2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科学 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科学 II	必修7単位
		社会福祉学						
理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位	
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		遊びとレクリエーション※3	生きがい創造※3	伝承遊び※3	体力測定論※3	メンタルヘルスマネジメント論※3	健康増進実践演習※3	選択9単位
		健康増進実践実習※3						
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必須2単位
		内部障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
							合計	129単位

※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位以上選択

理学療法学科 履修モデル（生涯スポーツ支援）

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		選択5単位
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位	
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科学 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科学 II	必修7単位
		社会福祉学						
理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位	
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		スポーツリズムトレーニング論※3	パフォーマンス向上論※3	フィットネス論※3	ランニングトレーニング論※3	ゴルフトレーニング論※3	ピジントレーニンング論※3	選択8単位
		シューフィッティング論※3						
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必修2単位
		スポーツ障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位以上選択							合計	129単位

3つの履修モデル

展開科目

必修科目

全ライフステージの地域生活

- 児童期
地域生活適応論
- 成人期
地域生活適応論
- 老年期
地域生活適応論

- 児童期
地域生活実習
- 成人期
地域生活実習
- 老年期
地域生活実習

職業専門科目

作業療法理論科目群

職業実践科目群

基礎科目

初年次教育科目

人間と社会系科目

自然科学系科目

語学教育科目

総合科目

作業療法学科 児童期履修モデル

区分		科目						単位数
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	社会学		必修8単位
		生物学	物理学 I	英語 I				
		哲学入門	日本の伝統文化	数学				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	運動学 I	リハビリテーション概論			必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論	基礎作業学	基礎作業学実習 I				必修3単位
展開科目	地域社会共生論	ボランティア論					必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽	体育	英語 II				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 II	人間発達学	薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習 II	作業療法管理・制度論	作業療法と倫理	作業療法評価学総論			必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習	災害支援論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門						選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	精神医学	小児科学	必修9単位
		老年医学	画像診断学	栄養学				
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習 I	身体障害作業療法評価学実習 II	精神障害作業療法評価学実習	発達障害作業療法評価学実習	日常生活活動論実習	社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	子育て支援論	メンタルヘルスマネジメント論					必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語	中国語					選択2単位
	作業療法理論科目	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	地域包括ケア論	救急援助論	社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論	運動器疾患作業療法実習	中枢神経疾患作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 I	老年期障害作業療法実習	必修11単位
		作業分析活用論	作業分析活用論実習	作業療法義肢装具実習	地域生活作業療法実習 I	地域生活作業療法実習 II		
展開科目	マーケティング論	教育支援論					必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学						必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 II	老年期障害作業療法実習	住環境支援論	生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
		地域生活作業療法実習 III	家族援助論	作業療法研究法				
	作業療法実習	作業療法評価実習						必修5単位
展開科目	施設起業運営論						必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 I						必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論	身体障がい者就労環境論	障がい者スポーツ論				必修5単位
	展開科目	児童期地域生活適応論						選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 II	作業療法地域実習					必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習	障がい者スポーツ論実習					必修2単位
	展開科目実習	児童期地域生活適応論実習						選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習 I	作業療法総合実習 II	協働連携論総合実習				必修4単位
合計							130	単位

作業療法学科 成人期履修モデル

区分		科目						単位数
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	社会学		必修8単位
		生物学	物理学 I	英語 I				
		哲学入門	日本の近代史	日本の伝統文化	数学			選択4単位
	作業療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	運動学 I	リハビリテーション概論			必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論	基礎作業学	基礎作業学実習 I				必修3単位
展開科目	地域社会共生論	ボランティア論					必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		体育	物理学 II	英語 II				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 II	人間発達学	薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習 II	作業療法管理・制度論	作業療法と倫理	作業療法評価学総論			必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習	災害支援論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門						選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	精神医学	小児科学	必修9単位
		老年医学	画像診断学	栄養学				
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習 I	身体障害作業療法評価学実習 II	精神障害作業療法評価学実習	発達障害作業療法評価学実習	日常生活活動論実習	社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	子育て支援論	メンタルヘルスマネジメント論					必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		中国語						選択1単位
	作業療法理論科目	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	地域包括ケア論	救急援助論	社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論	運動器疾患作業療法実習	中枢神経疾患作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 I	老年期障害作業療法実習	必修11単位
		作業分析活用論	作業分析活用論実習	作業療法義肢装具実習	地域生活作業療法実習 I	地域生活作業療法実習 II		
展開科目	マーケティング論	教育支援論					必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学						必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 II	老年期障害作業療法実習	住環境支援論	生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
		地域生活作業療法実習 III	家族援助論	作業療法研究法				
	作業療法実習	作業療法評価実習						必修5単位
展開科目	施設起業運営論						必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 I						必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論	身体障がい者就労環境論	障がい者スポーツ論				必修5単位
	展開科目	成人期地域生活適応論						選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 II	作業療法地域実習					必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習	障がい者スポーツ論実習					必修2単位
	展開科目実習	成人期地域生活適応論実習						選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習 I	作業療法総合実習 II	協働連携論総合実習				必修4単位
合計							130	単位

作業療法学科 老年期履修モデル

区分	科目	単位数	
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤 コミュニケーション論 教育学 倫理学入門 社会学	必修8単位
		生物学 物理学Ⅰ 英語Ⅰ	
		日本の近代史 日本の伝統文化 数学	選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 運動学Ⅰ リハビリテーション概論	必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習Ⅰ	必修3単位
展開科目	地域社会共生論 ボランティア論	必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学	必修1単位
		音楽 体育 英語Ⅱ	選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅱ 運動学Ⅱ 人間発達学 薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習Ⅱ 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 作業療法評価学総論	必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習Ⅰ	必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習 災害支援論	必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門	選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習 内科学Ⅰ 神経内科学Ⅰ 整形外科Ⅰ 精神医学 小児科学	必修9単位
	作業療法職業実践科目	老年医学 画像診断学 栄養学	
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習Ⅱ	必修1単位
展開科目	子育て支援論 メンタルヘルスマネジメント論	必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論 統計学	必修2単位
		韓国語 中国語	選択2単位
	作業療法理論科目	内科学Ⅱ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅱ 地域包括ケア論 救急援助論 社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論 運動器疾患作業療法実習 中枢神経疾患作業療法実習 精神障害作業療法実習Ⅰ 発達障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習Ⅰ	必修11単位
	作業療法職業実践科目	作業分析活用論 作業分析活用論実習 作業療法義肢装具実習 地域生活作業療法実習Ⅰ 地域生活作業療法実習Ⅱ	
展開科目	マーケティング論 教育支援論	必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学	必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習 精神障害作業療法実習 発達障害作業療法実習Ⅱ 老年期障害作業療法実習 住環境支援論 生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
	作業療法職業実践科目	地域生活作業療法実習Ⅲ 家族援助論 作業療法研究法	
	作業療法実習	作業療法評価実習	必修5単位
展開科目	施設起業運営論	必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論 障がい者スポーツ論	必修5単位
	展開科目	老年期地域生活適応論	選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習	必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習 障がい者スポーツ論実習	必修2単位
	展開科目実習	老年期地域生活適応論実習	選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 協働連携論総合実習	必修4単位
		合計 130 単位	

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
体育	必	佐藤 隆彦	1	30	1年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目指す。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用量などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	受講ガイダンス、体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第2回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第3回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第4回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のスキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第5回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のオフェンススキル、1対1のディフェンススキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第6回	バスケットボール					佐藤 隆彦
第7回	バスケットボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、1対1のディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第8回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第9回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第10回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第11回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第12回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第13回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第14回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第15回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）、本科目の振り返り					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	授業での運動に備えて、正しい生活習慣を身につけて体調を整えること。					
課題・評価方法	授業の参加姿勢（50%）、技能等の向上度（50%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	安田 孝志・藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。 (オムニバス方式/15回) (安田 孝志/8回)</p> <p>三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。 (藤谷 亮/7回)</p> <p>特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	運動機能検査機器の原理と意義：重心動揺計、床反力計、動作解析装置など					安田 孝志
第2回	運動機能検査機器の取り扱い、計測方法について					安田 孝志
第3回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第4回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第5回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第6回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第7回	計測結果と分析についての発表					安田 孝志
第8回	計測結果と分析についての発表					安田 孝志
第9回	姿勢観察・分析の基礎 姿勢と運動の捉え方					藤谷 亮
第10回	運動観察と分析：寝返り					藤谷 亮
第11回	運動観察と分析：起き上がり					藤谷 亮
第12回	運動観察と分析：立ち上がり					藤谷 亮
第13回	運動観察と分析：歩行① 歩行の運動観察と分析					藤谷 亮
第14回	運動観察と分析：歩行② 歩行の運動観察と分析					藤谷 亮
第15回	運動観察と分析：歩行③ 疾患別の異常歩行の運動観察・分析					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。					
課題・評価方法	発表・レポート (50%) 定期試験 (50%)					
教科書	配布資料 伊東元・他(編)：運動学, 医学書院 畠中泰彦：姿勢・動作・歩行分析. 羊土社					
参考書	内山 靖・他(編)：計測法入門 計り方、計る意味. 協同医書出版社. 江原義弘, 山本澄子著：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析. 医歯薬出版. 中村隆一編著, 齋藤宏, 長崎浩著：臨床運動学 第3版. 医歯薬出版株式会社. Anne Shumway-Cook・他)：モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ. 医歯薬出版. 中村隆一・他：基礎運動学					
オフィスアワー	安田 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	安田孝志・藤谷亮	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。 (オムニバス方式/15回) (安田孝志/8回) 三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。 (藤谷亮/7回) 特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動機能検査機器の原理と意義：重心動揺計、床反力計、動作解析装置など					安田孝志
第2回	運動機能検査機器の取り扱い、計測方法について					安田孝志
第3回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第4回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第5回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第6回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第7回	計測結果と分析についての発表					安田孝志
第8回	計測結果と分析についての発表					安田孝志
第9回	姿勢観察・分析の基礎 姿勢と運動の捉え方					藤谷亮
第10回	運動観察と分析：寝返り					藤谷亮
第11回	運動観察と分析：起き上がり					藤谷亮
第12回	運動観察と分析：立ち上がり					藤谷亮
第13回	運動観察と分析：歩行① 歩行の運動観察と分析①					藤谷亮
第14回	運動観察と分析：歩行② 歩行の運動観察と分析②					藤谷亮
第15回	運動観察と分析：歩行③ 疾患別の異常歩行の運動観察・分析					藤谷亮
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、発表・レポート(40%) 定期試験(50%)					
教科書	<p>配布資料 伊東元・他(編)：運動学、医学書院 畠中泰彦：姿勢・動作・歩行分析、羊土社</p>					
参考書	<p>内山 靖・他(編)：計測法入門 計り方、計る意味、協同医書出版社。 江原義弘、山本澄子著：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析、医歯薬出版。 中村隆一編著、齋藤宏、長崎浩著：臨床運動学 第3版、医歯薬出版株式会社。 Anne Shumway-Cook・他)：モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。 中村隆一・他：基礎運動学</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動生理学実習	必	佐藤 隆彦	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	筋の運動生理学（筋収縮とエネルギー供給系）					佐藤 隆彦
第2回	筋の運動生理学（筋線維の種類とその特徴）					佐藤 隆彦
第3回	筋の運動生理学（筋収縮における神経の役割、筋の収縮様式と筋力）					佐藤 隆彦
第4回	骨、関節の運動生理学					佐藤 隆彦
第5回	骨、関節の運動生理学					佐藤 隆彦
第6回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					佐藤 隆彦
第7回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					佐藤 隆彦
第8回	運動時の呼吸応答					佐藤 隆彦
第9回	運動時の呼吸応答					佐藤 隆彦
第10回	運動時の循環応答					佐藤 隆彦
第11回	運動の種類とエネルギー供給					佐藤 隆彦
第12回	最大酸素摂取量、最高酸素摂取量測定					佐藤 隆彦
第13回	呼吸機能測定					佐藤 隆彦
第14回	運動負荷試験測定、解析					佐藤 隆彦
第15回	運動負荷試験測定、解析					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート（授業中の課題提出）40%、定期試験 60%					
教科書	配布資料 リハビリテーション運動生理学：玉木彰（監修）、解良武士（編集）、メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動生理学演習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	筋の運動生理学（筋収縮とエネルギー供給系）					治郎丸卓三
第2回	筋の運動生理学（筋線維の種類とその特徴）					治郎丸卓三
第3回	筋の運動生理学（筋収縮における神経の役割、筋の収縮様式と筋力）					治郎丸卓三
第4回	骨、関節の運動生理学					治郎丸卓三
第5回	骨、関節の運動生理学					治郎丸卓三
第6回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					治郎丸卓三
第7回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					治郎丸卓三
第8回	運動時の呼吸応答					治郎丸卓三
第9回	運動時の呼吸応答					治郎丸卓三
第10回	運動時の循環応答					治郎丸卓三
第11回	運動の種類とエネルギー供給					治郎丸卓三
第12回	最大酸素摂取量、最高酸素摂取量測定					治郎丸卓三
第13回	呼吸機能測定					治郎丸卓三
第14回	運動負荷試験測定、解析					治郎丸卓三
第15回	運動負荷試験測定、解析					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	<p>授業態度（授業中の課題提出）40%、定期試験 60%</p>					
教科書	<p>配布資料 リハビリテーション運動生理学：玉木彰（監修）、解良武士（編集）、メジカルビュー社</p>					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
救急援助論	必	野口 真一	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、医療にかかわる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法について理解し、実施できるようになることである。内容としては、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応とその際の対応、死に直結する疾患とその兆候、初期対応などについて学習する。AEDの使用を含め心肺蘇生法を身につけ、医療職種として必要となる医学的な対処方法とその知識を獲得することを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	熱中症の病態と予防・応急処置					野口 真一
第2回	意識消失の原因と病態					野口 真一
第3回	急性心不全と呼吸不全					野口 真一
第4回	ショックの概念の病態					野口 真一
第5回	頭部外傷の救急処置					野口 真一
第6回	一般外傷に対する救急処置					野口 真一
第7回	スポーツ障害と外傷に対する救急処置					野口 真一
第8回	一次救命処置					野口 真一
備考						
授業時間以外の学習について	医療職種として重要な知識ですので、各講義ごとに復習をするようにしてください。					
課題・評価方法	授業内課題 (10%) 実技 (20%) 期末テスト (70%)					
教科書	目で見る救命救急処置					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
救急援助論	必	金沢 伸彦	1	15	1年次 後期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、医療にかかわる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法について理解し、実施できるようになることである。内容としては、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応とその際の対応、死に直結する疾患とその兆候、初期対応などについて学習する。AEDの使用を含め心肺蘇生法を身につけ、医療職種として必要となる医学的な対処方法とその知識を獲得することを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	熱中症の病態と予防・応急処置					金沢 伸彦
第2回	意識消失の原因と病態					金沢 伸彦
第3回	急性心不全と呼吸不全					金沢 伸彦
第4回	ショックの概念の病態					金沢 伸彦
第5回	頭部外傷の救急処置					金沢 伸彦
第6回	一般外傷に対する救急処置					金沢 伸彦
第7回	スポーツ障害と外傷に対する救急処置					金沢 伸彦
第8回	一次救命処置					金沢 伸彦
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 (10%) 実技 (20%) 期末テスト (70%)					
教科書	目で見る救命救急処置					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	鈴木 美香・弘部 重信	1	30	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回) (弘部 重信/3回) 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。 (鈴木 美香/12回) 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域包括ケアシステムの概要 (人口構造の変化と社会保障への影響)					弘部 重信
第2回	地域包括ケアシステムの概念と制度					弘部 重信
第3回	地域包括ケアシステムを支える専門職の役割 (多職種連携)					弘部 重信
第4回	地域共生社会とは何か					鈴木美香
第5回	自助・共助・公助・互助について					鈴木美香
第6回	地域包括ケアシステムの主な政策と動向					鈴木美香
第7回	地域包括支援センターの役割と機能					鈴木美香
第8回	地域包括ケアシステム (地域包括ケア病棟、看護小規模多機能)					鈴木美香
第9回	自分の住む地域の地域資源について調べる					鈴木美香
第10回	地域包括ケアシステムの現状と課題 (リハビリテーション職に期待される役割)					鈴木美香
第11回	地域ケア会議について (模擬会議)					鈴木美香
第12回	事例検討1 (グループワーク)					鈴木美香
第13回	事例検討1 (発表)					鈴木美香
第14回	事例検討2 (グループワーク)					鈴木美香
第15回	事例検討2 (発表)					鈴木美香
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を予習し、授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト (10%)、レポート課題 (90%)					
教科書	備酒伸彦 (編) : 地域リハビリテーション学テキスト, 南江堂					
参考書	高橋紘士 (編) : オーム社					
オフィスアワー	弘部 前期 : 水 16:10~17:15 鈴木 前期 : 水 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。</p> <p>(オムニバス形式／全15回) (川崎浩子／3回) 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。 (鈴木美香／12回) 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	地域包括ケアシステムの概要（人口構造の変化と社会保障への影響）					川崎浩子
第2回	地域包括ケアシステムの概念と制度					川崎浩子
第3回	地域包括ケアシステムを支える専門職の役割（多職種連携）					川崎浩子
第4回	地域共生社会とは何か					鈴木美香
第5回	自助・共助・公助・互助について					鈴木美香
第6回	地域包括ケアシステムの主な政策と動向					鈴木美香
第7回	地域包括支援センターの役割と機能					鈴木美香
第8回	地域包括ケアシステム（地域包括ケア病棟、看護小規模多機能）					鈴木美香
第9回	自分の住む地域の地域資源について調べる					鈴木美香
第10回	地域包括ケアシステムの現状と課題（リハビリテーション職に期待される役割）					鈴木美香
第11回	地域ケア会議について（模擬会議）					鈴木美香
第12回	事例検討1（グループワーク）					鈴木美香
第13回	事例検討1（発表）					鈴木美香
第14回	事例検討2（グループワーク）					鈴木美香
第15回	事例検討2（発表）					鈴木美香
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を復習し、地域社会に興味を持って講義に臨んで下さい。					
課題・評価方法	授業態度（10%）、レポート課題（90%）					
教科書	備酒伸彦（編）：地域リハビリテーション学テキスト、南江堂					
参考書	高橋紘士（編）：オーム社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法学実習 I	必	里中 綾子	1	30	1年次 後期	実習
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。 本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作（ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など）の動作介助法を習得することとする。 授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内 容					担当教員
第1回	動作介助に必要なボディメカニクス 動作介助の基本					里中 綾子
第2回	ベッド上での上下・左右への移動介助					里中 綾子
第3回	寝返りの介助 起き上がりの介助					里中 綾子
第4回	起き上がりの介助 椅子からの立ち上がり介助					里中 綾子
第5回	座位での移動介助 床からの立ち上がり介助					里中 綾子
第6回	移乗介助 車いす⇄ベッド（一人介助・二人介助）					里中 綾子
第7回	スライディングボード・リフトの使い方					里中 綾子
第8回	杖歩行・階段昇降介助					里中 綾子
備考						
授業時間以外の学習について	講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。					
課題・評価方法	実技試験70% 課題20% 小テスト10%					
教科書	木村哲彦・他（編）：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版。医歯薬出版。					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法Ⅲ	必	川崎 浩子	1	15	1年次 後期	講義
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。 本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作（ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など）の動作介助法を習得することとする。 授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	動作介助に必要なボディメカニクス 動作介助の基本					川崎 浩子
第2回	ベッド上での上下・左右への移動介助					川崎 浩子
第3回	寝返りの介助 起き上がりの介助					川崎 浩子
第4回	起き上がりの介助 椅子からの立ち上がり介助					川崎 浩子
第5回	座位での移動介助 床からの立ち上がり介助					川崎 浩子
第6回	移乗介助 車いす⇄ベッド（一人介助・二人介助）					川崎 浩子
第7回	スライディングボード・リフトの使い方					川崎 浩子
第8回	杖歩行・階段昇降介助					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。</p>					
課題・評価方法	<p>実技試験70% 課題20% 授業態度10%</p>					
教科書	<p>木村哲彦・他（編）：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版。医歯薬出版。</p>					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	里中 綾子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					里中 綾子
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					里中 綾子
第3回	データの分析：統計学的手法					里中 綾子
第4回	データの分析：統計学的手法					里中 綾子
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					里中 綾子
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					里中 綾子
第7回	英語論文の抄読発表会					里中 綾子
第8回	発表会におけるリフレクション					里中 綾子
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、レポート課題 (50点)、グループ発表 (40点)					
教科書	なし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	山内 正雄	1	15	3年次 前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					山内 正雄
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					山内 正雄
第3回	データの分析：統計学的手法（1）					山内 正雄
第4回	データの分析：統計学的手法（2）					山内 正雄
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					山内 正雄
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					山内 正雄
第7回	英語論文の抄読発表会					山内 正雄
第8回	発表会におけるリフレクション					山内 正雄
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(50点)、グループ発表(40点)					
教科書	特になし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法実習Ⅱ	必	宇於崎 孝	1	30	1年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	触診概論、触診方法の原理原則				宇於崎 孝	
第2回	上肢帯の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第3回	肩関節の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第4回	肩関節の筋の触診				宇於崎 孝	
第5回	肘関節・前腕の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第6回	手関節と手部の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第7回	手関節と手部の筋の触診				宇於崎 孝	
第8回	下肢帯・股関節の骨の触診				宇於崎 孝	
第9回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第10回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第11回	膝関節・下腿の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第12回	膝関節・下腿の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第13回	足関節と足部の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第14回	脊柱の骨と筋の触診				宇於崎 孝	
第15回	脊柱の筋の触診				宇於崎 孝	
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。					
課題・評価方法	筆記小試験 (30%)、実技試験 (30%)、定期試験(40%)					
教科書	河上敬介：骨格筋の形と触察法改訂第2版、大峰閣					
参考書	野村 嶺(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、医学書院。 竹井 仁：触診機能解剖カラーアトラス上・下、文光堂 野島元雄監(訳)：図解 四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版。					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法学演習	必	宇於崎孝	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	触診概論、触診方法の原理原則					宇於崎 孝
第2回	上肢帯の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第3回	肩関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第4回	肩関節の筋の触診					宇於崎 孝
第5回	肘関節・前腕の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第6回	手関節と手部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第7回	手関節と手部の筋の触診					宇於崎 孝
第8回	下肢帯・股関節の骨の触診					宇於崎 孝
第9回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第10回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第11回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第12回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第13回	足関節と足部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第14回	脊柱の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第15回	脊柱の筋の触診					宇於崎 孝
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。</p>					
課題・評価方法	筆記小試験（30%）、実技試験（30%）定期試験（40%）					
教科書	河上敬介：骨格筋の形と触察法改訂第2版。大峰閣					
参考書	<p>野村 嶺(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学。医学書院。 竹井 仁：触診機能解剖カラーアトラス上・下。文光堂 野島元雄監(訳)：図解 四肢と脊椎の診かた。医歯薬出版。</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
臨床技能論実習	必	川崎 浩子	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力養う。</p> <p>授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技の関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。</p> <p>理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、理学療法評価、理学療法治療技術及び介助技術を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p> <p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	臨床技能論概要 標準予防策、リスク管理					川崎 浩子
第2回	コミュニケーション技法・面接					川崎 浩子
第3回	血圧・脈拍測定 形態計測（下肢長・周径）					川崎 浩子
第4回	関節可動域測定					川崎 浩子
第5回	筋力測定					川崎 浩子
第6回	感覚検査					川崎 浩子
第7回	反射検査・反射 脳卒中運動機能検査 運動失調症検査					川崎 浩子
第8回	起き上がり					川崎 浩子
第9回	立ち上がり・着座					川崎 浩子
第10回	車いす移乗介助・駆動介助					川崎 浩子
第11回	関節可動域訓練					川崎 浩子
第12回	筋力増強訓練					川崎 浩子
第13回	部分荷重練習					川崎 浩子
第14回	物理療法（ホットパック）					川崎 浩子
第15回	歩行練習					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	理学療法の対象となる疾患・評価・動作について、講義前に復習しておいてください。授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。					
課題・評価方法	実技試験50% 期末試験（筆記）50%					
教科書	才藤栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編、金原出版					
参考書	松澤 正：理学療法評価学（第5版）、金原出版 津山直一他訳：新・徒手筋力検査法（第8版）、協同医書出版社					
オフィスアワー	川崎 前期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
臨床技能論	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力を養う。</p> <p>授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技に関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。</p> <p>(オムニバス形式／全8回) (5 鈴木美香／4回) 理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、血圧・脈拍測定や形態計測を実践的に学習する。 (9 川崎浩子／4回) 整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、検査・測定(関節可動域測定、筋力検査、反射検査、運動機能検査など)を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を發揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	臨床技能論概要 標準予防策、リスク管理					鈴木美香
第2回	コミュニケーション技法・面接					鈴木美香
第3回	血圧・脈拍測定					鈴木美香
第4回	形態計測(下肢長・周径)					鈴木美香
第5回	関節可動域測定					川崎浩子
第6回	筋力測定					川崎浩子
第7回	感覚検査					川崎浩子
第8回	反射・脳卒中運動機能検査					川崎浩子
備考						
授業時間以外の学習について	理学療法の対象となる疾患について、病態・障害像が想起できるように復習しておいてください。授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。					
課題・評価方法	実技試験50% 期末試験(筆記)40% 授業態度10%					
教科書	才藤栄一(監): PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版					
参考書	松澤 正: 理学療法評価学(第5版). 金原出版 津山直一他訳: 新・徒手筋力検査法(第8版). 協同医書出版社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学実習	必	宇於崎 孝・大西 均	2	60	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法評価における検査・測定の目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (宇於崎 孝/26回)</p> <p>関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。 (大西 均/4回)</p> <p>解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。</p>					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容		担当教員			
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、肩関節 屈曲・伸展		宇於崎 孝			
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯		宇於崎 孝			
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外		宇於崎 孝			
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指		宇於崎 孝			
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部		宇於崎 孝			
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋		宇於崎 孝			
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節		宇於崎 孝			
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査		宇於崎 孝			
第11回	肩関節		宇於崎 孝			
第12回	肩関節		宇於崎 孝			
第13回	肩関節		宇於崎 孝			
第14回	肘関節		宇於崎 孝			
第15回	手関節 指		宇於崎 孝			
第16回	肩甲帯		宇於崎 孝			
第17回	下肢の検査 股関節		宇於崎 孝			
第18回	股関節		宇於崎 孝			
第19回	股関節		宇於崎 孝			
第20回	膝関節		宇於崎 孝			
第21回	足関節		宇於崎 孝			
第22回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第23回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)		宇於崎 孝			
第25回	痛みの評価		宇於崎 孝			
第26回	高次脳機能検査		宇於崎 孝			
第27回	整形外科的テスト		大西均			
第28回	整形外科的テスト		大西均			
第29回	反射検査		大西均			
第30回	筋トーン検査		大西均			
備考						
授業時間以外の 学習について	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。					
オフィスア ワー	大西 前期 : 水 16:10~17:15 宇於崎 前期 : 月 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅰ	必	安田孝志・宇於崎孝・大西均	2	60	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法評価における検査・測定を目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。各論では関節可動域検査、筋力検査、脳神経検査、高次脳検査、反射検査、筋トーン検査、痛みについて、講義と演習を行う。整形外科的疾患に対する検査測定では、足関節の評価法などを臨床に即した考え方と最新の研究における評価法を交え、具体的に実習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、 肩関節 屈曲・伸展					宇於崎孝
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯					宇於崎孝
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外					宇於崎孝
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指					宇於崎孝
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部					宇於崎孝
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋					宇於崎孝
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節					宇於崎孝
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査					安田孝志
第11回	肩関節					安田孝志
第12回	肩関節					安田孝志
第13回	肩関節					安田孝志
第14回	肘関節					安田孝志
第15回	手関節 指					安田孝志
第16回	肩甲帯					安田孝志
第17回	下肢の検査 股関節					安田孝志
第18回	股関節					安田孝志
第19回	股関節					安田孝志
第20回	膝関節					安田孝志
第21回	足関節					安田孝志
第22回	体幹の検査					安田孝志
第23回	体幹の検査					安田孝志
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)					安田孝志
第25回	痛みの評価					安田孝志
第26回	高次脳機能検査					安田孝志
第27回	整形外科的テスト1					大西均
第28回	整形外科的テスト2					大西均
第29回	反射検査					大西均
第30回	筋トーン検査					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	演習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%) 小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ。 医歯薬出版。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習	必	山内 正雄・弘部 重信・ 藤谷 亮	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面では求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (整形外科領域：山内 正雄/5回) 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。</p> <p>(内部障害領域：弘部 重信/5回) 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>(中枢神経障害領域：藤谷 亮/5回) 中枢神経障害における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内 正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内 正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習					山内 正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習					山内 正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内 正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					弘部 重信
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					弘部 重信
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習					弘部 重信
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習					弘部 重信
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					弘部 重信
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷 亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷 亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習					藤谷 亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習					藤谷 亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（40%）、定期試験（60%）					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）. 金原出版.</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版.</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院.</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店.</p>					
オフィスアワー	<p>山内 前期：水 16：10～17：15</p> <p>弘部 前期：水 16：10～17：15</p> <p>藤谷 前期：水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅱ	必	山内正雄、分木ひとみ、藤谷亮	1	30	3年次前期	演習 講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>整形外科領域：山内正雄/5回 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようにすることを目標とする。</p> <p>内部障害領域：分木ひとみ/5回 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>中枢神経障害領域：藤谷亮/5回 中枢神経障害における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習①					山内正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習②					山内正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					分木ひとみ
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					分木ひとみ
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習①					分木ひとみ
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習②					分木ひとみ
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					分木ひとみ
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習①					藤谷亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習②					藤谷亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(30%)、定期試験(60%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）. 金原出版.</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法. Kaltborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版.</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院.</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学実習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第4回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第5回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第6回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第7回	協調性改善のための運動療法				池谷 雅江	
第8回	協調性改善のための運動療法				池谷 雅江	
第9回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第10回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第11回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第12回	持久力増大のための運動療法				池谷 雅江	
第13回	持久力増大のための運動療法				池谷 雅江	
第14回	疼痛改善のための運動療法				池谷 雅江	
第15回	疼痛改善のための運動療法				池谷 雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけられるよう復習すること。					
課題・評価方法	小テスト：15% 定期試験：85%					
教科書	配布資料					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学演習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第12回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。					
課題・評価方法	授業態度：15点 定期試験：85点					
教科書	資料配布					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習 1	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療などの基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目標とする。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。この授業では、基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：機能障害の評価					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：活動制限の評価					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：課題指向型トレーニングと運動学習					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：座位、立位を中心に					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：歩行を中心に					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実際					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店. 配布資料					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療など基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目的に学習を進める。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。講義では基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（1）					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（2）					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（1）					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（2）					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（3）					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実践					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習Ⅱ	必	藤谷 亮	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	神経難病であるパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の病態、治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、基礎的な解剖学から、病理、内科及び外科的治療について学習し、理学療法における医学的基盤を整理する。また各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、演習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳の構造と機能（1）：大脳基底核とリハビリテーション					藤谷 亮
第2回	脳の構造と機能（2）：小脳とリハビリテーション					藤谷 亮
第3回	脳の構造と機能（3）：脳幹とリハビリテーション					藤谷 亮
第4回	パーキンソン病の病態					藤谷 亮
第5回	パーキンソン病に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第6回	パーキンソン病に対する理学療法					藤谷 亮
第7回	運動失調の病態					藤谷 亮
第8回	運動失調に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第9回	運動失調に対する理学療法					藤谷 亮
第10回	多発性硬化症の病態					藤谷 亮
第11回	多発性硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第12回	多発性硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
第13回	筋萎縮性側索硬化症の病態					藤谷 亮
第14回	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第15回	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害系理学療法Ⅱ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法. メディカルビュー. 細田多穂・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習Ⅱ	必	藤谷 亮	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	神経難病であるパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の病態、治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、基礎的な解剖学から、病理、内科及び外科的治療について学習し、理学療法における医学的基盤を整理する。また各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、演習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳の構造と機能（1）大脳基底核とリハビリテーション					藤谷 亮
第2回	脳の構造と機能（2）小脳とリハビリテーション					藤谷 亮
第3回	脳の構造と機能（3）脳幹とリハビリテーション					藤谷 亮
第4回	パーキンソン病の病態					藤谷 亮
第5回	パーキンソン病に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第6回	パーキンソン病に対する理学療法					藤谷 亮
第7回	運動失調の病態					藤谷 亮
第8回	運動失調に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第9回	運動失調に対する理学療法					藤谷 亮
第10回	多発性硬化症の病態					藤谷 亮
第11回	多発性硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第12回	多発性硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
第13回	筋萎縮性側索硬化症の病態					藤谷 亮
第14回	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第15回	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに神経内科学などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害系理学療法学Ⅱ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法実習Ⅰ	必	大西 均	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について演習を中心に行っていく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	変形性関節症の定義					大西 均
第2回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第3回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第4回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第5回	変形性膝関節症に対する理学療法					大西 均
第6回	変形性膝関節症に対する理学療法					大西 均
第7回	高齢者の骨折とは					大西 均
第8回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第9回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法					大西 均
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法					大西 均
第11回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第12回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第13回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第14回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第15回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 演習 I	必	大西 均	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	変形性関節症の定義					大西 均
第2回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第3回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第4回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第5回	変形性膝関節症に対する理学療法1					大西 均
第6回	変形性膝関節症に対する理学療法2					大西 均
第7回	高齢者の骨折とは					大西 均
第8回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第9回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法1					大西 均
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法2					大西 均
第11回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第12回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第13回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第14回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第15回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学実習Ⅱ	必	安田 孝志・前川 昭次・ 大西 均	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実践する。 (前川 昭次/5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (大西 均/5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について実践する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田 孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田 孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田 孝志
第4回	（急性期）ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習					安田 孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田 孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川 昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川 昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川 昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西 均
第12回	神経モビライゼーション					大西 均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西 均
第14回	絞扼部位開放手技の実際					大西 均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	なし					
オフィスアワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学演習Ⅱ	必	安田孝志 前川昭次 大西均	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。					
学位授与方 針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田孝志
第4回	（急性期）ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習					安田孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西均
第12回	神経モビライゼーション					大西均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西均
第14回	絞扼部開放手技の実際					大西均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西均
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	整形外科で学んだ知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとってから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価 方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書						
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法学 実習 I	必	弘部 重信・平岩 康之	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (弘部 重信／11回)</p> <p>内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (平岩 康之／4回)</p> <p>内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第3回	呼吸不全の病態					弘部 重信
第4回	呼吸器系疾患の病態					弘部 重信
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					弘部 重信
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					弘部 重信
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					弘部 重信
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					弘部 重信
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					弘部 重信
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					弘部 重信
第11回	COPDの理学療法					弘部 重信
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法 演習Ⅰ	必	分木 ひとみ・平岩 康之	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(分木ひとみ／11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。</p> <p>(平岩康之／4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学科の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第3回	呼吸不全の病態					分木 ひとみ
第4回	呼吸器系疾患の病態					分木 ひとみ
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					分木 ひとみ
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					分木 ひとみ
第11回	COPDの理学療法					分木 ひとみ
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法実習Ⅱ	必	弘部 重信	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活習慣病の概念と1次予防、2次予防について学習し、内部障害の糖尿病疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防と理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の関わりについて、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	メタボリックシンドロームと生活習慣病の関係					弘部 重信
第2回	生活習慣病と糖尿病の関係					弘部 重信
第3回	糖尿病の理学療法評価技術					弘部 重信
第4回	糖尿病の理学療法技術					弘部 重信
第5回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第6回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第7回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第8回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第9回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第10回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第11回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第12回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第13回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第14回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価					弘部 重信
第15回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価発表と討議					弘部 重信
備考						
授業時間以外の学習について	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：80点　小テスト：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法 演習Ⅱ	必	分木 ひとみ	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活習慣病の概念と1次予防、2次予防について学習し、内部障害の糖尿病疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防と理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の関わりについて、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	メタボリックシンドロームと生活習慣病の関係					分木 ひとみ
第2回	生活習慣病と糖尿病の関係					分木 ひとみ
第3回	糖尿病の理学療法評価技術					分木 ひとみ
第4回	糖尿病の理学療法技術					分木 ひとみ
第5回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第6回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第7回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第8回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第9回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第10回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第11回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第12回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第13回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第14回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価					分木 ひとみ
第15回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価発表と討議					分木 ひとみ
備考						
授業時間以外の学習について	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：80点 授業態度：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学実習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鵞足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸 卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学演習	必	治郎丸卓三	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鵞足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法実習	必	弘部 重信・鈴木 美香	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （鈴木 美香／3回） （弘部 重信／5回）</p> <p>サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。</p> <p>（弘部 重信・鈴木 美香 共同／5回） バリアフリー展見学実習および実習報告会 （弘部 重信／7回）</p> <p>福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）					鈴木 美香
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務					鈴木 美香
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務					鈴木 美香
第4回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第5回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第6回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第7回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第8回	見学実習報告					弘部 重信・鈴木 美香
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習					弘部 重信
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習					弘部 重信
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法					弘部 重信
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法					弘部 重信
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応					弘部 重信
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術					弘部 重信
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術					弘部 重信
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）60% 課題40%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法学シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版、南江堂。					
参考書	なし					
オフィスアワー	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法Ⅱ	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （鈴木美香／3回）サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 （川崎浩子・5 鈴木美香 共同／5回）バリアフリー展見学実習および実習報告会 （川崎浩子／7回）福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第8回	見学実習報告				川崎浩子・鈴木美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				川崎浩子	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法Ⅱシリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田 孝志・大西 満・池谷 雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (池谷 雅江/7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (大西 満/1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	確認テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料（日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料）					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）。（公財）日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	大西 前期：月、水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15 池谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西満
第5回	障がい者との交流					安田孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木 美香/5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷 雅江/4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	健康の概論					分木 ひとみ
第2回	健康維持の取り組み					分木 ひとみ
第3回	健康と生活習慣					分木 ひとみ
第4回	日常生活活動量、運動量の算出					分木 ひとみ
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際					分木 ひとみ
第6回	健康づくりのための身体活動基準					分木 ひとみ
第7回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第8回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第9回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第10回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第11回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅰ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目的とする。</p> <p>オムニバス方式 15回 (分木ひとみ /6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通した健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木美香 /5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷雅江 /4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	健康の概論					分木ひとみ
第2回	健康維持の取り組み					分木ひとみ
第3回	健康と生活習慣					分木ひとみ
第4回	日常生活活動量、運動量の算出					分木ひとみ
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際					分木ひとみ
第6回	健康づくりのための身体活動基準					分木ひとみ
第7回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第8回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第9回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第10回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第11回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践実習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木 美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷 雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅱ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (分木ひとみ／5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木美香／4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷雅江／6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状・障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ方法を検討・理解する。					
学位授与方針との関連	DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したりハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したりハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価方法	レポート試験 (70%) ラーニングポートフォリオ (10%) 発表 (20%)					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
体育	必	佐藤 隆彦	1	30	1年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目標とする。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理感、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。					
	内容					担当教員
第1回	受講ガイダンス、体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第2回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第3回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第4回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のスキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第5回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のオフェンススキル、1対1のディフェンススキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第6回	バスケットボール					佐藤 隆彦
第7回	バスケットボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、1対1のディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第8回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第9回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第10回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第11回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第12回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第13回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第14回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第15回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）、本科目の振り返り					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	授業での運動に備えて、正しい生活習慣を身につけて体調を整えること。					
課題・評価方法	授業の参加姿勢（50%）、技能等の向上度（50%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学 医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行①					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行②					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学.医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習 I	必	澤 賢一郎	1	30	1年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					澤 賢一郎
第2回	作業の主観的意味					澤 賢一郎
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク					澤 賢一郎
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					澤 賢一郎
第5回	生活の構造化・健康との関連性					澤 賢一郎
第6回	社会的意味・作業の分類化					澤 賢一郎
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					澤 賢一郎
第8回	ポッチャの実施					澤 賢一郎
第9回	ポッチャの実施					澤 賢一郎
第10回	ポッチャについてのグループワーク					澤 賢一郎
第11回	ポッチャについての発表					澤 賢一郎
第12回	IADL（料理）の実施					澤 賢一郎
第13回	IADL（料理）の実施					澤 賢一郎
第14回	IADL（料理）についてのグループワーク					澤 賢一郎
第15回	IADL（料理）についての発表					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%）、筆記試験（30%）、小テスト（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版． 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					前田 浩二
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					前田 浩二
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第5回	作業演習（籐細工・導入）					前田 浩二
第6回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第7回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第8回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第9回	作業演習（革細工・導入）					前田 浩二
第10回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第11回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第12回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第13回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第14回	作業演習（絵本分析導入）					前田 浩二
第15回	作業演習（絵本分析）					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、授業態度（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	<p style="text-align: center;">標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 （社）日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学 協同医書出版社</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	1年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること为目标とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					有田 智氏
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					有田 智氏
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					有田 智氏
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					有田 智氏
第5回	作業演習（籐細工・導入）					有田 智氏
第6回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第7回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第8回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第9回	作業演習（革細工・導入）					有田 智氏
第10回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第11回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第12回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第13回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第14回	作業演習（絵本分析導入）					有田 智氏
第15回	作業演習（絵本分析）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 （社）日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学. 協同医書出版社					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅱ	必	杉本 久美子	1	30	1年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					杉本 久美子
第2回	作業の主観的意味					杉本 久美子
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					杉本 久美子
第5回	生活の構造化・健康との関連性					杉本 久美子
第6回	社会的意味・作業の分類化					杉本 久美子
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					杉本 久美子
第8回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第9回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第10回	作業活動①についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第11回	作業活動①についての発表（演習）					杉本 久美子
第12回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第13回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第14回	作業活動②についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第15回	作業活動②についての発表（演習）					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	常に作業の意味とは何か、それが生活におよぼしている影響を考えて下さい。					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（30%）、授業態度（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版。 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法 評価学実習Ⅰ	必	安部 征哉	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>身体障害領域における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身につけていることを確認しながら進めていくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	作業療法士における検査・測定の意義					安部 征哉
第2回	関節可動域測定の意義					安部 征哉
第3回	関節可動域測定（頸部・肩甲帯・体幹）					安部 征哉
第4回	関節可動域測定（肩・肘）					安部 征哉
第5回	関節可動域測定（手・手指）					安部 征哉
第6回	3回～5回 実技試験					安部 征哉
第7回	関節可動域測定（股関節）					安部 征哉
第8回	関節可動域測定（膝・足）					安部 征哉
第9回	7回～9回 実技試験					安部 征哉
第10回	反射と平衡機能の基礎					安部 征哉
第11回	反射検査					安部 征哉
第12回	平衡機能検査					安部 征哉
第13回	感覚機能の基礎					安部 征哉
第14回	感覚機能検査					安部 征哉
第15回	総括					安部 征哉
備考	<p>本科目の検査手法は、作業療法士として必修の手法であり、今後の臨床実習で活用していく。授業時間内のみでは手技を十分に習得できないので、予習・復習を行い、手技の習得に努めること。臨床実習では患者に対して行なうので、患者を想定しながら実技練習を行なうこと。学生のデモンストレーションを行ない演習を進める場合がある。 授業の際にはそれぞれ指定された教科書を持参する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行いデモンストレーションに備えること 復習：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し実技練習をすること</p>					
課題・ 評価方法	定期テスト（筆記）50%、実技試験50%					
教科書	標準作業療法学専門 作業療法評価学（第3版）医学書院					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー	<p>前期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	必	安部 征哉	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>身体障害領域における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身につけていることを確認しながら進めていくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	作業療法士における検査・測定の意義				安部 征哉	
第2回	関節可動域測定の意義				安部 征哉	
第3回	関節可動域測定（頸部・肩甲帯・体幹）				安部 征哉	
第4回	関節可動域測定（肩・肘）				安部 征哉	
第5回	関節可動域測定（手・手指）				安部 征哉	
第6回	3回～5回 実技試験				安部 征哉	
第7回	関節可動域測定（股関節）				安部 征哉	
第8回	関節可動域測定（膝・足）				安部 征哉	
第9回	7回～9回 実技試験				安部 征哉	
第10回	反射と平衡機能の基礎				安部 征哉	
第11回	反射検査				安部 征哉	
第12回	平衡機能検査				安部 征哉	
第13回	感覚機能の基礎				安部 征哉	
第14回	感覚機能検査				安部 征哉	
第15回	総括				安部 征哉	
備考	<p>本科目の検査手法は、作業療法士として必修の手法であり、今後の臨床実習で活用していく。授業時間内のみでは手技を十分に習得できないので、予習・復習を行い、手技の習得に努めること。臨床実習では患者に対して行なうので、患者を想定しながら実技練習を行なうこと。学生のデモンストレーションを行ない演習を進める場合がある。 授業の際にはそれぞれ指定された教科書を持参する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>【準備学習】 〈各回共通〉 予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行いデモンストレーションに備えること。 復習：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し実技練習をする。</p>					
課題・評価方法	定期テスト（筆記）50%、実技試験50%					
教科書	標準作業療法学専門 作業療法評価学（第3版）医学書院					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまたは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF) 結果の解釈 グループディスカッション					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考	お互いの身体を使って評価技法の実技を行います。動きやすい服装で授業にのぞんでください					
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト(30%) 小テスト(20%) 筆記試験(50%)で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院, 2010. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版. 協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版) 第3巻 作業療法評価学. 協同医書出版社, 2010.					
オフィスアワー	前期：月 16:10~17:15 火 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト (STEF) とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト (STEF) (演習)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト (STEF) (演習)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト (STEF) 結果の解釈 グループディスカッション (演習)					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト (MMT) とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト (MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト (MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト (MMT) 前腕 (演習)					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト (MMT) 手関節周囲 手 (演習)					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト (MMT) 股関節周囲 (演習)					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト (MMT) 膝関節周囲から足関節周囲 (演習)					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト (MMT) 頸部、体幹 (演習)					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト (MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト (MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	<p>教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること</p>					
課題・評価方法	<p>実技テスト (30%) 小テスト (10%) 筆記試験 (50%)、授業態度 (10%) で総合判定を行う。</p>					
教科書	<p>岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院, 2010. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版, 協同医書出版社</p>					
参考書	<p>生田宗博：作業療法学全書 (改訂第3版) 第3巻 作業療法評価学, 協同医書出版社, 2010.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法（OSA IIの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価					嶋川 昌典
第12回	集団の評価					嶋川 昌典
第13回	知的検査					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査（一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価（GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テスト					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学演習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法①（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法②（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法③（OSAⅡの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法（演習①）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法（演習②）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法（演習③）					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（演習①）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価（演習②）					嶋川 昌典
第13回	知的検査（演習）					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査①（演習：一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価②（演習：GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テストとする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法評価学実習	必	大西 満	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達の理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	発達障害とは何か					大西 満
第2回	発達障害領域における作業療法の対象となる疾患					大西 満
第3回	発達障害領域における作業療法の目的と手段					大西 満
第4回	発達障害領域における作業療法士の役割					大西 満
第5回	姿勢・運動発達（粗大・微細運動）					大西 満
第6回	認知・思考の発達					大西 満
第7回	セルフケアの発達					大西 満
第8回	発達障害領域における作業療法評価					大西 満
第9回	情報収集、面接、観察の視点					大西 満
第10回	発達障害領域における観察・動作分析とは何か					大西 満
第11回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）					大西 満
第12回	発達障害領域における動作分析の視点（運動方向の理解）					大西 満
第13回	発達障害領域における動作分析の視点（静的姿勢の分析）					大西 満
第14回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）					大西 満
第15回	発達障害領域における動作分析の視点（日常生活動作の分析）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法評価学演習	必	大西 満	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達を理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
内 容						担当教員
第1回	発達障害とは何か。					大西 満
第2回	発達障害領域における作業療法の対象となる疾患					大西 満
第3回	発達障害領域における作業療法の目的と手段（演習）					大西 満
第4回	発達障害領域における作業療法士の役割（演習）					大西 満
第5回	姿勢・運動発達（粗大・微細運動）（演習）					大西 満
第6回	認知・思考の発達					大西 満
第7回	セルフケアの発達					大西 満
第8回	発達障害領域における作業療法評価（演習）					大西 満
第9回	情報収集、面接、観察の視点					大西 満
第10回	発達障害領域における観察・動作分析とは何か（演習）					大西 満
第11回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第12回	発達障害領域における動作分析の視点（運動方向の理解）（演習）					大西 満
第13回	発達障害領域における動作分析の視点（静的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第14回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第15回	発達障害領域における動作分析の視点（日常生活動作の分析）（演習）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器疾患作業療法 学実習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。本講義は、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピーなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施できることが授業目標となる。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動器疾患に関する医学的基礎知識					安部 征哉
第2回	骨折の医学的基礎知識					安部 征哉
第3回	骨折の作業療法・上肢骨折・事例検討					安部 征哉
第4回	骨折の作業療法・上肢骨折とスプリント					安部 征哉
第5回	骨折の作業療法・下肢骨折の事例検討					安部 征哉
第6回	手の末梢神経損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第7回	手の末梢神経損傷と作業療法と事例検討					安部 征哉
第8回	手指の腱損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第9回	手指の腱損傷の作業療法と事例検討					安部 征哉
第10回	手指の抹消神経損傷・腱損傷の作業療法・事例検討					安部 征哉
第11回	熱傷に対する医学的基礎知識					安部 征哉
第12回	熱傷の作業療法と事例検討					安部 征哉
第13回	関節リウマチの医学的基礎知識					安部 征哉
第14回	関節リウマチに対する作業療法・事例検討					安部 征哉
第15回	総括					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 第4巻 身体障害作業療法学 メジカルビュー社					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー	<p>後期：火 16:10~17:15 金 16:10~17:15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器疾患作業療法 学演習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。本講義は、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピーなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施ができるように講義を進める。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動器疾患に関する医学的基礎知識					安部 征哉
第2回	骨折の医学的基礎知識					安部 征哉
第3回	骨折の作業療法・上肢骨折・事例検討（演習）					安部 征哉
第4回	骨折の作業療法・上肢骨折とスプリント（演習）					安部 征哉
第5回	骨折の作業療法・下肢骨折の事例検討（演習）					安部 征哉
第6回	手の末梢神経損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第7回	手の末梢神経損傷と作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第8回	手指の腱損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第9回	手指の腱損傷の作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第10回	手指の抹消神経損傷・腱損傷の作業療法・事例検討（演習）					安部 征哉
第11回	熱傷に対する医学的基礎知識					安部 征哉
第12回	熱傷の作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第13回	関節リウマチの医学的基礎知識（演習）					安部 征哉
第14回	関節リウマチに対する作業療法・事例検討（演習）					安部 征哉
第15回	総括（演習）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 第4巻 身体障害作業療法学 メジカルビュー社					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学実習	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					下西 徳
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価					下西 徳
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法					下西 徳
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					下西 徳
第5回	評価の解釈と個人の全体像					下西 徳
第6回	目標設定から治療計画立案					下西 徳
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					下西 徳
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム					下西 徳
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム					下西 徳
第10回	脊髄損傷の全般的症状					下西 徳
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察)					下西 徳
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能)					下西 徳
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム					下西 徳
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について)					下西 徳
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について)					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%)、筆記試験 (60%)、小テスト (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー	後期：木 16:10~17:15 金 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					有田 智氏
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価 (演習)					有田 智氏
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法 (演習)					有田 智氏
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					有田 智氏
第5回	評価の解釈と個人の全体像 (演習)					有田 智氏
第6回	目標設定から治療計画立案					有田 智氏
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					有田 智氏
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム① (演習)					有田 智氏
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム② (演習)					有田 智氏
第10回	脊髄損傷の全般的症状					有田 智氏
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察：演習)					有田 智氏
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能：演習)					有田 智氏
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム (演習)					有田 智氏
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について：演習)					有田 智氏
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について：演習)					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%) 筆記試験 (60%)、授業態度・出席 (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
高次脳機能障害作業療法学実習	必	澤 賢一郎	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、高次脳機能障害とは					澤 賢一郎
第2回	脳の機能解剖と脳画像所見のみかた					澤 賢一郎
第3回	高次脳機能の獲得と主な疾患					澤 賢一郎
第4回	評価・治療の原則					澤 賢一郎
第5回	失語症患者への評価・治療					澤 賢一郎
第6回	評価演習（失語症）					澤 賢一郎
第7回	失行患者・失認患者の評価・治療					澤 賢一郎
第8回	評価演習（失行）					澤 賢一郎
第9回	評価演習（失認）					澤 賢一郎
第10回	半側空間無視患者・注意障害への評価・治療					澤 賢一郎
第11回	評価演習（半側空間無視）					澤 賢一郎
第12回	評価演習（注意障害）					澤 賢一郎
第13回	遂行機能障害患者・記憶障害患者への評価・治療					澤 賢一郎
第14回	評価演習（遂行機能障害）					澤 賢一郎
第15回	評価演習（記憶障害）					澤 賢一郎
備考	講義7コマ、演習および一部演習で8コマで実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前で過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。					
課題・評価方法	筆記試験（70%）、課題（20%）、小テスト（10%）					
教科書	野登真一：標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学。医学書院					
参考書						
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
高次脳機能障害作業療法学演習	必	鈴木 耕平	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、高次脳機能障害とは					鈴木 耕平
第2回	脳の機能解剖と脳画像所見のみかた（演習）					鈴木 耕平
第3回	高次脳機能の獲得と主な疾患					鈴木 耕平
第4回	評価・治療の原則					鈴木 耕平
第5回	失語症患者への評価・治療					鈴木 耕平
第6回	評価演習（失語症）（演習）					鈴木 耕平
第7回	失行患者・失認患者の評価・治療					鈴木 耕平
第8回	評価演習（失行）（演習）					鈴木 耕平
第9回	評価演習（失認）（演習）					鈴木 耕平
第10回	半側空間無視患者・注意障害への評価・治療					鈴木 耕平
第11回	評価演習（半側空間無視）（演習）					鈴木 耕平
第12回	評価演習（注意障害）（演習）					鈴木 耕平
第13回	遂行機能障害患者・記憶障害患者への評価・治療					鈴木 耕平
第14回	評価演習（遂行機能障害）（演習）					鈴木 耕平
第15回	評価演習（記憶障害）（演習）					鈴木 耕平
備考	講義7コマ、演習および一部演習で8コマで実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。					
課題・評価方法	筆記試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）					
教科書	野登真一：標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学. 医学書院					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学 実習	必	嶋川 昌典	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科領域で関わることが多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 基本的な精神疾患の方への関わり方					嶋川 昌典
第2回	統合失調症の回復過程、行動特性					嶋川 昌典
第3回	統合失調症の作業療法（急性期）					嶋川 昌典
第4回	統合失調症の作業療法（慢性期）					嶋川 昌典
第5回	社会認知プログラム SCITの枠組み					嶋川 昌典
第6回	社会認知プログラム 疑心、結論の飛躍					嶋川 昌典
第7回	SST					嶋川 昌典
第8回	気分障害への作業療法介入					嶋川 昌典
第9回	認知行動療法1 コラム法					嶋川 昌典
第10回	認知行動療法2 問題解決技法、アサーション					嶋川 昌典
第11回	神経症性障害、摂食障害の作業療法					嶋川 昌典
第12回	パーソナリティ障害の作業療法					嶋川 昌典
第13回	依存症、青年期の発達障害の作業療法					嶋川 昌典
第14回	家族療法					嶋川 昌典
第15回	学生の事例を基にした事例検討					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらう学生とは事前学習を行う。					
課題・評価方法	定期テストを90%とし、小テストを10%とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	中井久夫・山口直彦「看護のための精神医学」医学書院、早坂友成・稲富宏之「うつ病の作業療法」、昼田源四郎「統合失調症患者の行動特性」金剛書店、Dロバーツ・中込和幸「社会認知ならびに対人関係トレーニング」星和書店 など					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学 演習	必	嶋川 昌典	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科領域で関わることが多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 基本的な精神疾患の方への関わり方					嶋川 昌典
第2回	統合失調症の回復過程、行動特性 (演習)					嶋川 昌典
第3回	統合失調症の作業療法 (急性期) (演習)					嶋川 昌典
第4回	統合失調症の作業療法 (慢性期) (演習)					嶋川 昌典
第5回	社会認知プログラム SCITの枠組み (演習)					嶋川 昌典
第6回	社会認知プログラム 疑心、結論の飛躍 (演習)					嶋川 昌典
第7回	SST (演習)					嶋川 昌典
第8回	気分障害への作業療法介入					嶋川 昌典
第9回	認知行動療法1 コラム法 (演習)					嶋川 昌典
第10回	認知行動療法2 問題解決技法、アサーション (演習)					嶋川 昌典
第11回	神経症性障害、摂食障害の作業療法					嶋川 昌典
第12回	パーソナリティ障害の作業療法					嶋川 昌典
第13回	依存症、青年期の発達障害の作業療法					嶋川 昌典
第14回	家族療法 (演習)					嶋川 昌典
第15回	学生の事例を基にした事例検討 (演習)					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。演習 (第5、6、7、14回) を手伝ってもらう学生とは事前学習を行う。					
課題・評価方法	定期テストを9割とし、授業態度を1割とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法 (新版)」三輪書店					
参考書	中井久夫・山口直彦「看護のための精神医学」医学書院、早坂友成・稲富宏之「うつ病の作業療法」、昼田源四郎「統合失調症患者の行動特性」金剛書店、Dロバーツ・中込和幸「社会認知ならびに対人関係トレーニング」星和書店 など					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 実習Ⅰ	必	辛島千恵子	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に講義を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アトローゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳性麻痺とは（概要）					辛島千恵子
第2回	脳性麻痺（痙直型）					辛島千恵子
第3回	脳性麻痺（アトローゼ型・失調型）					辛島千恵子
第4回	脳性麻痺（混合型・弛緩型）					辛島千恵子
第5回	痙直型四肢麻痺児の特徴					辛島千恵子
第6回	痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第7回	痙直型両麻痺児の特徴					辛島千恵子
第8回	痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第9回	痙直型片麻痺児の特徴					辛島千恵子
第10回	痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第11回	アトローゼ型児の特徴					辛島千恵子
第12回	アトローゼ型児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第13回	重症心身障害児について（概要）					辛島千恵子
第14回	重症心身障害児にの特徴					辛島千恵子
第15回	重症心身障害児にの分析と評価計画立案					辛島千恵子
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 演習 I	必	大西 満	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に講義を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アトローゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。					
学位授与方 針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳性麻痺とは（概要）					大西 満
第2回	脳性麻痺（痙直型）					大西 満
第3回	脳性麻痺（アトローゼ型・失調型）					大西 満
第4回	脳性麻痺（混合型・弛緩型）					大西 満
第5回	痙直型四肢麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第6回	痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第7回	痙直型両麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第8回	痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第9回	痙直型片麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第10回	痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第11回	アトローゼ型児の特徴（演習）					大西 満
第12回	アトローゼ型児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第13回	重症心身障害児について（概要）					大西 満
第14回	重症心身障害児にの特徴（演習）					大西 満
第15回	重症心身障害児にの分析と評価計画立案（演習）					大西 満
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価 方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスア ワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 実習Ⅱ	必	辛島 千恵子	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、知的障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第2回	知的障害の治療・支援					辛島 千恵子
第3回	事例検討					辛島 千恵子
第4回	自閉症スペクトラムの臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第5回	自閉症スペクトラムの治療・支援					辛島 千恵子
第6回	事例検討					辛島 千恵子
第7回	学習障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第8回	学習障害の治療・支援					辛島 千恵子
第9回	事例検討					辛島 千恵子
第10回	注意欠陥多動性障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第11回	注意欠陥多動性障害の治療・支援					辛島 千恵子
第12回	事例検討					辛島 千恵子
第13回	感覚統合障害の評価					辛島 千恵子
第14回	感覚統合障害の治療					辛島 千恵子
第15回	事例検討					辛島 千恵子
備考	①臨床像の理解と評価②治療・支援③事例検討になっている。①②ではADL、遊び、学習などの演習が含まれます。					
授業時間以外の学習について	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。					
課題・評価方法	レポート課題（20%）、筆記試験（70%）、小テスト（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メディカルビュー社					
参考書	上杉雅之 監修 辛島千恵子編集 「イラストでわかる発達障害の作業療法」					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 演習Ⅱ	必	木岡 和実	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、知的障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第2回	知的障害の治療・支援					木岡 和実
第3回	事例検討					木岡 和実
第4回	自閉症スペクトラムの臨床像の理解と評価					木岡 和実
第5回	自閉症スペクトラムの治療・支援					木岡 和実
第6回	事例検討					木岡 和実
第7回	学習障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第8回	学習障害の治療・支援					木岡 和実
第9回	事例検討					木岡 和実
第10回	注意欠陥多動性障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第11回	注意欠陥多動性障害の治療・支援					木岡 和実
第12回	事例検討					木岡 和実
第13回	感覚統合障害の評価					木岡 和実
第14回	感覚統合障害の治療					木岡 和実
第15回	事例検討					木岡 和実
備考	①臨床像の理解と評価②治療・支援③事例検討になっている。①②ではADL、遊び、学習などの演習が含まれます。					
授業時間以外の学習について	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。					
課題・評価方法	レポート課題 (20%)、筆記試験 (70%)、授業態度 (10%)					
教科書	長崎重信「作業療法ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メディカルビュー社					
参考書	上杉雅之 監修 辛島千恵子編集 「イラストでわかる発達障害の作業療法」					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
老年期障害作業療法学実習	必	澤 賢一郎	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対する作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像（生活歴、家族状況、地域との関わり方、多職種）を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対する作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対する作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	虚弱高齢者・寝たきり・閉じこもり・廃用症候群の作業療法	澤 賢一郎				
第2回	症例検討（虚弱高齢者）	澤 賢一郎				
第3回	症例検討（廃用症候群）	澤 賢一郎				
第4回	パーキンソン病の評価と作業療法の実践	澤 賢一郎				
第5回	症例検討（パーキンソン病）	澤 賢一郎				
第6回	脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の実際	澤 賢一郎				
第7回	症例検討（脊髄小脳変性症）	澤 賢一郎				
第8回	症例検討（筋萎縮性側索硬化症）	澤 賢一郎				
第9回	大腿骨頸部骨折の評価と作業療法の実際	澤 賢一郎				
第10回	症例検討（大腿骨頸部骨折）	澤 賢一郎				
第11回	腰椎圧迫骨折・腰痛の評価と作業療法の実際	澤 賢一郎				
第12回	症例検討（腰椎圧迫骨折）	澤 賢一郎				
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患の評価と作業療法の実際	澤 賢一郎				
第14回	症例検討（循環器疾患）	澤 賢一郎				
第15回	終末期の作業療法	澤 賢一郎				
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験(50%)、グループワーク課題(50%) グループワーク課題は各疾患の症例をグループで検討しレポートする。</p>					
教科書	<p>(社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書7巻 作業療法学4 老年期. 共同出版社</p>					
参考書	<p>徳永千尋・田村孝司編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 メジカルビュー社</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
老年期障害作業療法学演習	必	寺井 淳	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対する作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像（生活歴、家族状況、地域との関わり方、他職種）を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対する作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対する作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	虚弱高齢者・寝たきり・閉じこもり・廃用症候群の作業療法	寺井 淳				
第2回	症例検討（虚弱高齢者）	寺井 淳				
第3回	症例検討（廃用症候群）	寺井 淳				
第4回	パーキンソン病の評価と作業療法の実践	寺井 淳				
第5回	症例検討（パーキンソン病）	寺井 淳				
第6回	脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第7回	症例検討（脊髄小脳変性症）	寺井 淳				
第8回	症例検討（筋萎縮性側索硬化症）	寺井 淳				
第9回	大腿骨頸部骨折の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第10回	症例検討（大腿骨頸部骨折）	寺井 淳				
第11回	腰椎圧迫骨折・腰痛の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第12回	症例検討（腰椎圧迫骨折）	寺井 淳				
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第14回	症例検討（循環器疾患）	寺井 淳				
第15回	終末期の作業療法	寺井 淳				
備考						
授業時間以外の学習について	<p>これまで受けてきた老年期に関する講義、作業療法プロセス、生活行為向上マネジメントなどの復習に加えて、内科・神経内科・整形外科で学習した各疾患についても復習しておく、老年期の対象者の生活イメージをもって、疾患の進行や治癒の程度に合わせた評価や治療計画の立案を検討していけると考えています。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験(80%)、授業態度(5%)、グループワーク課題(15%)</p>					
教科書	<p>(社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書7巻 作業療法学4 老年期. 共同出版社</p>					
参考書	<p>徳永千尋・田村孝司編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 メジカルビュー社</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					
第3回	日常生活活動別の特徴					
第4回	セルフケア –グループワークにて各セルフケアを検討する–					
第5回	セルフケア –発表–					
第6回	セルフケア –発表–					
第7回	セルフケア –発表–					
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーション					
第9回	日常生活活動への援助の視点					
第10回	日常生活活動の評価					
第11回	日常生活活動の標準化された評価（バーサルインデックス）					
第12回	日常生活活動の標準化された評価（FIM）					
第13回	日常生活活動の評価					
第14回	日常生活の観察評価					
第15回	日常生活の観察評価と事例					
備考						
授業時間以外の学習について	人が当たり前で過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題（20%）、発表（20%）、小テスト（30%） 筆記試験（30%）					
教科書	日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論演習	必	鈴木 耕平	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					鈴木 耕平
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					鈴木 耕平
第3回	日常生活活動別の特徴					鈴木 耕平
第4回	セルフケア演習 ―グループワークにて各セルフケアを検討する― (演習)					鈴木 耕平
第5回	セルフケア演習① ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第6回	セルフケア演習② ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第7回	セルフケア演習③ ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーションと演習 (演習)					鈴木 耕平
第9回	日常生活活動への援助の視点					鈴木 耕平
第10回	日常生活活動の評価					鈴木 耕平
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーセルインデックス)					鈴木 耕平
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					鈴木 耕平
第13回	日常生活活動の評価演習 (演習)					鈴木 耕平
第14回	日常生活の観察評価と演習 (演習)					鈴木 耕平
第15回	日常生活の観察評価と事例演習 (グループ演習) (演習)					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (20%) 筆記試験 (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	1) 吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論実習	必	澤 賢一郎	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内 容					担 当 教 員
第1回	総論					澤 賢一郎
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					澤 賢一郎
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					澤 賢一郎
第4回	社会生活行為の支援 教育					澤 賢一郎
第5回	社会生活行為の支援 就労					澤 賢一郎
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ					澤 賢一郎
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ					澤 賢一郎
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション					澤 賢一郎
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション					澤 賢一郎
第11回	まとめ、自助具作成					澤 賢一郎
第12回	自助具作成					澤 賢一郎
第13回	自助具作成					澤 賢一郎
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介					澤 賢一郎
第15回	総復習					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、2回のレポート（15%×2）により評価する。</p>					
教科書	<p>濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.</p>					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論演習	必	寺井 淳	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内 容					担当教員
第 1 回	総論					寺井 淳
第 2 回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					寺井 淳
第 3 回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					寺井 淳
第 4 回	社会生活行為の支援 教育					寺井 淳
第 5 回	社会生活行為の支援 就労					寺井 淳
第 6 回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					寺井 淳
第 7 回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第 8 回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第 9 回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第 10 回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第 11 回	まとめ、自助具作成(演習)					寺井 淳
第 12 回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第 13 回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第 14 回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介(演習)					寺井 淳
第 15 回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしてください。 作成自助具の選定や準備について事前に調べ、準備をしておいて下さい。</p>					
課題・評価方法	定期試験 (70%)、レポート (30%)					
教科書	濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.					
参考書	生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	人と作業				嶋川 昌典	
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方				嶋川 昌典	
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示				嶋川 昌典	
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う				嶋川 昌典	
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答				嶋川 昌典	
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示				嶋川 昌典	
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う				嶋川 昌典	
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答				嶋川 昌典	
第9回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第10回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第11回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認				嶋川 昌典	
第13回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第14回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認				嶋川 昌典	
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	小テスト (30%) と成果物 (70%) とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表①（演習）					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表②（演習）					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表③（演習）					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表④（演習）					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表⑤（演習）					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習時の授業参加態度（30%）と成果物（70%）とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法義肢装具実習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらを必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断総論					安部 征哉
第2回	義肢総論					安部 征哉
第3回	義手総論					安部 征哉
第4回	装具総論					安部 征哉
第5回	作業療法士とスプリント					安部 征哉
第6回	スプリント作成（カックアップスプリント型取り）					安部 征哉
第7回	スプリント作成（カックアップスプリント作成）					安部 征哉
第8回	スプリント作成（カックアップスプリント仕上げ）					安部 征哉
第9回	スプリント作成（短対立スプリント型取り）					安部 征哉
第10回	スプリント作成（短対立スプリント作成）					安部 征哉
第11回	スプリント作成（短対立スプリント仕上げ）					安部 征哉
第12回	関節リウマチ用リングスプリント作成					安部 征哉
第13回	オルフィキャストによる手指スプリント作成					安部 征哉
第14回	スプリントを用いた治療的介入について					安部 征哉
第15回	総復習					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成pointを熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、4個のスプリント作品点（10%×2、5%×2）により評価する。 スプリント作品点は、評価項目に従って評価を実施する。</p>					
教科書	<p>川村次郎等編集 義肢装具学 第4版 医学書院 2010 随時資料配布</p>					
参考書	<p>岩崎テル子他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 2014 澤村誠治、田澤英二、内田光彦編 義肢学 第3版 医歯薬出版株式会社 中田真由美、大山峰生著 作業療法士のためのハンドセラピー入門 三輪書店 矢崎潔著：手のスプリントのすべて 第4版、三輪書店</p>					
オフィスアワー	<p>後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法義肢装具演習	必	寺井 淳	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらを必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断総論					寺井 淳
第2回	義肢総論					寺井 淳
第3回	義手総論					寺井 淳
第4回	装具総論					寺井 淳
第5回	作業療法士とスプリント					寺井 淳
第6回	スプリント作成（カックアップスプリント型取り）（演習）					寺井 淳
第7回	スプリント作成（カックアップスプリント作成）（演習）					寺井 淳
第8回	スプリント作成（カックアップスプリント仕上げ）（演習）					寺井 淳
第9回	スプリント作成（短対立スプリント型取り）（演習）					寺井 淳
第10回	スプリント作成（短対立スプリント作成）（演習）					寺井 淳
第11回	スプリント作成（短対立スプリント仕上げ）（演習）					寺井 淳
第12回	関節リウマチ用リングスプリント作成（演習）					寺井 淳
第13回	オルフィキャストによる手指スプリント作成（演習）					寺井 淳
第14回	スプリントを用いた治療的介入について					寺井 淳
第15回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	参考図書に様々なスプリントの作成方法があります。スプリント作成演習に向けて学習しておいてください。					
課題・評価方法	定期試験（70%）、スプリント作品点（30%）					
教科書	川村次郎等編集 義肢装具学 第4版 医学書院 2010 随時資料配布					
参考書	岩崎テル子他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 2014 澤村誠治、田澤英二、内田光彦編 義肢学 第3版 医歯薬出版株式会社 中田真由美、大山峰生著 作業療法士のためのハンドセラピー入門 三輪書店 矢崎潔著：手のスプリントのすべて 第4版、三輪書店					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生活行為向上マネジメント論実習	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	地域で用いられる生活行為向上マネジメントを理解し、使い方や内容について説明できることが授業目標となる。内容は、生活行為向上マネジメントが作成された経緯を示す背景や変遷を説明。「生活行為」と「マネジメント」である理由について解説していく。また生活行為の障害がどのようにして生じるのかを理解させていく。次に生活行為聞き取りシート、生活行為アセスメント演習シート、生活行為プラン演習シート、興味関心チェックシートを中心として記載方法や考え方、作業療法のプロセスを踏まえて教示を進める。授業展開ではシートの説明後に演習を踏まえるため、週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	生活行為向上マネジメントとは					下西 徳
第2回	生活行為向上マネジメントの概念					下西 徳
第3回	生活行為と生活行為の障害					下西 徳
第4回	評価指標について					下西 徳
第5回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシートの取扱い					下西 徳
第6回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシート演習					下西 徳
第7回	生活行為アセスメント演習シートの考え方と取扱い					下西 徳
第8回	生活行為アセスメント演習シートの演習					下西 徳
第9回	生活行為向上プラン演習シートの考え方と取扱い					下西 徳
第10回	生活行為向上プラン演習シートの演習					下西 徳
第11回	事例課題の検討とグループワーク					下西 徳
第12回	事例の発表					下西 徳
第13回	生活行為申し送り表と生活行為課題分析シートの考え方と取扱い					下西 徳
第14回	事例課題の提示とグループワーク					下西 徳
第15回	事例の発表とまとめ					下西 徳
備考						
授業時間 以外の学習 について	予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価 方法	筆記試験（60%）、レポート（30%）、小テスト（10%）					
教科書	一般社団法人 日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント、医歯薬出版社					
参考書						
オフィスア ワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生活行為向上マネジメント論演習	必	鈴木 耕平	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	地域で用いられる生活行為向上マネジメントを理解し、使い方や内容について説明できるように講義を行う。内容は、生活行為向上マネジメントが作成された経緯を示す背景や変遷を説明。「生活行為」と「マネジメント」である理由について解説していく。また生活行為の障害がどのようにして生じるのかを理解させていく。次に生活行為聞き取りシート、生活行為アセスメント演習シート、生活行為プラン演習シート、興味関心チェックシートを中心として記載方法や考え方、作業療法のプロセスを踏まえて教示を進める。授業展開ではシートの説明後に演習を踏まえるため、週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	生活行為向上マネジメントとは					鈴木 耕平
第2回	生活行為向上マネジメントの概念					鈴木 耕平
第3回	生活行為と生活行為の障害					鈴木 耕平
第4回	評価指標について					鈴木 耕平
第5回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシートの取扱い					鈴木 耕平
第6回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシート演習					鈴木 耕平
第7回	生活行為アセスメント演習シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第8回	生活行為アセスメント演習シートの演習					鈴木 耕平
第9回	生活行為向上プラン演習シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第10回	生活行為向上プラン演習シートの演習					鈴木 耕平
第11回	事例課題の検討とグループワーク					鈴木 耕平
第12回	事例の発表					鈴木 耕平
第13回	生活行為申し送り表と生活行為課題分析シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第14回	事例課題の提示とグループワーク					鈴木 耕平
第15回	事例の発表とまとめ					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	事例に対してはクラスメイトとしっかり話し合ひましょう。					
課題・評価方法	筆記試験 (60%)、レポート (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	一般社団法人 日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント。医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習 I	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第8回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第9回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第10回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義についてグループワーク					下西 徳
第13回	発表					下西 徳
第14回	発表					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域参加と目的的活動について					前田 浩二
第2回	風船バレーボール大会に向けて					前田 浩二
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)					前田 浩二
第7回	グループワーク後の発表					前田 浩二
第8回	介護保険など、関連制度について					前田 浩二
第9回	社会資源サービスと多職種について					前田 浩二
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)					前田 浩二
第11回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第12回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第13回	発表会					前田 浩二
第14回	発表会					前田 浩二
第15回	まとめ					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	第2回～5回の講演についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	第2回～7回の講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	第8回・9回についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	第8回・9回についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表					嶋川 昌典
第13回	課題の発表					嶋川 昌典
第14回	課題の発表					嶋川 昌典
第15回	課題の発表					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	講演①と②についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	講演①と②についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	講演③についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	講演③についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表①					嶋川 昌典
第13回	課題の発表②					嶋川 昌典
第14回	課題の発表③					嶋川 昌典
第15回	課題の発表④					嶋川 昌典
備考	講演①、②、③はピアカウンセラーに来校してもらう。①は講演、②、③は小グループに分かれてのインタビュー。全て演習であり、課題の発表①～④も演習である。					
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演②と③について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅲ	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					下西 徳
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					下西 徳
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					下西 徳
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					下西 徳
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					下西 徳
第6回	事例検討					下西 徳
第7回	事例検討					下西 徳
第8回	プレ面接と評価					下西 徳
第9回	地域在住対象者					下西 徳
第10回	地域在住対象者					下西 徳
第11回	地域在住対象者					下西 徳
第12回	情報のまとめと事例検討					下西 徳
第13回	事例検討					下西 徳
第14回	グループ発表					下西 徳
第15回	グループ発表 全体のまとめ					下西 徳
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。					
課題・評価方法	レポート課題（80%）、小テスト（20%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅲ	必	前田 浩二	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内 容					担 当 教 員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					前田 浩二
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					前田 浩二
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					前田 浩二
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					前田 浩二
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					前田 浩二
第6回	事例検討					前田 浩二
第7回	事例検討					前田 浩二
第8回	プレ面接と評価					前田 浩二
第9回	地域在住対象者① (演習)					前田 浩二
第10回	地域在住対象者② (演習)					前田 浩二
第11回	地域在住対象者③ (演習)					前田 浩二
第12回	情報のまとめと事例検討					前田 浩二
第13回	事例検討					前田 浩二
第14回	グループ発表					前田 浩二
第15回	グループ発表 全体のまとめ					前田 浩二
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書のみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。					
課題・評価方法	レポート課題 (80%)、授業態度 (20%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	前期：安田(水 16:10~17:15) 大西(火、木 16:10~17:15) 池谷(水 16:10~17:15)					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>DP5 作業療法に関連する他の分野の専門学力の修得に努め、自己の能力を開発し、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業への取り組み(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西 満 安部 征哉・嶋川 昌典 木岡 和美・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのかを発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和美 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅰ	必	安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智氏	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるよう学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目的と方法など）					安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智
第2回	解剖学（骨、筋、神経）					
第3回	解剖学（内臓諸器官）					
第4回	確認テスト					
第5回	生理学（感覚、運動）					
第6回	生理学（循環、呼吸）					
第7回	確認テスト					
第8回	運動学（力学、四肢・体幹の運動）					
第9回	運動学（動作分析、姿勢、歩行）					
第10回	確認テスト					
第11回	病理学					
第12回	リハビリテーション概論					
第13回	臨床医学					
第14回	精神医学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西 満 下西 徳・澤 賢一郎 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅱ	必	大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。					
学位授与方針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容	担当教員				
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）	大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平				
第2回	作業活動、作業療法概論、作業療法評価法					
第3回	ADL					
第4回	義肢装具					
第5回	確認テスト					
第6回	老年期障害					
第7回	脳血管障害					
第8回	神経変性・筋障害					
第9回	内科学					
第10回	確認テスト					
第11回	脊髄損傷					
第12回	関節リウマチ、整形外科疾患					
第13回	精神障害					
第14回	小児科学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をともに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。					
学位授与方針との関連	DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価方法	レポート試験 (70%) ラーニングポートフォリオ (10%) 発表 (20%)					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	山田 久夫	2	60	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	神経学総論 (ニューロン、グリア、シナプス)				山田 久夫	
第2回	神経学総論 (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第3回	神経学各論Ⅰ (髄膜、脳室、脳脊髄液の循環)				山田 久夫	
第4回	神経学各論Ⅰ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第5回	神経学各論Ⅱ (末梢神経系 頸神経 頸神経叢)				山田 久夫	
第6回	神経学各論Ⅱ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第7回	神経学各論Ⅲ (末梢神経系 腕神経叢 胸神経)				山田 久夫	
第8回	神経学各論Ⅲ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第9回	神経学各論Ⅳ (末梢神経系 腰神経 要神経叢)				山田 久夫	
第10回	神経学各論Ⅳ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第11回	神経学各論Ⅴ (末梢神経系 仙骨神経 仙骨神経層 尾骨神経層)				山田 久夫	
第12回	神経学各論Ⅴ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第13回	神経学各論Ⅵ (末梢神経系 副交感神経)				山田 久夫	
第14回	神経学各論Ⅵ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第15回	神経学各論Ⅶ (脳神経 脳神経1～6)				山田 久夫	
第16回	神経学各論Ⅶ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第17回	神経学各論Ⅷ (脳神経 脳神経7～12)				山田 久夫	
第18回	神経学各論Ⅷ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第19回	神経学各論Ⅸ (自律神経)				山田 久夫	
第20回	神経学各論Ⅸ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第21回	神経学各論Ⅹ (中枢神経系 脊髄)				山田 久夫	
第22回	神経学各論Ⅹ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第23回	神経学各論Ⅺ (中枢神経系 脳幹)				山田 久夫	
第24回	神経学各論Ⅺ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第25回	神経学各論Ⅻ (中枢神経系 小脳)				山田 久夫	
第26回	神経学各論Ⅻ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第27回	神経学各論ⅫⅢ (中枢神経系 大脳)				山田 久夫	
第28回	神経学各論ⅫⅢ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第29回	神経学各論ⅫⅣ (伝導路)				山田 久夫	
第30回	神経学各論ⅫⅣ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
備考						
授業時間以外の学習について	各单元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：火、木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	野田 亨	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					野田 亨
第2回	神経学総論（演習・確認小テスト）					野田 亨
第3回	神経学各論Ⅰ（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					野田 亨
第4回	神経学各論Ⅰ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第5回	神経学各論Ⅱ（末梢神経系Ⅰ）					野田 亨
第6回	神経学各論Ⅱ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第7回	神経学各論Ⅲ（末梢神経系Ⅱ）					野田 亨
第8回	神経学各論Ⅲ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第9回	神経学各論Ⅳ（末梢神経系Ⅲ）					野田 亨
第10回	神経学各論Ⅳ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第11回	神経学各論Ⅴ（末梢神経系Ⅳ）					野田 亨
第12回	神経学各論Ⅴ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第13回	神経学各論Ⅵ（末梢神経系Ⅴ）					野田 亨
第14回	神経学各論Ⅵ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第15回	神経学各論Ⅶ（脳神経Ⅰ）					野田 亨
第16回	神経学各論Ⅶ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第17回	神経学各論Ⅷ（脳神経Ⅱ）					野田 亨
第18回	神経学各論Ⅷ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第19回	神経学各論Ⅸ（自律神経）					野田 亨
第20回	神経学各論Ⅸ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第21回	神経学各論Ⅹ（中枢神経系Ⅰ）					野田 亨
第22回	神経学各論Ⅹ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第23回	神経学各論Ⅺ（中枢神経系Ⅱ）					野田 亨
第24回	神経学各論Ⅺ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第25回	神経学各論Ⅻ（中枢神経系Ⅲ）					野田 亨
第26回	神経学各論Ⅻ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第27回	神経学各論ⅫⅢ（中枢神経系Ⅳ）					野田 亨
第28回	神経学各論ⅫⅢ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第29回	神経学各論ⅫⅣ（伝導路）					野田 亨
第30回	神経学各論ⅫⅣ（演習・確認小テスト）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版 医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト 南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	山田 久夫	1	30	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					山田 久夫
第2回	脈管学各論（心臓）					山田 久夫
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					山田 久夫
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					山田 久夫
第5回	血液学					山田 久夫
第6回	内臓学（呼吸器系）					山田 久夫
第7回	内臓学（消化器系 口腔 咽頭 食道 胃）					山田 久夫
第8回	内臓学（消化器系 小腸 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓 腹膜）					山田 久夫
第9回	内臓学（泌尿器系）					山田 久夫
第10回	内臓学（生殖器系）					山田 久夫
第11回	内臓学（内分泌系）					山田 久夫
第12回	内臓学（血液免疫系）					山田 久夫
第13回	感覚器（皮膚）					山田 久夫
第14回	感覚器（視覚器）					山田 久夫
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					山田 久夫
備考						
授業時間以外の学習について	構造と機能が説明できるようになるために講義後、必ず復習をすること。					
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：火、木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系Ⅰ）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系Ⅱ）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、午後16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	里中 綾子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか				里中 綾子	
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮				里中 綾子	
第3回	データの分析：統計学的手法（2群間の平均値の比較等）				里中 綾子	
第4回	データの分析：統計学的手法（3群間以上の平均値の比較等）				里中 綾子	
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは				里中 綾子	
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略				里中 綾子	
第7回	英語論文の抄読発表会				里中 綾子	
第8回	発表会におけるリフレクション				里中 綾子	
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、レポート課題（50点）、グループ発表（40点）					
教科書	なし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編．医学書院．第3版					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	山内 正雄	1	15	3年次 前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					山内 正雄
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					山内 正雄
第3回	データの分析：統計学的手法（1）					山内 正雄
第4回	データの分析：統計学的手法（2）					山内 正雄
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					山内 正雄
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					山内 正雄
第7回	英語論文の抄読発表会					山内 正雄
第8回	発表会におけるリフレクション					山内 正雄
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(50点)、グループ発表(40点)					
教科書	特になし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学実習	必	宇於崎 孝・大西 均	2	60	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法評価における検査・測定を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (宇於崎 孝/26回)</p> <p>関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。 (大西 均/4回)</p> <p>解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容		担当教員			
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test 概論、肩関節 屈曲・伸展		宇於崎 孝			
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯		宇於崎 孝			
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外		宇於崎 孝			
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指		宇於崎 孝			
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部		宇於崎 孝			
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋		宇於崎 孝			
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節		宇於崎 孝			
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査		宇於崎 孝			
第11回	肩関節		宇於崎 孝			
第12回	肩関節		宇於崎 孝			
第13回	肩関節		宇於崎 孝			
第14回	肘関節		宇於崎 孝			
第15回	手関節 指		宇於崎 孝			
第16回	肩甲帯		宇於崎 孝			
第17回	下肢の検査 股関節		宇於崎 孝			
第18回	股関節		宇於崎 孝			
第19回	股関節		宇於崎 孝			
第20回	膝関節		宇於崎 孝			
第21回	足関節		宇於崎 孝			
第22回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第23回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)		宇於崎 孝			
第25回	痛みの評価		宇於崎 孝			
第26回	高次脳機能検査		宇於崎 孝			
第27回	整形外科的テスト (頸部 上肢)		大西均			
第28回	整形外科的テスト (腰部 下肢)		大西均			
第29回	反射検査		大西均			
第30回	筋トーン検査		大西均			
備考						
授業時間以外の学習について	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付一研究室から臨床実践へ。医歯薬出版。					
オフィスアワー	大西 前期 : 水 16 : 10~17 : 15 宇於崎 前期 : 月 16 : 10~17 : 15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習 I	必	安田孝志・宇於崎孝・大西均	2	60	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法評価における検査・測定を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。各論では関節可動域検査、筋力検査、脳神経検査、高次脳検査、反射検査、筋トーン検査、痛みについて、講義と演習を行う。整形外科的疾患に対する検査測定では、足関節の評価法などを臨床に即した考え方と最新の研究における評価法を交え、具体的に実習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、肩関節 屈曲・伸展					宇於崎孝
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯					宇於崎孝
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外					宇於崎孝
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指					宇於崎孝
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部					宇於崎孝
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋					宇於崎孝
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節					宇於崎孝
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査					安田孝志
第11回	肩関節					安田孝志
第12回	肩関節					安田孝志
第13回	肩関節					安田孝志
第14回	肘関節					安田孝志
第15回	手関節 指					安田孝志
第16回	肩甲帯					安田孝志
第17回	下肢の検査 股関節					安田孝志
第18回	股関節					安田孝志
第19回	股関節					安田孝志
第20回	膝関節					安田孝志
第21回	足関節					安田孝志
第22回	体幹の検査					安田孝志
第23回	体幹の検査					安田孝志
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)					安田孝志
第25回	痛みの評価					安田孝志
第26回	高次脳機能検査					安田孝志
第27回	整形外科的テスト1					大西均
第28回	整形外科的テスト2					大西均
第29回	反射検査					大西均
第30回	筋トーン検査					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	演習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%) 小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習	必	山内 正雄・弘部 重信・藤谷 亮	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (整形外科領域：山内 正雄/5回) 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。 (内部障害領域：弘部 重信/5回) 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。 (中枢神経障害領域：藤谷 亮/5回) 中枢神経障害領域における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容		担当教員			
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈		山内 正雄			
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈		山内 正雄			
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習（上肢・上部体幹）		山内 正雄			
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習（下部体幹・下肢）		山内 正雄			
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）		山内 正雄			
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈		弘部 重信			
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈		弘部 重信			
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習（COPD）		弘部 重信			
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習（心不全）		弘部 重信			
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）		弘部 重信			
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈		藤谷 亮			
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈		藤谷 亮			
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習（脳神経疾患）		藤谷 亮			
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習（脱髄疾患・神経難病）		藤谷 亮			
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）		藤谷 亮			
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（40%）、定期試験（60%）					
教科書	配布資料					
参考書	松澤 正：理学療法評価学（第5版）．金原出版。 富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版。 吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院。 石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店。					
オフィスアワー	山内 前期：水 16：10～17：15 弘部 前期：水 16：10～17：15 藤谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅱ	必	山内正雄、分木ひとみ、藤谷亮	1	30	3年次前期	演習 講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>整形外科領域：山内正雄/5回 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。</p> <p>内部障害領域：分木ひとみ/5回 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>中枢神経障害領域：藤谷亮/5回 中枢神経領域における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習①					山内正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習②					山内正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					分木ひとみ
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					分木ひとみ
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習①					分木ひとみ
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習②					分木ひとみ
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					分木ひとみ
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習①					藤谷亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習②					藤谷亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(30%)、定期試験(60%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）、金原出版。</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版。</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院。</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店。</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
画像評価学	必	堀 寛史・和智 道生	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法で代表的な運動器および神経疾患の画像のみかたを学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の一助とすることができるようになることを目標とする。講義では、画像の読影に必要な基礎的知識、代表的疾患の画像所見、読み取った画像所見と理学療法との関連について学ぶ。骨折や変形といった骨関節機能障害では、病態の悪化や回復の度合いを画像から読み取り、画像所見と身体症状の変化を学習する。 (オムニバス方式/全8回) (堀 寛史/4回)</p> <p>理学療法士に必要な画像読影に関して、画像の読影に必要な基礎的知識、整形外科分野における画像評価について学習する。 (和智 道生/4回)</p> <p>様々な疾患に対する超音波、MRIの読影について学習する。また、その読影結果からどのように考えるのかについても教授を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができ</p>					
	内容				担当教員	
第1回	画像読影に必要な基礎知識				堀 寛史	
第2回	代表的患の画像所見（四肢の骨折・脱臼）				堀 寛史	
第3回	代表的疾患の画像所見（四肢変性疾患）				堀 寛史	
第4回	代表的疾患の画像所見（脊椎の骨折）				堀 寛史	
第5回	代表的疾患の画像所見（変性疾患）				和智 道生	
第6回	代表的疾患の画像所見（腫瘍）				和智 道生	
第7回	画像所見から運動器疾患における臨床所見と理学療法				和智 道生	
第8回	画像所見から脳血管疾患における臨床所見と理学療法				和智 道生	
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり各講義予習・復習してください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	リハに役立つ脳画像：酒向 正春監修、メジカルビュー リハビリに直結する！運動器画像の見かた：河村廣幸、羊土社					
オフィスアワー	堀 後期：木 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
画像評価学	必	山内 正雄	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法で代表的な運動器および神経疾患の画像のみかたを学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の補助とすることができるようになることを目標とする。講義では、画像の読影に必要な基礎的知識、代表的疾患の画像所見、読み取った画像所見と理学療法との関連について学ぶ。骨折や変形といった骨関節機能障害では、病態の悪化や回復の度合いを画像から読み取り、画像所見と身体症状の変化を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	画像読影に必要な基礎知識					山内 正雄
第2回	代償的疾患の画像所見（四肢の骨折・脱臼）					山内 正雄
第3回	代償的疾患の画像所見（四肢変性疾患）					山内 正雄
第4回	代償的疾患の画像所見（脊椎の骨折・変性疾患）					山内 正雄
第5回	代償的疾患の画像所見（脳血管障害1）					山内 正雄
第6回	代償的疾患の画像所見（脳血管障害2）					山内 正雄
第7回	画像所見から運動器疾患における臨床所見と理学療法					山内 正雄
第8回	画像所見から脳血管疾患における臨床所見と理学療法					山内 正雄
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	なし					
参考書	リハに役立つ脳画像：酒向 正春監修。メジカルビュー リハビリに直結する！運動器画像の見かた：河村廣幸。羊土社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法実習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に実習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（臥位での調整）					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（臥位・立位での調整）					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（動作時における調整）					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法（上肢）					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法（下肢）					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法（体幹）					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法（上肢・下肢）					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法（体幹・頸部）					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法（上肢）					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法（下肢）					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法（体幹・頸部）					池谷 雅江
第12回	トレッドミルを用いた持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	エルゴメーターを用いた持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法（スタビリティエクササイズ）					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法（牽引療法）					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけるよう復習すること。					
課題・評価方法	小テスト：15% 定期試験：85%					
教科書	配布資料					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学演習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第12回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。					
課題・評価方法	授業態度：15点 定期試験：85点					
教科書	資料配布					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）．協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）．医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）．文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
物理療法学	必	堀 寛史	1	15	2年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法における治療主義の一つである物理療法（温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的、振動刺激）について、各種エネルギーを生体に受けることによって生じる生理学的変化にちて理解することを目的とする。また各種治療機器の特徴だけでなく、取り扱いにおける留意点についても学習する。本校は講義だけでなく、実際の機器に触れ、その取扱いや留意事項について学ぶ、グループワークも取り入れる。グループワークでは患者役、治療者役に分かれることで、各物理療法機器の効果と施行について学習を行う。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
内 容						堀 寛史
第1回	物理療法総論					堀 寛史
第2回	寒冷療法と温熱療法					堀 寛史
第3回	水治療法と電気刺激療法					堀 寛史
第4回	光線療法と力学的治療法					堀 寛史
第5回	臨床応用とリスク管理					堀 寛史
第6回	各種物理療法機器の取り扱い（超音波・干渉波・低周波）					堀 寛史
第7回	各種物理療法機器の取り扱い（温熱・寒冷療法）					堀 寛史
第8回	実習：各種物理療法機器の取り扱い（水治療法）					堀 寛史
備考						
授業時間以外の学習について	生理学の分野の復習、講義後は教科書や参考資料を基に復習してください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	網本 和（編）：標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 医学書院.					
参考書	嶋田 智明・他：物理療法マニュアル. 医学書院. 沖田 実（編）：物理療法学テキスト. 南江堂. 細田 多穂・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー	前期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
物理療法学	必	藤谷 亮	1	15	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法における治療手技の一つである物理療法（温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的、振動刺激）について、各種エネルギーを生体が受けることによって生じる生理学変化について理解することを目的とする。また各種の治療機器の特徴だけでなく、取り扱いにおける留意点についても学習する。本講は講義だけではなく、実際の機器に触れ、その取扱いや留意事項について実技を通して学ぶ、グループワーク形式も取り入れる。グループワークではそれぞれ患者役、治療者役に分かれることで、各物理療法機器の効果と施行についての演習を行う。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	物理療法総論					藤谷 亮
第2回	温熱療法と寒冷療法					藤谷 亮
第3回	水治療法と電気刺激療法					藤谷 亮
第4回	光線療法と力学的治療法					藤谷 亮
第5回	臨床応用とリスク管理					藤谷 亮
第6回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習①					藤谷 亮
第7回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習②					藤谷 亮
第8回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習③					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本学問においては、温熱、寒冷、電気などのエネルギーが生体に加わった時の生理的応答を治療に応用するため、生理学の分野への理解があった上での学問になります。講義の中でも復習しますが、事前に復習するようにしましょう。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	網本 和(編)：標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 医学書院.					
参考書	嶋田智明・他：物理療法マニュアル. 医学書院. 沖田実(編)：物理療法学テキスト. 南江堂. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
義肢装具学 I	必	大西 均・安田 孝志	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。義肢分野では、四肢の切断の原因と適応ならびに切断の手技、術前術後のケアを学ぶ。義肢の基本的な構造、構成要素を学び、上肢・下肢の切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因、アライメント調整を学ぶ。これらを学んだ上で、切断者の理学療法評価からアプローチに至るプロセスを学び、リハビリテーションを実施する上で必要となる知識および使用技術を習得する。</p> <p>装具分野では、四肢の各部位に使用する装具の分類、各装具の種類や名称を学習する。また、各装具の扱い方や調整技術も学ぶ。疾患別の装具を紹介し、脊髄損傷に対する代表的な装具とその適応範囲、末梢神経障害に対する装具、体幹装具について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/8回)</p> <p>切断の原因と切断の手術、術前術後のケアについて概説する。義肢の基本的な構造を学び、下肢切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因を理解し、切断者のリハビリテーションについて概説する。また、切断者が行う障がい者スポーツに関する紹介、補足具や車椅子などの使用器具を概説する。</p> <p>(大西 均/7回)</p> <p>腰痛に対するコルセットが及ぼす効果やその副作用について、最新の筋電図学的研究を基に概説する。足関節捻挫の装具に関しても、最新の研究結果をもとにその効果を講義する。さらに、他の疾患に対する装具の使用方法、その名称について概説する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断の疫学、切断の原因となる疾患、切断手術					安田 孝志
第2回	義肢総論 義肢の分類、構造と構成部品 下腿切断の特徴					安田 孝志
第3回	下腿義足の構造 下腿義足の異常歩行 適合評価					安田 孝志
第4回	大腿切断の特徴 大腿義足の構造					安田 孝志
第5回	大腿義足 異常歩行 適合評価					安田 孝志
第6回	股関節離断・膝離断・サイム切断・足部部分切断の特徴 股義足・膝義足・サイム義足・足部部分義足の構造 適合評価					安田 孝志
第7回	上肢切断 義手種類と適応 筋電義手					安田 孝志
第8回	切断者のリハビリテーション					安田 孝志
第9回	スポーツ障害に対する装具					大西 均
第10回	先天性疾患に対する装具					大西 均
第11回	脊髄損傷の上肢装具					大西 均
第12回	脊髄損傷の下肢装具					大西 均
第13回	末梢神経障害の装具					大西 均
第14回	装具療法の実際 (上肢装具の装着)					大西 均
第15回	装具療法の実際 (下肢・体幹装具の装着)					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。また、講義後は教科書や参考資料を基に復習しておくこと。					
課題・評価方法	期末試験(筆記) 80% 課題20%					
教科書	川村次郎・他(編)：義肢装具学第4版、医学書院					
参考書	澤村 誠志：義肢学、医歯薬出版。 磯崎弘司・他(編)：シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト、南江堂。 澤村誠志：切断と義肢、医歯薬出版。					
オフィスアワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
義肢装具学	必	川崎浩子・大西均	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢分野では、四肢の切断の原因と適応ならびに切断の手技、術前術後のケアを学ぶ。義肢の基本的な構造、構成要素を学び、上肢・下肢の切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因、アライメント調整を学ぶ。これらを学んだ上で、切断者の理学療法評価からアプローチに至るプロセスを学び、リハビリテーションを実施する上で必要となる知識および使用技術を習得する。</p> <p>装具分野では、各装具の種類や名称にとどまらず、各装具の扱い方や調整技術を患者を想定しながら実践することにより、臨床的な知識と技術を獲得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断の疫学、切断の原因となる疾患、切断手術					川崎浩子
第2回	義肢総論 義肢の分類、構造と構成部品 下腿切断の特徴					川崎浩子
第3回	下腿義足の構造 下腿義足の異常歩行 適合評価					川崎浩子
第4回	大腿切断の特徴 大腿義足の構造					川崎浩子
第5回	大腿義足 異常歩行 適合評価					川崎浩子
第6回	股関節離断・膝離断・サイム切断・足部分切断の特徴 股義足・膝義足・サイム義足・足部分義足の構造 適合評価					川崎浩子
第7回	上肢切断 義手種類と適応 筋電義手					川崎浩子
第8回	切断者のリハビリテーション					川崎浩子
第9回	スポーツ障害に対する装具					大西均
第10回	先天性疾患に対する装具					大西均
第11回	脊髄損傷の上肢装具					大西均
第12回	脊髄損傷の下肢装具					大西均
第13回	末梢神経障害の装具					大西均
第14回	装具療法の実際1					大西均
第15回	装具療法の実際2					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。					
課題・評価方法	期末試験(筆記)80% 課題10% 授業態度10%					
教科書	川村次郎・他(編):義肢装具学第4版. 医学書院					
参考書	<p>澤村 誠志:義肢学. 医歯薬出版.</p> <p>磯崎弘司・他(編):シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト. 南江堂.</p> <p>澤村誠志:切断と義肢. 医歯薬出版.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当 教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療などの基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目標とする。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。この授業では、基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中核機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：機能障害の評価					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：活動制限の評価					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：課題指向型トレーニングと運動学習					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：座位、立位を中心に					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：歩行を中心に					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実践					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の 学習について	本講義においては、評価並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方 法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I. 中山書店. 配布資料					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多徳・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスア ワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当 教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療など基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目的に学習を進める。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。講義では基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（1）					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（2）					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（1）					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（2）					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（3）					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実際					藤谷 亮
備考						
授業時間以外 の学習につ いて	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見直し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方 法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害系理学療法学Ⅰ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学実習 I	必	大西 均	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について演習を中心に行っていく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	変形性関節症の定義					大西 均
第2回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第3回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第4回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第5回	変形性膝関節症に対する理学療法（運動療法の基礎）					大西 均
第6回	変形性膝関節症に対する理学療法（運動療法の応用と牽引療法）					大西 均
第7回	高齢者の骨折とは					大西 均
第8回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第9回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法（手術手技別の運動療法）					大西 均
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法（手術後の痛みに対する対処法）					大西 均
第11回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第12回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第13回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第14回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第15回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当 教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学 演習 I	必	大西 均	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	変形性関節症の定義					大西 均
第 2 回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第 3 回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第 4 回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第 5 回	変形性膝関節症に対する理学療法1					大西 均
第 6 回	変形性膝関節症に対する理学療法2					大西 均
第 7 回	高齢者の骨折とは					大西 均
第 8 回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第 9 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法1					大西 均
第 10 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法2					大西 均
第 11 回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第 12 回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 13 回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第 14 回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 15 回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の 学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学実習Ⅱ	必	安田 孝志・前川 昭次・ 大西 均	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、 脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のた めに、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患 に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得するこ とを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実 践する。 (前川 昭次/5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (大西 均/5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について 実践する。</p>					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することが できる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田 孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田 孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田 孝志
第4回	(急性期) ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および 再学習					安田 孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL 訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田 孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法（BTBを中心に）					前川 昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法（STGを中心に）					前川 昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川 昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西 均
第12回	神経モビライゼーション					大西 均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西 均
第14回	絞扼部開放手技の実際					大西 均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西 均
備考						
授業時間以外 の学習につい て	整形外科で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりと してから本授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方 法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	なし					
オフィスア ワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	必	安田孝志 前川昭次 大西均	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像				安田孝志	
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価				安田孝志	
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子				安田孝志	
第4回	（急性期）ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習				安田孝志	
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味				安田孝志	
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法				前川昭次	
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法				前川昭次	
第8回	腱板損傷術後の理学療法				前川昭次	
第9回	腱板損傷術後の理学療法				前川昭次	
第10回	THA・TKA術後の理学療法				前川昭次	
第11回	神経の解剖と絞扼部位				大西均	
第12回	神経モビライゼーション				大西均	
第13回	絞扼部開放手技の基礎				大西均	
第14回	絞扼部開放手技の実際				大西均	
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法				大西均	
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとってから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法実習 I	必	弘部 重信・平岩 康之	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (弘部 重信/11回)</p> <p>内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (平岩 康之/4回)</p> <p>内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第3回	呼吸不全の病態					弘部 重信
第4回	呼吸器系疾患の病態					弘部 重信
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価 (COPD等)					弘部 重信
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価 (肺炎等)					弘部 重信
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					弘部 重信
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術 (COPD等)					弘部 重信
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術 (肺炎等)					弘部 重信
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					弘部 重信
第11回	COPDの理学療法					弘部 重信
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多徳監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法学 演習 I	必	分木 ひとみ・平岩 康之	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (分木ひとみ/11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (平岩康之/4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第3回	呼吸不全の病態					分木 ひとみ
第4回	呼吸器系疾患の病態					分木 ひとみ
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					分木 ひとみ
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					分木 ひとみ
第11回	COPDの理学療法					分木 ひとみ
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学。医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）。南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法実習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鷲足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸 卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法（関節唇損傷とインピンジメント）					治郎丸 卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法（鼠径部痛症候群）					治郎丸 卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法（半月板損傷）					治郎丸 卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法（靭帯損傷）					治郎丸 卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法（腸脛靭帯炎）					治郎丸 卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（シンスプリント）					治郎丸 卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（足底腱膜炎）					治郎丸 卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（靭帯損傷）					治郎丸 卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法（腰椎分離症）					治郎丸 卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法（筋筋膜性腰痛症）					治郎丸 卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法（仙腸関節障害）					治郎丸 卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法（肩関節周囲炎）					治郎丸 卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法（腱板損傷）					治郎丸 卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法（反復性肩関節脱臼）					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学演習	必	治郎丸卓三	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鷲足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学	必	植田 昌治・川崎 浩子	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、社会制度、地域環境と公共交通を通して人にやさしい街づくりについて理解する。その上で、生活環境の実態調査を行い、現状を理解する。生活環境（住環境）整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。 (オムニバス方式/全8回) (植田 昌治/4回) 地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。 (川崎 浩子/4回) 生活（住環境）整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかに円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	生活環境の概念				植田 昌治	
第2回	生活環境と社会制度				植田 昌治	
第3回	地域環境と公共交通				植田 昌治	
第4回	生活圏での生活環境の実態調査				植田 昌治	
第5回	生活環境（住環境）の評価 総論				川崎 浩子	
第6回	住環境の訪問調査の実際				川崎 浩子	
第7回	住環境改善計画の実際				川崎 浩子	
第8回	住環境事例検討				川崎 浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。また講義後は教科書の復習を行うこと。そして、自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</p>					
課題・評価方法	<p>期末試験（筆記）60% 課題40%</p>					
教科書	<p>鶴見隆正（編）：標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』第5版、医学書院。</p>					
参考書	<p>木村哲彦（監）：生活環境論 第4版、医歯薬出版。 財団法人テクノエイド協会：福祉用具アセスメントマニュアル。</p>					
オフィスアワー	<p>植田 後期：水 16：10～17：15 川崎 後期：月 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学Ⅰ	必	川崎 浩子	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、人にやさしい街づくりについて、住環境整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。また、住環境整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかに円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	生活環境の概念					川崎 浩子
第2回	地域環境					川崎 浩子
第3回	生活圏での生活環境の実態調査①					川崎 浩子
第4回	生活圏での生活環境の実態調査②					川崎 浩子
第5回	生活環境（住環境）の評価					川崎 浩子
第6回	生活環境改善計画の実際					川崎 浩子
第7回	施設環境整備・事例検討（グループワーク）					川崎 浩子
第8回	事例検討会					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。 自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</p>					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	鶴見隆正（編）：標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』第5版、医学書院。					
参考書	木村哲彦（監）：生活環境論 第4版、医歯薬出版。 財団法人テクノエイド協会：福祉用具アセスメントマニュアル。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法実習	必	弘部 重信・鈴木 美香	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かす、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （鈴木 美香／3回）</p> <p>サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 （弘部 重信・5 鈴木 美香 共同／5回）</p> <p>バリアフリー展見学実習および実習報告会 （弘部 重信／7回）</p> <p>福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木 美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木 美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木 美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第8回	見学実習報告				弘部 重信・鈴木 美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習（トイレ）				弘部 重信	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習（入浴）				弘部 重信	
第11回	褥瘡の予防 ガイドラインに基づいた対処方法				弘部 重信	
第12回	褥瘡の管理 ガイドラインに基づいた対処方法				弘部 重信	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				弘部 重信	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価				弘部 重信	
第15回	シーティング 座位姿勢の適合技術				弘部 重信	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）60% 課題40%					
教科書	細田多徳（監）：シンプル理学療法学シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書	なし					
オフィスアワー	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学Ⅱ	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次 前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (鈴木美香/3回) サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 (川崎浩子・5 鈴木美香 共同/5回) バリアフリー展見学実習および実習報告会 (川崎浩子/7回) 福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第8回	見学実習報告				川崎浩子・鈴木美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				川崎浩子	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法学シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論	必	安田 孝志	1	15	3年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法について体系的に講義を行う。そして、全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育んでいくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。					
学位授与方針との関連	DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	障がい者のスポーツ指導における留意点（競技特性の説明）					安田 孝志
第2回	障がい者のスポーツ指導における留意点（リスク管理）					安田 孝志
第3回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的					安田 孝志
第4回	全国障害者スポーツ大会の意義					安田 孝志
第5回	(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度					安田 孝志
第6回	全国障害者スポーツ大会の概要					安田 孝志
第7回	障がいに応じたスポーツの工夫（実技）					安田 孝志
第8回	障がいに応じたスポーツの実施（実技）					安田 孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>、配布資料（日本障がい者スポーツ協会 HP内 資料室内資料）					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）、（公財）日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論	選	安田 孝志	1	15	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法について体系的に講義を行う。そして、全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育てていくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルール工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	障がい者のスポーツ指導における留意点					安田 孝志
第2回	障がい者のスポーツ指導における留意点					安田 孝志
第3回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義					安田 孝志
第4回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義					安田 孝志
第5回	(公財)日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度					安田 孝志
第6回	全国障害者スポーツ大会の概要					安田 孝志
第7回	障がいに応じたスポーツの工夫・実施(実技)					安田 孝志
第8回	障がいに応じたスポーツの工夫・実施(実技)					安田 孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田 孝志・大西 満・池谷 雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (池谷 雅江/7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (大西 満/1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の紹介					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の詳細					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	確認テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>、ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	大西 前期：月、水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15 池谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西満
第5回	障がい者との交流					安田孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習	選	分木 ひとみ・鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木 美香/5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷 雅江/4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	健康の概論				分木 ひとみ	
第2回	健康維持の取り組み				分木 ひとみ	
第3回	健康と生活習慣				分木 ひとみ	
第4回	日常生活活動量、運動量の算出				分木 ひとみ	
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際				分木 ひとみ	
第6回	健康づくりのための身体活動基準				分木 ひとみ	
第7回	健康維持のための運動プログラム立案				鈴木 美香	
第8回	健康維持のための運動プログラムのための評価				鈴木 美香	
第9回	健康維持のための運動プログラム計画				鈴木 美香	
第10回	健康維持のための運動プログラム作成				鈴木 美香	
第11回	健康維持のための運動プログラム実践				鈴木 美香	
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム立案及び評価				池谷 雅江	
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム計画				池谷 雅江	
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム作成				池谷 雅江	
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム実践				池谷 雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅰ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目的とする。</p> <p>オムニバス方式 15回 (分木ひとみ /6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木美香 /5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷雅江 /4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	健康の概論					分木ひとみ
第2回	健康維持の取り組み					分木ひとみ
第3回	健康と生活習慣					分木ひとみ
第4回	日常生活活動量、運動量の算出					分木ひとみ
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際					分木ひとみ
第6回	健康づくりのための身体活動基準					分木ひとみ
第7回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第8回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第9回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第10回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第11回	健康維持のための運動プログラム					鈴木美香
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践実習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを選元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木 美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷 雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の概要					分木 ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介					分木 ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの体験					分木 ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの計画					分木 ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画 (成人期)					鈴木 美香
第7回	健康維持活動介入プログラム模擬体験 (成人期)					鈴木 美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画 (高齢期)					鈴木 美香
第9回	健康維持活動介入プログラム模擬体験 (高齢期)					鈴木 美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (一般高齢者)					池谷 雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (一般高齢者)					池谷 雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (虚弱高齢者)					池谷 雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (虚弱高齢者)					池谷 雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (介護予防)					池谷 雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (介護予防)					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅱ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。</p> <p>そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (分木ひとみ／5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木美香／4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷雅江／6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ランニングトレーニング論	選	治郎丸 卓三	2	30	3年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目標とする。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	ランニングについて					治郎丸 卓三
第2回	正常なランニングフォーム（短距離走）					治郎丸 卓三
第3回	正常なランニングフォーム（長距離走）					治郎丸 卓三
第4回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（体幹、股関節）					治郎丸 卓三
第5回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（大腿、膝）					治郎丸 卓三
第6回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（下腿、足部）					治郎丸 卓三
第7回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（体幹、股関節）					治郎丸 卓三
第8回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（大腿、膝）					治郎丸 卓三
第9回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（下腿、足部）					治郎丸 卓三
第10回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニング					治郎丸 卓三
第11回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのフォーム指導					治郎丸 卓三
第12回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニング					治郎丸 卓三
第13回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのフォーム指導					治郎丸 卓三
第14回	短距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸 卓三
第15回	長距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見直し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂 ダニエルズのランニング・フォーミュラ：ジャック・ダニエルズ（著）、前河洋一（監修）、篠原美徳（翻訳）第3版、ベースボール・マガジン社 ランニングパフォーマンスを高めるスポーツ動作の創造（スポーツ認知動作学の挑戦）：小林寛道、杏林書院</p>					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ランニングトレーニング論	選	治郎丸 卓三	2	15	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目標とする。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	ランニングについて					治郎丸卓三
第2回	正常なランニングフォーム（短距離走）					治郎丸卓三
第3回	正常なランニングフォーム（長距離走）					治郎丸卓三
第4回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（体幹、股関節）					治郎丸卓三
第5回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（大腿、膝）					治郎丸卓三
第6回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（下腿、足部）					治郎丸卓三
第7回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（体幹、股関節）					治郎丸卓三
第8回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（大腿、膝）					治郎丸卓三
第9回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（下腿、足部）					治郎丸卓三
第10回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第11回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第12回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第13回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第14回	短距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸卓三
第15回	長距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見直し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂 ダニエルズのランニング・フォーミュラ：ジャック・ダニエルズ（著）、前河洋一（監修）、篠原美穂（翻訳）第3版、ベースボール・マガジン社 ランニングパフォーマンスを高めるスポーツ動作の創造（スポーツ認知動作学の挑戦）：小林寛道、杏林書院</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ゴルフトレーニング論	選	宇於崎 孝・安田 孝志・ 奥村 竜也	2	30	3年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、ゴルフスイングで怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標である。講義では、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。そして、実際に自らゴルフスイングを行い、正しいスイングを身につけ、さらに、トレーニングも行う。 (オムニバス方式/全15回) (宇於崎 孝/5回)</p> <p>ゴルフスイングの歴史的变化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。 (安田 孝志/5回)</p> <p>ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析するための、ゴルフスイング理論を解説。また頸部、腰部、上肢、下肢に発生しやすい疾患を紹介し、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。 (奥村 竜也/5回)</p> <p>ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、最新のスイング理論に基づき、ビデオ分析から修正方法を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	効率の良いスイングとは（基本コンセプトの説明）				宇於崎 孝	
第2回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説（アドレス テイクバック）				宇於崎 孝	
第3回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説（トップオブスイング ダウンスイング）				宇於崎 孝	
第4回	代表的なエラーと原因				宇於崎 孝	
第5回	頸部と上肢疾患				安田 孝志	
第6回	腰部と下肢疾患				安田 孝志	
第7回	身体機能評価				宇於崎 孝	
第8回	ゴルフの基本（道具について）				奥村 竜也	
第9回	ゴルフの基本（構え方、飛球について）				奥村 竜也	
第10回	ゴルフスイング動作分析（レッスン前）				奥村 竜也	
第11回	ゴルフスイング動作分析（レッスン後）				奥村 竜也	
第12回	ゴルフスイング動作分析（エクササイズ後）				奥村 竜也	
第13回	エクササイズ（アドレス）				安田 孝志	
第14回	エクササイズ（テイクバック）				安田 孝志	
第15回	エクササイズ（ダウンスイング）				安田 孝志	
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。また授業後は教科書の要点をまとめるなど復習をすること。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	宇於崎孝：GPT-Japan教本					
参考書						
オフィスアワー	宇於崎 後期：月 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ゴルフトレーニング論	選	宇於崎孝 安田孝志 奥村竜也	2	30	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、ゴルフスイングで怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標である。講義では、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。そして、実際に自らゴルフスイングを行い、正しいスイングを身につけ、さらに、トレーニングも行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (宇於崎孝/5回) ゴルフスイングの歴史的变化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。 (安田孝志/5回) ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析するための、ゴルフスイング理論を解説。また頸部、腰部、上肢、下肢に発生しやすい疾患を紹介し、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。 (奥村竜也/5回) ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、最新のスイング理論に基づき、ビデオ分析から修正方法を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	効率の良いスイングとは（基本コンセプトの説明）					宇於崎孝
第2回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説					宇於崎孝
第3回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説					宇於崎孝
第4回	代表的なエラーと原因					宇於崎孝
第5回	頸部と上肢疾患					安田孝志
第6回	腰部と下肢疾患					安田孝志
第7回	身体機能評価					宇於崎孝
第8回	ゴルフの基本1					奥村竜也
第9回	ゴルフの基本2					奥村竜也
第10回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第11回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第12回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第13回	エクササイズ1					安田孝志
第14回	エクササイズ2					安田孝志
第15回	エクササイズ3					安田孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	宇於崎孝：GPT-Japan教本					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
学びの基盤	必	安部 征哉	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しを見つけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	大学での学びとは					安部 征哉
第2回	大学で学ぶために必要なスキルとは					安部 征哉
第3回	情報リテラシー					安部 征哉
第4回	ポスタープレゼンテーション					安部 征哉
第5回	学習スタイル ー学習スキル・学習感・学習動機ー					安部 征哉
第6回	記憶のスキル・箇条書きトレーニング					安部 征哉
第7回	課題発表・まとめ(発表者を2つに分けた前半の学生の発表)					安部 征哉
第8回	課題発表・まとめ(後半の学生の発表)					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	発表(50%)、提出物(50%)					
教科書	特に指定しない。(必要な資料、教材は授業の進行にあわせて配布する)					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー	<p>前期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
学びの基盤	必	安部 征哉	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しを見つけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	大学での学びとは					安部 征哉
第2回	大学で学ぶために必要なスキルとは					安部 征哉
第3回	情報リテラシー					安部 征哉
第4回	ポスタープレゼンテーション					安部 征哉
第5回	学習スタイル ー学習スキル・学習感・学習動機ー					安部 征哉
第6回	記憶のスキル・箇条書きトレーニング					安部 征哉
第7回	課題発表・まとめ1					安部 征哉
第8回	課題発表・まとめ2					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	発表（50%）、提出物（50%）					
教科書	特に指定しない。（必要な資料、教材は授業の進行にあわせて配布する）					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	木村 裕樹	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>【授業概要】 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p>【到達目標】 (1) 日本の職人の特質について理解する。 (2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。 (3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「職人」とは何か：ガイダンス、現代の暮らしと「職人」					木村 裕樹
第2回	「職人」の歴史：「職人」概念、職人集団、居職と出職、名産、手仕事と量産					木村 裕樹
第3回	現代の職人をめぐる制度：伝統的工芸品産業の振興、文化財保護行政					木村 裕樹
第4回	近江の木地屋（1）：職祖伝承と発祥地、轆轤					木村 裕樹
第5回	近江の木地屋（2）：漆器産地と木地屋					木村 裕樹
第6回	近江の鋳物師					木村 裕樹
第7回	職人という生き方と教育（1）：料理と職人					木村 裕樹
第8回	職人という生き方と教育（2）：スポーツと職人					木村 裕樹
備考						
授業時間以外の学習について	日本の職人はマスメディアで取りあげられる機会の多い存在です。本や雑誌、新聞、インターネット記事、映画などをこまめにチェックし、情報収集につとめてください。博物館や美術館の展示、あるいは百貨店の見学も役立ちます。					
課題・評価方法	授業時に指示する課題（30%）やレポート（70%）への積極的な取りくみを、評価の基準とします。					
教科書	使用しない。					
参考書	遠藤元男『ヴィジュアル史料日本職人史』（1～4）雄山閣。大高洋司・大久保純一・小島道裕編『鋳形蕙斎画 近世職人尺絵詞—江戸の職人と風俗を読み解く』勉誠出版。白洲正子『かくれ里』新潮社。その他、講義時に適宜、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	稲葉隆道・砂川勇・分木ひとみ	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>オムニバス方式 8回 (稲葉隆道/2回)</p> <p>一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禅定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。 (砂川勇/4回)</p> <p>医療人として大切なことは、いかなる場面においても現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。 (分木ひとみ/2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	命の大切さを再度考えてみよう				稲葉隆道	
第2回	「生苦」より学ぶ人生と職業倫理				稲葉隆道	
第3回	茶道の成り立ち				分木ひとみ	
第4回	喫茶の所作と経験				分木ひとみ	
第5回	理学療法士となって半世紀				砂川勇	
第6回	尺八の製作（塩ビ管による尺八の製作）				砂川勇	
第7回	精神統一と音色				砂川勇	
第8回	求められるセラピストを目指して				砂川勇	
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート課題 50%					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学 I	必	野田 亨	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	解剖学概論 (様々な人体解剖学)、細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能)					野田 亨
第 2 回	細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能、小テスト)					野田 亨
第 3 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体)					野田 亨
第 4 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体、小テスト)					野田 亨
第 5 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要)					野田 亨
第 6 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要、小テスト)					野田 亨
第 7 回	骨学各論 (頭蓋骨、脊柱)					野田 亨
第 8 回	骨学各論 (頭蓋骨、脊柱、小テスト)					野田 亨
第 9 回	骨学各論 (胸郭、上肢)					野田 亨
第 1 0 回	骨学各論 (胸郭、上肢、小テスト)					野田 亨
第 1 1 回	骨学各論 (下肢)					野田 亨
第 1 2 回	骨学各論 (下肢、小テスト)					野田 亨
第 1 3 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる)					野田 亨
第 1 4 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる、小テスト)					野田 亨
第 1 5 回	関節学各論 (頭蓋、脊柱、胸郭の関節)					野田 亨
第 1 6 回	関節学各論 (頭蓋、脊柱、胸郭の関節、小テスト)					野田 亨
第 1 7 回	関節学各論 (上肢の関節)					野田 亨
第 1 8 回	関節学各論 (上肢の関節、小テスト)					野田 亨
第 1 9 回	関節学各論 (下肢の関節)					野田 亨
第 2 0 回	関節学各論 (下肢の関節、小テスト)					野田 亨
第 2 1 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム)					野田 亨
第 2 2 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム、小テスト)					野田 亨
第 2 3 回	筋学各論 (頭頸部の筋)					野田 亨
第 2 4 回	筋学各論 (頭頸部の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 5 回	筋学各論 (脊柱、胸郭の筋)					野田 亨
第 2 6 回	筋学各論 (脊柱、胸郭の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 7 回	筋学各論 (上肢の筋)					野田 亨
第 2 8 回	筋学各論 (上肢の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 9 回	筋学各論 (下肢の筋)					野田 亨
第 3 0 回	筋学各論 (下肢の筋、小テスト)					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 小テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学 I	必	野田 亨	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	解剖学概論 (様々な人体解剖学)、細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能)					野田 亨
第 2 回	細胞学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 3 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体)					野田 亨
第 4 回	組織学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 5 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要)					野田 亨
第 6 回	骨学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 7 回	骨学各論 I (頭蓋骨、脊柱)					野田 亨
第 8 回	骨学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 9 回	骨学各論 II (胸郭、上肢)					野田 亨
第 10 回	骨学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 11 回	骨学各論 III (下肢)					野田 亨
第 12 回	骨学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 13 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる)					野田 亨
第 14 回	関節学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 15 回	関節学各論 I (頭蓋、脊柱、胸郭の関節)					野田 亨
第 16 回	関節学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 17 回	関節学各論 II (上肢の関節)					野田 亨
第 18 回	関節学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 19 回	関節学各論 III (下肢の関節)					野田 亨
第 20 回	関節学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 21 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム)					野田 亨
第 22 回	筋学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 23 回	筋学各論 I (頭頸部の筋)					野田 亨
第 24 回	筋学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 25 回	筋学各論 II (脊柱、胸郭の筋)					野田 亨
第 26 回	筋学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 27 回	筋学各論 III (上肢の筋)					野田 亨
第 28 回	筋学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 29 回	筋学各論 IV (下肢の筋)					野田 亨
第 30 回	筋学各論 IV (演習・小テスト)					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	京都大学での解剖学実習見学を 1 回希望する。					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	前期：月、火、水曜日、16:10~17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	井出 千東	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を实践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					井出 千東
第2回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス、小テスト）					井出 千東
第3回	神経学各論（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					井出 千東
第4回	神経学各論（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環、小テスト）					井出 千東
第5回	神経学各論（末梢神経系 頸神経 頸神経叢）					井出 千東
第6回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第7回	神経学各論（末梢神経系 腕神経叢 胸神経）					井出 千東
第8回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第9回	神経学各論（末梢神経系 腰神経 要神経叢）					井出 千東
第10回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第11回	神経学各論（末梢神経系 仙骨神経 仙骨神経層 尾骨神経層）					井出 千東
第12回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第13回	神経学各論（末梢神経系 副交感神経）					井出 千東
第14回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第15回	神経学各論（脳神経 脳神経1～6）					井出 千東
第16回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第17回	神経学各論（脳神経 脳神経7～12）					井出 千東
第18回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第19回	神経学各論（自律神経）					井出 千東
第20回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第21回	神経学各論（中枢神経系 脊髄）					井出 千東
第22回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第23回	神経学各論（中枢神経系 脳幹）					井出 千東
第24回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第25回	神経学各論（中枢神経系 小脳）					井出 千東
第26回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第27回	神経学各論（中枢神経系 大脳）					井出 千東
第28回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第29回	神経学各論（伝導路）					井出 千東
第30回	神経学各論（伝導路、小テスト）					井出 千東
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 小テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	野田 亨	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					野田 亨
第2回	神経学総論（演習・確認小テスト）					野田 亨
第3回	神経学各論Ⅰ（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					野田 亨
第4回	神経学各論Ⅰ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第5回	神経学各論Ⅱ（末梢神経系Ⅰ）					野田 亨
第6回	神経学各論Ⅱ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第7回	神経学各論Ⅲ（末梢神経系Ⅱ）					野田 亨
第8回	神経学各論Ⅲ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第9回	神経学各論Ⅳ（末梢神経系Ⅲ）					野田 亨
第10回	神経学各論Ⅳ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第11回	神経学各論Ⅴ（末梢神経系Ⅳ）					野田 亨
第12回	神経学各論Ⅴ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第13回	神経学各論Ⅵ（末梢神経系Ⅴ）					野田 亨
第14回	神経学各論Ⅵ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第15回	神経学各論Ⅶ（脳神経Ⅰ）					野田 亨
第16回	神経学各論Ⅶ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第17回	神経学各論Ⅷ（脳神経Ⅱ）					野田 亨
第18回	神経学各論Ⅷ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第19回	神経学各論Ⅸ（自律神経）					野田 亨
第20回	神経学各論Ⅸ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第21回	神経学各論Ⅹ（中枢神経系Ⅰ）					野田 亨
第22回	神経学各論Ⅹ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第23回	神経学各論Ⅺ（中枢神経系Ⅱ）					野田 亨
第24回	神経学各論Ⅺ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第25回	神経学各論Ⅻ（中枢神経系Ⅲ）					野田 亨
第26回	神経学各論Ⅻ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第27回	神経学各論ⅫⅢ（中枢神経系Ⅳ）					野田 亨
第28回	神経学各論ⅫⅢ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第29回	神経学各論ⅫⅣ（伝導路）					野田 亨
第30回	神経学各論ⅫⅣ（演習・確認小テスト）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系 口腔 咽頭 食道 胃）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系 小腸 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓 腹膜）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系Ⅰ）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系Ⅱ）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、午後16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学 I	必	三谷 章	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	血液(組成)					三谷 章
第2回	血液(各成分の機能)					三谷 章
第3回	血液(止血機構)					三谷 章
第4回	血液(血液型)					三谷 章
第5回	循環(心臓の構造と電気活動)					三谷 章
第6回	循環(心臓のポンプとしての働き)					三谷 章
第7回	循環(血管の構造)					三谷 章
第8回	循環(血圧、血流、リンパ)					三谷 章
第9回	循環(内因性および外因性調節機構)					三谷 章
第10回	循環(循環調節機構・反射)					三谷 章
第11回	呼吸(肺の構造、気道、肺胞)					三谷 章
第12回	呼吸(肺気量分画、呼吸運動)					三谷 章
第13回	呼吸(肺機能検査)					三谷 章
第14回	呼吸(調節)					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	内分泌(定義、制御機構)					三谷 章
第17回	内分泌(視床下部、下垂体、副腎)					三谷 章
第18回	内分泌(甲状腺、膵臓、上皮小体)					三谷 章
第19回	生殖(性分化、男性生殖)					三谷 章
第20回	生殖(女性生殖)					三谷 章
第21回	生殖(女性生殖)					三谷 章
第22回	消化・吸収(構造、口腔)					三谷 章
第23回	消化・吸収(咽頭、食道)					三谷 章
第24回	消化・吸収(胃、膵臓、小腸)					三谷 章
第25回	消化・吸収(胆嚢、大腸、肝臓、排便)					三谷 章
第26回	腎機能(構造、濾過)					三谷 章
第27回	腎機能(再吸収、分泌、クリアランス)					三谷 章
第28回	腎機能(尿濃縮、排尿)					三谷 章
第29回	腎機能(酸塩基平衡)					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤濤司/福田康一郎 監修『標準生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	前期:月 16:10~17:15 水 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学 I	必	三谷 章	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	血液 I (組成)					三谷 章
第2回	血液 II (各成分の機能)					三谷 章
第3回	血液 III (止血機構)					三谷 章
第4回	血液 IV (血液型)					三谷 章
第5回	循環 I (心臓の構造と電気活動)					三谷 章
第6回	循環 II (心臓のポンプとしての働き)					三谷 章
第7回	循環 III (血管の構造)					三谷 章
第8回	循環 IV (血圧、血流、リンパ)					三谷 章
第9回	循環 V (内因性および外因性調節機構)					三谷 章
第10回	循環 VI (循環調節機構・反射)					三谷 章
第11回	呼吸 I (肺の構造、気道、肺胞)					三谷 章
第12回	呼吸 II (肺気量分画、呼吸運動)					三谷 章
第13回	呼吸 III (肺機能検査)					三谷 章
第14回	呼吸 IV (調節)					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	内分泌 I (定義、制御機構)					三谷 章
第17回	内分泌 II (視床下部、下垂体、副腎)					三谷 章
第18回	内分泌 III (甲状腺、膵臓、上皮小体)					三谷 章
第19回	生殖 I (性分化、男性生殖)					三谷 章
第20回	生殖 II (女性生殖)					三谷 章
第21回	生殖 III (女性生殖)					三谷 章
第22回	消化・吸収 I (構造、口腔)					三谷 章
第23回	消化・吸収 II (咽頭、食道)					三谷 章
第24回	消化・吸収 III (胃、膵臓、小腸)					三谷 章
第25回	消化・吸収 IV (胆嚢、大腸、肝臓、排便)					三谷 章
第26回	腎機能 I (構造、濾過)					三谷 章
第27回	腎機能 II (再吸収、分泌、クリアランス)					三谷 章
第28回	腎機能 III (尿濃縮、排尿)					三谷 章
第29回	腎機能 IV (酸塩基平衡)					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤滯司/福田康一郎 監修『標準生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	講義中に情報提供する。					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学Ⅱ	必	三谷 章	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	ニューロンの機能（静止電位の形成）					三谷 章
第2回	ニューロンの機能（活動電位の発生）					三谷 章
第3回	ニューロンの機能（活動電位の伝導）					三谷 章
第4回	ニューロンの機能（シナプス伝達）					三谷 章
第5回	平衡感覚（受容機構）					三谷 章
第6回	平衡感覚（伝導路と機能）					三谷 章
第7回	聴覚（受容機構）					三谷 章
第8回	聴覚（中枢情報処理機構）					三谷 章
第9回	体性感覚（受容機構）					三谷 章
第10回	体性感覚（中枢伝導路）					三谷 章
第11回	視覚（構造）					三谷 章
第12回	視覚（網膜）					三谷 章
第13回	視覚（伝導路、大脳皮質視覚野）					三谷 章
第14回	味覚・嗅覚					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	筋収縮（骨格筋の構造と興奮収縮連関）					三谷 章
第17回	筋収縮（単収縮、強縮）					三谷 章
第18回	脊髄（運動ニューロン）					三谷 章
第19回	脊髄（反射）					三谷 章
第20回	大脳皮質運動野（構成、伝導路）					三谷 章
第21回	脳幹の運動機能					三谷 章
第22回	大脳基底核の構造と機能					三谷 章
第23回	小脳の構造と機能					三谷 章
第24回	自律神経機能（構成、交感神経系、副交感神経系）					三谷 章
第25回	自律神経機能（調節機能）					三谷 章
第26回	高次脳機能（大脳皮質の構造）					三谷 章
第27回	高次脳機能（睡眠、覚醒、脳波）					三谷 章
第28回	高次脳機能（大脳皮質連合野）					三谷 章
第29回	高次脳機能（中枢機能回復）					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤壽司/福田康一郎 監修『標準生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学Ⅱ	必	三谷 章	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	ニューロンの機能Ⅰ（静止電位の形成）					三谷 章
第2回	ニューロンの機能Ⅱ（活動電位の発生）					三谷 章
第3回	ニューロンの機能Ⅲ（活動電位の伝導）					三谷 章
第4回	ニューロンの機能Ⅳ（シナプス伝達）					三谷 章
第5回	平衡感覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第6回	平衡感覚Ⅱ（伝導路と機能）					三谷 章
第7回	聴覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第8回	聴覚Ⅱ（中枢情報処理機構）					三谷 章
第9回	体性感覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第10回	体性感覚Ⅱ（中枢伝導路）					三谷 章
第11回	視覚Ⅰ（構造）					三谷 章
第12回	視覚Ⅱ（網膜）					三谷 章
第13回	視覚Ⅲ（伝導路、大脳皮質視覚野）					三谷 章
第14回	味覚・嗅覚					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	筋収縮Ⅰ（骨格筋の構造と興奮収縮連関）					三谷 章
第17回	筋収縮Ⅱ（単収縮、強縮）					三谷 章
第18回	脊髄Ⅰ（運動ニューロン）					三谷 章
第19回	脊髄Ⅱ（反射）					三谷 章
第20回	大脳皮質運動野（構成、伝導路）					三谷 章
第21回	脳幹の運動機能					三谷 章
第22回	大脳基底核の構造と機能					三谷 章
第23回	小脳の構造と機能					三谷 章
第24回	自律神経機能Ⅰ（構成、交感神経系、副交感神経系）					三谷 章
第25回	自律神経機能Ⅱ（調節機能）					三谷 章
第26回	高次脳機能Ⅰ（大脳皮質の構造）					三谷 章
第27回	高次脳機能Ⅱ（睡眠、覚醒、脳波）					三谷 章
第28回	高次脳機能Ⅲ（大脳皮質連合野）					三谷 章
第29回	高次脳機能Ⅳ（中枢機能回復）					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院）ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤瀨司/福田康一郎 監修『標準生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	講義中に情報提供する。					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学 I	必	安部 征哉	1	30	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動力学の基礎・身体運動の面と軸					安部 征哉
第2回	運動の表し方・運動の法則・重心と重心線					安部 征哉
第3回	骨の構造と機能					安部 征哉
第4回	関節構造と機能					安部 征哉
第5回	関節の形状分類と運動軸					安部 征哉
第6回	骨格筋の構造と機能					安部 征哉
第7回	筋の収縮・運動単位					安部 征哉
第8回	上肢の解剖学・運動学（骨格）					安部 征哉
第9回	上肢の解剖学・運動学（神経）					安部 征哉
第10回	上肢帯の運動学					安部 征哉
第11回	肩関節の運動学					安部 征哉
第12回	肘関節の運動学					安部 征哉
第13回	手の運動学（関節と内部構造）					安部 征哉
第14回	手の運動学（運動と筋）					安部 征哉
第15回	手の運動学（手の肢位と変形）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	エッセンシャル・キネシオロジー原書第2版、南江堂					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー	<p>前期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学 I	必	安部 征哉	1	30	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動力学の基礎・身体運動の面と軸					安部 征哉
第2回	運動の表し方・運動の法則・重心と重心線					安部 征哉
第3回	骨の構造と機能					安部 征哉
第4回	関節構造と機能					安部 征哉
第5回	関節の形状分類と運動軸					安部 征哉
第6回	骨格筋の構造と機能					安部 征哉
第7回	筋の収縮・運動単位					安部 征哉
第8回	上肢の解剖学・運動学（1）骨格					安部 征哉
第9回	上肢の解剖学・運動学（2）神経					安部 征哉
第10回	上肢帯の運動学					安部 征哉
第11回	肩関節の運動学					安部 征哉
第12回	肘関節の運動学					安部 征哉
第13回	手の運動学（1）関節と内部構造					安部 征哉
第14回	手の運動学（2）運動と筋					安部 征哉
第15回	手の運動学（3）手の肢位と変形					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	エッセンシャル・キネシオロジー原書第2版、南江堂					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲骨・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行（第14回の続き）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学. 医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行①					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行②					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学.医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
薬理学概論	必	田中 弘一郎	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	総論－薬理学の概要と創薬の実際					田中 弘一郎
第2回	総論－薬力学					田中 弘一郎
第3回	総論－薬物動態学					田中 弘一郎
第4回	末梢神経系作用薬					田中 弘一郎
第5回	中枢神経系作用薬					田中 弘一郎
第6回	循環器系作用薬					田中 弘一郎
第7回	内分泌・代謝系作用薬					田中 弘一郎
第8回	抗炎症薬, その他					田中 弘一郎
備考						
授業時間以外の学習について	毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。					
課題・評価方法	定期試験（筆記試験）（90%）、小テスト（10%）					
教科書	野村隆英・石川直久 編集 「シンプル薬理学」, 南江堂					
参考書	1. 吉岡充弘他著「系統看護学講座 専門基礎講座 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学」医学書院 2. 医療情報科学研究所編 「薬が見える」vol.1, 2 & 3, メディックメディア					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
薬理学概論	必	田中 弘一郎	1	15	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	総論Ⅰ－薬理学の概要と創薬の実際					田中 弘一郎
第2回	総論Ⅱ－薬力学					田中 弘一郎
第3回	総論Ⅲ－薬物動態学					田中 弘一郎
第4回	末梢神経系作用薬					田中 弘一郎
第5回	中枢神経系作用薬					田中 弘一郎
第6回	循環器系作用薬					田中 弘一郎
第7回	内分泌・代謝系作用薬					田中 弘一郎
第8回	抗炎症薬、その他					田中 弘一郎
備考						
授業時間以外の学習について	毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。					
課題・評価方法	定期試験（筆記試験）（90%）、小テスト（10%）					
教科書	野村隆英・石川直久 編集 「シンプル薬理学」, 南江堂					
参考書	1. 吉岡充弘他著「系統看護学講座 専門基礎講座 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学」医学書院 2. 医療情報科学研究所編 「薬が見える」vol.1, 2 & 3, メディックメディア					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と小児高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践のあり方について理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。そして、症例検討により地域包括ケアシステムの構築に向け、今後の地域の在り方や作業療法士の役割を検討する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p> <p>DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p> <p>DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	日本の医療・福祉・保健・介護の現状				下西 徳	
第2回	各地域の医療・福祉・保健・介護の現状				下西 徳	
第3回	地域包括ケアシステム提唱とその背景				下西 徳	
第4回	地域包括ケアシステムの概要（自助・互助・共助・公助等）				下西 徳	
第5回	地域包括ケアシステムの必要性				下西 徳	
第6回	在宅介護支援センター創設から地域包括ケアセンターへ				下西 徳	
第7回	地域包括支援センターの機能と役割				下西 徳	
第8回	地域包括ケアシステムに関わる専門職と地域住民の役割				下西 徳	
第9回	地域包括ケアシステムにおける在宅医療の役割				下西 徳	
第10回	認知症ケアで必要とされる地域包括ケアシステム				下西 徳	
第11回	地域包括ケアシステムの国際的な研究動向				下西 徳	
第12回	地域包括ケアシステム確立を目指した介護保険事業計画を考える				下西 徳	
第13回	地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーションの役割				下西 徳	
第14回	事例検討 ー認知症の方への地域支援ー				下西 徳	
第15回	事例検討 ー新しい生活支援サービスの構築ー				下西 徳	
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回行う部分に目を通してこるこ</p> <p>復習：講義した内容について整理すること</p>					
課題・評価方法	発表（20％）、レポート（20％）、筆記試験（50％）、小テスト（10％）					
教科書	高橋 紘士（2012）『地域包括ケアシステム』 Ohmsha					
参考書	大橋 謙策・白澤政和（2014）『地域包括ケアの実践と展望—先進的地域の取り組みから学ぶ—』中央法規出版株式会社					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	杉本 久美子	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と小児高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践のあり方について理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。そして、症例検討により地域包括ケアシステムの構築に向け、今後の地域の在り方や作業療法士の役割を検討する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	日本の医療・福祉・保健・介護の現状					杉本 久美子
第2回	各地域の医療・福祉・保健・介護の現状					杉本 久美子
第3回	地域包括ケアシステム提唱とその背景					杉本 久美子
第4回	地域包括ケアシステムの概要（自助・互助・共助・公助等）					杉本 久美子
第5回	地域包括ケアシステムの必要性					杉本 久美子
第6回	在宅介護支援センター創設から地域包括ケアセンターへ					杉本 久美子
第7回	地域包括支援センターの機能と役割					杉本 久美子
第8回	地域包括ケアシステムに関わる専門職と地域住民の役割					杉本 久美子
第9回	地域包括ケアシステムにおける在宅医療の役割					杉本 久美子
第10回	認知症ケアで必要とされる地域包括ケアシステム					杉本 久美子
第11回	地域包括ケアシステムの国際的な研究動向					杉本 久美子
第12回	地域包括ケアシステム確立を目指した介護保険事業計画を考える					杉本 久美子
第13回	地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーションの役割					杉本 久美子
第14回	症例検討①					杉本 久美子
第15回	症例検討②					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	自分の住んでいる「地域」のシステムに興味を持ってください。					
課題・評価方法	発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（50%）、授業態度（10%）					
教科書	高橋 紘士（2012）『地域包括ケアシステム』 Ohmsha					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
リハビリテーション概論	必	大西 満	1	30	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種への役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることによりリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを持てるようにしていく。					
学位授与方針との関連	DP 1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	リハビリテーションの理論と定義、リハビリテーションの歴史と思想の背景					大西 満
第2回	リハビリテーションとは何か（事例検討・グループワーク）					大西 満
第3回	病気と障害					大西 満
第4回	障害体験（高齢者・片麻痺体験スーツの説明）					大西 満
第5回	障害体験（実際にスーツを着用しての外体験）					大西 満
第6回	障害受容					大西 満
第7回	リハビリテーションとノーマライゼーション					大西 満
第8回	リハビリテーションの諸領域（医療、障害者支援と教育）					大西 満
第9回	リハビリテーションの諸領域（職業）					大西 満
第10回	リハビリテーションの諸領域（社会的・地域・高齢者）					大西 満
第11回	リハビリテーション関連職種の役割とリハビリテーションチーム					大西 満
第12回	疾患理解と生活障害					大西 満
第13回	疾患理解と生活障害（事例）					大西 満
第14回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF					大西 満
第15回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF（グループディスカッション）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、小テスト（10%）、筆記試験（60%）					
教科書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版株式会社					
参考書	随時、紹介していく。					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
リハビリテーション概論	必	木岡 和実	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種の役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることでリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを持てるようにしていく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	リハビリテーションの理論と定義, リハビリテーションの歴史と思想の背景					木岡 和実
第2回	リハビリテーションとは何か (事例検討・グループワーク) (演習)					木岡 和実
第3回	病気と障害					木岡 和実
第4回	障害体験① (高齢者、片麻痺など) (演習)					木岡 和実
第5回	障害体験② (高齢者、片麻痺など) (演習)					木岡 和実
第6回	障害受容					木岡 和実
第7回	ハビリテーションとノーマライゼーション					木岡 和実
第8回	リハビリテーションの諸領域① (医療、障害者支援と教育)					木岡 和実
第9回	リハビリテーションの諸領域② (職業)					木岡 和実
第10回	リハビリテーションの諸領域③ (社会的・地域・高齢者)					木岡 和実
第11回	リハビリテーション関連職種の役割とリハビリテーションチーム					木岡 和実
第12回	疾患理解と生活障害					木岡 和実
第13回	疾患理解と生活障害 (事例) (演習)					木岡 和実
第14回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF					木岡 和実
第15回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF (グループディスカッション、演習)					木岡 和実
備考						
授業時間以外の学習について	予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること					
課題・評価方法	レポート課題 (30%) 授業態度 (10%) 筆記試験 (60%)					
教科書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版株式会社					
参考書	随時、紹介していく。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習 I	必	澤 賢一郎	1	30	1年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法の手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方 針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	作業の視点について				澤 賢一郎	
第2回	作業の主観的意味				澤 賢一郎	
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク				澤 賢一郎	
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり				澤 賢一郎	
第5回	生活の構造化・健康との関連性				澤 賢一郎	
第6回	社会的意味・作業の分類化				澤 賢一郎	
第7回	作業活動についてのオリエンテーション				澤 賢一郎	
第8回	ボッチャの実施（ゲームの概要の説明）				澤 賢一郎	
第9回	ボッチャの実施（教員のデモンストレーションを見せながらの説明）				澤 賢一郎	
第10回	ボッチャについてのグループワーク（実際に学生同士で試合を行う）				澤 賢一郎	
第11回	ボッチャについての発表				澤 賢一郎	
第12回	IADL（料理）の実施（料理の工程分析の仕方についての説明）				澤 賢一郎	
第13回	IADL（料理）の実施（実際に各グループで決めた料理を調理する）				澤 賢一郎	
第14回	IADL（料理）についてのグループワーク（調理した料理を各工程でまとめる）				澤 賢一郎	
第15回	IADL（料理）についての発表				澤 賢一郎	
備考						
授業時間外 の学習に ついて	予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価 方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%）、筆記試験（30%）、小テスト（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017）『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版． 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスア ワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅱ	必	杉本 久美子	1	30	1年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					杉本 久美子
第2回	作業の主観的意味					杉本 久美子
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					杉本 久美子
第5回	生活の構造化・健康との関連性					杉本 久美子
第6回	社会的意味・作業の分類化					杉本 久美子
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					杉本 久美子
第8回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第9回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第10回	作業活動①についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第11回	作業活動①についての発表（演習）					杉本 久美子
第12回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第13回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第14回	作業活動②についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第15回	作業活動②についての発表（演習）					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	常に作業の意味とは何か、それが生活におよぼしている影響を考えて下さい。					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（30%）、授業態度（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版. 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法研究法	必	辛島 千恵子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	研究とは、研究と倫理					辛島 千恵子
第2回	研究の種類、文献レビューと文献研究					辛島 千恵子
第3回	文献検索と参考・引用文献					辛島 千恵子
第4回	調査・実験・事例研究					辛島 千恵子
第5回	研究計画の立案					辛島 千恵子
第6回	データ分析について					辛島 千恵子
第7回	まとめ(発表者を2つに分けた前半の学生の発表)					辛島 千恵子
第8回	まとめ(後半の学生の発表)					辛島 千恵子
備考						
授業時間以外の学習について	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。					
課題・評価方法	定期試験（筆記）（70%）、小テスト（30%）					
教科書	山田孝他編「標準作業療法学専門分野 作業療法研究（第2版）」医学書院					
参考書	適時、紹介する。					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法研究法	必	安部 征哉	1	15	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	研究とは、研究と倫理					安部 征哉
第2回	研究の種類、文献レビューと文献研究					安部 征哉
第3回	文献検索と参考・引用文献					安部 征哉
第4回	調査・実験・事例研究					安部 征哉
第5回	研究計画の立案					安部 征哉
第6回	データ分析について					安部 征哉
第7回	まとめ1（学生発表）					安部 征哉
第8回	まとめ2（学生発表）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期試験（筆記）（70%）、小テスト（30%）					
教科書	山田孝他編「標準作業療法学専門分野 作業療法研究（第2版）」医学書院					
参考書	適時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF) 検査目的					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF) 検査方法					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF) 結果の解釈 グループディスカッション					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩甲帯					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩関節					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験前のまとめ					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考	お互いの身体を使って評価技法の実技を行います。動きやすい服装で授業にのぞんでください					
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト(30%) 小テスト(20%) 筆記試験(50%)で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院,2010. Helen J.Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版. 協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版) 第3巻 作業療法評価学. 協同医書出版社,2010.					
オフィスアワー	前期：月 16:10~17:15 火 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF) 結果の解釈 グループディスカッション(演習)					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕 (演習)					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手 (演習)					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲 (演習)					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲 (演習)					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹(演習)					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト(30%)小テスト(10%) 筆記試験(50%)、授業態度(10%)で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院,2010. Helen J.Hislop.Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版.協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版)第3巻 作業療法評価学.協同医書出版社,2010.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	精神科作業療法における評価の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法（ISDA、SMSFの説明とデモンストレーション）					嶋川 昌典
第5回	質問司法（OSA IIの説明とデモンストレーション）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法の概要と説明）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法 データ収集（2人一組で、被験者一検査者役でデータをとる）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法 データ収集（被験者一検査者役を交代し、データをとる）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法 データ解釈					嶋川 昌典
第10回	集団の評価 概要と方法					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（討論場面を設定し、各学生が参加しながら観察する）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価 解釈					嶋川 昌典
第13回	知的検査					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査（一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価（GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	実習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テスト					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学演習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法①（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法②（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法③（OSAⅡの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法（演習①）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法（演習②）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法（演習③）					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（演習①）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価（演習②）					嶋川 昌典
第13回	知的検査（演習）					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査①（演習：一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価②（演習：GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テストとする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学実習	必	下西 徳	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					下西 徳
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価					下西 徳
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法					下西 徳
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					下西 徳
第5回	評価の解釈と個人の全体像					下西 徳
第6回	目標設定から治療計画立案					下西 徳
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					下西 徳
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム					下西 徳
第9回	心身機能面へのプログラム					下西 徳
第10回	脊髄損傷の全般的症状					下西 徳
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集の手法)					下西 徳
第12回	脊髄損傷の評価 (損傷レベルからの評価)					下西 徳
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム					下西 徳
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム					下西 徳
第15回	脊髄損傷の治療 心身機能面へのプログラム					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%)、筆記試験 (60%)、小テスト (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					有田 智氏
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価 (演習)					有田 智氏
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法 (演習)					有田 智氏
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					有田 智氏
第5回	評価の解釈と個人の全体像 (演習)					有田 智氏
第6回	目標設定から治療計画立案					有田 智氏
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					有田 智氏
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム① (演習)					有田 智氏
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム② (演習)					有田 智氏
第10回	脊髄損傷の全般的症状					有田 智氏
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察：演習)					有田 智氏
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能：演習)					有田 智氏
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム (演習)					有田 智氏
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について：演習)					有田 智氏
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について：演習)					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%) 筆記試験 (60%)、授業態度・出席 (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史の変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 作業療法について					嶋川 昌典
第2回	べてるの家の活動紹介、当事者の手記の紹介					嶋川 昌典
第3回	医療福祉の専門職の対人支援の特徴					嶋川 昌典
第4回	精神科作業療法についてのディスコース分析（精神科OTを検討する）					嶋川 昌典
第5回	現在の若者の徳とケアについて					嶋川 昌典
第6回	精神医療の歴史（精神科について考える。諸外国の精神医療について）					嶋川 昌典
第7回	日本の精神医療の歴史					嶋川 昌典
第8回	精神障害の障害特性					嶋川 昌典
第9回	作業療法の治療・援助構造と治療機序					嶋川 昌典
第10回	治療構造論（総論）					嶋川 昌典
第11回	治療構造論（学生が経験した事例を通し、自己の治療的利用を理解する）					嶋川 昌典
第12回	作業療法の関わり（病院やデイケア）					嶋川 昌典
第13回	作業療法の関わり（訪問看護、ACT）					嶋川 昌典
第14回	作業療法の関わり（就労支援、医療観察法）					嶋川 昌典
第15回	まとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	定期テストを90%とし、小テストを10%とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	斉藤道雄「治りませんように」みすず書房、山野克明「作業療法士の自律性と独自性」樺歌書房、適宜、論文を紹介する					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史の変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 作業療法について					嶋川 昌典
第2回	べてるの家の活動紹介、当事者の手記の紹介					嶋川 昌典
第3回	医療福祉の専門職の対人支援の特徴					嶋川 昌典
第4回	精神科作業療法についてのディスコース分析（精神科OTを検討する）					嶋川 昌典
第5回	現在の若者の徳とケアについて					嶋川 昌典
第6回	精神医療の歴史（精神病について考える。諸外国の精神医療について）					嶋川 昌典
第7回	日本の精神医療の歴史					嶋川 昌典
第8回	精神障害の障害特性					嶋川 昌典
第9回	作業療法の治療・援助構造と治療機序					嶋川 昌典
第10回	治療構造論①（総論）					嶋川 昌典
第11回	治療構造論②（学生が経験した事例を通し、自己の治療的利用を理解する）					嶋川 昌典
第12回	作業療法の関わり①（病院やデイケア）					嶋川 昌典
第13回	作業療法の関わり②（訪問看護、ACT）					嶋川 昌典
第14回	作業療法の関わり③（就労支援、医療観察法）					嶋川 昌典
第15回	まとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	定期テストを9割とし、授業態度を1割とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	齊藤道雄「治りませんように」みすず書房、山野克明「作業療法士の自律性と独自性」権歌書房、適宜、論文を紹介する					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論実習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として実習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					有田 智氏
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					有田 智氏
第3回	日常生活活動別の特徴					有田 智氏
第4回	セルフケア ―グループワークにて各セルフケアを検討するー					有田 智氏
第5回	セルフケア ―発表 グループ1ー					有田 智氏
第6回	セルフケア ―発表 グループ2ー					有田 智氏
第7回	セルフケア ―発表 グループ3ー					有田 智氏
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーション					有田 智氏
第9回	日常生活活動への援助の視点					有田 智氏
第10回	日常生活活動の評価					有田 智氏
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーセルインデックス)					有田 智氏
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					有田 智氏
第13回	日常生活活動の評価					有田 智氏
第14回	日常生活の観察評価					有田 智氏
第15回	日常生活の観察評価と事例					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (30%) 筆記試験 (30%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー	前期 : 月 16:10~17:15 火 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論演習	必	鈴木 耕平	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					鈴木 耕平
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					鈴木 耕平
第3回	日常生活活動別の特徴					鈴木 耕平
第4回	セルフケア演習 –グループワークにて各セルフケアを検討する– (演習)					鈴木 耕平
第5回	セルフケア演習① –発表– (演習)					鈴木 耕平
第6回	セルフケア演習② –発表– (演習)					鈴木 耕平
第7回	セルフケア演習③ –発表– (演習)					鈴木 耕平
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーションと演習 (演習)					鈴木 耕平
第9回	日常生活活動への援助の視点					鈴木 耕平
第10回	日常生活活動の評価					鈴木 耕平
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーサルインデックス)					鈴木 耕平
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					鈴木 耕平
第13回	日常生活活動の評価演習 (演習)					鈴木 耕平
第14回	日常生活の観察評価と演習 (演習)					鈴木 耕平
第15回	日常生活の観察評価と事例演習 (グループ演習) (演習)					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (20%) 筆記試験 (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	1) 吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論実習	必	澤 賢一郎	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	総論					澤 賢一郎
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					澤 賢一郎
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					澤 賢一郎
第4回	社会生活行為の支援 教育					澤 賢一郎
第5回	社会生活行為の支援 就労					澤 賢一郎
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ 教育・就労					澤 賢一郎
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション 教育・就労					澤 賢一郎
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第11回	まとめ、自助具作成について					澤 賢一郎
第12回	自助具作成における計画					澤 賢一郎
第13回	自助具作成					澤 賢一郎
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介					澤 賢一郎
第15回	総復習					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、2回のレポート（15%×2）により評価する。</p>					
教科書	<p>濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.</p>					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論演習	必	寺井 淳	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	総論					寺井 淳
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					寺井 淳
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					寺井 淳
第4回	社会生活行為の支援 教育					寺井 淳
第5回	社会生活行為の支援 就労					寺井 淳
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					寺井 淳
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第11回	まとめ、自助具作成(演習)					寺井 淳
第12回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第13回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介(演習)					寺井 淳
第15回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしてください。 作成自助具の選定や準備について事前に調べ、準備をしておいて下さい。</p>					
課題・評価方法	定期試験 (70%)、レポート (30%)					
教科書	濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論	必	澤 賢一郎	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が上がるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業活動を実施し、作業療法独自の作業分析を行う。また、食事、整容、更衣、排泄、入浴などの動作を運動学視点から分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	動作分析・基本動作の基礎知識					澤 賢一郎
第2回	寝返り動作分析					澤 賢一郎
第3回	起き上がり動作分析					澤 賢一郎
第4回	立ち上がり動作分析					澤 賢一郎
第5回	脳血管障害患者の起居動作について対象者の動作分析					澤 賢一郎
第6回	作業活動の動作分析の視点					澤 賢一郎
第7回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、輪投げの例）					澤 賢一郎
第8回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、ワイピングの例）					澤 賢一郎
第9回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、木工の例）					澤 賢一郎
第10回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、食事の例）					澤 賢一郎
第11回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、更衣の例）					澤 賢一郎
第12回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、排泄の例）					澤 賢一郎
第13回	日常生活活動の動作分析のプレゼン（学生を2つに分け、前半の発表）					澤 賢一郎
第14回	日常生活活動の動作分析プレゼン（後半の発表）					澤 賢一郎
第15回	脳血管障害患者の作業活動の全体のまとめとフィードバック					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な分析視点を理解してください。</p>					
課題・評価方法	<p>レポート90%（対象者の動作分析40%、作業分析15%、日常生活活動の分析15%、プレゼンテーション20%）、小テスト10%</p>					
教科書	<p>山岸茂則：臨床実践 動きのとらえかた、文光堂 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド、医学書院、2012</p>					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>後期：水 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論Ⅰ	必	寺井 淳	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が高まるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業活動を実施し、作業療法独自の作業分析を行う。また、食事、整容、更衣、排泄、入浴などの動作を運動学視点から分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	動作分析・基本動作の基礎知識					寺井 淳
第2回	寝返り動作分析					寺井 淳
第3回	起き上り動作分析					寺井 淳
第4回	立ち上がり動作分析					寺井 淳
第5回	脳血管障害患者の起居動作について対象者の動作分析（演習）					寺井 淳
第6回	作業活動の動作分析の視点					寺井 淳
第7回	作業活動の動作分析					寺井 淳
第8回	作業活動の動作分析					寺井 淳
第9回	作業活動の動作分析プレゼンテーション（演習）					寺井 淳
第10回	食事、整容、更衣の動作分析、評価方法					寺井 淳
第11回	排泄、入浴の動作分析、評価方法					寺井 淳
第12回	日常生活活動の動作分析					寺井 淳
第13回	日常生活活動の動作分析					寺井 淳
第14回	日常生活活動の動作分析プレゼンテーション（演習）					寺井 淳
第15回	脳血管障害患者の作業活動の動作分析（演習）					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な分析視点を理解してください。					
課題・評価方法	レポート90%（対象者の動作分析40%、作業分析15%、日常生活活動の分析15%、プレゼンテーション20%）、授業態度10%					
教科書	山岸茂則：臨床実践 動きのとらえかた。文光堂 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院、2012					
参考書	なし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。学生が記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。学生が記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた1グループ目の発表）					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた2グループ目の発表）					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた3グループ目の発表）					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた4グループ目の発表）					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた5グループ目の発表）					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	小テスト（30%）と成果物（70%）とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表①(演習)					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表②(演習)					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表③(演習)					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表④(演習)					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表⑤(演習)					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習時の授業参加態度(30%)と成果物(70%)とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 総論	必修	辛島 千恵子	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域とは					辛島 千恵子
第2回	地域で生活すること 生と死・生活歴と生活様式					辛島 千恵子
第3回	地域で生活すること 環境と生活様式・生活活動					辛島 千恵子
第4回	ライフステージからみた作業療法の対象者					辛島 千恵子
第5回	地域での作業療法士の役割					辛島 千恵子
第6回	社会保障外の作業療法の対象者					辛島 千恵子
第7回	地域作業療法の理念と目的					辛島 千恵子
第8回	疾病・障害をもちながら地域で暮らすこと					辛島 千恵子
第9回	地域で生活する対象者の例 (がんの啓発イベントに参加する対象者)					辛島 千恵子
第10回	地域で生活する対象者の例 (芸術作品を通して地域に参加する対象者)					辛島 千恵子
第11回	地域で生活する対象者の例 (高齢者向けの健康体操に参加する対象者)					辛島 千恵子
第12回	地域で生活する対象者の例 (語り部活動に参加する対象者)					辛島 千恵子
第13回	学外活動で得たこと					辛島 千恵子
第14回	グループ発表					辛島 千恵子
第15回	グループ発表 全体のまとめ					辛島 千恵子
備考						
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。					
課題・評価方法	レポート課題 (60%)、小テスト (10%)、定期試験 (30%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書 (改訂第3版) 第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時紹介していきます。					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 総論	必修	木岡 和実	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域とは					木岡 和実
第2回	地域で生活すること1 生と死・生活歴と生活様式					木岡 和実
第3回	地域で生活すること2 環境と生活様式・生活活動					木岡 和実
第4回	ライフステージからみた作業療法の対象者					木岡 和実
第5回	地域での作業療法士の役割					木岡 和実
第6回	社会保障外の作業療法の対象者					木岡 和実
第7回	地域作業療法の理念と目的					木岡 和実
第8回	疾病・障害をもちながら地域で暮らすこと					木岡 和実
第9回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第10回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第11回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第12回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第13回	学外活動で得たこと					木岡 和実
第14回	グループ発表					木岡 和実
第15回	グループ発表 全体のまとめ					木岡 和実
備考						
授業時間以外の学習について	<p>教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。</p>					
課題・評価方法	レポート課題（60%）、授業態度（10%）、定期試験（30%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時紹介していきます。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習 I	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	フィールドワーク（対象者への情報収集）					下西 徳
第8回	フィールドワーク（施設職員への情報収集）					下西 徳
第9回	フィールドワーク（対象者と一緒に活動に参加し、参加を通して観察する）					下西 徳
第10回	フィールドワーク（参加後に改めて対象者の主観的な体験を聴取する）					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義、作業療法的な視点のフィードバック					下西 徳
第13回	発表（学生を2つに分け、前半の発表）					下西 徳
第14回	発表（後半の発表）					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習 I	必	前田 浩二	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	地域参加と目的的活動について	前田 浩二				
第2回	風船バレーボール大会に向けて	前田 浩二				
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)	前田 浩二				
第7回	グループワーク後の発表	前田 浩二				
第8回	介護保険など、関連制度について	前田 浩二				
第9回	社会資源サービスと多職種について	前田 浩二				
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)	前田 浩二				
第11回	事例検討(グループワーク)	前田 浩二				
第12回	事例検討(グループワーク)	前田 浩二				
第13回	発表会	前田 浩二				
第14回	発表会	前田 浩二				
第15回	まとめ	前田 浩二				
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（統合失調症）の回復過程の話					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（統合失調症の方）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（うつ病）の回復過程の話					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（うつ病の方）					嶋川 昌典
第6回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（発達障害）の回復過程の話					嶋川 昌典
第7回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（発達障害の方）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演とインタビュー情報の整理					嶋川 昌典
第9回	学生が整理された情報の質疑応答と教員からの作業療法的視点の説明					嶋川 昌典
第10回	フィードバックを受けた情報を入れての課題の再修正					嶋川 昌典
第11回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（統合失調症の方）					嶋川 昌典
第12回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（うつ病の方）					嶋川 昌典
第13回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（発達障害の方）					嶋川 昌典
第14回	ピアカウンセラーの活動の社会的意味と作業療法士との協業					嶋川 昌典
第15回	全体のまとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学演習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	講演①と②についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	講演①と②についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	講演③についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	講演③についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表①					嶋川 昌典
第13回	課題の発表②					嶋川 昌典
第14回	課題の発表③					嶋川 昌典
第15回	課題の発表④					嶋川 昌典
備考	講演①、②、③はピアカウンセラーに来校してもらおう。①は講演、②、③は小グループに分かれてのインタビュー。全て演習であり、課題の発表①～④も演習である。					
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演②と③について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅲ	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					下西 徳
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					下西 徳
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					下西 徳
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					下西 徳
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					下西 徳
第6回	事例検討（介護老人保健施設の対象者の例）					下西 徳
第7回	事例検討（訪問リハを受ける対象者の例）					下西 徳
第8回	プレ面接と評価					下西 徳
第9回	地域在住対象者（対象者の情報収集）					下西 徳
第10回	地域在住対象者（対象者の日常生活面の評価）					下西 徳
第11回	地域在住対象者（対象者への作業を用いた評価）					下西 徳
第12回	情報のまとめ、統合と解釈					下西 徳
第13回	作業療法介入の検討					下西 徳
第14回	グループ発表（学生を半分に分け、前半の発表）					下西 徳
第15回	グループ発表（後半の発表）					下西 徳
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。					
課題・評価方法	レポート課題（80%）、小テスト（20%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅲ	必	前田 浩二	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					前田 浩二
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					前田 浩二
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					前田 浩二
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					前田 浩二
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					前田 浩二
第6回	事例検討					前田 浩二
第7回	事例検討					前田 浩二
第8回	ブレ面接と評価					前田 浩二
第9回	地域在住対象者① (演習)					前田 浩二
第10回	地域在住対象者② (演習)					前田 浩二
第11回	地域在住対象者③ (演習)					前田 浩二
第12回	情報のまとめと事例検討					前田 浩二
第13回	事例検討					前田 浩二
第14回	グループ発表					前田 浩二
第15回	グループ発表 全体のまとめ					前田 浩二
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。					
課題・評価方法	レポート課題 (80%)、授業態度 (20%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	1年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					有田 智氏
第2回	作業実習（ネット手芸・導入、工程の説明）					有田 智氏
第3回	作業実習（ネット手芸・デザインを決め、パーツ毎に柄を作っていく）					有田 智氏
第4回	作業実習（ネット手芸・各パーツの繋ぎ合わせと仕上げ）					有田 智氏
第5回	作業実習（籐細工・導入、工程の説明）					有田 智氏
第6回	作業実習（籐細工・籐の用意と井桁編み）					有田 智氏
第7回	作業実習（籐細工・基本的な編み方の練習）					有田 智氏
第8回	作業実習（籐細工・立ち上げの仕方とかがりの始末）					有田 智氏
第9回	作業実習（革細工・導入、工程の説明）					有田 智氏
第10回	作業実習（革細工・革の裁断と基本的なスタンピングの練習）					有田 智氏
第11回	作業実習（革細工・カービングの技法）					有田 智氏
第12回	作業実習（革細工・色付けの仕方、穴あけ、裏革を貼り付ける）					有田 智氏
第13回	作業実習（革細工・レーシングと始末）					有田 智氏
第14回	作業実習（絵本に込められた発達心理の考えの説明）					有田 智氏
第15回	作業実習（各年齢の発達課題の意味が込められた作品を通じた検討会）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 (社)日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学. 協同医書出版社					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					前田 浩二
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					前田 浩二
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第5回	作業演習（籐細工・導入）					前田 浩二
第6回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第7回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第8回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第9回	作業演習（革細工・導入）					前田 浩二
第10回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第11回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第12回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第13回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第14回	作業演習（絵本分析導入）					前田 浩二
第15回	作業演習（絵本分析）					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、授業態度（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	<p>標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 （社）日本作業療法士協会編者：作業療法学全書第2巻 基礎作業学 協同医書出版社</p>					
オフィスアワー						

水準と臨床実習の教育目標との関係

理学療法評価技術		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
問診・視診・触診・聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科的テスト、脳卒中運動機能検査(Brunnstrom stageなど)、脊髄損傷の評価(ASIAなど)、神経・筋疾患の評価、活動性(歩数計など)、運動耐容能検査(6分間歩行テストなど)、各種発達評価	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目生理・運動機能検査の援助:心肺運動負荷検査、12誘導心電図、スパイロメーター、超音波、表面筋電図を用いた検査、動作解析装置、重心動揺計	障害像・プログラム・予後の対象者・家族への説明 精神・心理検査

理学療法治療技術(運動療法)		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久力トレーニング、運動学習、バランス練習、基本動作練習(起き上がり動作、移乗動作、起立・着座動作、床上動作、発達を促す練習を含む)、移動動作練習(歩行動作、応用歩行動作、階段昇降、プール練習を含む)、日常生活活動練習、手段的日常生活活動練習	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目治療体操、離床練習、発達を促通する手技、排痰法	吸引法、人口呼吸器の操作、生活指導、患者教育

理学療法治療技術(物理療法)		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
ホットパック療法、パラフィン療法、アイスパック療法、渦流浴療法(褥瘡・創傷治療を除く)、低出力レーザー光線療法、EMGバイオフィードバック療法	超音波療法、電気刺激療法(褥瘡・創傷治療、がん治療を除く)、近赤外線療法、紫外線療法、脊椎牽引療法、CPM:持続的他動運動、マッサージ療法、極超短波療法・超短波療法(電磁両立性に留意)、骨髄抑制中の電気刺激療法(TENSなど)	褥瘡・創傷治療に用いて感染のリスクがある場合の治療:水治療法(渦流浴)、電気刺激療法(直流微弱電流、高電圧パルス電気刺激)、近赤外線療法、パルス超音波療法、非温熱パルス電磁波療法、がん治療:がん性疼痛・がん治療有害事象等に対する電気刺激療法(TENS:経皮的電気刺激)

リスク管理技術		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
スタンダードプリコーション、症状(顔色、表情など)・病態の観察、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)の測定、意識レベルの評価、症状・病態の観察、各種モニターの使用(心電図、パルスオキシメーター、筋電図)、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の管理	創部管理、廃用性症候群予防、酸素ボンベの操作、ドレーン・カテーテル留置中の患者の管理、生命維持装置(人工呼吸器、人工心肺装置、人工透析など)装着中の患者の管理、点滴静脈内注射・中心静脈栄養中・経管栄養中の患者	

水準Ⅰ: 指導者の直接監視下で学生により実施される

水準Ⅱ: 指導者の補助として実施されるべき項目および状態

水準Ⅲ: 見学にとどめておくべき項目および状態

	実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	担当教員	第1週							第2週							第3週							第4週						
					月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	2	植田昌治（理学療法学科）										✓																✓		
2	近江八幡市立総合医療センター	近施設	2	分木ひとみ（理学療法学科）											✓															✓		
3	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2	藤谷 亮（理学療法学科）												✓														✓		
4	滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	2	堀 寛史（理学療法学科）													✓													✓		
5	滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2	弘部重信（理学療法学科）												✓														✓		
6	市立長浜病院	近施設	2	宇於崎孝（理学療法学科）														✓												✓		
7	公益財団法人 豊郷病院	近施設	2	治郎丸卓三（理学療法学科）											✓															✓		
8	日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2	宇於崎孝（理学療法学科）																										✓		
9	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2	山内正雄（理学療法学科）													✓													✓		
10	医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2	大西 均（理学療法学科）												✓														✓		
11	医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2	大西 均（理学療法学科）																										✓		
12	一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2	池谷雅江（理学療法学科）														✓												✓		
13	公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	2	宇於崎孝（理学療法学科）														✓												✓		
14	医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2	治郎丸卓三（理学療法学科）												✓														✓		
15	医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2	治郎丸卓三（理学療法学科）												✓														✓		
16	社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2	鈴木美香（理学療法学科）																										✓		
17	地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2	池谷雅江（理学療法学科）															✓											✓		
18	日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2	弘部重信（理学療法学科）												✓														✓		
19	社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	中施設	2	藤谷 亮（理学療法学科）																										✓		
20	医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2	里中綾子（理学療法学科）														✓												✓		
21	医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2	里中綾子（理学療法学科）																										✓		
22	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここちの郷	近施設	2	分木ひとみ（理学療法学科）																										✓		
23	医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2	野口真一（理学療法学科）																										✓		
24	京都大学医学部附属病院	中施設	2	野口真一（理学療法学科）																										✓		
25	公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2	野口真一（理学療法学科）																										✓		
26	医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2	安田 孝志（理学療法学科）																										✓		
27	医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2	安田 孝志（理学療法学科）																										✓		
28	公立甲賀病院	近施設	2	大西 均（理学療法学科）																										✓		
29	医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2	佐々木絵美（理学療法学科）																										✓		
30	医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2	佐々木絵美（理学療法学科）																										✓		
31	医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2	山内正雄（理学療法学科）																										✓		
32	医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2	川崎浩子（理学療法学科）																										✓		
33	医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	2	堀 寛史（理学療法学科）																										✓		
34	医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2	池谷雅江（理学療法学科）																										✓		
35	医療法人 マキノ病院	中施設	2	川崎浩子（理学療法学科）																										✓		
36	医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2	和智道生（理学療法学科）																										✓		
37	社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2	鈴木美香（理学療法学科）																										✓		
38	特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2	弘部重信（理学療法学科）																										✓		
39	医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2	佐々木絵美（理学療法学科）																									✓			
40	社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2	和智道生（理学療法学科）																										✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																	✓				
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																				✓	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																		✓			
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																				✓	
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																				✓	
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																				✓	
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																				✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																					✓	
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																					✓	
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																			✓	✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																				✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																					✓	
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																						✓
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																						✓
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																				✓	✓	
加賀市医療センター	遠施設	1																					✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
枚方総合発達医療センター	中施設	1																			✓		
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓	
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1														✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																			✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																			✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																			✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																			✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
公立甲賀病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																				✓	✓
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																		✓			
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																			✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																			✓	✓	
市立敦賀病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																				✓	
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																				✓	✓
市立敦賀病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																				✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																				✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2											✓														✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2											✓														✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	2												✓																
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2												✓																
公益財団法人近江兄弟社 ウォーリーズ記念病院	近施設	2											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2								✓														✓						
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2									✓														✓					
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週																				
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日														
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓																												✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓																												✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓															✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓														✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週																				
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日														
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2											✓																											✓				
京都大学医学部附属病院	中施設	2											✓																											✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2											✓																												✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓															✓				
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓															✓			
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓														✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓														✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここちの郷	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2											✓																								
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2											✓																								

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1												✓															✓	
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																		✓			
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																		✓			
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団 日野記念病院	近施設	1																				✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																				✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																				✓		
医療法人社団 慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓					
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団 日野記念病院	近施設	1																				✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																				✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																				✓		
医療法人社団 慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓					
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表 (2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓		
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																	✓					
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																				✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
枚方総合発達医療センター	中施設	1																					✓	
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																		✓				
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																					✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																				✓			
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																					✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																					✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓						
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓						
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																					✓			
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																						✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																						✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓							
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓							
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																		✓			
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																		✓			
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
一般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																				✓			
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																				✓	✓		
市立敦賀病院	遠施設	1																				✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
一般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																						✓	
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																						✓	✓
市立敦賀病院	遠施設	1																						✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																		✓	✓		
医療福祉センターきずな	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																		✓	✓		
医療福祉センターきずな	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																		✓			
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																		✓			
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																				✓	
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																	✓				
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																	✓				
医療法人 堤整形外科	近施設	1																	✓				
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																				✓	
長浜市立湖北病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																				✓	
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																		✓			
医療法人 堤整形外科	近施設	1																		✓			
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																					✓
長浜市立湖北病院	中施設	1																					✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																			✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓				
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓				
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																			✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓				
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓				
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																	✓				
宇治徳洲会病院	中施設	1																			✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																	✓				
宇治徳洲会病院	中施設	1																			✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																✓						
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																	✓					
こばやし整形外科	近施設	1																	✓					
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓			
白石クリニック	中施設	1																			✓			
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																✓						
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																	✓					
こばやし整形外科	近施設	1																	✓					
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓			
白石クリニック	中施設	1																			✓			
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いへだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いへだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																				✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																				✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																	✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																				✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																				✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																	✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																	✓	✓			
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																	✓	✓			
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																	✓	✓			
市立敦賀病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																		✓	✓		
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																		✓	✓		
市立敦賀病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1															✓									
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																			✓					
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																			✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1														✓									
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓					
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																		✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2											✓																		✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2											✓																		✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2											✓																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週																	
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日											
市立長浜病院	近施設	2												✓																											
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2													✓																										
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	2													✓																										

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																		✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2								✓														✓						
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2									✓														✓					
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓																			✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓														✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2											✓																	✓				
京都大学医学部附属病院	中施設	2											✓																	✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2										✓																		✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓																		✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓																		✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓																		✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓														✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデ ン伏見	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓																			✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	近施設	2										✓																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)～7月16日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2										✓																	✓	
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2										✓																	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1												✓															✓	
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1											✓																✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓						
公立甲賀病院	近施設	1																				✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓						
公立甲賀病院	近施設	1																				✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																				✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																				✓	
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																				✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																				✓	
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																		✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																	✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
彦根市立病院	近施設	1									✓																			✓					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1										✓																			✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1												✓																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1												✓																			✓		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1									✓																	✓							
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1									✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1								✓																			✓						
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1											✓																			✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1								✓																			✓						
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1												✓																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1												✓																
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1									✓																			
市立長浜病院	近施設	1										✓																		
公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1												✓																

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1										✓														✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1							✓													✓								
一般社団法人 水口病院	近施設	1											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
高島市民病院	中施設	1								✓															✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓															✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓															✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓															✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓															✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓															✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓															✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓														✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓													✓							
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓													✓			
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓													✓						
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓													✓					
公立甲賀病院	近施設	1												✓													✓			
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓													✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																	✓				
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1															✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1																		✓			
一般社団法人 水口病院	近施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1															✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1																		✓			
一般社団法人 水口病院	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1															✓						
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1															✓						
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																		✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																				✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
彦根市立病院	近施設	1									✓																			✓					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1												✓																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1										✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1												✓																			✓		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1									✓																	✓							
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1									✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1								✓														✓						
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1											✓														✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1								✓														✓						
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1											✓														✓			
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1								✓													✓							
市立長浜病院	近施設	1									✓													✓						
公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1											✓																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1								✓																		✓						
一般社団法人 水口病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)～7/30(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
高島市民病院	中施設	1								✓															✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓															✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓															✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓															✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓															✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓															✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓															✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓																		✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓																		✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓																		✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓																		✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓																		✓				
公立甲賀病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓																		✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 藤谷 亮
 3. 職位・区分 講師（実研）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）×2（里中、藤谷、安田）
 神経障害系理学療法学実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）
 理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）
 運動学実習（2年後期 1単位 30時間）（藤谷、安田）
 神経障害系理学療法学実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	藤谷（3年 神経障害系理学療法学実習Ⅱ）A	研究日	藤谷（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	藤谷（3年 神経障害系理学療法学実習Ⅱ）B	研究日	藤谷（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	藤谷（3年 理学療法評価学演習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	藤谷（3年 理学療法評価学演習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	藤谷（2年 運動学実習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	藤谷（2年 運動学実習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	藤谷（3年 神経障害系理学療法学演習Ⅱ）A	藤谷（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	藤谷（3年 神経障害系理学療法学演習Ⅱ）B	学内業務	藤谷（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 大西 均
 3. 職位・区分 准教授（実研）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

義肢装具学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）
 理学療法評価学実習（2年前期 2単位 60時間）×2（宇於崎、大西均）
 運動器障害系理学療法実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均、前川（兼任））
 義肢装具学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）
 運動器障害系理学療法実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）×2
 フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（大西均、治郎丸、佐藤）
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	大西均（2年 理学療法評価学実習）A	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 運動器障害系理学療法実習）
2限目（10：40～12：10）	大西均（2年 理学療法評価学実習）B	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 運動器障害系理学療法実習）
3限目（13：00～14：30）	大西均（2年 義肢装具学Ⅰ）A	学内業務	大西均（2年 理学療法評価学実習）A	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	大西均（2年 義肢装具学Ⅰ）B	学内業務	大西均（2年 理学療法評価学実習）B	研究日	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	大西均（2年 運動器障害系理学療法実習Ⅰ）A	研究日	学内業務	大西均（2年 義肢装具学Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	大西均（3年 フィットネス論）	研究日	学内業務	大西均（2年 義肢装具学Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	大西均（2年 運動器障害系理学療法実習Ⅰ）B	研究日	学内業務	大西均（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前 神経筋骨格障害応用論実習（4年前期 2単位 90時間）
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 安田 孝志
 3. 職位・区分 准教授（実研）
 4. 担当科目

前期 15週 後期 15週

運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）（里中、藤谷、安田）
 義肢装具学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）
 運動器障害系理学療法学演習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均、前川（兼任））
 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）（安田、池谷）
 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）兼任
 運動学実習（2年後期 1単位 30時間）（安田、藤谷）×2
 義肢装具学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）
 障がい者スポーツ論（3年後期 1単位 15時間）×2
 ゴルフトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）（宇於崎、安田、奥村（兼任））
 ロボット工学地域活用論基礎（3年後期 1単位 15時間）
 ロボット工学地域活用論応用（3年後期 2単位 30時間）
 リハビリテーション総合
 演習（3年後期 1単位
 30時間）
 理学療法総合演習（4年
 後期 1単位 30時間）
 障がい者スポーツ論（3
 年後期 1単位 15時
 間）兼任

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	安田（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	安田（3年 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	安田（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	安田（3年 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	安田（2年 義肢装具学Ⅰ）A	研究日	安田（4年 障がい者スポーツ論実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	安田（2年 義肢装具学Ⅰ）B	研究日	安田（4年 障がい者スポーツ論実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安田（2年 運動学実習）A	研究日	安田（3年ロボット工学地域活用論基礎・応用）	学内業務	安田（2年 義肢装具学Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	安田（2年 運動学実習）B	研究日	安田（3年 ゴルフトレーニング論）	安田（3年 障がい者スポーツ論）兼任	安田（2年 義肢装具学Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	安田（3年 障がい者スポーツ論）A	研究日	学内業務	安田（3年 リハビリテーション総合演習）	安田（3年ロボット工学地域活用論基礎・応用）
4限目（14：40～16：10）	安田（3年 障がい者スポーツ論）B	研究日	学内業務	学内業務	安田（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 治郎丸 卓三
 3. 職位・区分 准教授（実研）
 4. 担当科目 運動療法学（2年前期 1単位 30時間）× 2

前期 15週

後期 15週

スポーツ障害系理学療法実習（2年後期 1単位 30時間）× 2
 パフォーマンス向上論（3年後期 1単位 15時間）
 フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（佐藤、治郎丸、大西均）
 ランニングトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	治郎丸（2年 運動療法学）A	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	治郎丸（2年 運動療法学）B	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	治郎丸（3年 パフォーマンス向上論）	治郎丸（3年 ランニングトレーニング論）	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	治郎丸（3年 フィットネス論）	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	治郎丸（2年 スポーツ障害系理学療法実習）A	学内業務	研究日	治郎丸（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	治郎丸（2年 スポーツ障害系理学療法実習）B	学内業務	研究日	学内業務	治郎丸（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

スポーツ障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）（宇崎、治郎丸）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 山内 正雄

3. 職位・区分 教授（実研）

4. 担当科目 理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）× 2（山内、分木、藤谷）

徒手理学療法学（3年前期 1単位 15時間）× 2

運動学Ⅰ（1年後期 1単位 30時間）× 2

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法管理学（4年後期 1単位 15時間）× 2

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	山内（3年 徒手理学療法学）A	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	山内（3年 徒手理学療法学）B	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	山内（3年 理学療法評価学演習）A	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	山内（3年 理学療法評価学演習）B	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	山内（1年 運動学Ⅰ）A	山内（4年 理学療法管理学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	山内（1年 運動学Ⅰ）B	山内（4年 理学療法管理学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	山内（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	山内（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

（山内、池谷、宇於崎、大西均）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 野口 真一
 3. 職位・区分 講師（実専）
 4. 担当科目 救急援助論（2年後期 1単位 15時間）× 2
 救急援助論（2年後期 1単位 15時間） 兼担

前期 15週

後期 15週

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期後半 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	野口（2年 救急援助論）A	野口（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	野口（2年 救急援助論）兼担	研究日	野口（2年 救急援助論）B	学内業務	野口（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 池谷 雅江

3. 職位・区分 講師（実専）

4. 担当科目 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）（安田、池谷、大西満(兼任)）

運動療法学実習（2年後期 1単位 30時間）

体力測定論（3年後期 0.4単位 16時間）（分木、鈴木美、池谷）

健康増進実践演習（3年後期 0.3単位 10時間）（分木、鈴木美、池谷）

健康増進実践実習（3年後期 0.3単位 8時間）（分木、鈴木美、池谷）

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間）

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	池谷（4年 障がい者スポーツ論実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	池谷（4年 障がい者スポーツ論実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	池谷（3年 健康増進実践演習、実習）	池谷（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	池谷（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	池谷（2年 運動療法学実習）A	研究日	池谷（4年 協働連携論総合実習）	池谷（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	池谷（2年 運動療法学実習）B	研究日	池谷（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	池谷（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

（山内、宇於崎、大西均、池谷）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 弘部 重信

3. 職位・区分 講師（実専）

4. 担当科目 地域包括ケア論（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）

理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）×2（藤谷、山内、弘部）

内部障害理学療法実習Ⅰ（3年前期 1単位 30時間）×2

内部障害理学療法実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2

地域理学療法実習（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法総合演習（4年後期後半 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	弘部（3年 地域理学療法実習）A	弘部（3年 地域包括ケア論）A	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）A	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	弘部（3年 地域理学療法実習）B	弘部（3年 地域包括ケア論）B	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）B	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	弘部（3年 理学療法評価学演習）A	学内業務	学内業務	研究日	研究日
4限目（14：40～16：10）	弘部（3年 理学療法評価学演習）B	学内業務	学内業務	研究日	研究日
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	研究日

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	弘部（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	弘部（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法評価実習 3前

内部障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 鈴木 美香
 3. 職位・区分 講師（実専）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

予防医学（3年前期 1単位 15時間）×2（山川、鈴木、分木）
 地域包括ケア論（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）
 地域理学療法実習（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木美・弘部）
 体力測定論（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）
 健康増進実践演習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）
 健康増進実践実習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	鈴木美（3年 地域理学療法実習）A	鈴木美（3年 地域包括ケア論）A	鈴木美（3年 予防医学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	鈴木美（3年 地域理学療法実習）B	鈴木美（3年 地域包括ケア論）B	鈴木美（3年 予防医学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	鈴木美（3年前半 予防医学）兼任
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	鈴木美（3年 健康増進実践演習、実習）	鈴木美（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	鈴木美（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	学内業務	オフィスアワー	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 川崎 浩子
 3. 職位・区分 講師（実専）
 4. 担当科目 日常生活活動学（2年前期 1単位 30時間）× 2
 臨床技能論実習（3年前期 1単位 15時間）× 2
 理学療法評価学（1年後期 1単位 30時間）× 2
 地域理学療法学（2年後期 1単位 15時間）× 2
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	川崎（3年 臨床技能論実習）A	学内業務	研究日	学内業務	川崎（2年 日常生活活動学）A
2限目（10：40～12：10）	川崎（3年 臨床技能論実習）B	学内業務	研究日	学内業務	川崎（2年 日常生活活動学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	地域理学療法学Ⅱ （専門学校での授業）	研究日	川崎（2年 地域理学療法学）A	川崎（1年 理学療法評価学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	川崎（2年前 地域理学療法学）B	川崎（1年 理学療法評価学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	川崎（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 宇於崎 孝
 3. 職位・区分 准教授（実専）

前期 15週 後期 15週

4. 担当科目 理学療法評価学実習（2年前期 2単位 60時間）× 2（宇於崎、大西均）
 基礎理学療法実習Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）× 2
 徒手理学療法実習（3年後期 1単位 30時間）× 2
 ゴルフトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	宇於崎（1年 基礎理学療法実習Ⅱ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	宇於崎（1年 基礎理学療法実習Ⅱ）B	研究日	宇於崎（3年 ゴルフトレーニング論）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	宇於崎（3年 徒手理学療法実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	宇於崎（3年 徒手理学療法実習）B	学内業務	宇於崎（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

臨地実務実習以外の学外実習

- 神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）
 スポーツ障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 佐々木 絵美
 3. 職位・区分 助教（専）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 和智 道夫
 3. 職位・区分 講師（専）
 4. 担当科目 画像評価学（2年後期 1単位 15時間）×2
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	和智（2年 画像評価学）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	和智（2年 画像評価学）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	和智（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	和智（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

スポーツ障害応用論実習
 （4年後期 2単位 90時間）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 佐藤 隆彦

3. 職位・区分 准教授（専）

4. 担当科目 体育（1年後期 1単位 30時間）×2 選択 ※体育は3、4限続きで行う場合がある。

生涯スポーツ論（1年前期 1単位 15時間）×2

運動生理学演習（2年後期 1単位 30時間）

フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（大西均、治郎丸、佐藤）

体育（1年後期 1単位 30時間） 選択 兼任

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（1年 生涯スポーツ論）A
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（1年 生涯スポーツ論）B
16：10～17：15	オフィスパワー	学内業務	学内業務	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（2年 運動生理学演習）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	佐藤（3年 フィットネス論）	学内業務	研究日	佐藤（2年 運動生理学演習）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	佐藤（1年 体育）A、B	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	佐藤（1年 体育）兼任	佐藤（1年 体育）A、B	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスパワー	学内業務	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 兼清 健志
 3. 職位・区分 准教授（専）
 4. 担当科目 栄養学（1年前期 1単位 15時間）× 2
 栄養学（1年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	兼清（1年前半 栄養学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	兼清（1年前半 栄養学）兼任	兼清（1年前半 栄養学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 分木 ひとみ
 3. 職位・区分 准教授（専）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

学びの基盤（1年前期 1単位 15時間）× 2
 リハビリテーション概論（1年前期 1単位 30時間）× 2
 予防医学（3年前期 1単位 15時間）× 2（山川、鈴木、分木）
 体力測定論（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）
 健康増進実践演習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）
 健康増進実践実習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）
 遊びとレクリエーション（3年後期 1単位 15時間）
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間）
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	分木（1年前半 学びの基盤）A	研究日	学内業務	分木（3年 予防医学）A	分木（1年 リハビリテーション概論）A
2限目（10：40～12：10）	分木（1年前半 学びの基盤）B	研究日	学内業務	分木（3年 予防医学）B	分木（1年 リハビリテーション概論）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	分木（3年前半 予防医学）兼任
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	分木（3年 健康増進実践演習、実習）	分木（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	分木（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	分木（4年 協働連携論総合実習）	分木（3年 リハビリテーション総合演習）	分木（3年 遊びとレクリエーション）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	分木（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	分木（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 里中 綾子
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

基礎理学療法Ⅱ（1年前期 1単位 15時間）× 2
 運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）× 2（里中、藤谷、安田）
 基礎理学療法研究法（3年前期 1単位 15時間）× 2
 基礎理学療法実習Ⅰ（1年後期 1単位 30時間）× 2
 小児期理学療法実習Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）× 2

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	里中（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	里中（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	里中（1年 基礎理学療法Ⅱ）A	研究日	里中（3年前半 基礎理学療法研究法）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	里中（1年 基礎理学療法Ⅱ）B	研究日	里中（3年前半 基礎理学療法研究法）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	里中（2年 小児期理学療法実習Ⅱ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	里中（2年 小児期理学療法実習Ⅱ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	里中（1年 基礎理学療法実習Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	里中（1年 基礎理学療法実習Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 堀 寛史
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

哲学入門（1年前期 1単位 15時間）× 2
 画像評価学（2年後期 1単位 15時間）× 2（堀、和智）
 物理療法学（2年前期 1単位 15時間）× 2
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	堀（1年 哲学入門）A	堀（2年 物理療法学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	堀（1年 哲学入門）B	堀（2年 物理療法学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	堀（2年前半 画像評価学）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	堀（2年前半 画像評価学）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	堀（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	堀（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前
 理学療法見学実習Ⅱ 1後
 理学療法見学実習Ⅲ 2前
 理学療法評価実習 3前
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 植田 昌治

3. 職位・区分 教授（専）

4. 担当科目 基礎理学療法Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）×2

日常生活活動学（2年前期 1単位 30時間）×2

地域理学療法学（2年後期 1単位 15時間）×2

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（2年 日常生活活動学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（2年 日常生活活動学）B
3限目（13：00～14：30）	植田（1年 基礎理学療法Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	植田（1年 基礎理学療法Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	植田（2年前半 地域理学療法学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	植田（2年前半 地域理学療法学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	植田（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 中野 法彦
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 生物学（1年前期 1単位 15時間）× 2
 生物学（1年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	中野（1年前半 生物学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	中野（1年前半 生物学）兼任	中野（1年前半 生物学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 篠田 恵一

3. 職位・区分 教授（専）

4. 担当科目 内科学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）× 2

内科学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）兼任

内科学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）× 2

内科学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）兼任

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	研究日	篠田（2年 内科学Ⅰ）兼任	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	篠田（2年 内科学Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	篠田（2年 内科学Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	研究日	篠田（2年 内科学Ⅱ）兼任	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	篠田（2年 内科学Ⅱ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	篠田（2年 内科学Ⅱ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 金沢 伸彦
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 整形外科学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）×2
 整形外科学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）兼任
 整形外科学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）×2
 整形外科学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）兼任	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）兼任	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 山田 久夫
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 解剖学Ⅰ（1年前期 2単位 60時間）× 2

前期 15週

後期 15週

- 解剖学Ⅱ（1年後期 2単位 60時間）× 2
 解剖学Ⅲ（1年後期 1単位 30時間）× 2

解剖学Ⅱ終了後、
 解剖学Ⅲ

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅰ） A	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅰ） B	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅰ） A	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅰ） B	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科
 2. 氏名 山川 正信
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 予防医学（3年前期 1単位 15時間）×2クラス
 予防医学（3年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	山川（3年 予防医学） A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	山川（3年 予防医学） B	山川（3年前半 予防医学）兼任
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科	作業療法学科	前期 15週	後期 15週
2. 氏名	下西 徳		
3. 職位・区分	講師（実専）		
4. 担当科目	住環境支援論（3年前期 1単位 30時間） 生活行為向上マネジメント論実習（3年前期 1単位 30時間） 地域生活作業療法学実習Ⅲ（3年前期 1単位 30時間）	前期 3コマ/週	
	地域包括ケア論（2年後期 1単位 30時間） 中枢神経疾患作業療法学実習（2年後期 1単位 30時間） 身体障害作業療法基礎技術論（2年後期 1単位30） 地域生活作業療法学実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間） 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）		後期 5コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	下西（3年 住環境支援論）	学内業務	研究日	学内業務	下西（3年 地域生活作業療法学実習Ⅲ）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	下西（3年 生活行為向上マネジメント論実習）	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	下西（2年 中枢神経疾患作業療法学実習）	学内業務	研究日	学内業務	下西（2年 身体障害作業療法基礎技術論）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	下西（2年 地域生活作業療法学実習Ⅰ）	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	下西（2年 地域包括ケア論）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	下西（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスパワー	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ	1後
作業療法見学実習Ⅱ	2前
作業療法評価実習	3前
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前
作業療法地域実習	4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週
 2. 氏名 澤 賢一郎
 3. 職位・区分 講師（専）
 4. 担当科目

社会生活行為論実習（2年前期 1単位 30時間）
 高次脳機能障害作業療法実習（3年前期 1単位 30時間）
 老年期障害作業療法実習（3年前期 1単位 30時間）
 基礎作業学実習Ⅰ（1年前期 1単位 30時間） 前期 4コマ/週
 作業療法評価学総論（1年後期 1単位 30時間）
 作業分析活用論（2年後期 1単位 30時間）
 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間） 後期 3コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	澤（1年 基礎作業学実習Ⅰ）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	澤（3年 老年期障害作業療法実習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	澤（2年 社会生活行為論実習）	研究日	学内業務	学内業務	澤（3年 高次脳機能障害作業療法実習）
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	澤（2年 作業分析活用論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	澤（1年 作業療法評価学総論）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	澤（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後
 作業療法見学実習Ⅱ 2前
 作業療法評価実習 3前
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週

2. 氏名 有田 智氏

3. 職位・区分 助教（実専）

4. 担当科目 運動学実習（2年前期 1単位 30時間）
 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）
 日常生活活動論実習（2年前期 1単位 30時間） 前期 3コマ/週

基礎作業学実習Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間） 後期 3コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	有田（2年 運動学実習）	有田（2年 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ）	有田（2年 日常生活活動論実習）	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	有田（1年後期 基礎作業学実習Ⅱ）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	有田（4年 協働連携論総合実習）	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	有田（5年 協働連携論総合実習）	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後
 作業療法見学実習Ⅱ 2前
 作業療法評価実習 3前
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 杉本 久美子

3. 職位・区分 助教（実専）

4. 担当科目 作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間）

作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）

後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	杉本（4年 作業療法総合実習Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	杉本（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後

作業療法見学実習Ⅱ 2前

作業療法評価実習 3前

作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後

作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前

作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 木岡 和実
 3. 職位・区分 助教（実専）
 4. 担当科目 作業療法総合演習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間）
 作業療法総合演習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）

前期 15週 後期 15週

後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	木岡（4年 作業療法総合演習Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	木岡（4年 作業療法総合演習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

- 作業療法見学実習Ⅰ 1後
 作業療法見学実習Ⅱ 2前
 作業療法評価実習 3前
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 作業療法地域実習 4前

1. 学科	作業療法学科	前期 15週	後期 15週
2. 氏名	嶋川 昌典		
3. 職位・区分	助教(実研)		
4. 担当科目	基礎作業学(1年前期 1単位 15時間)		
	精神障害作業療法評価学実習(2年前期 1単位 30時間)		
	精神障害作業療法実習(3年前期 1単位 30時間)	前期 3コマ/週	
	精神障害作業療法(2年後期 1単位 30時間)		
	作業分析活用論実習(2年後期 1単位 30時間)		
	地域生活作業療法実習Ⅱ(2年後期 1単位 30時間)		
	作業療法総合実習Ⅰ(4年後期 1単位 30時間)		後期 4コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	嶋川(2年 精神障害作業療法評価学実習)
2限目(10:40~12:10)	学内業務	学内業務	嶋川(3年前期 精神障害作業療法実習)	研究日	学内業務
3限目(13:00~14:30)	嶋川(1年前半 基礎作業学)	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目(14:40~16:10)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16:10~17:15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目(10:40~12:10)	嶋川(2年 精神障害作業療法)	学内業務	嶋川(2年 作業分析活用論実習)	研究日	学内業務
3限目(13:00~14:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	嶋川(4年 作業療法総合実Ⅰ)
4限目(14:40~16:10)	学内業務	嶋川(2年 地域生活作業療法実習Ⅱ)	学内業務	研究日	学内業務
16:10~17:15	学内業務	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ	1後
作業療法見学実習Ⅱ	2前
作業療法評価実習	3前
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前
作業療法地域実習	4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週

2. 氏名 安部 征哉

3. 職位・区分 講師（実研）

4. 担当科目 学びの基盤（1年前期 1単位 15時間）

運動学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）

身体障害作業療法評価学実習Ⅰ（2年前期 1単位 30時間） 前期 3コマ/週

運動学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）

運動器疾患作業療法実習（2年後期 1単位 30時間）

作業療法義肢装具実習（2年後期 1単位 30時間）

作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間） 後期 4コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安部（1年前半 学びの基盤）	学内業務	研究日	学内業務	安部（1年 運動学Ⅰ）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	安部（2年 身体障害作業療法評価学実習Ⅰ）	学内業務
16：10～17：15	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務	オフィスアワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安部（2年後期 運動器疾患作業療法実習）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	安部（2年後期 作業療法義肢装具実習）	研究日	学内業務	安部（4年 作業療法総合実Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	安部（1年後期 運動学Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後

作業療法見学実習Ⅱ 2前

作業療法評価実習 3前

作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後

作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前

作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週

2. 氏名 大西 満

3. 職位・区分 准教授（実研）

4. 担当科目 リハビリテーション概論（1年前期 1単位 30時間）
 作業療法学総論（1年前期 1単位 30時間）
 子育て支援論（2年前期 1単位 15時間）
 子育て支援論（2年前期 1単位 15時間） ※PT兼任
 障がい者スポーツ論実習（4年前期 0.2単位 2時間）
 発達障害作業療法評価学実習（2年前期 1単位 30時間） 前期 5.2コマ/週
 作業療法と倫理（1年後期 1単位 15時間）
 作業療法管理・制度論（1年後期 1単位 15時間）
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間）
 作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間）
 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間） 後期 6コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	大西満（4年 障がい者スポーツ論実習 1コマ）	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	大西満（2年前半 子育て支援論）	研究日	大西満（2年 リハビリテーション概論）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	大西満（2年前半 子育て支援論PT） 兼任	研究日	学内業務	作業療法学総論（1年 作業療法学総論）	大西満（2年 発達障害作業療法評価学実習）
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	大西満（1年 作業療法と倫理）	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	大西満（1年 作業療法管理・制度論）	研究日	大西満（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	大西満（4年 作業療法総合実Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	大西満（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	大西満（4年 作業療法総合実Ⅱ）
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

作業療法評価実習 3前
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 鈴木 規己洋
 3. 職位・区分 准教授（専）
 4. 担当科目 英語Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）
 英語Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）兼任
 英語Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）選択
 英語Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）兼任 選択

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）兼任A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）兼任B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）選択	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）兼任A 選択
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）兼任B 選択
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 埜田 和史
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 身体障がい者就労環境論（3年後期 2単位 30時間）
 労働衛生論（1年後期 1単位 15時間）× 2 兼任
 身体障がい者就労環境論（3年後期 2単位 30時間）選択 兼任

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	埜田（3年 労働衛生論）兼任A	学内業務	埜田（3年 身体障がい者就労環境論）
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	埜田（3年 労働衛生論）兼任B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	埜田（3年 身体障がい者就労環境論）兼任	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 井出 千束
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 解剖学Ⅱ（1年後期 2単位 60時間）

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	井出（1年 解剖学Ⅱ）	井出（1年 解剖学Ⅱ）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週
 2. 氏名 辛島 千恵子
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目

地域生活作業療法学総論（2年前期 1単位 30時間）
 発達障害作業療法学実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）
 作業療法研究法（3年前期 1単位 15時間）
 家族援助論（3年前期 1単位 15時間） 前期 4コマ/週
 発達障害作業療法学実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間） 後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	辛島（3年 発達障害作業療法学実習Ⅱ）	学内業務	辛島（3年 家族援助論）	辛島（2年 地域生活作業療法学総論）
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	辛島（3年 作業療法研究法）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	辛島（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	辛島（5年 協働連携論総合実習）	辛島（2年 発達障害作業療法学実習Ⅰ）	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

作業療法評価実習 3前
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 田中 弘一郎
 3. 職位・区分 教授（専）
 4. 担当科目 薬理学概論（1年後期 1単位 15時間）
 薬理学概論（1年後期 1単位 15時間）× 2 兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	研究日	田中（1年前半 薬理学概論）兼任A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	田中（1年前半 薬理学概論）兼任B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	田中（1年前半 薬理学概論）	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 外池 光雄
 3. 職位・区分 教授(専)

前期 15週 後期 15週

4. 担当科目

物理学Ⅰ(1年前期 1単位 15時間)

数学(1年前期 1単位 15時間)

物理学Ⅰ(1年前期 1単位 15時間) 兼任

数学(1年前期 1単位 15時間) 兼任

物理学Ⅱ(1年後期 1単位 15時間) ※選択

統計学(2年後期 1単位 15時間)

物理学Ⅱ(1年後期 1単位 15時間) ※選択 兼任

統計学(2年後期 1単位 15時間) 兼任

福祉工学地域活用論(3年後期 1単位 15時間) 兼任

前期 3コマ/週
※PT2クラス

後期 4コマ/週
※PT2クラス

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	外池(1年前半 数学Ⅰ)	学内業務	外池(1年前半 物理学Ⅰ) 兼任A	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	学内業務	学内業務	外池(1年前半 物理学Ⅰ) 兼任B	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	外池(1年前半 数学) 兼任A	学内業務	外池(1年前半 物理学Ⅰ)	学内業務
4限目(14:40~16:10)	研究日	外池(1年前半 数学) 兼任B	学内業務	学内業務	学内業務
16:10~17:15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会(月1回)

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	外池(1年前半 統計学) 兼任A	学内業務	外池(1年前半 統計学)	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	外池(1年前半 統計学) 兼任B	学内業務	学内業務	外池(3年 福祉工学地域活用論) 兼任 選択
3限目(13:00~14:30)	研究日	外池(1年前半 物理学Ⅱ) 兼任A 選択	学内業務	外池(1年前半 物理学Ⅱ) 選択	学内業務
4限目(14:40~16:10)	研究日	外池(1年前半 物理学Ⅱ) 兼任B 選択	学内業務	学内業務	学内業務
16:10~17:15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会(月1回)

1. 学科 作業療法学科
 2. 氏名 三谷 章
 3. 職位・区分 教授(専)
 4. 担当科目 生理学Ⅰ(1年前期 2単位 60時間)
 生理学Ⅰ(1年前期 2単位 60時間) 兼任×2
 生理学Ⅱ(1年後期 2単位 60時間)
 生理学Ⅱ(1年後期 2単位 60時間) × 2

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任A	学内業務	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任A	三谷(1年 生理学Ⅰ)
4限目(14:40~16:10)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任B	三谷(1年 生理学Ⅰ)	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任B	学内業務
16:10~17:15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会(月1回)

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任A	学内業務	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任A	三谷(1年 生理学Ⅱ)
4限目(14:40~16:10)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任B	三谷(1年 生理学Ⅱ)	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任B	学内業務
16:10~17:15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会(月1回)

1. 学科 作業療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 野田 亨

3. 職位・区分 教授（専）

4. 担当科目 解剖学Ⅰ（1年前期 2単位 60時間） 前期 2コマ/週

解剖学Ⅲ（1年後期 1単位 30時間） 後期 1コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	野田（1年 解剖学Ⅰ）	学内業務	野田（1年 解剖学Ⅰ）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	野田（1年 解剖学Ⅲ）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

びわこリハビリテーション専門職大学

非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学から委嘱を受け講義又は演習等で教育指導を行う者（以下「非常勤講師」という。）、また講義、演習又は実習等で教育指導の補助をする者（以下「非常勤実験実習助手」という。）の任用等について、必要な事項を定めるものとする。

(書類)

第2条 非常勤講師及び非常勤実験実習助手（以下「非常勤講師等」という。）を選考するときは、学科長は、あらかじめ次の必要書類を事務部に提出しなければならない。

- 一 履歴書
- 二 資格証明書等の写し
- 三 その他必要と認める書類

(委嘱及び任用)

第3条 非常勤講師は、教授会の議を経て、学長が委嘱する。

2 非常勤実験実習助手は、学科会議で選考し、学長が委嘱する。

3 学長は、前2項の結果を理事長に報告し、理事長が非常勤講師及び非常勤実験実習助手を任用する。

(任用期間)

第4条 非常勤講師等の任用期間は、原則として1年以内とする。

(講師料)

第5条 非常勤講師等の講師料は、別表1の時間単価に基づき支給する。ただし、90分授業は2時間として算出する。

2 前項の規定にかかわらず、職歴、取得資格等で特別な事情がある場合は、学長の承認のもと、非常勤講師等の講師料を定めることができる。

(交通費等)

第6条 非常勤講師等の交通費及び宿泊費は、本学の教育指導に要した分の実費を支給する。

(職務専念義務)

第7条 非常勤講師等は、本学の理念と目的を理解し、その職務に専念しなければならない。

(守秘義務)

第8条 非常勤講師等は、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

2 前項の規定は、任用期間が終了した後にも、これを適用する。

(規程の改廃)

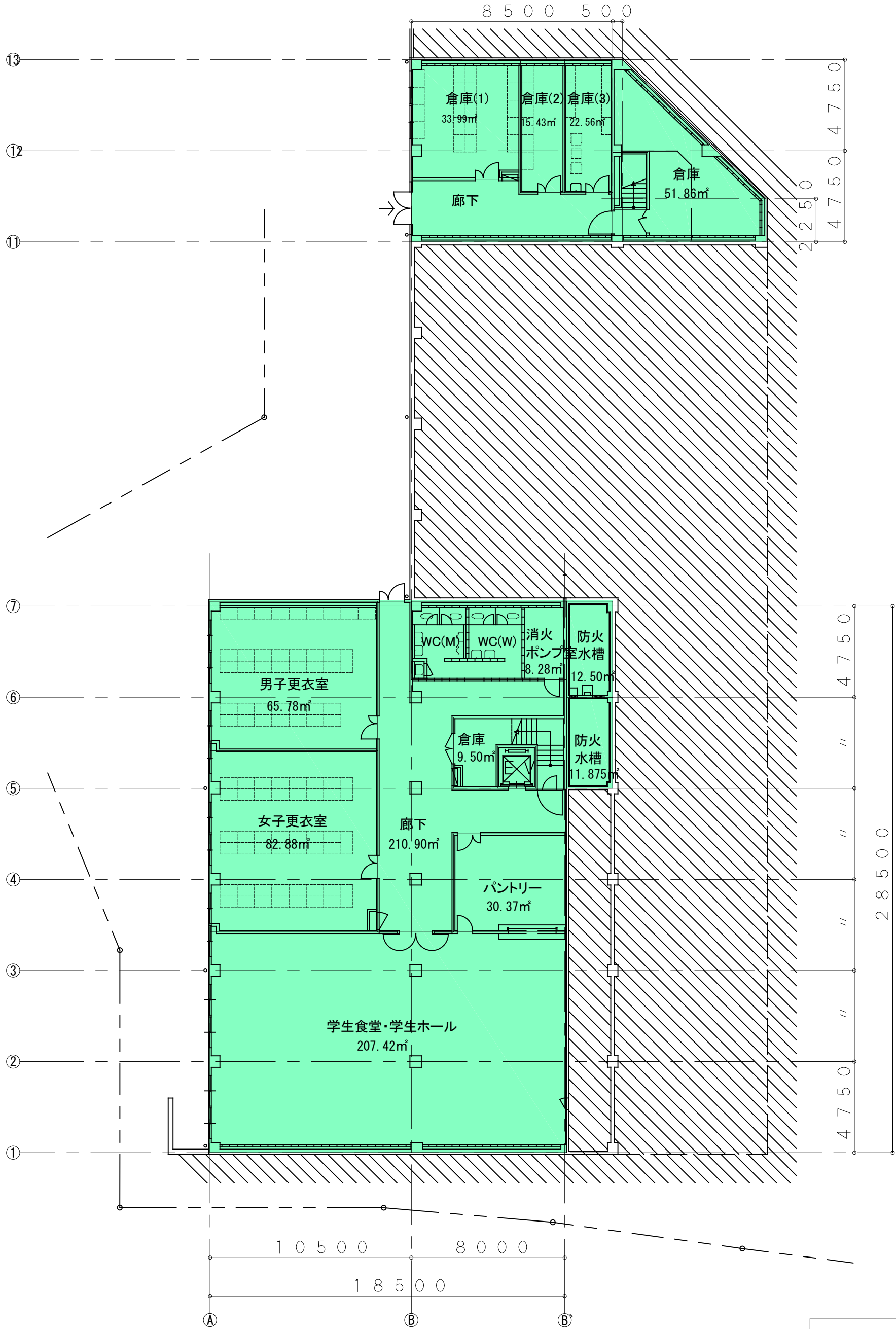
第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が裁定する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

別表 1

任 用 資 格 等	単価（1時間当たり）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学の教授として発令された者、および大学の名誉教授の称号を有する者 ○ 専門分野において特に優れた知識及び経験を有する者 ○ 医師その他特殊な国家資格等を有している者 	12,000円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・短期大学の助教、講師、准教授及び教授、または専門学校の教員として発令された者 ○ 専門分野において優れた知識及び経験を有する者 ○ 特殊な国家資格等を有している者 ○ 専門分野において、相当の実務又は臨床経験及び技能を有し、教育指導できる者 	8,000円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 非常勤実験実習助手（非常勤講師以外で授業を補助する者）のうち、以下の資格を持つ者 <ul style="list-style-type: none"> ① 助産師（臨床経験3年以上） 	2,500円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 非常勤実験実習助手（非常勤講師以外で授業を補助する者） ○ 学士もしくは同等の経歴を有し、当該講義・実験・実習の補助業務ができる能力がある者 	2,000円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校法人藍野大学の別設置校に本務を置く者 	1,250円

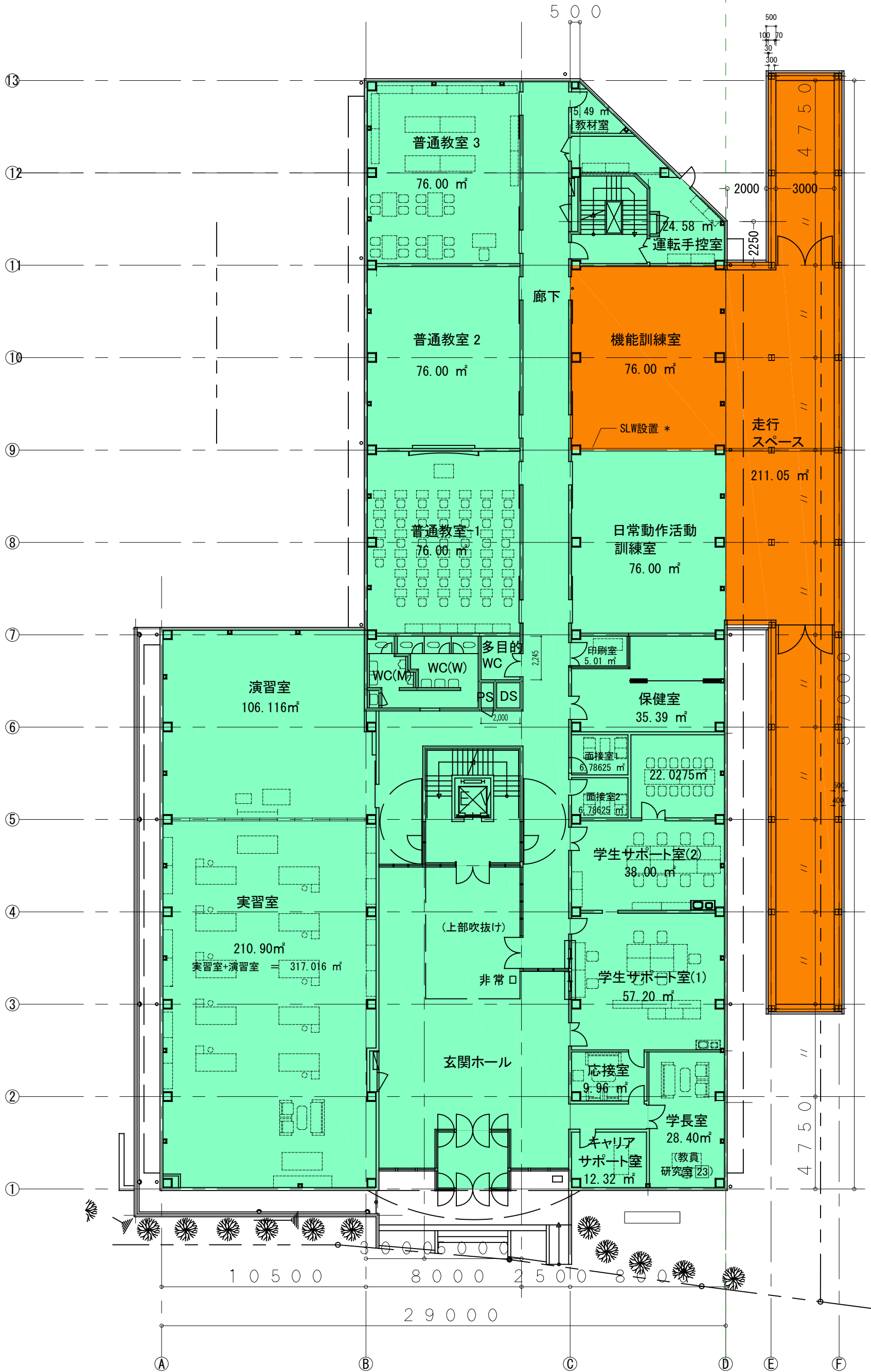


B1F 平面図

- 専門職大学・専門学校 共用
705.44 ㎡
- 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用
0 ㎡
- 専門職大学作業療法学科・専門学校 作業療法学科 共用
0 ㎡

◆ 確認申請上 延べ 床面積
5854.28 ㎡

◆ 確認申請上 BF 床面積
705.44 ㎡



■ 専門職大学・専門学校 共用
1036.2025 m²

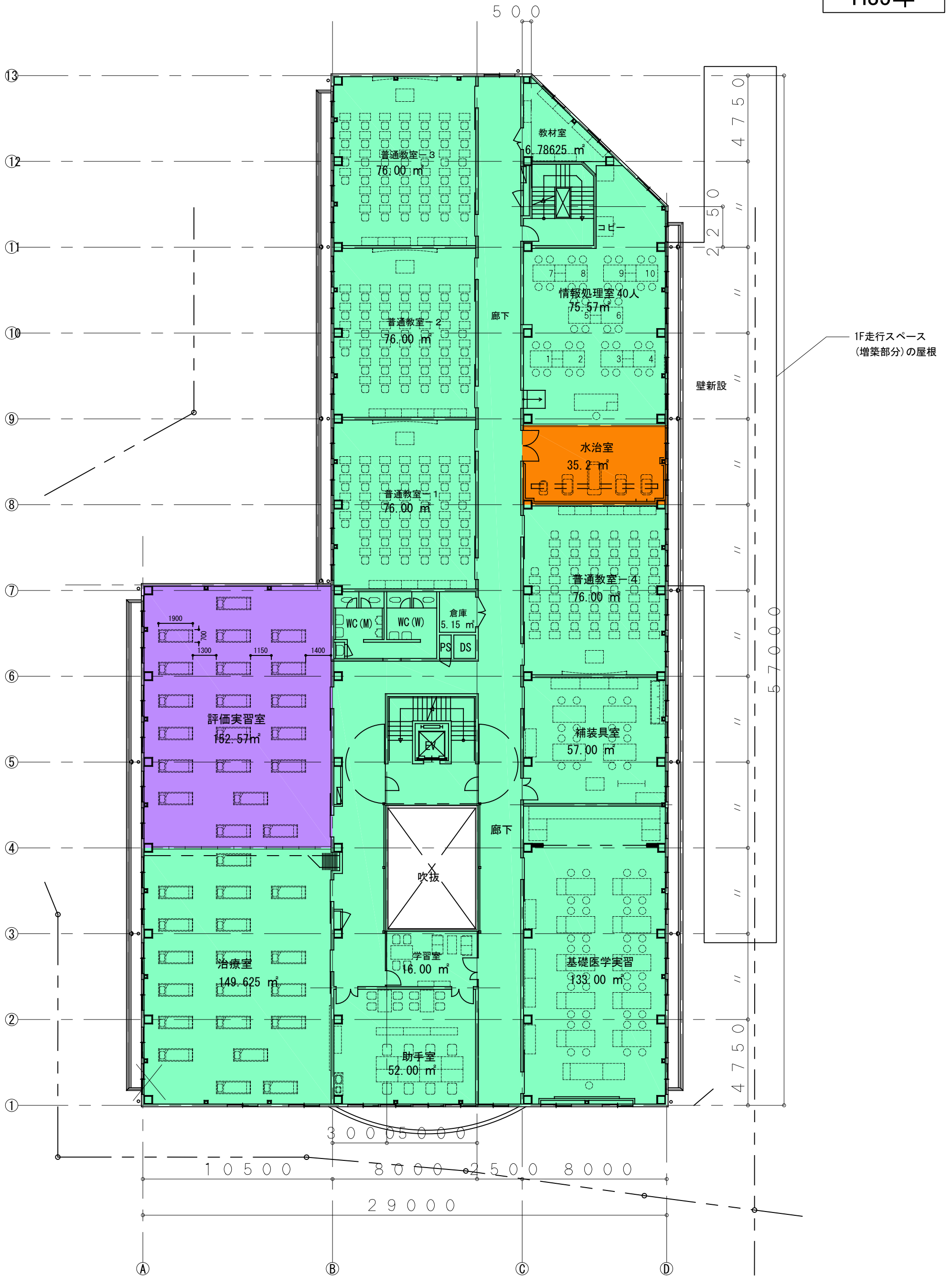
■ 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用
287.0475 m²

■ 専門職大学作業療法学科 専門学校 作業療法学科 共用
0 m²

1F 平面図

◆ 確認申請上 延べ 床面積
5854.28 m²

◆ 確認申請上 BF 床面積
1323.25 m²



■ 専門職大学・専門学校 共用
1260.71 m²

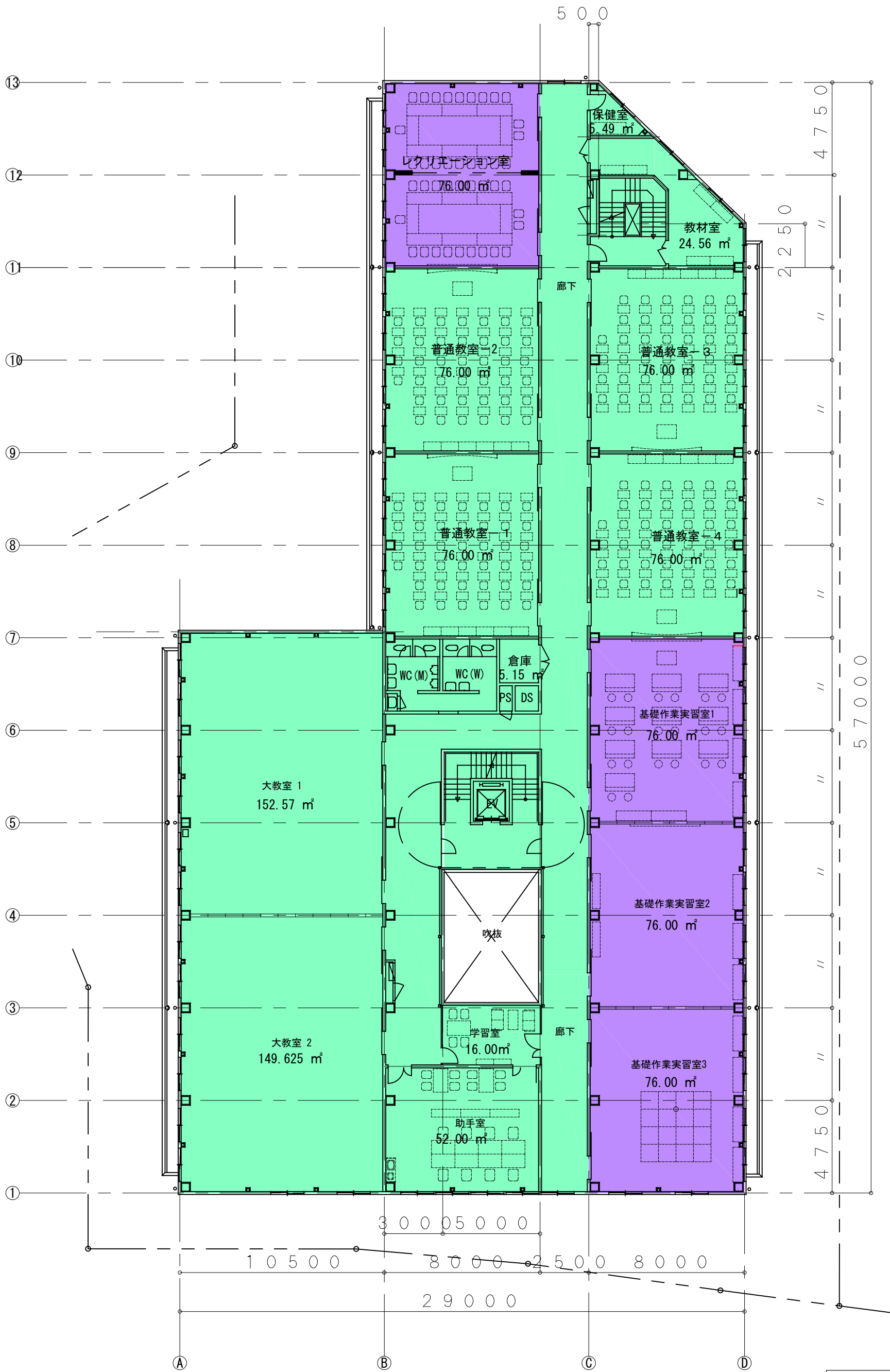
■ 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用
35.20 m²

■ 専門職大学作業療法学科 専門学校 作業療法学科 共用
0 m²

2F 平面図

◆ 確認申請上 延べ 床面積
5854.28 m²

◆ 確認申請上 BF 床面積
1295.31 m²



- 専門職大学・専門学校 共用
804.14 m²
- 専門職大学理学療法学科・専門学校理学療法学科 共用
0 m²
- 専門職大学作業療法学科 専門学校作業療法学科 共用
456.57 m²

3F 平面図

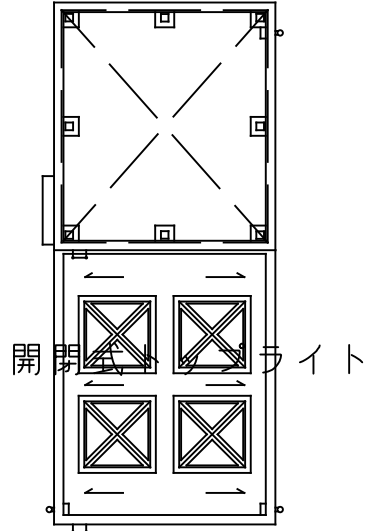
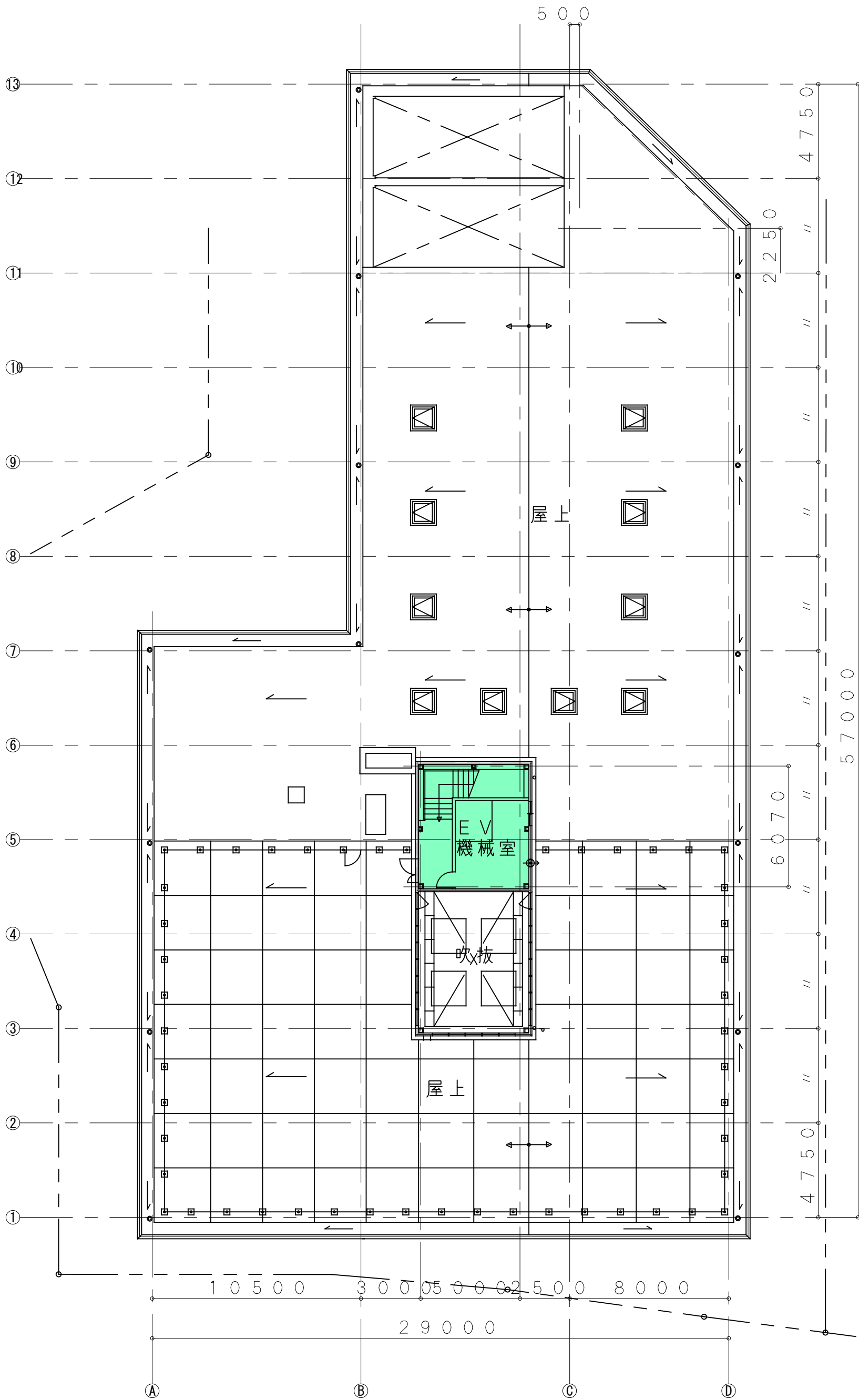
- ◆ 確認申請上 延べ床面積
5854.28 m²
- ◆ 確認申請上 BF床面積
1295.31 m²



4 F 平面図

- 専門職大学・専門学校 共用
674.015 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
276.125 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
213.75 m²

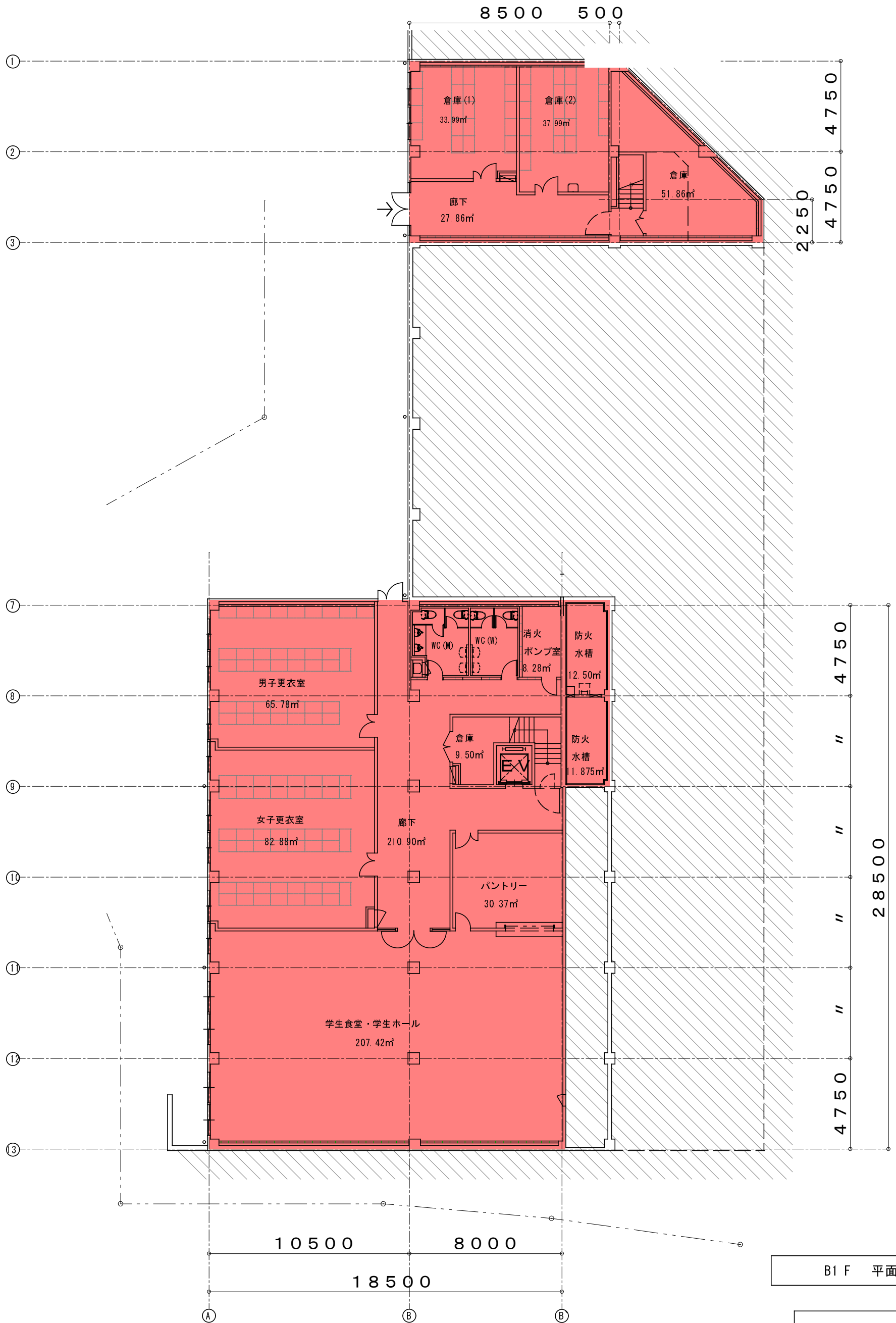
- ◆ 確認申請上 延べ 床面積
5854.28 m²
- ◆ 確認申請上 BF 床面積
1198.49 m²



- 専門職大学・専門学校 共用
36.48 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
0 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
0 m²

RF 平面図

- ◆ 確認申請上 延べ 床面積
5854.28 m²
- ◆ 確認申請上 BF 床面積
36.48 m²



B1 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用
705.44 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
0 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
0 m²

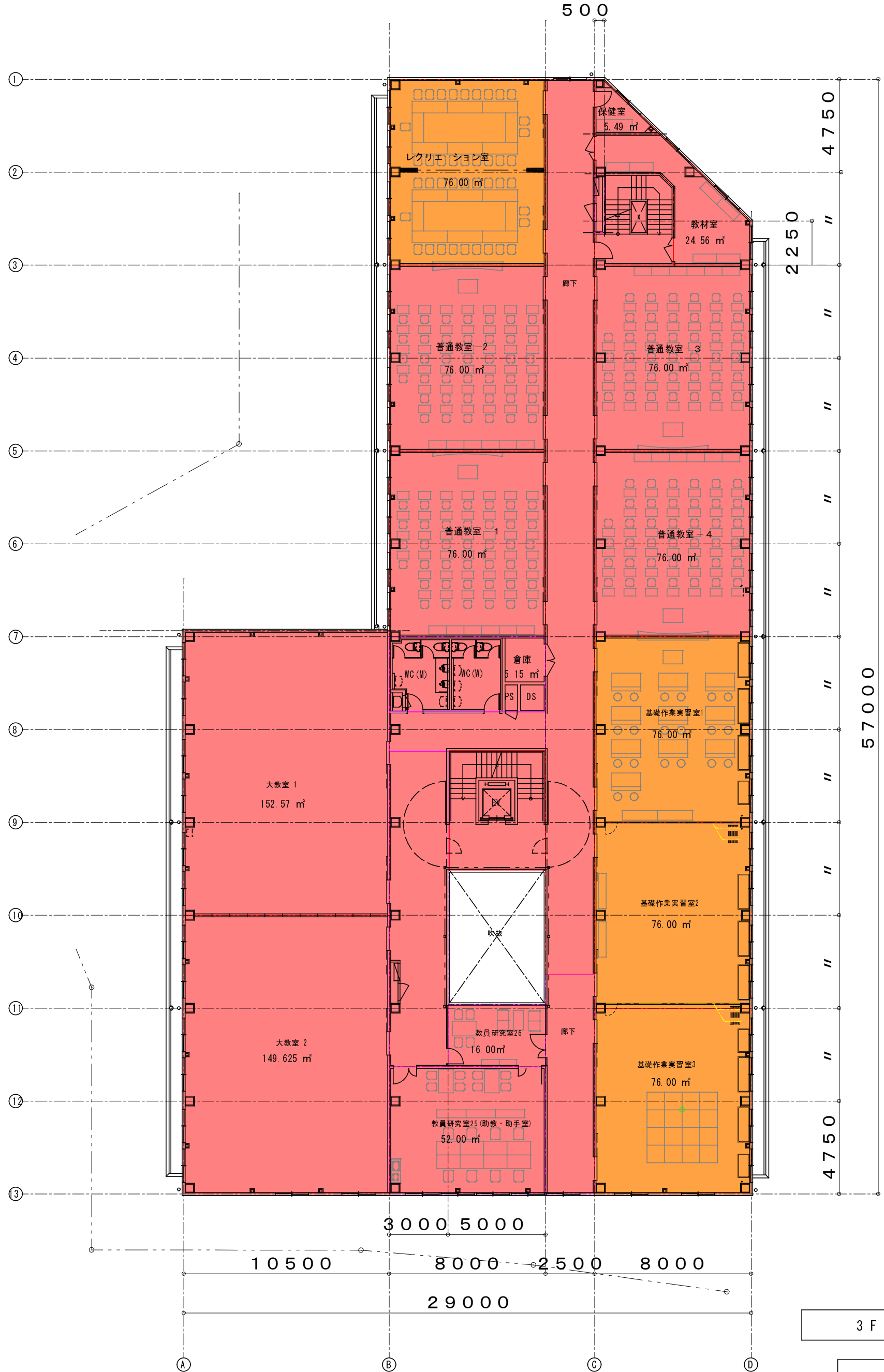
- ◆ 確認申請上 延べ床面積
6102.41 m²
- ◆ 確認申請上 B1F 床面積
705.44 m²



2 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用
1091.54 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
51.20 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
152.57 m²

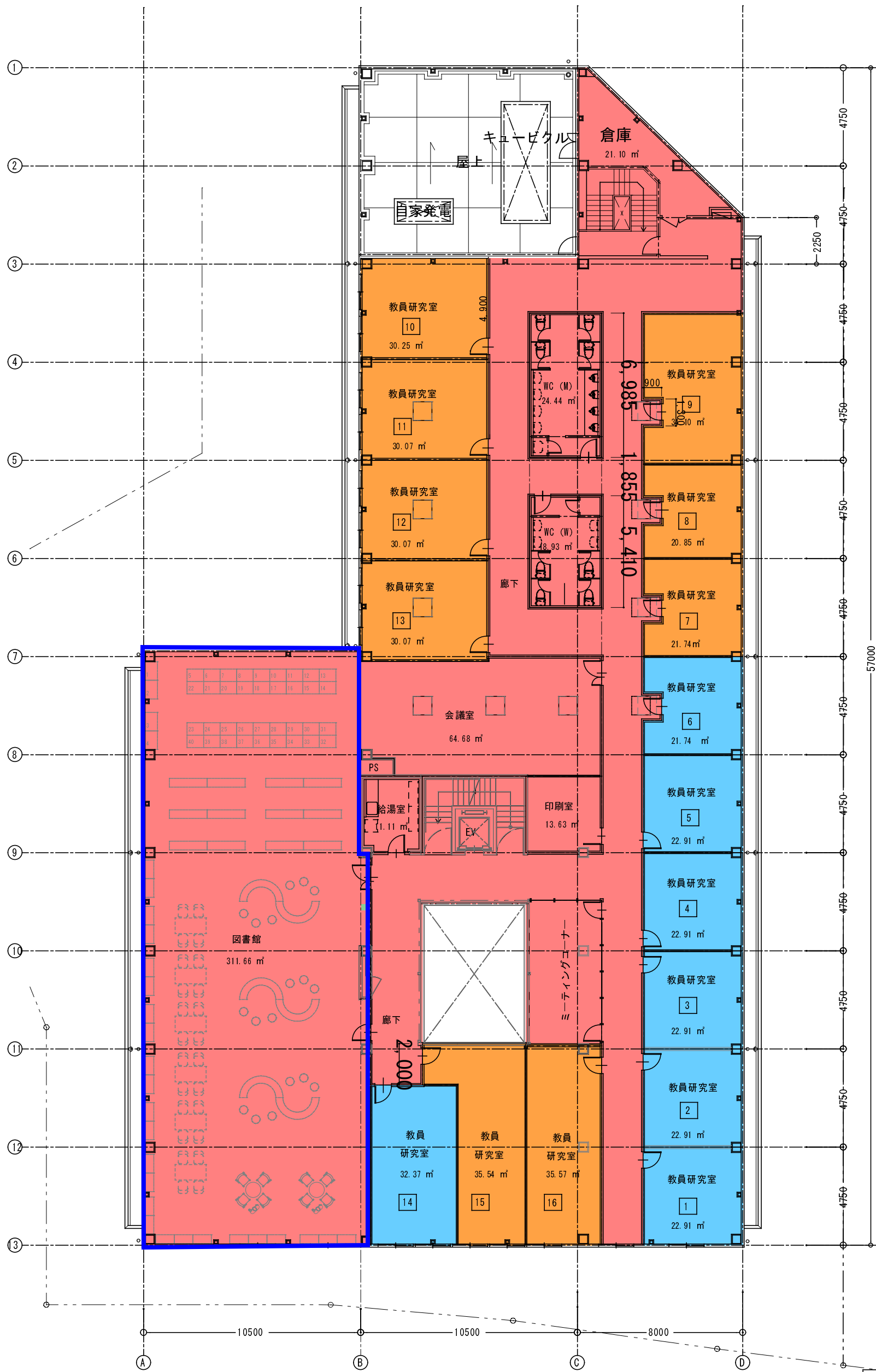
◆ 確認申請上 延べ床面積	6102.41 m ²
◆ 確認申請上 2F 床面積	1295.31 m ²



3 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用
991.31 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
0 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
304.00 m²

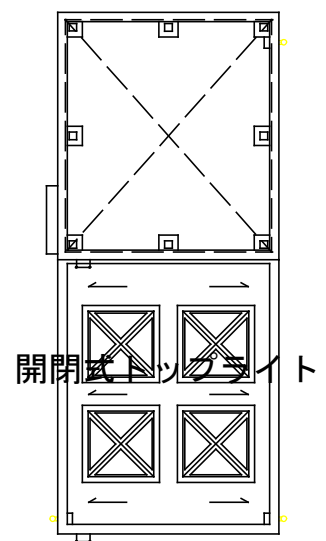
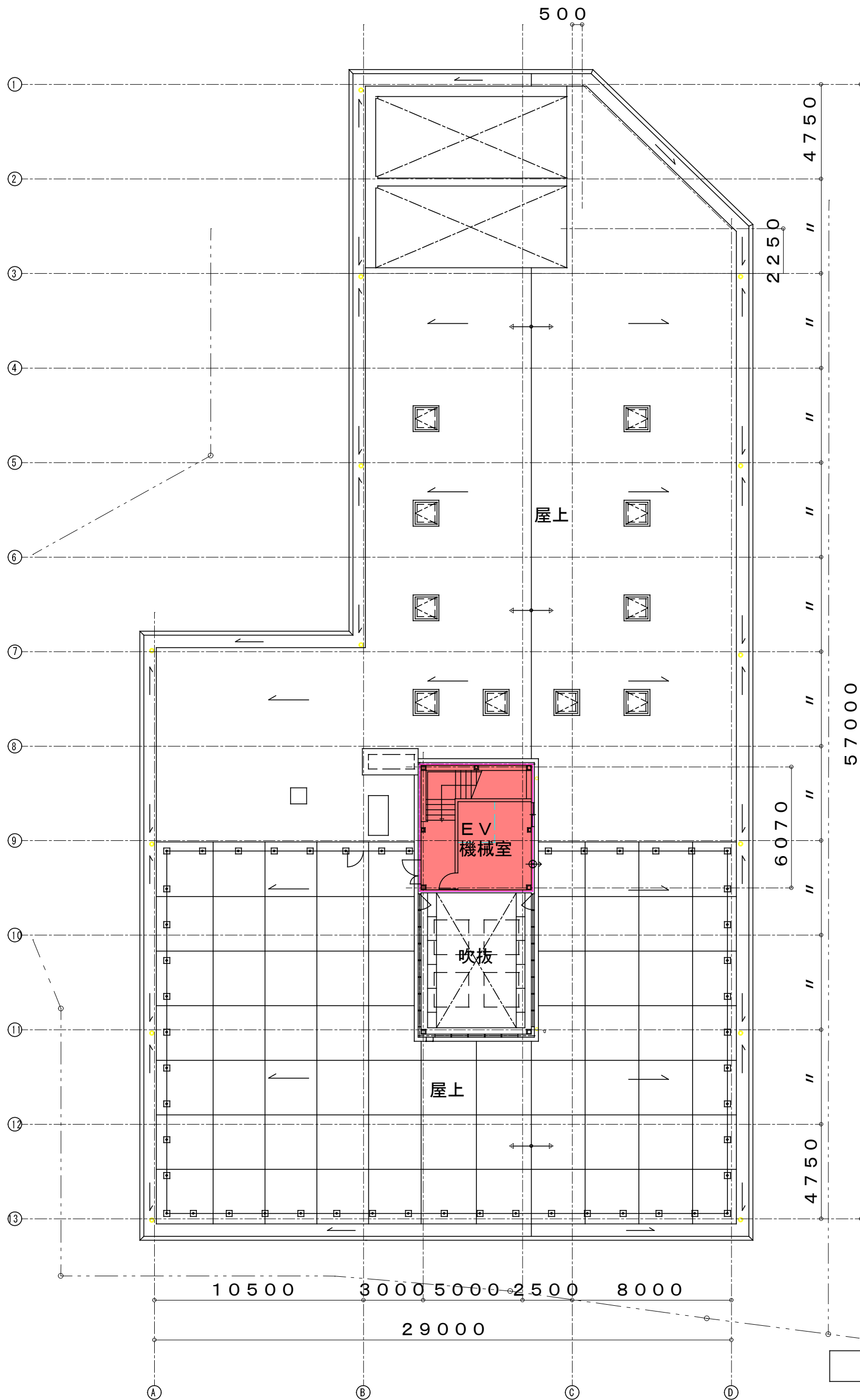
- ◆ 確認申請上 延べ床面積
6102.41 m²
- ◆ 確認申請上 3F 床面積
1295.31 m²



4 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用
 761.57 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
 168.66 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
 268.26 m²

- ◆ 確認申請上 延べ床面積
6102.41 m²
- ◆ 確認申請上 4F 床面積
1198.49 m²



R F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用
36.48 m²
- 専門職大学理学療法学科 専用
0 m²
- 専門職大学作業療法学科 専用
0 m²

◆ 確認申請上 延べ床面積	6102.41 m ²
◆ 確認申請上 PHF 床面積	36.48 m ²

附番	分野	書名他
1	理学療法学科	クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる 羊土社 ¥17,463
2	理学療法学科	リニカルリーズニングで内部障害の理学療法に強くなる！ 羊土社 ¥18,352
3	理学療法学科	クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる！羊土社 ¥17,463
4	理学療法学科	ベードサイド理学療法の基本技術・技能（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥11,404
5	理学療法学科	新人若手理学療法士のための最近知見の臨床応用ガイダンスー筋・骨格系理学療法-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥11,880
6	理学療法学科	極める変形性股関節症の理学療法-病期別評価とそのアプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
7	理学療法学科	極める変形性膝関節症の理学療法-保存的および術後理学療法の評価とそのアプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
8	理学療法学科	筋緊張に挑む-筋緊張を深く治療技術をアップする！-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
9	理学療法学科	極める大腿骨骨折の理学療法-医師と理学療法士の協働による術式別アプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥13,068
10	理学療法学科	感覚入力で挑む-感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
11	理学療法学科	病態からみた理学療法内科編-臨床の「なぜ？どうして？」がわかる- 中山書店 ¥11,761
12	理学療法学科	病態からみた理学療法外科編-臨床の「なぜ？どうして？」がわかる- 中山書店 ¥11,761
13	理学療法学科	理学療法の本質を問う 医学書院 ¥4,514
14	理学療法学科	理学療法技術の再検証科学的技術の確立に向けて-（理学療法MOOK17） 三輪書店 ¥9,504
15	理学療法学科	理学療法評価学-障害別・関節別評価のポイントと実際- 文光堂 ¥16,632
16	理学療法学科	図解理学療法検査・測定ガイド第2版 文光堂 ¥22,572
17	理学療法学科	PT-OTのための画像診断マニュアル（manavi） 医学教育出版社 ¥6,415
18	理学療法学科	理学療法のための臨床問題解決法-ブレイクスルーと理学療法診断に向けて- 協同医書出版社 ¥4,276
19	理学療法学科	これで解決！PT-OT-ST臨床実習まるごとガイド 金芳堂 ¥6,177
20	理学療法学科	PTお助けポケットガイド48 中山書店 ¥5,821
21	理学療法学科	理学療法ハンドブック-ケーススタディ- 協同医書出版社 ¥35,640
22	理学療法学科	ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング 文光堂 ¥13,780
23	理学療法学科	PT-OT学生の文章力を育てる！レポートの書き方-正しく学ぼう「書く基本」f文章の組み立て」- 金芳堂 ¥4,752
24	理学療法学科	卒前・卒後教育に役立つ理学療法士育成OUTテキスト 文光堂 ¥14,256
25	理学療法学科	新人理学療法士のための研修ハンドブック 協同医書出版社 ¥8,316
26	理学療法学科	私もこれで理解できました（誰でもわかる動作分析[1]） 南江堂 ¥5,940
27	理学療法学科	これでますます理解できました（誰でもわかる動作分析2） 南江堂 ¥6,831
28	理学療法学科	実習形式バイオメカニクスのおモシロ授業（誰でもわかる動作分析3） 南江堂 ¥6,831
29	理学療法学科	運動の成り立ちとは何か-理学療法作業療法のためのBiNI Approach- 文光堂 ¥14,968
30	理学療法学科	理学療法、作業療法のための実践編BiNI Approach-運動の成り立ちから導く治療をシンプルにする法則性- 文光堂 ¥16,632
31	理学療法学科	ブラッシュアップ理学療法-88の知が生み出す臨床技術- 三輪書店 ¥13,780

附番	分野	書名他
32	理学療法学科	PT臨床ハンドブック-ポケット版-第2 三輪書店 ¥11,404
33	理学療法学科	臨床動作分析-PT-OTの実践に役立つ理論と技術- 三輪書店 ¥14,256
34	理学療法学科	図解理学療法技術ガイド-理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて-第4版 文光堂 ¥20,196
35	理学療法学科	内部障害の症例検討-解いて納得!身につける理学療法:エキスパートPTが会った20症例の問題点と効果 的なりハプログラム- 羊土社 ¥15,325
36	理学療法学科	姿勢制御と理学療法の実際 文光堂 ¥20,433
37	理学療法学科	症候障害学序説-理学療法の臨床思考過程モデル- 文光堂 ¥4,276
38	理学療法学科	アスリートケア-理学療法士によるスポーツ選手への健康支援- 三輪書店 ¥9,028
39	理学療法学科	機能評価診断とその技法(スポーツ理学療法プラクティス) 文光堂 ¥11,880
40	理学療法学科	理学療法のための筋力トレーニングと運動学習-動作分析から始める根拠にもとづく運動療法- 羊土社 ¥16,038
41	理学療法学科	図解運動療法ガイド 文光堂 ¥23,760
42	理学療法学科	入門編-運動器疾患の徒手機能診断と治療-(標準徒手医学1) 医学映像教育センター ¥13,365
43	理学療法学科	運動のつながりから導く肩の理学療法 文光堂 ¥9,504
44	理学療法学科	上肢の理学療法-局所機能全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプローチ- 三輪書店 ¥13,305
45	理学療法学科	非特異的腰痛のリハビリテーション(痛みの理学療法シリーズ) 羊土社 ¥18,532
46	理学療法学科	山田英司-変形性膝関節症に対する保存的治療戦略-(理学療法士列伝:EBMの確立に向けて) 三輪書店 ¥6,652
47	理学療法学科	臨床実践変形性膝関節症の理学療法(教科書にはない敏腕PTのテクニック) 文光堂 ¥10,692
48	理学療法学科	臨床実践足部・足関節の理学療法(教科書にはない敏腕PTのテクニック) 文光堂 ¥10,692
49	理学療法学科	看護師・理学療法士のためのリンパ浮腫の手技とケア 学研メディカル秀潤社 ¥9,979
50	理学療法学科	リハビリナース、PT、OT、STのため患者さんの行動から理解する高次脳機能障害-なぜ、患者さんはこ んな行動をとるの?どう対応するの?-改訂2版(リハビリナース=Rehabilitation nurse別冊) メディカ出版 ¥12,117
51	理学療法学科	高次脳機能障害に対する理学療法 文光堂 ¥14,256
52	理学療法学科	PT-OT-STの脳損傷の回復期リハビリテーション-運動、認知、行動からのアプローチ- 三輪書店 ¥8553
53	理学療法学科	脳卒中に対する標準的理学療法介入-何を考え、どう進めるか?-第2版 文光堂 ¥15,444
54	理学療法学科	脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル第2版 文光堂 ¥13,068
55	理学療法学科	ニューロリハと理学療法(理学療法MOOK 19) 三輪書店 ¥8,553
56	理学療法学科	神経症候障害学-病態とエビデンスに基づく治療と理学療法- 文光堂 ¥17,820
57	理学療法学科	理学療法活かす褥瘡ケア-評価治療・予防- 文光堂 ¥8,553
58	理学療法学科	ICUの理学療法(理学療法MOOK 18) 三輪書店 ¥11,404
59	理学療法学科	ウィメンズヘルスと理学療法(理学療法MOOK 20) 三輪書店 ¥9,504
60	理学療法学科	がんの理学療法(理学療法MOOK 21) 三輪書店 ¥9,979
61	作業療法学科	身体領域の作業療法-プログラム立案のポイント-第2版(クリニカル作業療法シリーズ) 中央法規出版 ¥11,880

附番	分野	書名他
63	作業療法学科	作業療法のクリニカル・クラークシップ「CCS」ガイド -今こそ変えよう臨床実習！- 三輪書店 ¥9,504
64	作業療法学科	作業療法実践の仕組み 事例編 協同医書出版社 ¥12,355
65	作業療法学科	事例でわかる人間作業モデル 協同医書出版社 ¥8,791
66	作業療法学科	ひとと集団・場-治療や援助支援における場と集団のもちい方-新版 三輪書店 ¥8,316
67	作業療法学科	臨床OTROM治療-運動、解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開- 三輪書店 ¥9,979
68	作業療法学科	OT臨床ハンドブック-ポケット版-増補版 三輪書店 ¥11,167
69	作業療法学科	ひとと作業・作業活動-作業の知をとき技を育む-新版 三輪書店 ¥8,316
70	作業療法学科	だから、作業療法が大好きです！ 三輪書店 ¥4,752
71	作業療法学科	患者力を引き出す作業療法-認知行動療法の応用による身体領域作業療法- 三輪書店 ¥8,553
72	作業療法学科	アクティビティと作業療法-活用したい45のクラフトと段階づけ 三輪書店 ¥8,078
73	作業療法学科	組みひも・作業療法への適用法-治療・援助・評価の手引き- 協同医書出版社 ¥8,316
74	作業療法学科	精神障害作業療法入門 協同医書出版社 ¥4,752
75	作業療法学科	精神障害と作業療法-病いを生きる、病いと生きる精神認知系作業療法の理論と実践-新版 三輪書店 ¥9,504
76	作業療法学科	統合失調症・うつ病の作業療法の進め方（※） 中山書店 ¥9,504
77	作業療法学科	四本足のあしながおじさん-難病患者に対する支持的作業療法の経験- 協同医書出版社 ¥3,801
78	作業療法学科	結核作業療法とその時代-甦る作業療法の原点- 協同医書出版社 ¥5,940
79	作業療法学科	高次脳機能障害の作業療法 三輪書店 ¥11,404
80	作業療法学科	高次脳機能障害領域の作業療法-プログラム立案のポイント-（クリニカル作業療法シリーズ） 中央法規出版 ¥8,553
81	作業療法学科	片麻痺の作業療法-QOLの新しい次元へ- 協同医書出版社 ¥6,177
82	作業療法学科	高齢期領域の作業療法-プログラム立案のポイント-第2版（クリニカル作業療法シリーズ） 中央法規出版 ¥9,028
83	作業療法学科	高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店 ¥7,840
84	作業療法学科	発達障害の作業療法 基礎編 第2版 三輪書店 ¥8,553
85	作業療法学科	発達障害の作業療法 実践編 第2版 三輪書店 ¥9,028
86	作業療法学科	作業療法における上肢機能アプローチ-疾患別- 三輪書店 ¥8,553
87	作業療法学科	rTMSと集中的作業療法による手指機能回復へのアプローチ-脳卒中上肢麻痺の最新リハビリテーション 三輪書店 ¥6,652
88	作業療法学科	地域包括ケアにおけるPT-OTの役割-個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ- 文光堂 ¥11,404
89	作業療法学科	OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかななくても住宅改修を成功させる本 三輪書店 ¥7,603
90	リハビリテーション基礎	脳卒中急性期）のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.1）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
91	リハビリテーション基礎	摂食嚥下障害【動画】（リハビリテーション医学vol.2）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
92	リハビリテーション基礎	排尿障害【動画】（リハビリテーション医学vol.3）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
93	リハビリテーション基礎	切断と義肢【動画】（リハビリテーション医学vol.4）（※） 医学映像教育センター ¥38,016

附番	分野	書名他
95	リハビリテーション基礎	脊髄損傷【動画】（リハビリテーション医学vol.6）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
96	リハビリテーション基礎	神経・筋疾患【動画】（リハビリテーション医学vol.7）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
97	リハビリテーション基礎	小児の発達障害【動画】（リハビリテーション医学vol.8）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
98	リハビリテーション基礎	認知症【動画】（リハビリテーション医学vol.9）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
99	リハビリテーション基礎	失語症【動画】（リハビリテーション医学vol.10）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
100	リハビリテーション基礎	脳卒中の回復期動画【動画】（リハビリテーション医学vol.11）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
101	リハビリテーション基礎	疼痛【動画】（リハビリテーション医学vol.12）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
102	リハビリテーション基礎	動画 関節リウマチ【動画】（リハビリテーション医学vol.13）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
103	リハビリテーション基礎	高次脳機能障害【動画】（リハビリテーション医学vol.14）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
104	リハビリテーション基礎	心臓のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.15）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
105	リハビリテーション基礎	小児疾患のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.16）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
106	リハビリテーション基礎	内部障害のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.17）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
107	リハビリテーション基礎	骨粗鬆症のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.18）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
108	リハビリテーション基礎	運動器のリハビリテーション動画【動画】（リハビリテーション医学vol.19）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
109	リハビリテーション基礎	運動器のリハビリテーション2【動画】（リハビリテーション医学vol.20）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
110	リハビリテーション基礎	リハビリテーション医学大辞典 医歯薬出版 ¥29,581
111	リハビリテーション基礎	リハビリナビカード 学研メディカル秀潤社 ¥5,431
112	リハビリテーション基礎	わかりやすいリハビリテーション 中山書店 ¥10,216
113	リハビリテーション基礎	今日からなれる！評価の達人-リハビリテーション・ポケットナビ- 中山書店 ¥8,363
114	リハビリテーション基礎	データに基づく臨床動作分析 文光堂 ¥6,177
115	リハビリテーション基礎	リアルフィジカルアセスメントーリハ臨床のためのケーススタディー 文光堂 ¥9,504
116	リハビリテーション基礎	イメージの科学リハビリテーションへの応用に向けて 三輪書店 ¥8,553



東スポ第861号

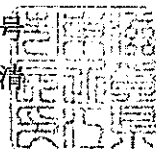
平成31年2月19日

学校法人 藍野大学

理事長 小山 英夫 様

東近江市八日市緑町10番5号

東近江市長 小 椋 正 清



東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

学校法人藍野大学の専門職大学設置に伴う教育研究活動及びクラブ・サークル活動に資する東近江市おくのの運動公園の早期利用申請につきまして、下記のとおり承諾します。

記

施設名	東近江市おくのの運動公園（東近江市青山町70番地）
管理者	東近江市
管理担当部署	教育委員会スポーツ課
早期利用申請 可能時期	毎年12月中旬（管理者が指定する日） 備考：一般利用申請は3箇月前
開始時期	平成32年（2020年）4月利用分から
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・早期利用申請を可能とする利用期間は、一年度分とし、毎年の申請を要するものとする。・早期利用申請に係る利用日については、管理者と調整のうえ、確定するものとする。・利用に伴う事項（使用料等）は管理者が定める利用規定に従うものとする。

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学実習Ⅰ	必	下西 徳	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第8回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第9回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第10回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義についてグループワーク					下西 徳
第13回	発表					下西 徳
第14回	発表					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。</p>					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学演習1	必	前田 浩二	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域参加と目的的活動について					前田 浩二
第2回	風船バレーボール大会に向けて					前田 浩二
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)					前田 浩二
第7回	グループワーク後の発表					前田 浩二
第8回	介護保険など、関連制度について					前田 浩二
第9回	社会資源サービスと多職種について					前田 浩二
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)					前田 浩二
第11回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第12回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第13回	発表会					前田 浩二
第14回	発表会					前田 浩二
第15回	まとめ					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						